

監督のつぶやき？ぼやき！

第282話/2017.11.20

11月18日（土）、19日（日）2日間、毎年呼んで頂いている府中オーシャンズの招待試合にA、B2チーム参加しました。Aチームは3勝1敗、Bチームは1勝3敗。勝ち負けはそれほど重要ではありませんが、段原クラブとして1、2年生の秋に出来ていなければいけないレベルに達してないことが問題です。

スピードのないピッチャーのストレートを遅れることなく打てる、追い込まれてボール球で三振しない、ピッチャーが打ち取った打球はひとつアウトにできる。これぐらいのことはさして難しいことではなく、一桁の背番号をつけて毎試合当たり前のように試合の最初から最後まで出るのなら、この時期に出来なくてははいけません。速いボールを打て、変化球を打て、ピッチャーが芯をくわれた打球を捕れと言っていないません。毎試合1本ヒットは打つ、そしてごくまれにノーヒットの試合がある、イージーなミスはしない、レギュラーの条件ではないですか。

ヒットは打たないは、ミスはするはなら1年生が出てても変わりません。上級生が試合に出るのなら下級生と明らかな違いを出さなければ、下級生にチャンスを与えた方が来年に繋がります。

私は今年もBチームを2日間見ました。1つ収穫がありました。1年生の2人のピッチャー（とてもピッチャーが出来る恵まれた素材は持っていません）が、入部以来、初めて4イニングを投げることが出来ました。他のチームの1年生の投手と比べて良いボールを投げているとは思いますが、6か月前と比べて格段の進歩を見せてくれました。「試合になる」ピッチャーとして試合に投げられる条件です。身体能力に恵まれた子が速いボールを投げたり、打球を遠くに飛ばしたりするのは何も凄いことではなく当たり前のことです。背が低い、体が細い、足が遅いなど、弱点を持っている子が努力の結果、少しずつ成長していく姿を見るのは、指導者としてとてもやりがいがあり、楽しい時間です。

2人のピッチャーはこれを自信に変えて努力を続け、マウンドで堂々とバッターに向かっていけるピッチャーになってほしいと思います。一番大切な素材は毎日苦しい努力を続けられることです。子ども達の努力の価値は、3年生の時の成績（数字）ではなく、どれだけ練習し、どれだけ伸びたか、伸び幅にあります。この点で段原クラブは自信を持っています。

2年生の子ども達にこの点で不満があります。特に旧チームから試合に多く出ていた選手が、今、チームの中心としての仕事が出来ていません。試合の結果だけでなく練習時の態度、取り組む姿勢、全てにおいて選手の見本となる必要があります。試合に数多く出るといふ、いわゆるおいしい思いをしている選手が、先頭に立ってチームを引っ張る、そして苦しむ。そこからしか試合の喜びは得られないはずですが、誰もが認めるレギュラー、相撲の横綱の品格ではないですが、そういうものが備わった本物のレギュラーが何人いるのかが、チームの格です。

今シーズン残り2大会、各自がこの冬にやらなければいけないことがはっきり分かる試合にしたいいものです。

中学生としてやらなければならないのは、基本的身体能力のアップ（走力、投力、スイング力）と基本技術の習得、これしかありません。これがあり、頭を使えば試合で良い結果を得られます。野球を長く続けたいのなら、ひたすら、これに打ち込むべきです。試合に勝つためのテクニックは、もっともっとずっと先でいいことです。

体作りはひとりで出来る練習です。

第281話/2017.11.13

なかなか試合に出ることのない選手がチームにはいます。いつも当たり前のように試合に出る選手がいます。出ることが当然のように思っていると、試合に出られることの喜びが無くなります。レギュラーでない選手は、試合に出る時にはプレッシャーを感じます。なぜなら、少ないチャンスをものにしないと次がないと思うからです。レギュラーの選手は失敗しても次があります。何かおかしいと思いませんか？本来なら、いつも当たり前のように試合に出ている選手が苦しい練習をし、プレッシャーと責任を背負い、つらい思いをするべきです。

今週末、府中オーシャンズの大会でBチームも出場します。Bチームの1年生はもちろんですが、4人の2年生はとても悔しい思いをしているはずで、2日間で4試合、Bチームの2年生はフルに出場出来ます。持っている力を思い切って出し切って、楽しんで欲しいと思います。今、確かにレギュラーと比べて力はありません。特に足のスピードがないため守備力が落ちます。

アマチュアのトーナメントなので守備に難のある選手を使うのは勇気がいります。この秋から冬・春に向けて、下半身を徹底的にいじめぬいて体を変える必要があります。体を変えて、スピードを変えて、守備力をつける。4人の野球人生にとってこの冬、とても大きな冬になります。私は思っていますが、本人と家族の思いがどうなのか。まだまだ先は長いと思っているとそれは間違いです。時間はありません。

中学3年生での結果が高校を決めます。高校3年間、勝ち続けるのか負け続けるのかが決まります。高校で勝ちたければ、中学3年までに力をつける必要があります。

あと何日練習できるのか各自一度数えてみて下さい。

第280話/2017.11.06

広島県軟式野球連盟少年部の新人戦県大会は準決勝で負けました。勝負なので勝つこともあれば負けることもあります。先週書いたように新チームの段原クラブは強くありません。広島県全体のレベルが低いので、ある程度勝ち上がることが出来るだけです。技術が低いのは練習を重ねていくことによりある程度克服することが出来ますが、考え方の間違いは厄介です。

段原クラブでは入部した時から、野球というスポーツはどういうスポーツなのか、説明しています。「予測と準備」「頭と足でやる」「状況判断」の5つの条件、①イニング（何回なのか）②点差③アウトカウント④ランナー（がどこにいるのか）⑤打順、これを全て頭に入れてやるのが野球です。バットを振る、ボールを投げる・捕る、走る、全てのプレーに理由が必要なのです。中学生には難しいと思いますか？1年生の時から意識して練習・試合をし、テレビでプロ野球を考えながら見る癖をつければ、誰でも考えて出来るようになります。

何も考えず来たボールを打つだけで5割打てれば何も言いません。これは天才です。なかなかいません。しかし、頭と足をしっかり使えば5割打つことが出来ます。私も私の息子も学生時代は5割打ちました。毎試合、相手投手に同じパターンで打ち取られる。右バッターはカーブで三振かサードゴロ、左バッターはアウトコースのストレートで三振か内野フライ。点が絶対に入らないバッティングの三悪、三振・内野フライ・サードゴロ。日曜日の試合ではタイブレークの2イニングを含め9イニング27アウトの内、ダブルプレー2つを入れて21アウトがこの3つでした。頭の弱いチームの見本のような内容です。点など入るわけがありません。ではなぜ同じ失敗を繰り返すの

か？技術の問題？頭の問題？心の問題？

段原クラブの選手は土日、打とうと思えば数多く打てる室内を利用することが出来ます。そこではカーブマシンとストレートマシンと投げたボールを打つ場所3カ所でバッティングが出来ます。

入口をはいると「打席の立つ位置を変えていろいろなコースを打つ練習をしましょう」と書いてあります。それでも打たない選手もいれば、甘いコースのボールを気持ちよく打ってるだけの選手もいます。「本当にそんな練習で大丈夫なの？」「あなた達は天才ですか？」いつも言いますが私の野球人生ではありません。あなた達の野球人生、長くするのか短くするのか、楽しいものにするのかつらいものにするのか、あなた達次第なのです。やるのは私ではなくあなた達です。いつも言いますが私は来年も同じ大会に出られます。子ども達は一生に一度の大会です。本当に分かっているのか疑問です。

先週書きましたが、今週も主審は同じ方でした。上も下もサイドも全てワイド、対戦相手も3つ見逃し三振をしましたが、段原クラブのキャッチャーに聞くと全てボールだとの事。朝、今日も点はなかなか取れないだろうと予想した通りになりました。その方が主審をした試合は、2試合で4チームが28イニング攻撃し、1点も入りませんでした。子ども達のために何とかならないのでしょうか。野球はルールがあり、それに基づいてやるスポーツです。ルールブック通りにやるのが子ども達のためになると思うのですが。なぜストライクゾーンが長い歴史の中、今のように決まったのか。きちっと投げたら打たれない、投げそこなうと打たれる。本当に良くできていると思います。今も昔もボールは打てません。ボールを振りにいかなければならないのは、子ども達にとって不幸です。

第279話/2017.10.30

10月29日（土）広島県軟式野球連盟少年部の新人戦県大会1,2回戦がありました。土曜日からの雨が降り続く予報で、高校野球の中国大会は早々と中止を決め順延。私にも大会本部から11月3日（祝）に順延したいとの連絡があり、子ども達にとって当然その方が良いのでOKの返事をしました。しかし中学校の野球部のチームが11月3日（祝）、4日（土）は都合が悪いので、10月29日（日）に無理をしてでもやるとのこと。私には全く意味が分かりませんでした。いつも言っているように抽選はありえない。天候が悪ければ順延は同然です。都合がつかなければ棄権。ごくごく自然なことではないのでしょうか。中体連の試合も軟連の試合も学校行事も全て出たい。都合良すぎませんか。

段原クラブの選手の中にも学校行事と重なる選手はいます。クラブチームの選手はそのリスクを背負いながら、高い技術を身に付けるためにクラブチームで野球をしています。何かを得るために何かを犠牲にする。「全て欲しい」これは通らないと思います。

グラウンドに着いてから6時間待ち、試合をし、終わって帰ったら夜9時。これって本当に子どものためなのでしょう。子ども達が体調を崩さないことを願います。

この試合のためにたくさんの人達がグラウンド整備に力を尽くしてくれました。心から感謝致します。本当に有難うございました。長く待ち、気温が下がった中で、試合の内容はともかく、2試合勝てたことだけがチームにとって収穫でした。大会本部の方々の気苦労、お察しします。有難うございました。

それにしてもいつも思うのですが、1日4試合あるとか、日曜日のように遅い時間になると、な

ぜ審判はストライクゾーンを広げるのでしょ。時間制限のある試合で、広げる意味は何なのでしょ。それとも本当にストライクだと思ってとっているのでしょうか。高めは肩から、低めはかかとまで、ワンバウンドになった変化球もストライクでは、どんな技術を持ってしても打てません。ベンチからは高さだけしか分かりませんが、キャッチャーに聞くと全て広いとのこと。なぜなのでしょう。誰のためにもならないと思うのですが。まずピッチャーが育ちません。これで良いと思ったら成長しません。まずストライクゾーンの枠の中に投げる技術がピッチャーの始まりです。バッターもボールを打ちにいけば技術は向上しません。ストライクととられれば、ボールと分かっているでも打ちにいかざるをえなくなります。どの角度から考えても、広島野球レベルが上がらないということになります。偉そうなことを言うようですが、子ども達が技術アップのために映像を利用するように、自分自身の判定を映像で確認し直すことも必要なのではないのでしょうか。全ては子ども達のためになることだと思います。

週末の雨も今週はなさそうです。久しぶりに11月3日(祝)、4日(土)の2日間、しっかり練習ができそうです。7月から試合と雨でやりたい練習が出来ていません。中学生は試合より基本練習だと私は思っています。練習で基本をしっかりやって体に染み込ませなければ、次の高い技術は身に付けることは出来ません。子ども達に関わっている大人の皆さん、正しい基本技術を勉強し、つまらない練習かもしれないかもしれませんが、繰り返すことが子ども達のためになります。試合をたくさんやって試合に勝つテクニックより、大事な基本、これが彼らが長く野球を続けるために必要なことだと思うのですが。

段原クラブの選手の皆さん、そして保護者の方々、新チームになり少々試合で勝ったからといって、勘違いしないでください。今年の新チームは、広島全体のレベルが低いのであって、段原クラブが決して強い訳ではありません。当たり前なことでは出来ないことが山のようにあります。高校野球をするために、今のままでは苦しみます。この秋冬、数段のレベルアップが必要です。これは本人と家族の思い次第です。

第278話/2017.10.23

10月21日(土)軟式野球連盟少年部新人戦西部予選の準決勝と決勝がありました。準決勝の途中から雨が降り、グラウンドコンディション最悪の中でしたが、雨が幸いしたのか優勝しました。1日2試合ある大会の2試合目は、チームの本当の力を計ることは出来ないものであまり参考にはならないですし、雨の最悪のコンディションだったということもあり、優勝したことにそれほどの価値を感じませんでした。私にとってとても喜ばしいことが幾つかあった大会でした。

段原クラブは3年生の最後の試合が9月24日(日)まであり、本格的に新チームがスタートして1カ月弱、短い時間の中でチームを試合の出来るレベルまで上げなければなりません。バッティングは、新チームではどのチームもそれほど力強く振れません。段原クラブも3年生と比べると、パワーという点でかなり落ちます。点をたくさん取ることは難しいと思いますが、雨の中での決勝以外の3試合無失点だったこと、(内容はともかく)決勝もあの状況で、ピッチャーが気持ちで負けることなく最後まで逃げずに集中し投げきったこと、投げた3人とも良いものを見せてくれました。文部科学大臣杯の県大会で負けてから、アウトコースをセンター方向に打ち返す意識を持って練習したことが少しずつ試合の結果として出たことなど、試合で失敗したことを練習でやり直す、同じ失敗を繰り返さない、上に上がるために必要なことです。子ども達が負けて気が付いたこと、私がいつも言っている意味のある負け。本当に少しですが出たように思います。当然負ける

より勝った方が気分はよいのですが、10月21日（土）は力がまだまだない子ども達（控えの選手を含め）全員が雨の中最後まで集中して試合をしている姿を見て、勝ったことより嬉しく思いました。

そうは言っても、バントでのケースの投手の守備の準備、フライの内外野での譲り合い、送球の間の走塁、チャンスでの大きなバッティング、キャッチャーの配球、先頭打者に対する投手の投球、足のある選手のアウトのなり方など、不満はたくさんあります。これから同じ失敗を繰り返さないように、ひとつずつ練習を重ねていくしかありません。前にも書きましたが、今年は府中オーシャンズ以外のチームは力がありません。来春までにどこまで近づけるのか、段原クラブはひたすら個人の力のレベルアップです。

私は試合の勝敗を抽選で決めるのはありえないと思っています。まして、大会の1回戦（1日目）を抽選した瞬間に、その大会は何の意味も持たなくなると思います。大人達が努力を重ねて最悪どうしようもなくなった時に抽選をするとしたら、それは大会の最終日、それも次に進む大会ではないことが条件です。簡単な理屈です。まず、子ども達には1年に1回の大会であること（大人には来年もあります）。試合があれば本来勝ち上がることのないチームが抽選によって上がっても、大会として価値はないこと。クジを引くためだけに遠くから選手を集めるのは、時間とお金の無駄であること。野球のチームが野球の大会にエントリーして、野球することなく参加料（お金）を取られるのは理にかなってないことなど、大人が子どもの立場になって考えれば分かることです。

私は試合が抽選になった場合、本当は棄権をしたいと思っています。色々な大人の都合で行きませんが、抽選は負けて欲しいと思います。なぜなら先ほど書いたように、その大会はもう価値のない大会だからです。大人達が子ども達のために少し努力する。できるだけ良いコンディションで頑張ってきてきたものを出させてやりたいというのが普通の考え方だと思うのですが、雨の中ビショビショになりながら、せっかく身に付けた技術を出すことなく負けたり、グラウンドに立つことなくクジを引いて負ける子どもたちがいる。本当に大人達はこれをよしと思っているのでしょうか。

私は理解出来ません。しかし、組織の中に入らないと試合は出来ません。好むと好まざるとにかかわらず、現実です。そして、組織の考え方に従えないのなら、責任者として考えなければなりません。私はただ大会の数だけこなして、たくさん試合の機会を増やせば良いというものではないと思います。価値のある大会、意味のある試合をしなければ、子ども達に本当の力は付いていかないと考えています。

第277話/2017.10.16

まず、最初に書きます。前にも書きましたが、私はチーム名に“さん”を付けるのは国語としておかしいと思うので、“さん”付けはしません。他意はありません。

10月14日（土）15日（日）文部科学大臣杯広島県決勝大会がありました。私の予想通り府中オーシャンズが優勝しましたが、力の差があり過ぎてあまり面白くない大会になりました。府中オーシャンズ以外のチームは、この冬そうとう練習しなければ追い付くことは出来ないでしょう。段原クラブも私の予想通り1回戦で敗れました。指にかかった時はよいボールを投げる程度の1年生ピッチャーを2年生の他の選手が助けるどころか足を引っ張れば、勝てるわけはありません。1死3塁、1死2、3塁という大きなチャンスに旧チームからほぼ1年間試合を経験した選手が自分勝手なバッティングをして得点できない。打たれたヒットは1本、打ったヒットは5本、言ってみ

れば段原クラブらしい負け方です。練習は自分のため、試合はチームのため、中心選手が何を考えて試合をするかがチームの勝敗に大きく影響します。この勝敗によって子ども達の中でひとりでも何か気が付いて練習が変われば、意味のある負けになります。

土曜日の1試合目、『広島スターズ』対『十日市野球クラブ』を観ました。全く何の緊張感もプレッシャーもなく伸び伸びプレーしている十日市野球クラブに対し、チームの歴史や責任を背負ってプレーしているように見える広島スターズの子も達。これは仕方ないことなのかもしれませんが、毎年勝ち続けなければならないプレッシャー、勝って当たり前と思われる責任、並大抵のことではありません。広島スターズの子も達は、他のチームの子も達より大きく重い荷物を背負って野球をしています。勝ち続けなければならない野球をしたことのある私には良く分かります。持っている力に大差はありませんが、流れで大きな点差になってしまいました。しかし、来春にはそのプレッシャーをはね返せる力を付けて、大きくなってくると思います。段原クラブも、ピッチャーの荷物を代わりに背負える選手が出てきて欲しいと思います。

あるチームのホームページの書き込みに、私の批判が載っていたそうです。日本は言論と表現の自由が保障されている国なので、それほど驚くことではありません。私は読売ジャイアンツの時代に、“強いものには敵が多いものである”と教育されています。批判される対象になったということは、そのチームの関係者にとって邪魔というか、うっとうしい存在のチーム、監督になってきたということだと捉えました。嬉しいことです。ただ内容は的外れですが、その書き込みは1週間程度でそのチームには相応しくないということで、ホームページから削除されました。さすがに長く広島トップに立っているチームだと改めて思いました。

私は、何度もここで、「ベンチで何もしないで座っているだけで広島県NO. 1に慣れるチームを作りたい。」と夢を語っています。50年野球をやってきた私は、それが限りなく不可能な夢だと分かっています。しかし、それに近づくためにまずサインを無くしました。出来るだけ子ども達自身で考えて欲しい。考えて結論が出なければ、聞きに来る。明らかな間違いはその前に指摘し、野球のセオリーをまず覚えてもらう。そして、クラブチームのやるべきことは「レギュラーだけではなく、選手全員の個の能力を高め、その能力をここ一番で発揮できる精神力を身に付け、高校野球に送り出す。」ここにあると思っています。そのため勝つための作戦はあまり意味がないと思っています。しかし、送りバントは出来なければいけません。なぜなら高校野球で必要だからです。サインは無くても、自分の意志でチームのためにバント出来る選手になって欲しいと思っています。

監督になった当初、たくさんサインを出していました。なぜか？自分のプライドのために勝ちたかったからです。自分のためだけに。サインを出さなくなったのは、Jリーグの関係者との話しが始まりです。その人に言われました。「野球選手は監督の操り人形ですよ。」一流選手はそんなことはないし、本当に強いチームの選手は自分で考えて野球をしています。外から見ると、特に少年野球はこう見えています。次にヤクルトスワローズ、阪神タイガースなどのチームの監督をされた野村克也さんからは「1年間で監督の采配で勝てるのは5試合程度、いらんことをして10試合以上負ける。やるぞ、やるぞで何もしないのが一番良い。」という話しを聞きました。最後に息子が広島に帰りチームを手伝ってくれるようになった時に、「3塁ランナーをエンドランで返しても子ども達の自信にならないから打たせた方が良い。」と言われ、何もしなくても終わったら勝っているという夢を追ってみようと思いました。

ではなぜリーグ決勝大会の決勝『広島スターズ』戦でエンドランをしたのか。一度も練習したことがないのに。

今年の3年生は7人、ひとりも辞めていません。例年と比較して能力はありませんから、新チームになってから苦しみ続けてきました。それでも諦めず、努力し続けている。そんな3年生が私は

大好きでした。特にエースは、本当によく練習し、チームを全日本少年軟式野球大会県大会に導いてくれました。そのエースが夏から調子が上がらず、3年生最後の試合、マウンドでもがき、苦しんでいました。私だけでなく、チームの子ども達全員がエースを助けたい、少しでも楽にしてやりたい、その気持ちがベンチに溢れていました。あの場面のエンドランはベンチの選手全員の気持ちでやったエンドランです。私はサインを出していません。アイコンタクト、それだけです。一度も練習しなくても選手が必要な作戦だと理解してやれば出来るものです。バントも盗塁も自らやろうとすれば成功率は上がります。試合に負けましたが、私は段原クラブの野球を今年の3年生も立派にやり遂げてくれたことに大満足しました。

野球に正解などありません。数学ではないので答えはひとつではありません。これからも、どんな意見、批判を浴びようとも、私はコーチ達と一緒に、子ども達が高校で野球をするために良いと信じたことをやり続けたいと思っています。そのモチベーションの良い薬が、『広島スターズ』と『府中オーシャンズ』です。強くお願いして、段原クラブをはね返して欲しいと思っています。

第276話/2017.10.10

10月8日(日)第23期の卒団試合と卒団式を行いました。毎年のことですが、卒団試合は3年生のたくましさや新チームのひ弱さだけが目立ち、嬉しさと不安の入り混じった、監督として複雑な試合です。

「1年後に3年生のようになれるのだろうか」「今年の選手は厳しいな」と毎年思いますが、子ども達の努力で何とか出来るのが段原クラブです。

3年生は7人が入部し、1年生のリーグ戦は全員揃わず、オープン参加。当然、勝てるわけはありませんでした。その子達が2年経ち、全日本少年軟式野球大会(全軟)県大会に出場し、負けはしましたが、優勝チームとタイブレークの試合ができ、最後はリーグ決勝大会の決勝まで行き、立派な試合をしてくれました。

私の目から見ると、野球をする素材に恵まれているとは思えない子ども達ですが、努力を続ける素材を持っている子ども達です。本当に山あり谷ありの谷が多かった3年間でしたが、諦めず努力し続けることが彼らを成長させました。卒団式で立派に挨拶をしている姿を見ると、段原クラブの3年間は意味のあるものになったと思います。

これから高校野球に向けた練習と後輩の指導という大切な仕事があります。君達が身に付けた技術と野球というスポーツの本質を伝えて欲しいと思います。段原クラブは硬球を好きなだけ打てる施設があります。しっかり利用して、高校のスタート時、少しでも前からスタートできるように、これからも今までのように努力し続けて下さい。

新チームは広島県軟式野球連盟少年部の県新人戦西部予選がありました。当然、新チームなので不安と不満だらけの内容ですが、少しずつ出来ることが増えてきました。ピッチャーはアウトコース低めにストレートを投げられる数が増えてきましたし、イージーなエラーが減ってきました。まだまだチーム内で競争し、個のレベルを上げて欲しいと思います。

ポジションは9つ、2年生15人と1年生1人の16人で争っています。もっともっとひとりひとりが、バチバチ火花を散らすような緊張感のある練習が出来るとチーム力が上がっていきます。

チームメイトは仲間ですがライバルです。試合の当日まで争います。そのなかで勝った者が試合に出ます。まだまだ決まっていないポジションはいくつかあり、チャンスはいくらでも目の前にあります。つかめるのかつかめないのかは、あなた達次第です。

来週は文部科学大臣杯県大会です。全員が福山市民球場のグラウンドに元気に立てるように、まず健康管理。晴れの舞台をしっかりと楽しめるように万全の準備をして下さい。

文部科学大臣杯に呉地区の予選参加チームが無く、1回戦不戦勝があります。そもそも呉地区と南部地区は、今年的全軟も予選参加チームが2チーム、不条理を感じます。子ども達の世界で、大きな大会に出場するための条件があまりにも違う。努力している少年達が平等ではない条件の中でプレーしているのはなぜなのか。

いつものことですが「大人の都合」？「完全な平等」そんなことを求めてはいませんが、試合しなくてもエントリーしただけで出場できる地区があったり、1試合勝てば出場できたり、3試合勝っても出場できなかったり、誰が考えても「なぜ？」ではないでしょうか。

いつも私は思っています。子どもの世界に「大人の都合」はいりません。「子どもの都合」で大人は動くべきです。

臨機応変、努力しなくても出場できるチームがある大会はその価値を失います。

第275話/2017.10.02

10月1日(日)総会があり、保護者の役員が変わり、全てが新チームになりました。

日曜日午前中、太田川リーグという大人の草野球リーグ戦があり、3年生はよく打ちました。プレッシャーが無くなり、伸び伸びバットが振れる精神状態になり、身に付けた技術を試合で発揮出来ます。今年の3年生は、チャンスでタイムリーを打てない弱い子ども達でした。段原クラブで3年間やると、全員ある程度以上の技術は身に付きます。それを試合で出せるかどうかは本人次第です。

2年生も数人ですが、打球が強くなってきています。練習している子は楽しみです。

私は日本プロ野球OBクラブと日本野球機構(NPB)の公認指導者資格を持っているプロの指導者です。1対1で本気で指導すると、子どもは変わります。平均的な体力があれば、ある程度の成績を出させることが出来ます。そのためにひとつ条件があります。それは信じてもらうことです。子どもはもちろんですが、保護者にもです。お互いの信頼が必要です。長く子ども達と接していますが、気持ちと上達の度合いは比例しているように思います。

今年の1年生はあそこが痛い、痒いと少し練習・試合をするとよく言います。段原クラブの歴史でだんとつに体が弱い学年です。

スポーツの世界ではっきりしていることがあります。上達するためには正しい練習を数多くすることです。体が弱い選手は、この数多くが出来ません。と言うことは、上手くなりようがないと言うことです。

『一流は体が強い』これはどんな世界でも共通しています。技術を磨くための土台、体を強く作る必要があります。

1、2年生の皆さん、『野球の練習が出来る体』最低条件です。なければスタートラインにも立てません。

第274話/2017.09.25

3年生の中学生最後の試合が、9月24日(日)にありました。リーグ決勝大会、リーグ上位4

チームによる準決勝、決勝です。

私は毎年この大会で広島スターズと最後の試合が出来れば、3年生にとって幸せな終わり方が出来ると思っています。今年も良い最後の試合が出来ました。

結果は6対9で負けましたが、入部してきた7人を見た時、最後にこんな試合が出来るチームになると想像した人はいないと思います。

体は小さい、足は遅い、不器用、ピッチャーがいない、内野手がない、そんなスタートでした。それでも何とかするのが段原クラブです。恵まれたものを持っていない子ども達が努力を重ね、諦めず練習し続ける。

今年の3年生もよく練習をしました。勝って終わるにこしたことはありませんが、野球はそんなに甘くありません。広島スターズというチームもそんなに甘くありません。だから面白いのです。君達は持っている能力に比べ本当によくやりました。褒められて当然だと思います。私が段原クラブの監督でなかったらこう言います。

監督の立場ならこう言います。君達は勝負の世界に向いていません。高校野球をやるにしても、本気で甲子園と思っている、いわゆる野球校で競うのは無理だと思います。

まず、基本的な身体能力でひとつでも抜けたものが無い。特にスピードが無い。野球を覚える頭(野球頭)が弱い。強い相手に立ち向かう心が無い(開き直れない)。厳しいようですが、これが現実です。

3年生の7人は希望の進学先を全員決めています。今の実力で4月を迎えると、厳しい野球人生が待っているでしょう。今まで以上の取り組み、覚悟が必要です。バットを振っていれば練習している、打てるようになる、この程度の考えでは上のレベルでやるのは無理です。一番嫌なこと、苦しいこと、辛いこと、そこからやるべきです。

よく頑張りましたが、最後には広島スターズにも府中オーシャンズにも勝てなかった、これが君達の今の力です。現実を見つめ、諦めるのか、今まで以上やるのか、どちらかです。

本格的に新チームが始まります。中心選手のいない、私から見ればスカスカのチームです。ユニフォームのプライドも背番号の責任も今のところ、親子共々感じるものではありません。運良く、文部科学大臣杯の県大会には出場しますが、それだけのようになります。

大会まで3週間、誰がチームの中心になり、全員をギラギラさせてくれるのか。野球はチームスポーツと言われますが、枝葉は枝と葉だけで、勝負は出来ません。

勝つという結果が欲しければ、ひとりひとりが自分に、そしてチームメイトに厳しく練習する必要があります。レギュラーとしてプライドと責任、そしてレギュラー番号がもらえなかった選手の巻き返し。下剋上。私はそういうチームを望んでいます。

レギュラーの座に安心し、努力(当たり前のこと)を怠る選手(何人か心当たりがあるはず)、私は試合から外したくてうずうずしています。

その時に後悔しても遅いですよ。あなた達のために甘やかすことはしません。

第273話/2017.09.19

いよいよ3年生は、9月24日(日)のリーグ戦決勝大会で中学生としての対外試合は最後になります。なかなか部員が集まらず、4月になってやっと7人入部した3年生。厳しい学年になると思っていました。

2年秋の新チーム結成からなかなか思い通りの試合が出来ずにいましたが、何度も切れかけた気

持ちを何とかつなげ、全日本少年軟式野球大会では県大会に出場することが出来ました。大会の優勝は難しいものがありました。7人の努力で、段原クラブとして最低限のレベルにまで上がってきました。7人しか入部しない学年でしたが、ひとりの退部者もなく、全員が入部の時にした私との約束を守ってくれました。ありがとうございました。

最後の試合ですが、緊張したり、気負ったりすることなく、身に付けた技術を全て出した気持ちのよい試合をしてくれることを望みます。

新チームは、10月14日(土)文部科学大臣杯県大会1回戦で精華クラブと対戦します。コーチが試合を見た所によると、現在の力は相手が上だそうです。残り4週間、各自が少しずつレベルアップする必要があります。

9月18日(祝)の甲山ジャガーズ交歓軟式野球大会で2試合することができました。スイングのスピードが足りず、まだ打球が段原クラブのレベルにきていません。しかし、これはすぐに何とかなる問題ではありません。まずディフェンス。バッテリーの頭を含め、内外野のイージーミス(送球ミス、内野安打など)をゼロにし、失点を防ぐ。ロースコアで試合が出来るための練習が必要だと思います。ということは、レギュラーは守備力からということです。

2年生は入部からほとんどの選手の体格に大きな変化がありません。これは、素材だけの問題なのでしょうか。私は、家庭の野球に対する覚悟の問題だと思っています。グラウンドで昼食をたくさん食べさせるチームがあると聞きますが、私はしません。これはチームの問題ではなく、家庭の問題だからです。そして強制することではないと思うからです。

やった方が良くと思われることは伝えます。やるかやらないかは各自の問題です。自分の野球人生は自分で責任を持てばよいと思います。本気ではない野球もありです。ただ、私はなるべくそういう選手と同じチームでやりたくないと思っています。

今からでも遅くありません。1,2年生の皆さん、速いボールを投げたければ、投げられる体が必要です。打って遠くへ飛ばしたければ、遠くに飛ぶ体が必要です。体を作らずに、それを望めば必ずどこかに無理をし、確率は下がり、ケガに繋がります。来年の春に向けて、今日から、速く、強い体。本気になってみませんか。あなたのためです。

第272話/2017.09.11

私は、何もせずベンチに座っているだけで広島県一になれるチームを目指している、と常々言ってきました。そのために練習で個の能力を伸ばし、野球というスポーツの本質を子ども達に説明してきました。これだけ同じ事を何度も言ってきたのだから、小学校から野球してきたのだから、こんな事ぐらいは分かるだろうと思ってきました。

しかし、これは常識だから言わなくてもいいだろうと思うことが、試合中に出来ないことが数多くあります。今年やっと分かりました。『中学生は頭が悪い』覚えられません。

牽制球やピックオフプレーでアウトになってはいけない場面が分からない。相手バッターの特徴、打球方向、足のスピード、分からない。引っ張って良い場面、悪い場面、分からない。甘いボールで良い場面、四球でも良い場面、分からない。外野手がチャージしなければいけない時、安全にいかなければいけない時、分からない。相手が走ってくる時、バントしてくる時、エンドランをしてくる時、全く分からない。とにかく何も分からない。

小学生の時から何年も野球をし、あきれ程試合をしてきたのに、野球というスポーツの事は何も知りません。

なぜなのか、覚えようとしなからずです。投げる、打つ、走る、捕る、野球はこれだけで出来ると思っています。間違っています。ボールが動いていない時間の方が長いスポーツ、例えばアメリカンフットボールもそうですが、ボールが止まっている時間に何を考え、何を準備するのが結果を大きく変えます。

9月10日(日)の山本浩二旗1試合目は、いちいち言わなくてもこの程度の相手に負ける事は無いと思っていると、全く何も出来ない。本当に何も考えず、ただ投げる、ただバットを振る、ただボールが飛んできたなら捕る、投げるだけ、ビックリしました。一から十までいちいち言わなければ何も出来ない子ども達だということが良く分かりました。それが分かったということが一番の収穫です。3年生も同じです。これだけたくさんの試合を経験しても、技術はもちろん伸びていますが、考え方は小学生のまま。これでは良い結果に繋がるわけがありません。

監督が座っているだけで勝てるチーム、これは私の目標ですが、今は無理です。諦めました。

9月10日(日)2試合目、ネクストサークルの近くでいちいちやらなければいけないことを説明し、試合をしました。試合になります。段原クラブは正しい練習をしているので、ある程度の技術は身に付いています。試合の場面でその技術をどう出すのか、何をどう出すのか、何をしなければならなくて、何をすればいいのか。私はいちいち一から十まで言うことにします。

野球選手は体力、技術、もちろん必要に決まっています。ピッチャーはスピードがある方が良いでしょうし、バッターは遠くに飛ばせた方が良いでしょう。しかし、試合となればそれだけで勝負するわけではありません。『状況判断』し、『相手を分析(相手のあるスポーツ)』し、『予測と準備』をする。この能力が大事なのです。

ひとつの例を書きます。私がもし日本ハムの大谷投手と対戦することがあるとすれば、必ずスライダーを狙います。なぜなら160km/hのストレートは狙っても当たらないでしょう。バットに当たる可能性はスピードの無い変化球の方が高いと判断するからです。

相手の力と自分の力をしっかり頭に入れて計算すれば、ピッチャーなら投げるボールが、バッターなら振るボールが、野手なら守備位置が、走者なら行くか止まるかが決まるはずで、それが野球というスポーツです。

第271話/2017.09.04

9月2日(土)文部科学大臣杯、9月3日(日)福山80ホークス招待試合がありました。土曜日は内容や相手がどうであれ、県大会の代表になることが第一の目的なので、その点では良かったと思います。しかし、新チームになって時間が無く、致し方ないとはいえ、内容はひどいものでした。

県大会までの約40日、チームを白紙に戻し、一から考え直す必要があります。最低限、ピッチャーが打ち取った打球はアウトにする、ストレートはバットに当てる、バントは出来る、牽制でアウトにならないぐらいはレギュラーなら当たり前になって欲しいと思います。

段原クラブが基準として考えているチーム、広島スターズ、府中オーシャンズ、松永ヤンキース相手に投げられる投手、打てる打者が試合に出る資格があります。あなたはありますか？なければ練習、食事、睡眠でそのレベルまで上がるしかありません。今の新チームではそのレベルの選手は見当たらないので、試合をすれば当然、敵わないという結果になります。

「数は力なり」練習はもちろん正しい理論が無ければ意味がありません。その中で、絶対的な量・数が必要です。頭で理解したことを体で覚える、考える前に反応する感覚、そのためには中学生に

は試合より練習です。小学生ももちろん練習しなければいけません。一番練習をしっかりとしなければいけない小・中学生時代に試合ばかりしているので本当の力が付かないのだと思います。

小学生のチームの関係者に嫌われると思いますが、基本のない子に試合は無意味です。九九の出来ない子に因数分解は分かりません。結局、いつも大事な試合で勝ち上がってくるチーム、子どもの素材？グラウンド？何が違うのでしょうか？私は練習の数だと思っています。40日間、チームを上げて本気でやらないと、県大会で惨めな思いをすることになります。

80ホークスの招待試合にはA・B2チーム出ました。2つとも2試合勝ちました。ひとつ良かった事は、2チームで4試合、失点0、Aチームはエラーも無く。投手の調子はもうひとつのように感じましたが、長打、エラーが無ければ、そうそう点は取られないということです。

しかし、3年生のバッティングはまだまだです。甘いストレートを打ち損ないますし、相変わらず配球は考えられず、変化球の対応は出来ません。こここのところ1か月程、3年生はたくさんのチャンスをもたらしてきました。本来なら試合に出る力を持っていないのに、7人ということだけでいつもの年より多く試合に出ています。それなのに、いつまで同じ失敗を繰り返しているのか。監督やチームに甘えていませんか。不甲斐ない自分に腹は立ちませんか。これからあなた達が行く高校野球は競争の世界です。負けてヘラヘラ、チームが勝ってもあなたは勝っていますか？

AチームもBチームも全ての選手の皆さん、あなたは相手チームに勝っていますか？広島県で、広島市で、そしてチームで何番目ですか？

私は良いボールを投げる方法も、ヒットを打つ方法も、ゴロやフライを取る方法も、試合で勝つ方法も知っています。今年の選手は利用しません。今（中学生の時）だけです。もったいない時間の使い方をしていませんか。

3年生も1,2年生もこの1か月、上手くなるチャンスだと思います。

第270話/2017.08.28

私が1年で一番楽しみにしている大会、瀬戸内大会が終わりました。普段やることのないチームと、良いグラウンドで、2日間必ず4試合でき、夜はおいしい食事とお酒を頂きながら、楽しい話に盛り上がる。

3年生は段原クラブで身に付けた技術を思い切り発表する。私にとって大事な大事な大会です。だから文部科学大臣杯をコーチに任せています。

しかし、今年は結果だけならAクラス3位、まずまずですが、内容は本当に恥ずかしい4試合でした。

『野球頭』私はいつも、野球は頭と足ですものだと言いつけています。ボールが動いている時間より止まっている時間の長いスポーツは全て頭でします。止まっている時間に何が考えられるかが勝負になります。『予測と準備』守備ではボールが飛んでくる場所が分かれば、点は取られません。本物のファインプレーとはそういうものだと思います。

バッティングは相手投手の投げってくるボールが分かれば、打てる確率はぐっと高くなります。ほぼ三振することは無くなります。

私は現役時代、配球を読んで打つのが面白くてたまりませんでした。ストレートだけ待っていて全ての変化球に対応できる天才ではなかったので、打つために配球を読む技術がどうしても必要でした。中学・高校時代も自分の打席はもちろんですが、人の打席も集中して見ました。

ストレートか変化球かの2つに分ければ、何も考えなくても1/2、2回に1回は当たります。

本気で観察し、考えれば80%以上分かるはずです。現実には私は中学生の試合を見ながらほとんど投げってくるボールは分かります。全て分からなくても、この打席はこのボールが必ず来る、この1球を狙う。ほぼ100%これは出来ます。

こういう話を何度もしたり、試合中ベンチで次は何などとヒントを与えたりしてきましたが、今年の3年生は出来ないというか、やろうとしないというか、野球を頭でやるということが理解できないようです。

投げてきたボールに対して体の反応だけで対応する、天才のやるバッティングです。今年のチームにそのレベルの選手はいません。そのため、ほぼ平均的な力の投手でも打てません。何度も何度も、ストレートは遅い、しかしカーブがストライクゾーンに投げられます程度の投手に抑えられます。1年間に何度もです。

2日目の1試合目に、この程度の投手に同じように抑えられました。まずAクラスに残ったということは、投手はストライクが入るだろうと誰でも想像できます。投球練習を見ると体は大きくない、ストレートは速くない。この時点で、何かストライクを取れる変化球を持っているに違いないと普通は思います。

2回に段原クラブの選手がストレートを4人芯で打ち、点を取りました。次からは配球を変化球中心に変えてくるだろう、これも普通考えることです。

しかし、こんなごくごく普通のこと、今年の3年生は考えられません。失敗したら考える、そして何かを変える、当然のことを相手はしました。段原クラブの選手はしませんでした。頭(脳)が動いているチームと止まっているチーム、当然動いているチームが勝ちます。なぜなら野球は頭と足でやる予測と準備のスポーツだからです。

2日目の3位決定戦、相手の松永ヤンキースは全員1年生できました。1年生相手に大量点を取り、コールド勝ちしました。当たり前です。試合後、ニコニコ話をしている3年生を見て、1日目の2試合と準決勝の内容は頭から全てもう消えてしまっています。

私とは野球に対する考え方、思い、言い換えれば住んでいる世界の違う子達なのだと思います。住んでいる世界が違うので、同じチームで野球をするのは無理があるように思います。

第269話/2017.08.21

今年の夏の甲子園はとにかく点が入ります。私はずっとバットは振るべきだし、しっかりバットを振れるチームが甲子園でも勝っているということを言い続けてきました。バントしたり、右打ちしたり、ゴロを打ったりする野球は時代遅れだとも言ってきました。

しかし、これはあくまで投手を含めた守りがあってのことですし、本当に良い投手は打てないのが野球です。そういう点では、高校野球のバッティングはマシンが当たり前であり、室内練習場があり、ウェイトトレーニングで体を大きくし、年々レベルが上がっています。

バッターは振れば振るほど良くなります。しかし、投手は投げればいいというものではありません。ケガのリスクが高まります。バッター有利という現代野球ですが、それにしても点が入りすぎです。投手の球速も上がり、色々な変化球も投げます。それでも打たれます。特に大事な場面で長打を浴びます。

私も投手の経験があります。ストレートとカーブの2種類しか投げませんでした。時代が違うと言えばそれまでですが、アウトコース低めのストレート、これに対するこだわりが無いように感じます。長打を打たれないボール。投手として一番身に付けなければいけない練習が足りないのでは

ないでしょうか。何種類のボールが投げられても、そのボールの切れやコントロールが無ければ、そのボールは頼りになるものではありません。ピッチングの基本はいつの時代もインハイ・アウトロー。これは変わることはないと思うのですが。

今年のチームは、練習で身に付けた力をなかなか試合で発揮することが出来ません。何かを変えなければと思い、1週間のフルスイング塾の休みを使い、メンタルについて勉強してみました。聞いたことのある事、無い事、時間があつたおかげで色々な考え方、練習・試合の取り組み方や失敗の活かし方、言葉や文字の使い方など、子ども達の野球に活かせるのではないかと思うことがさまざま、たくさんありました。

8月19日(土)の午前中2時間程、今までにない考え方、何をどう変化させるべきなのか、変わるための方法など、私が今回勉強したことを子ども達に伝える時間を作りました。

今回勉強して分かった事が1つあります。私の中学・高校時代は、理論を知っていたわけではありませんが、メンタルトレーニングの考え方からすると、正解の考え方で野球をしていました。多分、技術的にも精神的にも30年、40年前の選手は理論的に分かっていなかったことを自然に身に付けた選手がある程度の結果を残していたのだと思います。

現代はたくさんの情報があふれ、色々な道具があり、さまざまな理論があります。子ども達は上達しようと思えば、私達の時代よりはるかに恵まれた環境の中でとても高い可能性があります。

必ずうまくなれる環境に身を置いて利用しない。段原クラブの選手達は全員とは言いませんが、とてももったいない時間の使い方をしているように思います。無限にあるわけではない野球が出来る時間をもっと大切に使って欲しいと思っています。

8月20日(日)に手伝いに来てくれた竹田、東、子ども達にとって有意義な時間になりました。ありがとうございました。

第268話/2017.08.16

8月11日(祝)、山口県の岩国高校3年生の2人が練習の手伝いに来てくれました。2年生は新チームの練習試合に出ていたので、3年生7人、1年生9人の16人。少ない人数で久しぶりにしっかり練習をしたいと思っていましたので、「ありがたい」と思いました。

しかし、練習を始めてみると、選手から気持ちがかん全く伝わってきません。恥ずかしい取り組み方。私はバッティング練習の1組目で練習を中止し、子ども達に思いをぶつけました。

なぜなのか、手伝いに来てくれたOBの選手に申し訳なかったからです。彼らは親元を離れ、とても厳しい指導者のもと、勉強と野球に真面目に打ちこんできました。2人とも手を抜くような子ではないので、見ていなくてもどれほどの苦勞をしたかは想像が付きます。

そんな3年間の集大成の最後の夏が、名も無い相手に1回戦敗退。努力が必ずしも結果に結びつかないのが高校野球ですが、あまりにむごい終わり方をしました。

そんな思いをした選手がグラウンドに顔を出してくれているにもかかわらず、ふざけた練習をする中学生を私は許せませんでした。国立大学と有名私立大学を目指している2人がとても貴重な時間をさいてくれているにもかかわらずです。

ほとんどの選手は18歳で野球人生を終えます。大学・社会人・プロに進める選手は僅かです。その現実を中学生は分かっていません。野球が出来る時間は無限にあるわけではありません。3年生には残り3年、2年生には4年、1年生には5年しかありません。練習できる日数・時間を一度数えてみてはどうですか。手を抜いている1日がどれだけもったいないか分かるはず。高校3

年生までに力を付け、結果を残さなければ、次のステージには上がれないのです。

あなたは何歳まで野球を続けたいのですか？30歳まで出来る選手はほんとうに一握りの天才です。今やらなければいつやるのでしょうか。全国に同級生の野球選手が何万人といるのです。その中であなたは今、何番目ですか？

4000校少し欠ける高校野球、大学は200数十校、社会人は約70～80チーム、プロ野球は12チーム、競争に勝ち残った選手だけが、次のステージに上がっていきます。夢を語るのは大いに結構です。しかし、語るだけでは1歩も近づくことは出来ません。

「暑い」？ 夏なので当たり前です。

私は今まで自分に指導力があると思っていました。約30年間、小・中学生を指導し、ずっとある程度以上の成績を残してきたので、そう思い込んでいました。しかし、それは勘違いでした。私の能力では今年の3年生に試合で結果を出さすことは出来ません。今まで自分の力だと思っていたのは、ただ子ども達に恵まれていたからだったのです。

今週で268話目、5年以上続けてきたこのページで数々、生意気な事、失礼な事を書いてきました。大した力も無いのに、ただただ恥ずかしいことを繰り返してきました。皆さん心からお詫び申し上げます。本当に申し訳ありませんでした。しっかりと自分の能力を知り、勉強し直します。

私は常々、良い結果を出せない指導者がいつまでも監督でいることをよしと思っていませんでした。その点で、子ども達の力を上げられない私がこのまま同じ立場でいていいのか？13日（日）からそのことと、今までと違う練習方法、試合で力を出す方法、何か他のやり方があるのか？ずっと考え続けています。私がベンチを離れることにより子ども達が持っている力を出せるのなら。残り少ない3年生の中学野球、どうすることが最も彼らのためになるのか。結論を出す時間はあまりありません。まず、私が自分の無力を知ることが始まりです。

OBの波多間、金澤、貴重な時間ありがとうございました。そしてすみませんでした。

第267話/2017.08.07

8月5日（土）、6日（日）の2日間、年に1回の孫との旅行に行ってきました。プールと遊園地で暑い中、疲れましたが楽しみました。たくさん楽しめた中で2つ残念なことがありました。

ひとつは、プールで浮き輪に空気を入れようとコンプレッサーの所へ行くと、2人の女性が浮き輪を持ってあたふた、いつまで待っても終わらない。5人の順番待ちの行列が出来ました。それでも慌てる訳でもなく、のんびり終わった後、何の一言もなく悪びれた様子もなく立ち去りました。

もうひとつは遊園地のメリーゴーランド。私はもちろん乗りませんが、まずなかなか始まらない。動き出したと思ったらすぐ停止、何かもめている様子。後で孫に聞いてみると、馬に横乗りしていた親子がいたのでスタッフが注意。動き出したらまた横乗りし、停止。ぐずぐず言っていたとのこと。

両方ともいい年をした大人。小学校2年生の孫に「大人なのに常識がない」と言われる始末。公共の場、たくさんの方が集まる場所にはルールがあります。子どもに手本を見せる立場の親、子育て大丈夫なのでしょうか。年代によって恥ずかしい行為が違うのでしょうか。「他人に迷惑をかけない」これはいつでもどこでも第一に考えることだと思います。

野球の試合も同じです。エラーをしても、三振しても、打たれても、負けても恥ずかしくない。こうなったらプレーヤーとして終わりです。試合に出るのなら、チームに迷惑をかけない努力はする必要があります。

スポーツ選手の能力は3つ、スピード（速さ）、パワー（強さ）、テクニック（技術）。全て持っていれば一流選手です。あなたは何を持っていますか？

投手で言えば、スピードが無い、コントロールが無い、変化球のキレも無い。マウンドに上がってはいけません。段原クラブのピッチャーは自分で決めてやっています。いつまでもガリガリの体で、強いボールも速いボールもコントロールも無いでは、おかしい話です。3つ全て無い選手がチームを背負うことは出来ません。自分で決めたポジションです。やって当たり前です。技術の前に体を変えられなければ、周りの選手は納得しません。マウンドに立ち背番号1を付け、チームを背負うとは、誰が見ても納得する明らかな努力、そして変化が必要です。誰もが認めるエースがマウンドに立つことで野手は安心し、持てる力を発揮し、チームは強くなります。

ピッチャー志望の選手達、エースになりチームを背負う覚悟がありますか？しっぽを巻いて逃げるのは早い方がいいですよ。トーナメントはやり直しがありません。

第266話/2017.07.31

しまなみ大会本戦1,2回戦が7月29日（土）因島でありました。2試合とも勝ち、ベスト4に残りましたが、あまり面白くない1日でした。

生意気を承知で書かせて頂きます。クラブチームは何のためにあるのでしょうか。ほとんどの中学校に野球部があります。わざわざクラブチームに入部し、会費を払ってまでやるのはなぜなのか。中学校の野球部では得ることのできない高い技術を身に付け、高校野球に繋げるためです。中体連と変わらないのならお金を払う意味はありません。会費を集める限り、正しい技術と正しい野球を伝える必要があります。

投手がストライクを投げられないのは、フォームが間違っているからです。投手は正しい投げ方をすれば、必ず正しいボールがいきます。身体能力の差がありますから、全員が強く速いボールは投げられませんが、ストライクは投げられます。審判が明らかに試合進行のため、あり得ないほどストライクゾーンを広げても入らない。これは間違いなく技術の問題です。

正しい野球、試合が終わった時に相手より1点多く得点していれば勝つのが野球です。そのために色々な作戦をとります。ランナーが3塁に行けば必ず内野は前進守備ではありません。4番バッターだから外野は必ず下がる訳でもありません。状況判断が必要になります。それは、◎イニング ◎点差 ◎アウトカウント ◎ランナー ◎打順、基本的にこの5つの条件を頭に入れて、野球をしなければいけないということです。ほとんどのチームは点差に関係なく、ほぼ、ランナーは同じリード、同じリードオフ、同じスタートを切っています。数点負けていてもライナーで飛び出すこともあります。

これは野球を教えていないからです。特に盗塁には意味のあるものと意味のないものがあります。意味のない場面で何度走ってもその子に何も身に付きません。点差がついた終盤に1点を取りにいっても意味はないのです。

正しい技術と正しい野球（考え方）を伝えないクラブチームにも意味がありません。確かに試合に勝った方が、気分が良いのは良く分かります。しかし先にも書いたように、クラブチームは高校野球に繋げなければいけません。そのためには個の力を付ける必要があります。

力が一番付くのはもちろん試合です。試合で1回でも多く振る、1球でも多く投げる、捕る、走る。勝つために子ども達のバットを振るチャンスを大人が奪っている場面を時々見ます。特に下級生の時に勝ち負けを考えて試合をするのが、私には全く理解できません。出来ないことを知るため

に下級生の試合はあります。

ピッチャーは投げれば良いというものではありません。数より身体作りとフォーム作りが大事です。しかしバッターは振ったもん勝ちです。下級生の時から試合でも、練習でも、家でもとにかくバンバン振る。飯を食い、しっかり寝て身体を作る。A戦に出るようになったら、技術と頭を研いでいけば試合で打てるようになります。

最近、軟式クラブチームで部員不足のチームが多いと聞きます。段原クラブが多い訳ではないので偉そうに言うのは何ですが、中体連では身に付けられない技術と考え方がなければ、クラブチームの存在価値はありません。明らかな違いを見せなければ、軟式野球をするのに中体連で充分と思われてしまいます。

段原クラブは明らかに違います。勝ち負けではありません。本物の野球を子ども達に伝える責任がクラブチームにはあります。

今は指導者が勉強しようと思えば、機会はいくらでもあります。自分が学生時代にやっていた野球は時代遅れです。広島のだこかの高校のように、打席でしゃがんだり、バッターがチラチラキャッチャーの構えを見たりするゲスい野球はダメです。高校野球のマーク(F) フェアプレー。なぜ審判が注意しないのか理解出来ませんでした…(監督がベテランだから?)。

もう今、野球はそんなことをして勝つ時代ではないのです。『個の力』指導者の皆さん、広島の高校野球が全国のレベルから置いて行かれています。中学野球にも責任の一端があるように思います。

広島でバットをブンブン振る高校、出てきませんか!!

第265話/2017.07.24

私は今、眠れない日が続いています。今月はリーグ戦、日刊大会、しまなみ大会予選など沢山の試合がありました。何とか勝ってはいますが、段原クラブのバッティングが出来ていません。練習はしています。色々な引き出しを使い、指導しても変わってきません。

指導者になって約30年になりますが、初めての経験です。練習不足の選手が打てないのは当たり前なので何とも思いませんが、努力相応の結果が出ないのは、理由を突き止めなければいけません。子ども達ひとりひとりと会話をし、私の考え方(理論)がどう伝わっているのか確かめる必要があります。ある選手はひとつの事を伝えたと、その前の事を全て消してしまうようです。分かって当然は子ども次第、全部言わなければ伝わらない選手がほとんどのようです。私にとって当たり前でも、選手達には聞いたことがない、こんな感じです。小学校から野球(ソフトボール)をやってきたのに、野球を何も知らない。年々難しくなっています。

バッティングも守備も走塁も、野球はボールが止まっている間に考え、予測し、準備するスポーツだということを知りません。ボールが来てから本能で反応してプレーする、これは天才がやる野球です。バッターはやることをある程度決めて打席に入りますし、守備は次のプレーを2パターン程は用意します。走塁も同じです。状況判断、いつもフルスイングすればいいわけではありません。いつも言い続けている「野球は足と頭でやる」スポーツだということ、もう一度選手全員がしっかりと認識してほしいと思います。

県知事杯でBチームも次のステージに残りました。2年生の中心選手を除いたメンバーがほぼ力を出したとコーチから連絡がありました。これが大事なことです。練習で身に付けた力を試合で出

せたのか、出せなかったのか。力を出し切った負けは何も悪くありません。試合に勝っても持っている力を出し切らなければ、その勝ちは大した意味を持ちません。今回の県知事杯のファーストステージは、Aチームは×、Bチームは○ということです。

私がかけるプレッシャーに負けて、持っている力を出せない選手がいるのだとしたら、高校野球をやるべきではありません。最後の夏のプレッシャー、甲子園をかけた戦い。そんな選手には無理です。私は全軟以外の試合はあえてプレッシャーをかけます。その程度で負けるようでは、勝負の世界ではやっていけません。

私は厳しい、口が悪い、色々なことを言われます。全て承知の上でやっています。時々切れるのも計算しています。そんな事に負けることなくぶつかってきて欲しい。失敗はします。子どもは未熟です。勝負はもちろん技術の勝負です。しかし、ここ一番、力以上のものを引き出してくれるものがあるとすれば、「自分を信じる心の強さ」だと思います。ピンチやチャンスに動じない、浮き沈みのない心、集中力。段原クラブの選手には、そんな自信満々の姿で試合のグラウンドに立って欲しいと願っています。

3年生には、これから2ヶ月、私は諦めることなく、より厳しく接していきます。私の持っている技術をひとつでも多く伝えていきます。本気で向かって来て下さい。もっともっとうまくなれます。

第264話/2017.07.18

7月15日(土)日刊大会準決勝・決勝、7月16日(日)1年生大会、7月17日(祝)しまなみ大会西部予選と、3日間で6試合ありました。連日暑く、子ども達も大変だったと思いますが、私は心身ともに疲れしました。

何とんでも3日目のしまなみ予選、2試合でまともなヒットは2本。今まで、段原クラブはどこに行っても「良くバット振りますね」「良いスイングしていますね」「飛ばしますね」など、打つことはある程度自身を持っていました。どのチームより沢山振って、高校野球に繋げられるように指導してきました。

今年のチームも1年生の入部以来、今までと同じように練習してきました。しかし、軟式野球連盟に登録して12年、今年のチームは打てません。ピッチャーに三流、二流、一流と3種類あるとしましょう。打てるのは三流だけ。ストライクが入る変化球があり、アウトコースあたりにそれ程速くなくてもストレートが投げられる程度のピッチャー以上は全く打てません。変化球でストライクが取れない、ストレートは投げそこなって真ん中にくる三流のピッチャー、打てるのはそういう投手だけです。

試合の中でチームの役に立たないバッティングが3つあります。①三振 ②内野フライ ③サードゴロです。ランナーが出ることも、進めることも、返すことも出来ないからです。当然、点は入りません。何度言い続けても、どれだけ指導しても、これを繰り返す今年の選手達。なぜなのか？例年と同じように練習はしています。

理由として考えられるのは2つ。そもそも野球をする能力が無いのか、頭が悪いのか。私は後者だと思います。良い投手はピンチになればアウトコースに投げてきます。これは世界中のピッチャー共通です。と言うことは、アウトコースのボールをセンター方向に打てなければ、チャンスで打てるバッターにはなれません。これは段原クラブに入部した選手全員に何十回、何百回と言い続けています。なのに、やろうともしない。相変わらず、バッティング練習はホームラン競争のよう

に、どこまで飛んだかしか興味の無い練習をしています。当然、試合になれば二流から上のピッチャーからは打てません。今年、広島には残念ながら一流の投手はいないので普通にやれば点を取れないはずはありません。たやすく3割以上打てるはずですよ。

バッターの仕事は3つあります。①塁に出ること ②ランナーを進めること ③ランナーを返すこと。どれも出来ないのなら試合に出る資格はありません。今年の選手は、この中でどれが出来るのでしょうか。ランナーがいなければ塁に出るために、ランナーがいれば進めるか返すために全力を尽くしているのでしょうか。私にはその思いは伝わってきません。そもそも速くもないストレートが前に飛ばない、空振りする。「いいかげん」「雑」これしか考えられません。ボールに必死で食らいつく姿勢を見たこともありません。チャンスで打つことが野球選手の大きな喜びのひとつです。チャンスでビビる、楽しめない。野球をやめるべきだと思います。チームに迷惑をかけるだけです。そもそも、そんなので野球している理由が分かりません。

私の好きな言葉に「胸にプライド 背中に責任」があります。ある年のTシャツにプリントした言葉ですが、段原クラブの選手であるプライドを持ってユニフォームを着る、背中の番号は責任です。レギュラーはレギュラーの責任を背負います。出来なければ外せばいいのです。私も選手達と同じように30番の責任を背負っています。子ども達を成長させられず、チームが勝つことが出来なければ外さなければならぬと思っています。

選手の皆さん、お願いがあります。試合に出たい気持ちは分かります。しかし、あなた達は今、その練習で、その精神力で、その技術力で本当に試合に出て大丈夫ですか？責任果たせますか？チームの足は引っ張りませんか？自信はありますか？ここのピンチ、チャンスで自分の力を出せますか？ビビってませんか？無理なら言って下さい。ビビっている選手と同じユニフォームを着てグラウンドに立ちたくありません。今年のTシャツの文字読んで下さい。「感情むき出しでくらいつく」です。

二流のバッターでもチームに貢献する方法はあるはずですよ。

第263話/2017.07.10

ある日、突然、私宛に封書が送られてきました。差出人を書いていない封筒を開けると、中にはあるチームの保護者有志からの手紙が入っていました。内容は、そのチームの子ども達の心と身体が壊れていくので助けて欲しいというものでした。内部告発、連盟の役員の方に聞いてみると良くあることらしいです。

私は段原クラブの代表で他のチームのことを口出しできる立場ではありませんので、個人的な考え方を書きます。まず、チームは誰のものなのか。チーム結成後に関わった全ての人の大事なものですし、これから先もずっと続いていく全て人のものだと思います。保護者の方々はどうしても自分の子がいる間の数年のことしか考えません。中学生でいえば、3年生だけのものではありませんし、現役選手・保護者だけのものでもありません。これだけのアクションを起こすのは最後の手段、その前にやるべきことがあると思います。

まず、保護者全員の意思の確保、話し合いです。今回のように有志（数人）でチームの大事な問題に対して事を起こしてはいけません。保護者全員の話し合いによって出た結論を持って、チームスタッフと大人の話し合いをするべきです。子どもに関わっている大人は全員、第一に子ども達のために何をすることがベストなのかを考えているはずですよ。その大人と大人が話しをして問題が解決しない訳は無いと思います。チームは一部分の人間のためにあるのではないということを入

れていれば、きちっと段取りを踏めたはずです。そして相手の名を明かすのなら、自らの名も堂々と明かし、意見を言うべきです。自らは影に隠れ、人を処分しろと言うのは説得力がありません。正しいと信じている行動ならば、隠れる必要はないのではないのでしょうか。

私は常に自らの名前を明かし、毎週、自分の考え方を書いています。私も人の親です。息子は小学校から中学・高校・大学・社会人・独立リーグと色々なチーム・指導者のもとで野球をやりました。保護者の立場も十分に理解しています。同じように不平・不満を感じたことがあります。しかし、親子で最後に出した結論は、自らの努力、実力次第だということでした。

チーム選びは自己責任。勝つことを望めば、そこには当然、厳しさ、苦しさが付いてきます。楽をしているチームは、試合で勝利の喜びを得るのは難しくなります。どちらを望んだのでしょうか。

色々書いてきましたが、私は段原クラブの監督なので、他のチームのことは分かりません。ただ私が常々心がけていることは、中学野球は通過点なので子どもの心と身体を壊すことなく次のステージに送り出す。私のことは嫌いになっても構いません。野球を好きで身体が壊れていなければ、うまくなれる可能性が残ります。続けていれば、自分に合った指導者に出会えるかもしれません。頑張っている選手は必ず出会えます。今悩んでいる子ども、保護者の皆さん、次のステージに進んで下さい。見てくれる人がいます。野球が好きな子ども達、続けて下さい。人生は出会いです。

しつこいようですが、もう一度言います。大きなものを手に入れようと思えば、色々なものを犠牲にしなければなりません。野球なら勝つために時間をかけます。集中します。厳しくなります。もちろん苦しいです。心も身体も痛めつけます。言い方は悪いですが、壊します。そして今までより大きく再生し、成長していきます。スポーツ選手はその繰り返しで頂点を目指し、もがくものだと思います。最後はほとんどの選手が自ら諦め、その道を断念します。

私はプロ10年目の28歳で球団から契約を切られ、野球をすることが出来なくなりました。膝の手術をし、ドクターからプレーは難しいということも言われましたし、技術的にも二流の私は続けることは無理でしたが、今でも野球がやりたいです。出来るのなら58歳ですが、トレーニングし直してプレーしたいと思います。

選手の皆さん、一年でも一日でも長くプレーして下さい。野球は本当に難しく挑戦しがいのあるスポーツです。いくらやっても頂上は見えてこないので一生やりがいがあります。50年やってきた私も毎日悩み、考え、苦しんでいます。しかし、その時間が自分にとって大切な時間です。

やめてはいけません。必ずあなたのことを必要とするチーム指導者がいます。出会えます。**野球をやめてはいけません。**

高校野球広島予選が始まりました。3年生のみんな有難う。勝敗は関係ありません。3年間頑張った君達は勝者です。またグラウンドで会おう。ご苦労様でした。

第262話/2017.07.03

全日本少年軟式野球大会（全軟）が終わり、夏が近づきこれから1番段原クラブの選手が伸びる後半が始まるのに、選手の気持ちに乗ってきていません。こういう時にはガツンと刺激が必要です。12年間続けてきた平日自主練習を停止し、子ども達と保護者の反応を見ました。

それがビックリ、1週間反応なし。自主練習は、子ども達にとってどうしても必要なものではないと私は判断しました。全員が様子伺いです。「誰が動くのだろう」「自分が動かなくても誰かが何とかする」自分ひとりの力で扉を開く気は無いのです。

今までの野球人生も、誰かが投げ替えてくれて、誰かが捕替えてくれて、誰かが打替えてくれて、やっと

勝てる。極端に言えば「自分ひとりの力で勝ってやる」なんてことは考えたこともないのでしょ。全て人任せ。そんな人生を、今までもこれからも歩いていくのでしょ。

6月25日(日)の練習後、コーチが今のままでいいのかという発言後、団体行動。ひとりで私の前に来て、自分の意思を言えたのは出口だけでした。これが今年の段原クラブの選手の個の力です。先頭には立たない、常に誰かの後ろに隠れ、風も雨もやっかいなものは他人に防いでもらう。チームメイト、仲間、いつまでも仲良しごっこをするのでしょか。本当に何も分かっていません。野球選手は全ての野球選手が敵です。同級生、下級生に負けた瞬間、野球人生が終わります。チーム内で負ければ対戦相手と戦うこともできません。当然、上のレベルに上げられるわけはありません。誰かが手を抜いていたり、気を抜いていけばラッキー。自分のチャンスなのです。

私は、野球は個人スポーツだと思っています。各自がその場その場でやらなければならない当たり前のことが出来れば試合は勝ちます。それをしない、出来ない選手がいれば負けます。仲良しこよしでお手手つないでやるスポーツではありません。

本当の優しさとは、本当のことを伝えることです。それが、子ども達にとって厳しくても、辛くても、苦しくても、やらなければいけないことは伝え、挑まなければいけません。なぜなら、子ども達が夢を語るからです。預かった責任として夢に一步でも近づくために、甘やかすわけにはいかないのです。高校に行く前日までグラウンドに来る子に対して全力。今までもこれからも段原クラブは変わりません。たかが全軟が終わったくらいでのんびりしている暇はありません。「野球の技術に頂点なし」

例年、ここから段原クラブは伸びます。選手全員がライバル意識むき出しで競争し、個人の力を伸ばす。それが高校野球に繋がります。

春、軟式野球連盟からひとつのチームをA、B2チームに分けて同一大会に出場してはいけないという通達がありました。私は納得がいきませんでした。当然です。子ども達の体のことを考えて作られた1チーム、1日2試合というルールを誤った使い方をしているからです。体を守るためにひとりの選手が2試合しか出なければ良い訳で、2チームに分けて問題あるわけありません。全てのチーム関係者がおかしいと思ったはずですが、しかし、段原クラブの選手達と同じ。誰も動かない。私は明らかに理にかなっていないルールに従う必要を感じていないので、事あるごとに色々な軟連の関係者に意見を言い続けました。しかし、全員「理事長が言ったことだから」と逃げるばかり。最後の手段は全日本軟式野球連盟に聞くしかないと言ったところ、やっと広島で話し合いがもたれ、大人が話せば当然、当たり前の理にかなった結論、2チーム出ることがOKになりました。しかし、こんな当たり前のことが何でこんな面倒くさいことになるのか。いんちきするチームがあるからです。片方のチームが負けた後、残っているチームの試合に選手を出す。「バカです」子どもの指導から身を引いて下さい。そんな大人は子どもの野球に関わってはいけません。軟式野球連盟から永久追放にするべきです。

結局、なぜ面倒くさいルールを作らなければいけないのか。面倒くさい大人がいるからです。チームを変ったら1年間出場できない。私はこれも意味が分かりません。なぜ？選手の引き抜きで変わったらダメなのか。だいたい体験会なんてどのチームも本当のところは見せません。「入部したらこんなはずじゃなかった」ということもあるでしょう。人数が多くて試合に出られそうにない。指導者と理屈じゃなくて肌が合わない。人間なんであることです。子ども達の1度しかない小・中学校の野球。1年はとても大きいものです。自由にさせるべきです。出ていきたいと言っている選手が無理に残っても、お互い良いことにはなりません。

私は“来るもの拒まず去る者追わず”価値観はひとそれぞれです。トップの考え方に合わせられなければ、合ったチームでやるべきだと思います。

入部してきた子ども達を、卒業の日まで諦めず、ひたすら野球の技術を伸ばす。そして高校に送り出す。私にはそれしかできませんので。これからもやるだけです。

第261話/2017.06.26

6月25日(日)3年生の保護者の気遣いで、私の誕生日を祝って頂きました。2週間程前から薄々感じていましたが、当日も気が付いていないふりをするのが大変でした。とても有り難いことで、参加して頂いた保護者の皆さん有難うございました。

全日本少年軟式野球大会(全軟)県大会が終わり、3年生にとってこれからは中学野球の集大成の時期に入ります。私はいつも言っていますが、勝つことだけを目的にしている全軟が嫌いです。毎年同じですが、負けると少しホッとします。勝つことに特化することにより、本当に頑張っている選手や試したい選手を試合に出しにくくなります。負けることは大嫌いです。同じユニフォームを着て戦いたい選手(保護者も含め)と、練習から一緒に苦労し、ドロや汗まみれになり、試合に挑む。これからは私の自由に試合が出来ます。本物の段原クラブはこれから始まります。

日曜日の練習後、コーチが子ども達や保護者にこんな話をしました。段原クラブがなぜ素材に恵まれているチームと対等に試合できるチームになれるのか、他のチームより優っている所はどんな所なのか。

①指導者が野球の技術指導のプロである(私は日本野球機構NPB公認指導者資格、日本プロ野球OBクラブ野球技術指導員、学生野球指導資格を持っています)。

②室内バッティング場がある(同時に3人が打て、空いている時間いつでも打てます)。

③平日自主練習で、基礎を徹底的に身に付ける。

この3点が、段原クラブの選手を3年間で小学生の時とは立ち位置の違う選手に変えてきました。

今年になって、この②と③が揺らいでいます。何が今までと違うのか。”家族の覚悟”だと私は思っています。

高校野球の関係者には怒られるかもしれませんが、高校野球には2通りのチームがあります。勉強の合間に野球をする学校と、野球の合間に勉強をする学校です。では、あなたはどちらを選びますか?ということです。もっと言えば、進学・就職を野球でしますか?勉強でしますか?その覚悟です。どちらが良いと言っている訳ではありません。はっきりしない、中途半端な気持ちの学校・選手が個人でやる②と③は、当然中途半端なことになり、進歩しません。「大好きな野球を1日でも長く続けたい。」その為に、今(中学生)はとても重要な時期です。私は、段原クラブを選んでもらい、他人の子どもを預かった責任があります。「保護者が入部の時に描いた卒団時の子ども以上の選手にする。」今までの本気の家族は、全員そんな選手になって卒団していきました。

段原クラブで育たない選手はいません。育ててもらえなかったと思っているOBの子ども、保護者もいると思いますが、練習しなかったからです。練習しない選手が上達する方法があったら教えてください。大金持ちになれるよ。

「継続は力なり」3年生になり、試合に出るようになって頑張るのでは遅いです。野球の技術は、もちろん努力を続けることで少しずつ力が付いていきます。しかし、バッティングはある日突然開花します。その日が来るのはいつなのか分かりませんが、練習し続けている選手にしか訪れません。私は理屈ではなく「コツ」のようなものを体で身に付ける日が来るようなものだと考えています。そんな経験を繰り返し、上のレベルに上がっていくものだと思っています。その日が来ることを信じ、努力を続けて欲しいです。バッティングは難しいからこそ挑戦しがいのあるものです。

日本人はひとりで練習するのが苦手です。勉強も塾に行って教室である程度の人数でやりますし、もちろん学校でもそうです。野球も小学校から始めますが、指導者や親に指示されて練習します。自分で考え、自分の為に自分でやる練習や勉強を、特にモチベーションや素材が平均以下の選手や保護者の場合、個人でやることは出来ません。野球の練習は、人数があると程度いないと出来ないメニューがあります。みんなでやるのはそれだけで良いはずですが。素振り、ティーバッティング、ランニング、ストレッチ、トレーニングなど、1人もしくは2人で出来るメニューをわざわざグラウンドでやる必要はありません。

ではなぜどのチームもこれをグラウンドでやるのか？指導者が選手を信用していないからです。「ある程度強制しないとこの子達はやらない」「見てなければ手を抜く」「個人練習はしない」と思っているからです。自分自身の野球人生を振り返ってみてもその通りです。私は中学生の時、毎日のランニングは父親との約束でやりましたが、指導者の目を盗んで手を抜いていました。結局、他の人から見ればたぐいまれな素材を持ちながら、中途半端な選手で終わったひとつの理由です。決められたチームの練習時間以外に何をどれだけやるのか。自分で考え、自分で行動、悩んで困ったら私を使う。自分を向上させるために大いに利用すべきだと思います。野球人生を長くする。少しでも良い結果を得る。同じ苦しい練習をするのなら試合は勝った方が良いし、ヒットは打てた方が良いし、ピッチャーなら打たれない方が良いです。その為に、やらないよりやった方が良い正しい練習があります。その中にはひとりで出来るものが数多くあります。段原クラブはずっとそうやって個の力を伸ばしてきました。

その中のひとつが平日の自主練習です。今年のチームになってから、それが意味の無いものになっています。自主練習なので何時に来ても、何をやっても構いません。確かにそうです。しかし、わざわざ集まって他人の手を煩わせて何も身に付かないのなら、それは必要のないものです。

私は十数年この自主練習を見てきましたが、今が最低です。まず集まりがチームの結成以来一番遅い、アップも一番とろい、練習が始まりません。先輩達は火・金曜日は前日からしっかり準備し、学校の先生とも練習があることを話したり、保護者も協力し少しでも早く来る工夫をしていました。なぜなのか？練習したいから、うまくなりたいたからです。確かに全員がそうだったとは言いません。

全日本少年軟式野球大会県大会で負けて1週間。負けたことが彼らの野球人生でプラスになれば、何かが変わってくれればと思って見てきましたが、選手はもう忘れたようです。何ひとつ変わった様子は見えません。やはり私とは育ちが違うようです。私は野球人生で負けた数は本当に少なく、特にアマチュアの時にはほぼ勝ってきたので、負けることは本当に嫌いです。負けると悔しくて悔しくて、腹が立って仕方ありません。

打たれることに慣れたピッチャー、エラーに慣れた野手、ヒットを打たないのが普通のバッター、盗塁を刺したこともない捕手、負け慣れたチーム、それを見ることに慣れた保護者。いらいらしたり、ピリピリしたり、バタバタしたりしない。どんな結果でもノホホンとのんびりムード。その程度でも段原クラブなのである程度は勝つことが出来ます。しかし先はありません。高校野球で良い思いをするのは難しいと思います。身の丈に応じたレベルの学校に行き、のんびり負け慣れた仲間と野球をすることになるのでしょう。

私は小・中学校生の時、同じチームに必ず自分が負けている選手がいました。最高学年になるまでに何とか追い越して「チームで1番になりたい」これをモチベーションに練習、試合をしていま

した。遠くの大きな目標、小さな近くの目標、どちらもはっきりとしたものを持ち、口に出し、自分にプレッシャーをかける。そうして力を付けました。前にも書いたことがあります、これから2年間は、段原クラブは苦しみます。

選手、保護者のみなさんは現実がよく見えていないようです。段原クラブは野球のクラブチームなので野球の技術を伸ばさなければ、存在価値がありません。負けるのは技術のない選手がいるからです。その選手が努力をしないのは、技術のある選手にとって迷惑です。

なぜ試合にまけるのか、みなさん良く考えて下さい。無責任な人は「全員のせいで負けた」などとくだらないことを言います。違います、必ず誰かのミスで負けます。ミスをする選手がいなければ負けることは無いのです。そのためにどうするのか。練習するしかありません。力の無い選手が練習しない、それでも試合に出せと言う。無責任です。本来、試合は上位9人しか出られないものです。それ以外の選手が出るのは温情です。勝負の世界の現実をしっかりと見据え、やるのかやらないのか、はっきりした方が段原クラブの全ての関係者のためです。

「あいつがミスをしたのなら納得」チーム全員がそう思う選手。そんな子を野球をしたら楽しいだろうと思います。

第259話/2017.06.12

全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会1回戦、松永ヤンキースに敗れました。全ては監督である私の責任です。最終回の裏の攻撃、同点に追い付き、まだ無死満塁、バッターは3番、私は勝ちを確信しました。変わった相手投手はストライクが入らず、押し出しでサヨナラになると思いましたが、油断！！タイムを取り、バッターのプレッシャーを取り除けるような一言をなぜ言わなかったのか、言えなかったのか。この2日間、そのことばかり考えています。

段原クラブ6回目の県大会も又、私の力不足で負けてしまいました。子ども達の努力を結果に繋げることが出来ず、申し訳ないと思っています。勝てるチャンスがあった試合を落としたのはとても残念ですが、見方を変えれば段原クラブは確実に成長しています。選手達はプレッシャーの中、半分の力も出せませんでした。チャンスは作れましたがタイムリーは出ず。クリーンアップはノーヒット。守備はエラー6個、相手はノーエラー。それでも最終回、本当にあと一步、いや半歩の所まで追い詰めることが出来ました。彼らの力はあるなものではありません。県内どのチームとも十分戦える力を付けてきたことは事実です。

これからは出来た事を自身に、出来なかった事を素直に反省し、もう一步高いレベルのチームになるため、練習しかありません。段原クラブが常々言っている、中学野球は通過点でしかありません。私がいつも言っている『たかが全軟』が終わったぐらいで下を向いている暇はありません。

そういう点で、負けた試合の後の過ごし方に不満があります。試合に出ていない下級生は勿論ですが、レギュラーの選手も『負けた瞬間から次の戦いは始まっている』ことが分かっていません。試合後、私は室内バッティング場（フルスイング塾）で1時間以上選手を待っていましたが、自主的に打ちに来た選手はひとりもいませんでした。余裕なのか諦めたのか、どちらですか？

私（段原クラブ）が目指しているチームは、私がベンチに座っているだけで何もしなくても広島県一になるチームです。そのために徹底して野球というスポーツを覚え、技術を高めます。夢のような話ですが、監督のサインや指示がなくても自分達で考え、野球の出来る選手。私が高校3年生の時の愛工大名電はそんなチームでした。サインが無くても愛知県一になりました。

段原クラブの選手はまだまだ頭の中が幼稚で、時間がかかります。それでも中学で出来なくても

常に考え、努力し続ける。野球が頭と足でやるスポーツだという事をしっかり理解し、練習して欲しいと思います。選手の皆さん、広島トップを走り続けている広島スターズ、松永ヤンキース、府中オーシャンズ、この3チームが基準です。あなた達はこの3チームでレギュラーになれますか？相手投手を打てますか？相手バッターを抑えられますか？出来なければ段原クラブで試合に出る資格はありません。段原クラブはそういうチームです。

グラウンドに選手がひとりでも来る限り、私の目指す野球（チーム）を諦めることはありません。厳しいと思うなら早く身を引くべきです。高校で野球を続け、良い結果が欲しいなら、今やるしかありません。十分な時間はあります。時間を大切にしたいです。高校に行った時に段原クラブでの時間がどれほど大きなものだったのか気が付いても遅いですよ。

第258話/2017.06.05

今年の段原クラブは2つの顔を持っています。ひとつは、エースがマウンドに上がりチーム全員が集中した時の強い段原クラブ。そうかと思えば、頼りない投手がマウンドに上がった時のチーム全体が自信無さそうにフワフワした弱い段原クラブ。

確かに野球の試合の勝敗は投手が握っています。それにしてもチームがこんなに変わってしまうものなのでしょうか。エースでない時には守備に必ずミスが出ます。チャンスで中心バッターが力を出せません。当然勝てる訳はありません。私には全く違うチームに映ります。

本来、チームは不安のある投手がマウンドに上がった場合、みんなの力で助けなければいけません。点を取り樂にさせる。守備で投手を助ける。勿論、捕手・内野手の言葉も必要です。

6月3日（土）、6月4日（日）の五日市少年野球シニアクラブ結成15周年記念大会も同じ結果になりました。2日目の準決勝はエースが先発し、チーム全体が集中し良い試合が出来ましたが、決勝で2年生バッテリーを試してみると、勿論バッテリーの力不足がありましたが、ライトゴロが出来ない、チャンスで中心バッターがストレートを打てない、先制点を取られるとずるずると抵抗する気もないような失礼な試合になりました。

確かに初回の5失点は大きいですが、段原クラブのバッティングなら返せない点ではないと思いました。問題は子ども達にその気が無かったということです。招待試合なので勝つ事にこだわる必要はありません。それは試合前、子ども達に話しました。しかし、県大会を前にして内容には少し不満が残ります。

人間の体は頭（脳）からの指令で動きます。思い（気持ち）が無ければ動かないということです。アマチュアではトーナメントで戦います。やり直しはありません。

広島スターズという広島トップのチームと対戦出来る貴重な機会を少し残念な時間にしてしまいました。責任は勿論2年生バッテリーの力を計り間違えた監督の私にあります。相手の監督さんには、試合後お詫びしましたが、相手の選手の皆さんにも申し訳ない事をしたと思っています。本当にすみませんでした。トップのチームと対戦する場合は、相応しい選手以外が試合に出ることは本当に失礼なことだと痛感しました。二度とこういう試合をしないように反省し、しっかり練習したいと思っています。

2日間、招待試合の運営をして頂いた五日市シニアの関係者の皆様、本当に有難うございました。良い結果と悪い結果の両方を経験出来た子ども達にとって自分を律するために貴重な大会になりました。

6月10日(土)県大会のグラウンドにチーム全員が笑顔で集合して下さい。勝てるのか負けるのか、試合の結果は分かりませんが、ひとりひとりが持っている力を一試合で全て出せるように私は全力を尽くしたいと思っています。

いつも言っていることですが『見ている人達の心を動かせる試合』をしてくれることを願います。

第257話/2017.05.29

広島六大学野球春季リーグの全日程が終了しました。段原クラブのOBが2人、ベストナインに選ばれているのが中国新聞に載っていました。私が常に言い続けている「中学野球で勝つためではなく、1日でも長く野球が出来るように技術を身に付ける」。今、大学で野球を続けているOBは10数名ですが、高校3年生の中には続ける思いのある選手が沢山います。良い結果が出ていない選手もいると思いますが、諦めることなく自分の技術を信じて下さい。私はいつまでもあなた達を応援しています。困ったら顔を見せて下さい、役に立てることがあると思います。

私はプロ野球の現役時代、心が弱く、自分の持てる力を全て出し切れずに終わった選手でした。読売ジャイアンツと一緒にやっていた岡崎、駒田、川相、村田、技術的に負けているとは思いませんでしたが、精神力が段違いでした。チームの中心(レギュラー)として結果を残していく選手は下を向きません。マイナス思考の考え方をしません。プライドと自信を持ってプレーします。私は自分の失敗(弱点)を理解し、勝負の世界で戦っていくために必要なものを子ども達に伝えています。もちろん、第一に技術です。しかし、それを常に発揮し続けるための体力と精神力が無ければ、せっかく身に付けた技術はゼロになってしまいます。厳しい言い方をします。澤村、池田、今のままでは練習しても無駄です。心が弱すぎます。はっきり言えば「変わるのか、やめるのか」ということです。「性格だからしょうがない」世の中にしょうがない事はありません。技術は簡単に身に付きません。しかし、自分の考え方は、必要だと思えばその瞬間に変えられます。今のままでは、チームの戦力になることは無理ですし、これから野球を続けても良いことは無いでしょう。君達の野球人生です。やるのか、やらないのか、君達の問題です。私の仕事は、心のある選手の力を伸ばし、高校に送り出すことです。

5月28日(日)とてもよい天気の中、良いグラウンド(三次市営球場)で2試合(甲奴中学校、三和クラブ)、練習試合をしました。不満だらけの内容でしたが、その不満のレベルが少し上がってきました。今までミスが出れば確実に負けていたチームが、少し余裕が出た(チームとしてひとつ上がった)ように見えました。少しずつ力は付いていますが、県大会で勝つためにはノーミスが必要です。選手ひとりひとりが個の力をアップ。残り2週間、言わなくてもやるはずです。相手の力が分からないので何とも言えませんが、試合になるところまでしっかりやっと思いいます。

5月27日(土)に1カ所バッティングで55人投げた張りが月曜日に出てきました。今回は足、腰、肩、肘、パンパンです。

第256話/2017.05.22

5月21日(日)初めて孫の運動会を見ました。たまたまグラウンドが15時半からしか使えなかったため、運良く見る事が出来ました。

ここの所、順位を付けたり、勝負に徹する事が悪いことのような風潮がある中、孫の小学校は1

年生から6年生まできちっと足の速さを競う競技があり、順位を付け、団体戦では同点なら決定戦をやり、両チームバンザイのようなつまらない終わり方をせず、勝ち負けをはっきりさせていました。個人としてもチームとしても勝つために全員が心をひとつにして全力で取り組んでいるのが良く伝わり、とても心地よい運動会でした。

現実には甘くなく、小学生といえど本当は競争社会であることを意識しているような、もちろん楽しい運動会ですが、その中に勝負の厳しさが見えました。勝ち負けをはっきりさせる、現実をしっかりと見せる、そのことにより自分自身の現在の力（立場）を知る。これがなければ努力のしようがありません。

野球のチームで言えば、今、自分はチームで何番目？何が足りない？何をしなければいけない？各自それぞれ違います。ひとりひとりが個人事業主です。個の力を付ける、伸ばす。中学生はこれに集中するべきだと思います。個の力が集まって、力を発揮出来れば試合は勝つものです。

若い指導者が2人、段原クラブの仲間に加わりました。ひとりには伸太郎コーチと同一年の瀬戸内高校OBの新庄君。息子と同一年なので彼のことは中学生の時から対戦相手として見ていました。体は小さいが、力のある素晴らしい左バッターでした。ファイターでもありました。強い気持ちを含めて、子ども達に伝えて欲しいと思います。もうひとりにはフルスイング塾の卒業生で島根県益田東高校OBの中島君。現役の大学生で子ども達の兄のような年齢です。真面目に野球に取り組む好青年。努力の大切さを良く分かっている人間です。二人とも段原クラブの大きな戦力になってくれると思います。

指導者の理論を統一して、よりきめ細かく、ひとりひとりを指導していくことが出来ると思います。短い練習時間で最大の効果を上げるためにより良い環境になったと思います。

運良く県大会で試合をするチャンスをもたらした今年のチームは、これを力に変えなければいけません。目標・目的がある練習が力を付けます。3週間、君達の野球人生で大きな時間になるかもしれません。どのように使うかは君達次第です。

フリーバッティングで1年生の打球が2年生に近付いてきました。どうする2年生！！奮起を期待します。

255話/2017.05.15

全日本少年軟式野球大会西部地区予選が終わりました。子ども達の頑張りや運で、何とか2位になり、県大会に出場出来ることになりました。

3月の抽選の日から約2カ月、ずっと広島スターズに勝つ為に何をしなければいけないか、どんな練習が必要なのか、どんな試合展開になるのかなど、申し訳ありませんが、他のチームの事は何も考えず、準決勝で広島スターズに勝つ、これだけを考えてきました。

そして私の中で出た結論は、勝てるとしたら四死球0、ノーエラー、守り勝つという事でした。野球選手は打つのが大好き、守備・走塁は？これが普通です。私もそうでした。チームの方針もバッティング練習優先、攻撃のサイン無し、スクイズ・エンドランはしない、打ち勝つ、今年も本体の練習は変えていません。

先日自分の両手をじっくり見てみました。左手の前腕が右手より太くなっていました。変わった事は個人ノックの数です。ピッチャーが打ちとった打球を確実にアウトにする、内野安打を無くす、スローイングミスをしていない。基本練習を繰り返したことで、新チームになって初の四死球なし、ノーエラーの試合をここ一番でやってくれました。

小学校で外野しか守ったことの無い不器用なエース、広島サンズ戦で私に罵声を浴びせられた子が、調子があまり良くない中で怯むことなく、逃げることなく、堂々とマウンドに立ち、背番号1を付ける選手に相応しいピッチングをしてくれました。

今年のチームは3年生が7人、レギュラー5人、気持ちが表に出ない3年生ばかりで、思い通りにならない試合が続いていました。

そんな中でも3年生は親子共々諦めることなく私に付いて来てくれました。初めてゴールデンウィーク休みなしで、下級生には少し大変だったと思います。しかし準決勝を見た下級生は練習の大きさ、重要さを経験出来たはずです。

トーナメントは必ずしも強いチームが勝つとは限りません。今回は審判の判定だったり運も味方したりしました。子ども達は安心することなく、県大会にではなく、高校野球そして夢に向けて努力し続けて欲しいと思います。

今回の大会だけでなく、いつも応援して頂いているOBの方々、保護者、コーチ（スタッフ）、そして子ども達、私はとても良い思いをさせてもらいました。本当に有難うございました。感謝します。ひとつ謝ります。

準決勝で全てを使い果たした子ども達を決勝で使うつもりはありませんでした。県大会の組み合わせを見て、2位だと第4試合目になりやりにくいという大人の都合で一度決めたメンバーを変え、準決勝のメンバーを決勝に使ってしまいました。完全に私のミスです。精一杯頑張った子ども達に無理な事を強いてしまいました。すみませんでした。負けは私の責任です。二度と子ども達の足を引っ張ることのないように、『チームは子ども達の為』、信念を曲げることなくやっていこうと思います。

もう一度、段原クラブの関係者、全ての方々に感謝致します。応援有難うございました。

子ども達、県大会ベンチ入り全てリセット、全員でまた競争です。

第254話/2017.05.08

5月4日（祝）新入生歓迎会をしました。本年度の新入部員は10人。私の理想は12人なので少し足りませんが、保護者、選手のモチベーションが高く、約1,2カ月でみるみる進歩していく姿を見てみると、これからがとても楽しみです。

入部して1年以上経って、体があまり変わっていない2年生の選手の皆さん、今のままで大丈夫ですか。4ヶ月後には文部科学大臣杯があります。今、私は3つ4つ1年生に一桁の背番号を取られる可能性があるように思っています。その時になって慌てても遅いですよ！！

下級生が上級生以上のモチベーションで突き上げる、私は大好きです。1年生の皆さん、どんどん上級生を脅かして下さい。

私は「厳しい」と言われます。私は小学校入学前から約50年、野球をやってきました。チームを手伝ってもらっている息子は、約30年やっています。息子に聞いたことはありませんが、二人とも野球人生に悔いを残しています。そして二人とも取り返しのつかない大きなミスをした事があります。レベルの低いチームでずっと野球を続けていくのなら、負けることは大した事ではなく、良くある事、日常です。小・中学生の野球程度なら、いくらでも大会（試合）があり、何度ミスをしてもしやり直せます。

しかし、上を目指せば目指すほど、レベルが上がれば上がるほど、一つのミスが命とりになります。プロ野球では職を失います。高校・大学・社会人では、そのチームに関わっているたくさんの

人達に迷惑をかけ、同級生の進路にまで関係してきます。試合に負けるのは必ず誰かが足を引っ張るからです。そのひとりに子ども達をしたくありません。私と同じ思いをさせたくないのです。

トーナメントは必ず負けます。例えば、全日本少年軟式野球大会は勝って終われるチームは全国で1チーム、高校野球も最後勝って卒業できるチームは4000校以上の中で1チームしかありません。全て負けてそのステージの野球人生は終わります。大事なのはどう負けるかです。

私はいつもその事を考えています。子ども達の中の誰かのせいで負ける試合はしない、ベストは監督のせいで負けることです。

そのために、何を言われようが、たとえ子ども達、保護者、その他いろいろな人達に嫌われようが、子ども達には厳しく接していきます。その中に当然、正しい理論と正しい練習がなければ話になりません。厳しい戦い（上に行けば行くほど）の中に「もういっちょ」はありません。

ゴールデンウィークはよく練習をしました。何故なのか、私の勝手な思いかもしれませんが、主力の子ども達がそれを望んでいると思ったからです。やらされる練習ではなく、自ら目標に向かって自らの意志でやる、伝わってくる1週間だったと思います。

5月13日（土）チーム全員が良い顔でグラウンドに立てれば、結果はそれほど重要ではなくなります。見ている人（応援をしてくれている人）達の心を動かせる野球をしたいものです。

第253話/2017.05.01

全日本少年軟式野球大会西部地区予選が始まりました。段原クラブは何とか勝つことが出来、5月13日（土）準決勝、予想通り広島スターズと対戦することが出来ます。前にも書いたことがあります、広島県でこのところずっとトップを走っている広島スターズと府中オーシャンズ、私はこの二つのチームと対戦するのを楽しみにしています。

子ども達がどの程度力を付けたか、何が足りないのか計ることが出来ます。負けても彼らにとって得るものがたくさんあります。自分より力のある選手と一緒に野球をするのが、上達するためには必要です。1日でも早くトップを見る、体験する、子ども達にはこの経験が生きます。レベルの低いチームで自分より力の無い選手と練習してもなかなか上達しません。自分の今を知るためにきちっと準備し、ぶつかって欲しいと思っています。楽しみです。

4月30日（日）の試合で、私は4番バッターを厳しく罵倒しました。試合に勝っても私の興味は個の力です。彼は本当によく練習をします。段原クラブで4番を打つのにふさわしい力を持っています。しかし、試合になると、練習で身に付けたスイングと違うスイングをします。段原クラブの中心打者とは、打てる、打てない、そんなことではありません。風格、打席でばたばたしている姿を見たくありません。堂々と「いらっしゃい」くらいの余裕を見せて欲しいのです。

もう一つの理由はこの選手は勉強が苦手です。これからの人生、野球を進学、就職の武器にする必要があります。選手の人生を考え、当然、要求は厳しいものになります。同じことをしても、私の選手に対する対応は、様々な理由でそれぞれ違ってきます。チーム内での立場だったり、夢や目標だったり、保護者の野球に対する考え方が違ったりするので、それが当然だと思えます。チームとして勝つことが大事なことだと思えますが、高校で勝負するのは個の力です。各自が各ポジションで広島一を目指す、それが自然とチームの勝ちにつながれば良いのです。

話は戻りますが、準決勝で広島スターズと対戦できるのはとても有り難いことです。ましてそれまでに10日間の時間もあります。ひとりひとりが同じポジションの選手に勝つ、そのために何をすべきなのか、本当に有り難い時間を貰いました。どう使うかは子ども達次第です。1,2年生

でレギュラーではない選手達も基準を見るチャンスです。1年後に自分がどこに立っているのか、考えて下さい。今からしっかりとイメージを描いて練習する必要があります。ちゃんと努力すれば、段原クラブでは確実に力が付きます。君達は恵まれた環境で野球が出来ていることを理解すべきです。

有意義な10日間にしましょう。

第252話/2017.04.24

全日本少年軟式野球大会西部地区予選前の最後の練習試合を4月23日(日)に行いました。チャンスは作るが1本出ない、守備のミスで点を取られる、毎度お馴染みの試合でした。送球ミスをした選手は、試合後同じ状況で送球練習をしましたが、100球以上投げてミスはゼロ。今年のチームは、守備もバッティングもバッテリーも、去年のチームと比べてそれほど力がないわけではありません。練習はしっかりしています。

では、なぜその力を試合で出すことが出来ないのか。自分の持っている技術を自分自身が信じていないからだと思います。昨秋に比べて確実に力を付けているのに、気が付いていません。そのため、試合に自信を持って臨むことが出来ないのだと思います。自身がないのでせっかく身に付けている能力を堂々と発揮できません。

正しい技術と考え方を正しい練習で身に付けているのが段原クラブです。それを試合で出せるか出せないのか、子ども達の考え方次第です。もっと子どもらしく感情を表に出して欲しいと思います。極端に言えば、一喜一憂するぐらいで構いません。悔しい、嬉しい、悲しい、楽しい、色々な感情が子ども達にはあるはずです。もっと分かりやすく、子どもは子どもらしく野球をすれば良いと思います。

今、高校野球春の県大会が行われています。ベスト4が決まりましたが、結果を見ると、どの試合もたくさんの点が入っています。春の甲子園もそうでしたが、投手のレベルが低いように思います。確かにバッティングの力は、私達の時代に比べれば格段に上がっています。それにしても点を取られすぎです。

ピッチャーを見ると、ストレート、カーブ、スライダー、チェンジアップ、ツーシーム、フォークなど色々な球種を投げます。しかし、投手として1番大事なアウトローのストレートがここ一番で投げられません。大量点はヒットを打たれただけでは取られません。四死球、エラー、長打などが絡み、ビクイニングになります。バッターが遠くに飛ばせないボール、打つのが1番難しいボール、これはいつの時代もアウトローのストレート。投手としての1番大事な原点能力です。

私が高校生の時には投球練習の90%は、アウトコース低めにストレートを投げる練習をしました。身に付ける技術には順番があると思います。バッティングも守備も同じです。ひとつずつ確実に基本から身に付ける。

上達(試合で結果を出す)の早道は原点能力を徹底的に高めることです。

第251話/2017.04.17

4月15日(土)、16日(日)の2日間、合宿をしました。保護者のお金と労力をかけた意味があったのか?答えはこれから出てくるでしょう。

大事なことは、お金と労力を彼らのために出してくれたことが当たり前ではなく、心から感謝しなければいけないことだと分かっていたか？その思いを胸に練習に打ち込めたか？これからの野球人生にプラスになる何かをつかめたか？そもそも一円も自分自身でお金を稼ぐことのない子ども達は、人のお金で野球をやるわけです。気を抜く、手を抜くはあり得ません。私の価値観で見ると、物足りない所だらけですが、今の段原クラブの選手達は「精一杯やりました」と言うのでしよう。

試合形式の練習では、アウトカウント・ボールカウントを間違える、状況判断をしない、配球を読まない、常に言い続けている段原クラブとしての決まり事をしないなど、相変わらずの集中力の無さ、脳の停止ぶりを見せてくれました。何度も同じことを言わなければいけない、それでも意識しない、やろうとしない。

なぜ？帰りのバスの中で考えました。私の中の結論は、信頼されていないということです。指導者（私）が子ども達に信頼・信用されていないのだと思います。この人の言うことは正しい、間違っていない。上達すると本当に思えば、簡単に忘れるはずはありません。必死で身に付けようとしています。結局、私の指導者としての器ということです。その程度なのでしょう。私の技術・考え方は、子ども達にとってどうしても必要なものではないようです。

グラウンド整備について私の考え方を書きます。小学校3年生ぐらいだったと思いますが、遠足できれいな川の流れている山に行きました。弁当を食べた後ゴミが少し落ちていて、担任の先生にものごく怒られました。「来た時よりも美しく」その通りです。今も常に頭にあります。

練習が終わりグラウンド整備のようなものをしていましたが、トンボでグラウンドに跡を付けるだけ。これは整備ではありません。私がこのグラウンドの管理人だったら、「二度と段原クラブには貸さない」そう思いました。グラウンドは平らに、水平に、足跡ひとつ無くす。「来た時よりも美しく」子ども達がやらないのなら、私がやるしかありません。責任者なので当然です。私がグラウンド整備をしたことを怒っているわけではありません。

育ちの違いを思い知らされ、悲しく思っています。小学生の時に野球（ソフトボール）と出会います。その最初が肝心です。大人が準備して試合・練習をさせて、終われば大人が片付ける。少し重い荷物は大人が運ぶ。本当にこれで良いのでしょうか。グラウンドに並んで頭を下げることより、しっかりグラウンド整備をする。どちらが大事なことなのでしょう。自分のために自分で使った物をきれいにする、ごくごく当たり前のこと。ましてや他人の物なのですから。貸して頂いた物なのです。

ユニフォームが汚れることもなく、集中しているわけでもないのに「全力です」。グラウンドに感謝の心も無く、合宿の意味も理解しない。自分達が野球をするためにどれだけの大人が協力しているのかも考えない。

価値観の違う人間が同じ方向を向くのは難しいようです。

第250話/2017.04.10

4月9日（日）東広島のアクアスタジアムで練習をしました。全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会の会場になる球場です。天気が心配でしたが、少し暑いぐらいで1日しっかり練習が出来ました。いつもと違う場所でいつもと違う気持ち（モチベーション）で子ども達が集中して練習してくれば、使用料が少々かかりましたが、私は意味のある1日になったと思っています。

今年のチームは秋からメンバーを固定出来ず、チームの方向が中々見えてきませんが、少しずつ

でも変わっていくことが出来れば、3年生にとって必ず次のステージが見えてくるはずです。はっきりとした目標を各自が持ち、それに向かって家族共々努力し続ける、これしかありません。指導者はその思い以上のことは出来ません。

私は全軟という大会が中学生にとって特別なものだとは思っていません。あくまで一つの通過点だと思っています。彼らの野球はもっともっと先にあるはずです。

そうは言っても、子ども達はひとつでも多く勝ってひとつでも上に上がりたいと思っています。そのためにチームとして指導者として全力で力を尽くさなければいけません。

4月15日(土)16日(日)3年ぶりに合宿をします。2日間どこまで変わるか分かりませんが、保護者に負担して頂くお金と労力以上のものが子ども達の力として身に付けられる合宿にしたいものです。その合宿が終われば全軟のメンバーが決まります。子ども達にとっても競争の2日間です。私に心がバシバシ伝わってくるような熱い練習になれば楽しいものになります。1,2,3年生33人で20人のベンチ入り、そして一桁のレギュラー番号を奪い合う合宿です。

身体はヘトヘトに疲れても心は満足感に満たされて、全員(選手、保護者、指導者)が良い顔でバスに乗れたら、チームは良い方向に向かっていけるように思います。

第249話/2017.04.03

段原クラブは今苦しんでいます。昨秋の新チームに変わってから、計算通りに進歩は中々しないにしてもほぼ変わってきません。

第一の理由は私の力不足です。野球というスポーツの原理原則を事あるごとに伝えているつもりですが、ほとんど伝わっていないように見えます。グラウンドだけでなく座学も入れて、相手のあるスポーツだという事を分かって欲しいと思うのですが、試合に出るか出ないか、ヒットを打つか打たないか、まだまだ頭の中はこの程度のようなようです。

二つ目は『チームとして勝ちたい』『野球はチームスポーツである』のに選手の向いている方向が東西南北、上下までバラバラです。当然、保護者は確実に学年の壁があり、学年の中でも？毎年ある程度は子ども達には力の差があり、仕方ない部分はありますが、熱いものは伝わってきません。

新3年生が7人なので、当然下級生の力を必要とします。一桁の背番号を付ける選手がいます。秋からレギュラーとして出ていた新2年生が今、全く戦力になりません。それだけではなくあそこが痛い、あそこが痒いと…。

何度も書いてきましたが、一桁の背番号を付けた瞬間から責任も一緒に背負います。出来なければ外すべきです。試合に負ける時は必ず誰かがチームの足を引っ張ります。今、それをカバー出来る選手がいません。レギュラーが控えより苦勞、努力するべきです。それは保護者も含めてです。

段原クラブのレギュラーとしての責任とプライド、それは当然、苦しさも伴うものです。スポーツを通じて何かを得ようとすれば、良いところ取りはありません。

私が諦めることはありませんが、同じミスを繰り返している選手にこれから何度もチャンスを与えるつもりはありません。負けるのなら、打たれるのなら、捕れないのなら、投げられないのなら、打てないのなら、走れないのなら、そして氣迫、心がないのなら、1年生が試合に出ても結果は同じです。上級生が試合に出る条件は、下級生より全てが上回っていなければいけません。私はこう思っています。

段原クラブで2年やってその程度ですか。その程度のモチベーションですか。私は今、大きな変

化を望んでいます。『チームのあり方』『メンバー、ポジション』今までは選手の希望をある程度聞いてきましたが、座して死を待つつもりはありません。

昨年の3年生のように3月31日、最後の練習まで諦めない。今年の私は今まで以上に嫌な奴になろうと思います。それがチームのためになると信じています。

チームはひとつです。グラウンドに立った瞬間から練習も試合も、選手も保護者も行動、言動は全てチームのため。また厳しい事を書いていると言われそうですが、小学生からプロ野球までチームが勝つための考え方は同じだと思います。

第248話/2017.03.27

3月16日(夜)全日本少年軟式野球大会西部地区予選の監督会議及び抽選がありました。県大会に出場するためには決勝に進まなければいけないので対戦相手はどこでも構いませんが、第4試合や第3試合だと開始時間が難しいので早い方が良いと思っていました。第1試合は分かりやすく有り難い抽選だったと思います。

それにしても良いのでしょうか。監督が出席していない。何故なのでしょう。県大会の監督会議では絶対に許されないはずですが。たかが西部地区予選ということなのでしょう。軟式野球連盟は細かい所まで色々なルールがあり、犯すとペナルティーを課す事があります。私はこの会議のルールを良く知りませんが、監督会議と案内されているので監督である私が毎年出席していますが、誰でも良いのでしょうか？良く分からない団体です。

その会議で1日2試合までという取り決めについての通達がありました。私の認識では、子ども達の体と健康を守るために1日2試合までというルールがあると思っていました。投手の投球回制限も含めて私は大賛成です。今までどこでもよくやっていた子ども達をA、B2チームに分けて2試合ずつするのがダメだそうです。何故？全く分からない。このルールそもそも何のために作られたのでしょうか。そこが分からなくなりました。子ども達の体を守るためではないのでしょうか。チームを分けて2試合ずつ、一人の選手は最大2試合しか出場しない。1チームで2試合出場するのと何が、どこが違うのでしょうか。理解することが出来ません。多分、全てのチームの関係者が理解出来ないはずですが。

大会名が違い、グラウンドが違えば2チームに分けて2試合OK。ますます分かりません。何が違うの？同じグラウンドだとインチキするチームがあるということですか。そんな指導者は追放すればいいだけの話です。指導者は子ども達のためにいます。子ども達の体や健康にマイナスになるようなことをする指導者は必要ありません。当然ペナルティーを与えるべきです。しかし、一人の選手が1日2試合しかベンチ入りしていないのなら、問題があるとは思えません。軟式野球連盟は理にかなった納得のいく説明をする責任があると思います。

私はまた嫌われることを承知で言わせて頂きます。連盟は加盟しているチームのためにあり、少年のチームは子ども達のためにあります。少子化の今、どのチームも選手集めには苦勞しています。高校野球も退部者を減らすため上下関係を無くしたり、1年生大会をしたり、Bチームの試合を組んだり努力しています。中学生のチームでもBチームの試合は大きなモチベーションの一つになっています。例えば自チームが大会を開催すれば保護者の協力が必要になります。そのためにも自分の子どもが試合にでるチャンスがあるかないかは大きなものです。2チーム出場できれば倍の子ども達がチャンスを得ることができ、チームにも子ども達も保護者も良い事ばかりです。練習では得られないプレッシャー、状況、沢山の事を試合は教えてくれます。技術が未熟な下級生にも大きな

経験になります。

スパイクの色を自由にしたり、使える背番号を増やしたりしても子ども達が軟式野球チームに入ってくるとは思えません。子ども達にチャンスを多く与える事が彼らのためになると思います。

ルールは必要です。しかし、そのルールは理にかなったものでなければいけません。

第247話/2017.03.21

とても疲れています。3月18日(土)神辺東ベースボールクラブの大会に行き、最低の内容の試合を見せられ、3月19日(日)は4月から高校3年生になるOBの保護者(通称くずレンジャー)が夜、店に押し掛けてきて午前2時まで酒を飲み、3月20日(祝)は3年生のお別れ試合とお別れ会で午前1時になり、3月21日(火)朝から体がだるく、眠たく、力が湧いてきません。

お酒を飲む時は、価値観が同じだったり信頼関係があったりすると、とてもいい時間を過ごせます。そういう意味では日曜日はいいい夜でした。『くずレンジャー5』と呼ばれている5人は、時々めっちゃくちゃなことをしますが、卒団してからもずっと買い物してくれ、段原クラブの行事には必ず差し入れをしてくれます。面と向かっては言いませんが「いつもありがとうございます」です。段原クラブにいる時から指導者として信じてもらっていることが伝わってきていました。子ども達も入部してきた時は全く野球が出来ませんでした。3年間で本当に上達しました。今、高校で少し苦労しているようですが、正しい技術をあなた達は知っています。しっかり貫いていけば納得の結果がついてくるはず。高校最後の夏に向けて、段原プライド!! 私は信じています。

卒業していく3年生12人、全員第一志望の高校に合格しました。クラブチームとして責任を果たせたと思っています。私は中学校のチーム選びは高校選びで、高校選びは大学選びだと思っています。そして中学校のクラブチームの仕事は、心と体を壊すことなく、彼らの希望する高校に入学出来るように成長させ、合格に導くことだと思っています。しかし、第一希望の高校に入学したからといって、これから彼らの野球人生はうまくいく保証はありません。スタートラインに立っただけです。私の経験から言えば、高校野球の練習が楽しかったことは1日でもありませんでした。段原クラブの練習とは違います。時間は長いし、内容は?自分でしっかり考え、正しい野球をして下さい。長く野球をするために大事な3年間です。

1, 2年生の皆さん、惨めなお別れ試合でした。技術が無いのは分かっていましたが、心まで無いとは。3年生に失礼な試合でした。3年生の保護者は怒り、嘆いていました。そして今年の段原クラブを心配していました。思いきった改革が必要なようです。ベンチに入る子、試合に出る子、どうなるのでしょうか。本格的に春になった時、メンバーがガラッと変わっているなんてことになるかもしれません。

私は休みの日にグラウンドに出て、嫌な思いはしたくありません。一緒に野球をやって楽しい選手、そんな子ども達を選びたいと思います。口だけで心の無い選手、自分のことだけ考えている選手、嫌いです。大人も一緒ですよ。野球はチームスポーツです。我が子だけをグラウンドで見ている、チームは成り立ちません。

1, 2年生の保護者の皆さん、もう少し視野が広がるといいですね。

第246話/2017.03.13

皆さん、日曜日のWBC オランダ戦を見ましたか。オランダのパワーとスピードに日本の技術と執念、そして集中力で戦いました。長い試合でしたが時間の経つのを忘れ、最後まで世界トップレベルの野球を楽しむことが出来ました。少しでも間違えると放り込まれるレベルの打者を相手に細心の注意を払いながら投げる投手、150km/hを超えるボールでも少しでも甘ければ簡単にヒットにしてしまうバッターに対して投げるのがどんなに大変なことか、画面からビシビシと伝わってきました。素人から見れば、1イニング抑えられないのかと思った人もいると思いますが、世界の一流はとんでもないレベルです。

その一流選手達が、目の前の一試合に勝つために全力でプレーする。内野手は当たり前に飛びつく、ベンチにいる選手も一丸となって大きな声を出す。国を背負ってプライドを胸に自分のためではなくチームのためにやる野球。私達が今やっているアマチュアの野球にとっても近いものがあるように思いました。世界のトップがここまで必死な姿勢を見せてくれています。選抜高校野球大会が近々始まりますが、技術のない高校生や中学生が手を抜いていいわけがありません。

私が目指している『見ている人の心を動かせるような野球』、まさにオランダと日本の選手達が見せてくれました。私は試合が終わった時、日本を応援していたので喜びましたが、オランダの選手にも感謝の気持ちが湧いてきました。心から両チームの選手に「本物の野球を見せてくれて有難うございました」と言いたいです。

皆さんにひとこと言っておきます。レギュラーシーズン143試合、全てこの集中力では出来ません。心と体が壊れます。短期決戦だから出来るのです。シーズン中にいつもこれを求めては選手がかわいそうです。

この試合で菊池選手のすごさを今まで以上に思い知りました。松井投手の股の間を抜けた打球を捕ってグラブトスでアウトにしたプレー、これは勿論スーパープレーです。感動しました。その後の彼の高ぶることのない態度、これもすごい。しかし、9回同点に追い付かれた、捕れなかった打球。菊池選手だからグローブに当てることが出来ただけで、本来なら普通のヒットです。しかし彼は「捕れた」と思っています。ピッチャーの則本選手に「すまん」という顔をしていました。これがすごい。プレーは勿論、考え方も心も本当に素晴らしい選手です。

中学生の皆さん、一流選手が本気で野球をやっています。この試合を見た人は何かを感じたはずですよ。今までのあなたで大丈夫ですか。1,2年生の皆さん、試合の後、室内でバッティング練習。頑張っているように見えます。2試合して、心・体ヘトヘトにならない余力がある。昨日の日本の選手に余力があるようには見えませんでした。あなた達はなぜ2時間、3時間、打てる力が残っているのでしょうか。昨年の秋、君達にコーチが言ったのはそういう事ではありませんか。まずグラウンドで全力を尽くす。『見ている人の心を動かす野球』3年生は夏に出来るようになりました。今年のチームはいつでしょう。

第245話/2017.03.06

3月4日(土)、5日(日)の2日間、理事長杯西部予選と山口ミラクルクラブの招待試合がありました。5日(日)には太田川リーグもあり3年生が出ました。A・B両チーム、3年生、それぞれ全員が試合経験を出来、意味のある2日間だったと思います。

Bチームの1年生は完全にパワー不足、スピード不足。走力、球速、スイングスピード、パワー全てがAチームで試合に出るレベルに足りません。Aチームは今、ポジションが4つ空いています。誰でも(新1年生でも)力さえあれば取ることが出来ます。各自が何を思い、何をするか、君達次

第です。

Aチームは何とか2試合勝ち、県大会に出場出来ますが、物足りない事だらけの試合でした。一番はつまらない守備のミス、送球ミス(ショート、ライト)、バッテリーミス(パスボール、配球)、守備位置のミス(予測)、全てレギュラーなら出来なければいけない初歩的なミスです。これが試合で出るようでは、広島県上位のチームに勝つことは出来ません。

次は平均的なストレートに遅れる。誰が見ても速い、変化球が良くてストレートに絞れない投手なら少しは理解出来ますが、ストレートを狙って平均的なスピードのストレートを捉まえることが出来ない。投手の手からボールが離れ、ストライク・ボールの判断をし、スイングをする。それでポイントから差し込まれる。能力の問題?技術?今まで何度も何度も言い続けています。ストレートに間に合わないは打てないと言う事です。投手に力負けがバッターとして一番の屈辱です。間に合わない理由を各自が考え、修正する必要があります。

考えられる原因は、・スイングスピードがない ・タイミングが立ち遅れている ・感覚がずれている ・振り出しに力が入る ・振り出しでグリップが下がる ・バットが体に巻きついていない ・ヘッドから動き出している、などがあります。選手それぞれ能力、感覚が違います。あなたの原因は何なのか。相手投手の一番速いストレートに遅れない。ヒットを打つ、打たないの話ではなく、振り遅れないがはじめの一步です。これからの野球人生、どのレベルに行ってもこの基本は同じです。まず考える、そして練習する。考えずバットを振っても意味はありません。

私は中学生の試合で良い結果を出すための方法を知っています。そしてどの程度の技術を身に付ければ良いのか。その選手がどのポジションで、チームに何人いれば広島県で勝てるのか知っています。今年のチームはまだまだ足りません。しかし諦めることはありません。昨年のチームも同じように春は平均的なチームでした。3年間の努力の積み重ねが、3年の春から夏までに目に見えて出てきます。本気で勝ちたいと思っている選手、保護者が何人いるか、そしてそれをやり続けられるのか。

『練習は嘘をつかない』とか『継続は力なり』は良く聞くありふれた言葉のようですが、私は野球を始めて50年、身を持って体験し、数多くの小学生からプロ野球選手まで見てきましたが、野球の世界で良い思いをするためにはこれしかないと実感しています。ただ正しい練習という言葉が前に付きます。『正しい練習は嘘をつかない』『正しい練習の継続は力なり』ここが大事です。

太田川リーグに行った3年生、間違っている技術は、今のうちに修正して高校に行きましょう。そのために遠慮なく私を利用して下さい。

今年は対外試合をせず2月いっぱい繰り返してきました。2試合目としてはまあまあなのかもしれません。3月から4月1週まで試合中心になります。これから身に付けた技術の応用編に入ります。

野球の試合は『予測と準備』まさに応用です。

第244話/2017.02.27

2月26日(日)今シーズン初めての対外試合をしました。今確かめたいのは、この冬ずっとやってきたバッターは正しく力強いスイングが投手相手に出来るか、投手はストライクゾーンに投げる確率が60%以上あるか、守備は投手が打ち取った打球を確実にアウトに出来るか、走塁は1本のヒットで2つの塁を進めるか、そして、ひとつのボールに全員が集中し、予測と準備に基づいた1歩目、1スイング目の切れがあるかでした。

投手は相手が格下だということもありプレッシャーもなく、2、3の無駄な四球がありました。ほぼ力通りのボールが投げられました。守備もエラーをするような打球もありませんでしたし、ランナーを置いたピンチもあまりなく、守備者としてプレッシャーがかからない中なのであまり参考になりませんが、スローイングは秋より安定してきたように思います。バッティングと走塁、これには不満だらけでした。まずバッティングです。3回目となり中心選手がやっと練習通りのスイングが出来ましたが、1、2打席目と中心以外の選手にはガッカリしました。スピードの無いストレートが捉えられない、イロハのイができません。何度も書いていますが、バッティングはまずストレートに間に合わなければ始まりません。ストレートに遅れる打者は、打席に入る資格がありません。野球は、バッティングも守備も走塁も全て間に合うかどうかを競っています。『間に合わない』は負けるといことです。中心の打者は逆に上半身の力に頼って、大きなスイングで引っかけた内野ゴロばかり。中心打者は考え方が、それ以外の打者は能力に問題があります。力の無い者は練習するしかありません。特に1年生「大丈夫ですか？」1年後、何人試合に出ているのでしょうか。

走塁は最低でした。初回に牽制アウト2個、一つ目はボールから目を切り、二つ目は2塁ランナー。私は2塁ランナーで牽制アウトになったことがありません。なぜアウトになるのか理解できません。当たり前のことを伝えているつもりですが、頭の能力にも個人差があり、分からない選手がいるようです。私には理解できないことですが、小学生のレベルまで下げて丁寧に指導する必要がある今年のチームにはありそうです。そのレベルなので当然1本のヒットで2つの塁を進めるはずがありません。打つことだけに一生懸命では、選手としてのレベルアップ、そしてチーム力のアップは望めません。特に走塁は調子の良し悪しはなく、身に付ければ大きな武器になります。スピードのない選手ほどしっかり走塁技術を磨かなければ試合出場のチャンスを逃します。

秋からずっと何があっても土・日練習後打ち続けている選手がいます。今その2人は本人が思っている以上の力を付けています。言う事が無いとは言いませんが、3年生の中心選手と変わらない技術とスピードがあります。練習は嘘をつきません。1日、2日やっても変わりませんが、正しいことを数多く、そして継続する。力が付くに決まっています。『チームのトップが一番努力する』チームが強くなるための一番の方法だと考えます。その姿を見て後に続く選手が1日も早く出てくることを望みます。新1年生にも負けられない選手がひとりいます。新2年生のお尻に火がつく日はそんなに遠くないと思います。気が付いた時、追い越されていた、ということにならないといいですね。

今年1年どこまで伸びていくのか。身体を守るために時々練習のセーブをすること、これが私の仕事になりそうです。努力を当たり前の顔をしてやっている選手と一緒にいる時間は、指導者としてとても“心地よい時間”です。“心地よい時間”のお礼として、私の技術、考え方、練習方法、多くの引き出しを開けますよ。

第243話/2017.02.19

1月と2月、沢山の子ども達が練習体験に来てくれました。ありがとうございます。いつ頃から体験というものが始まったのかよく覚えていませんが、チームや保護者が試されているようであまり心地よいものではありません。

まあ、体験してもらって段原クラブより野球が上達出来る練習をしているチームがあれば、クラブチームに入部するという事は野球がうまくなるための一番の目的なので、当然そのチー

ムに入るべきだと思います。しかし、チームを決める基準が野球以外の事にある話をよく聞きます。私には良く分からない話です。野球チームを選ぶのに野球以外の基準？

例えば、平日練習があることがネックになる。なぜ？まず、段原クラブでは全ての練習・試合が自由参加です。当然です。色々な中学校、色々な地域から子ども達は集まってきます。例えば八本松や郷原の子は来ることが出来ません。学校から帰るのが遅くなればこれも同じです。もちろん、気持ちが入らない、これも参加する必要はありません。練習とは、やる気と時間のある子どもが集まってするものです。強制するものではありません。しかし、高校・大学・社会人・プロ野球を見れば分かるように、週2日の練習では足りないのは明らかです。それで十分なら、高校も土・日の2日間しか練習しないはずですよ。どのチームもどの指導者も平日練習した方が良いのは分かっています。出来るか出来ないか、やるかやらないかの問題です。段原クラブの指導者は、子ども達のためになると信じているので時間を削ってやっています。子ども達の野球が上達するためです。なぜなら野球のクラブチームだからです。

保護者の当番、何度も書いてきましたが、段原クラブは一切ありません。それでも練習・試合に沢山の保護者が集まります。当たり前です。段原クラブの練習は、選手全員、平等にチャンスが与えられます。1年生も3年生もです。そして理にかなった練習をすれば上達していきます。それを見る保護者は楽しいから見に集まります。当番など決める必要はありません。選手も保護者も指導者も、グラウンドに集まりたい人が集まって練習する、試合をする、いやな者は来る必要がないのが段原クラブです。

野球のクラブチームなので、3年生が高校に入学するまで責任を持って指導します。当然、高校受験があります。これもほとんどの選手が9月に卒団してからも練習に参加しながら第一志望の高校に進学しています。

今、3年生のバッティングを見ると、卒団式から硬式竹バットに切り替え約4ヶ月、十分に振れるようになりました。段原クラブの正しい練習と正しい技術、そして彼らの3年間の努力で身に付けた質の良い打球、平日の基本練習の土台の上に積み上げた守備、これを見るだけでも段原クラブの体験に来る価値はあると思います。

1年生の時ほとんど勝つことのない子ども達が3年の夏には立派に勝負できるようになるのが段原クラブです。ただこれだけは付け加えます。あくまで努力した選手だけです。過去には自分の努力不足を棚に上げてチームや指導者のせいにしてしている選手・保護者もいました。まあ、これほどにでもいますよね。

今年の3年生はこれから1ヶ月まだうまくなります。なぜ？野球がうまくなりたいから、自分の意思でグラウンドに来て、良い顔で本当の練習をしています。とても楽しみです。

第242話/2017.02.13

普通=珍しくないこと、辞典にはこうのっていました。子ども達がよく使う言葉です。調子は？テスト出来た？などと聞くと、ほとんどの場合、この答えが返ってきます。「普通です。」私はこの言葉が好きではありません。平凡=ごくありふれているさま、これも同じような言葉です。これも好きではありません。

私は面と向かって言われたことはありませんが、又聞きで、変わっているとか、クセがあるとか、厳しいとか、恐いとか言われているそうです。当然です。普通（珍しくない）や平凡（ごくありふれている）な人間がプロ野球選手になれるわけがありません。他の人と違うから、変わっているか

ら簡単に入れられない世界の経験が出来たのです。「普通や平凡が安心」これでは勝負の世界で上には上がりません。人と違うことは悪いことではありません。みんなと同じ、その何が楽しいのでしょうか。私には分かりません。人と違うことをする勇気がなければ、特別な結果を得ることは出来ないと思っています。

『優しさ』って何なのでしょう。野球チームの指導者の場合、何が『優しさ』なのでしょう。例えば「怒らない」、「苦しい練習をさせない」、「3年生になった全員出す」、「厳しい言葉を使わない」、こんな感じだと優しい監督と呼ばれるのだろうか。

子どものスポーツの意味を考えた時に、私は心と身体を鍛えることにあると思っています。当然、中にはトップレベル（プロ）まで上がっていける選手もいます。しかし、ほとんどの場合はそこまでいきません。男の子は家から独立し、女性を見つけ家庭を築く力が必要です。その力（体力と精神力）を付けるため、スポーツは有効だと考えます。鍛える（厳しく訓練して能力を高める）ために。

本当の『優しさ』は「言わなければいけない事を言う」、「やらなければいけない練習はやらせる」、「競争の社会であることを教える」、そして確実に技術を向上させ、多くの失敗と多くの成功を経験させ、その理由を理解させる。そして身体を壊すことなく、次のステージに上げる。

最初に書いた『優しさ』は「甘さ」だと私は思います。子どもを甘やかした親は必ずそのつけを払うこととなります。私は子ども達に対する本当の『優しさ』とは彼らにとって厳しいものだと思っています。

そして男の子は母親をしっかり守る責任があります。今現実には、男性は女性より寿命が短いため、母親がひとりになる可能性が高いからです。母親を最後までしっかりと守りぬく、そのためにも社会を戦いぬいていくための体力と精神力を鍛えるのです。私は子ども達を甘やかすことはありません。それが『優しさ』だと信じているからです。ちなみに私は色々な事情で母と13歳違いなので、母より長く生きることが出来るか心配です。

今週は私の心が少し疲れているようです。野球チームの監督はグラウンドでやる気のある子ども達と思いきり野球がしたいものです。野球を教えることに集中できたら有り難いです。

第241話/2017.02.06

1月からずっと日曜日の天候がすぐれない。雪だったり、雨だったり、寒かったり。予定している練習が消化できず少しイライラしています。しかし、野球というスポーツは屋外で技術を競うものなので、雨や寒さには弱いものです。段原クラブだけではなく広島などのチームも同じような条件なので文句ばかり言っても始まりません。与えられた環境の中で最高の練習をしていくしかないと思っています。

幸い私が『広島フルスイング塾』というバッティング教室を持っているので、雪や雨の日はバッティングと筋力トレーニングはできます。チームを3組に分け、1組3時間、計9時間を超える練習時間になります。その後、自主練習で打つ選手もいるので1日11～12時間、私は室内練習場にいることとなります。昨日の2月5日（日）も、3年生の硬式から1、2年生（小6も含む）と3組、そして自主練習、約12時間バッティングを見ました。長くなっても頑張っている子どもを見るのは楽しいものです。

3年生は硬式を打ち始めて4ヶ月が過ぎ、バットの重さや硬球の恐さにも慣れ、思いついてバットが振れるようになってきました。残り2カ月、これからまだまだ伸びます。少し集中力を欠いた

練習をする選手がいますが、集中できない時は休む、気持ちの切り替えをはっきり、しっかりしてグラウンドに来て下さい。

1年生と2年生、1年生のスイングは本当に物足りません。まず振っている数が足りないため、スピードがありません。技術もあまりに未熟で、甘いボールを数多くミスショットします。やっていると思われる2、3人が頭2つ程出ていますが、他の選手は今のままで大丈夫ですか。新1年生であなた達の数倍振っている選手がいますよ。それでなくても16人います、レギュラーは9人、どう計算しても余ります。これから6ヶ月、何日練習できるか数えてみてください。のんびりしている時間はないと思うのですが。

2年生は確実に力を付けてきています。『継続は力なり』です。1年生とははっきりとした差がこの冬で付きました。しかしこれは振る力の話です。そのまま試合の結果として出るとは限りません。野球というスポーツの難しい所、特にバッティングの難しさは此処にあります。当然バットを振る力（スピード）はあった方が良いに決まっています。

しかし試合で良い結果を出すためにはこれだけでは駄目です。なぜか？相手がいるからです。ピッチャーの投げってくるボールに対応する能力が必要です。技術です。タイミングの取り方、ピッチャーの投げってくるボールは1球1球、全てが違います。タイミングもコースも、そして試合の状況も、色々なタイミング、コース、状況に対応する頭と体の柔らかさが求められます。ピッチャーがきっちり投げたボールは、バッターはなかなか打てません。バッターはピッチャーが投げそこなったボールをいかに確率良くヒットにするかが勝負です。1球を逃さない集中力、技術が必要です。

チームで1番スイングに力が無い選手でもきっちり打てば、ショート、セカンドの上を越します。要はこれを数多く打てば良いのです。自分は小さいから、細いから、力が弱いからと言い訳をしている選手の皆さん、違いますよ。あなた達は技術が無いからヒットが打てないのです。きちっと打てばヒットゾーンに飛ぶ打球を1球でも打てる力があればヒットは打てます。その確率を上げるために何をすれば良いのか、『数多く練習する』、誰でも分かる当たり前の事です。

また週末は寒い予報が出ています。今、プロ野球はキャンプの真最中、温かい気候と大きな室内練習場が羨ましく思います。

第240話/2017.01.30

いつもこれを書くのは月曜日の午後なのですが、今は1月29日（日）23時15分です。少し酔っています。なぜ今書いているのか。久しぶりに息子と酒を飲みました。チームの保護者や大勢の中で一緒に飲むことは年に何回かありますが、今日は少人数でした。本当に久しぶりに親子の時間を感じる事が出来ました。ある時期からお互いの考えがすれ違い、もどかしいというか、淋しいというか、何か引っかかるというか、言葉にするのが難しいような溝を感じていました。誘ってもらった保護者のおかげで親として良い時間を与えて頂きました。ありがとうございました。このページの主旨とは違い、独りよがりかもしれませんが、その流れというか、今の気持ちを書くのは難しいのですが、とにかくこの良い感じを書いておきたくてペンを執っています。

今週書こうと思っていたことに移ります。私は常々、他チームが練習前・後に選手全員がグラウンドに頭を下げていることや、監督、コーチに対して帽子をとり、直立し「ハイ」「ハイ」と大きな声で返事をしている姿を見るたびに違和感を感じていました。意味を全く理解することが出来ませんでした。もちろん段原クラブではしません。なぜしないのか。当然、練習試合で相手のグラウンドに行けば全員で頭を下げます。それはグラウンドに対してではなく、グラウンドを作って頂き、試合の

相手をしてくれる相手チームに対してです。グラウンドを作ってくれた人達、審判、大会なら世話をしてくる役員、頭を下げて感謝の意を伝えるのは当然です。しかし、グラウンドは人ではありません。物です。物に頭を下げるのなら、グローブ、バット、スパイク、ボール、学校、家、全ての物にする必要があります。それらは誰のおかげで使えているのか、親のおかげです。子ども達が一番感謝しなければならないのは両親です。物ではありません。そして一番必要ないのは、監督、コーチに対する絶対服従のような直立不動、帽子をとって指導を受ける姿勢です。

多くの指導者に嫌われることを承知で書きます。「あなたは何様ですか？」指導者は絶対ですか、全て正しいのですか。私は、指導者と選手は人として対等であるべきだと思っています。特に野球の技術に関して絶対はありません。指導者は絶対!!選手は「ハイ」しか言わない関係は、子ども達の考える能力を奪います。全てが正しいのなら全員良い結果が出るはずですが。結果が良ければ指導者の力、悪ければ選手の努力、能力が足りない、本当にそうでしょうか。選手の野球人生は本人が責任を持つものです。彼らのものです。そういう考えのもと、段原クラブはサインがありません。ポジションは自分で決めます。もちろんアドバイス、指導はします。しかし決めるのはあくまで本人です。

なぜこんな事を書いているのか。段原クラブはグラウンドに挨拶をしない、指導者の話を聞く時に帽子をとらない、礼儀やしつけが出来ていないのでは、そんな話を耳にしたからです。段原クラブの子ども達は、全員が野球を愛し、人に対し感謝する心もしっかり持っています。意味も分からず強制的に頭を下げさせられていないだけです。彼らが頭を下げるのは、下げるべき人、下げるべき時に心のある挨拶をしています。高校に行ってそういう部分で失礼なことをする選手はいません。子ども達が本当に感謝しなければいけないのは両親なのです。親に感謝出来ない子どもに強制的に頭を下げさせても意味の無いものだと、私は考えます。

他のチームの指導者のことは良く分かりませんが、私は子ども達に比べて少し野球が詳しいだけの大人なので、帽子をとって私の話を聞く必要はありません。『選手が自分の意見を言える関係』これが私の子ども達と接する時の考え方です。指導者が子ども達に教えているだけではなく、彼らから教えられることもたくさんあり、お互いに成長していくものだと考えています。段原クラブは3年生の最後が一番うまい。私も今が一番でありたいと思っています。

お酒が少し入っている中で書いたため長くなったようです。ちなみに、勝ち負けは野球の技術で決まりますし、ケガはオーバーワークと不注意です。グラウンドに神様はいません。

第239話/2017.01.23。

段原クラブに入部すると勉強がおろそかになるのではと体験に来た6年生の保護者が言っていたと耳にしました。本当にびっくりです。子どもの大事な進路を決めるにあたって何も調べないのですか。指導者は本当に野球の技術を教えられるのか?・部員数は　・練習グラウンドは　・チームの成績は　・卒団生の進路は。体験に来るのも良いですが、きちっと調べないで選ぶと、高校進学の際に後悔します。

段原クラブは野球がうまくて強ければ良いというチームではありません。現在、国公立大学に進んでいるOBが5人います（筑波大学2年生、愛媛大学2年生、大分大学1年生、兵庫県立大学2年生、島根大学1年生）。全員、中学3年間、高校3年間きちんと野球を続けました。そして今、高校生の中にも数人、国公立大学を目指し野球と勉強を両立させているOBがいます。過去には修道中学、城北中学の生徒もいました。そのあたりの事をしっかり調べることなくチームを選んで大

丈夫ですか。学業の成績はチームの問題ではなく本人の問題です。少なくとも段原クラブは第一志望の高校に90%以上進学していますし、大学進学率も高いです。

野球は先進国のスポーツで、予測と準備のスポーツです。頭を使うスポーツなのです。人間の体は神経、骨、筋肉の順で成長するそうです。そのためスポーツは出来るだけ早く始めるのが良いと言います。他のスポーツを見ると卓球、水泳、テニス、フィギュアスケート、ゴルフなどトップ選手は皆本当に小さい頃からやっています。

私も幼稚園の頃から実家の工場の草野球チームについていき、ずっと野球で遊んでもらっていました。私の息子も小学校に入る前から私と野球をやっていました。皆さんはいつ始めましたか。遅い選手は取り返すために人の何倍もやる必要があると思います。正しい事を数多くやる、うまくなるためにはこれしかありません。大事なのは正しい事（練習）です。

力（パワー）があった方が良いに決まっていますが、野球は技術の勝負です。正しい技術を正しい練習で身に付ける。『正しい技術』皆さん本当に分かっていますか？スポーツの技術・考え方は日々進歩しています。指導者が選手として経験した野球は時代遅れです。今の野球を教える必要があります。『今（現代）の野球』指導者は勉強が必要です。

第238話/2017.01.16

1月15日（日）大雪で体験会は出来ませんでした。ここまで降るとはびっくりしました。室内でバッティングだけは出来ましたが、今やっておきたい基本練習が出来ず残念です。バッティングには足の力が大切なので、ランニングは勿論ですが、守備練習で下半身の力とスピードをつけるために土の上で練習することが重要だと思います。自然に逆らっても勝てないので仕方ありませんが、寒い中での効率の良い練習は中々難しいです。これからの週末は何とか気温が10度以上になって欲しいと願います。

夕方、高校2年生のOBが店を訪ねて来て、スパイクとシューズを注文してくれました。卒業した後もずっと気にかけてくれるOBの選手、保護者には本当に感謝します。有難うございます。彼は今、故障から中々思い通りの結果が出ず、もがいているようです。「大学でも自分の力の限り野球を続けたい」と思いを話してくれました。そのために今そして卒業まで何をどんな思いでやらなければいけないのか、私なりの考えを伝えました。

人それぞれ色々な形の野球があります。諦めず、上を目指し努力し続けること、そのためにも正しい理論で正しい練習をするべきです。持って生まれた身体能力が違えば、選手としてのタイプが違ってきます。練習も違うはずですが、そんな話をし、帰る時には少し暗かった顔が明るくなったように感じました。中学生の時から努力を当たり前のようにやる選手でした。高校野球は思い通りにならない事が沢山あります。その中で、自分が正しいと思ったことを貫く事も素直に人の意見に耳を傾ける事もどちらも必要です。これからも私の引き出しが必要な時にはいつでも聞きに来て下さい。どんな時でも、どんな事でも、いつでも、いつまでも私は段原クラブOBと現役、全員の味方です。

『1日でも長く野球を続けて欲しい』今までもこれからも私はこの思いで子ども達と野球をやっていきます。そのために必要な原点能力。勝つためのテクニックではひとりになった時、勝負出来ません。長く続けるために、チームの勝利より個の能力を伸ばすことが大事だと思っています。試合で勝つ必要がないと言っているのではありません。負けるより勝った方が楽しいに決まっています。試合は全員で勝つために集中するのは当たり前です。ただ勝つための小細工（例えば、インコ

ースのボールをよけずに当たる、ベンチから大きな声で相手投手に圧力をかける、ランナーサードで叩きつけて1点取る)は必要ないと言っているだけです。こういう事は上のレベルで野球をするために必要ではないと思っているだけです。

勝つなら打って勝つ、ピッチャーが抑えて勝つ、守備がしっかり守って勝つ。相手のミスで勝つ野球は面白くありません。

口で言うほど簡単ではありませんが、思い続けて練習しているうち、3年生になると選手はたくましくなります。今年も新3年生がたくましくなるために厳しく接していきたいと思います。

第237話/2017.01.10

1月2日、恒例のOB戦を行いました。60人余りのOBとその保護者、現役の選手とその保護者、クラブ関係者、約200人が集まりました。天候に恵まれ、6チームで3試合しました。現在野球をやっているOB、仕事や大学で野球から離れたOB、それぞれの野球を見せてくれました。しかし、今年、私は心から楽しむことは出来ませんでした。

2000年から始まったOB戦も16回を数えます。そもそもなぜ始めたのか、私には二つの思いがありました。一つ目は、OBの子ども達と保護者の方々に会って、野球をし、酒を飲み、昔話をし、当時を思い出しお互いに感謝し、元気な姿を見て喜ぶこと。二つ目は、高校、大学、社会人の現役選手の足、肩、スイング、野球に取り組む姿勢の中学生とは違う圧倒的な力を見せてもらうこと。

数年前までは両方とも満足のいくものでしたが、ここ2年は二つともありません。特に高校生、大学生の技術、パワーの無さ、拳句に声も出さない試合を見ていると、ガッカリします。はっきり言って親のお金を使って野球をやっているのは無駄だと思います。今の取り組む姿勢、持っている技術では、とても良い結果を得ることは無理です。今年は特にひどい試合でした。高校、大学で本気でまともな練習をしているとはとても思えません。全員甘いと思います。プレーの内容が中学3年生の中心選手と変わらないようでは寂しい限りです。

今ずっと考えています。この内容とレベルなら、わざわざ1月2日の忙しい時に現役の保護者の手を煩わせてまでやる必要は無いのではないかと。

なぜ、高校、大学に行って上達しないのでしょうか。練習時間は長い、体はできる。なぜ？心の問題ですか。本気でやらないのなら、親のお金を使うのはやめましょう。アルバイトをして親を助けた方が良くと思います。

このところ、関東の大学（レベルの高い所）で勝負できるOBが出てこないのは、私が甘くなったからか、そもそも素材のある子が入ってこないのか、選手、親の考え方が甘いのか。色々原因があると思いますが、OBの野球のレベルが落ちていることだけは間違いありません。

せっかく段原クラブで正しい野球をやっていたのに忘れてしまうのはなぜなのでしょう。高校生、大学生が中学生の見本、手本にならないのはおかしな話ですね！私にはただただ淋しい話です。

第236話/2017.01.01

『監督のつぶやき？ぼやき！』を読んで下さっている段原クラブの関係者、選手、段原ファン及び鈴木ファンの皆様、そしてアンチ段原、鈴木の皆様、新年明けましておめでとうございます。

このページも6年、236話目です。色々な所、人に言いたい事を書いてきましたが、全ては子ども達の野球にマイナスになることは無くしたい。出来るだけ良い環境で「頑張っている子ども達が正しい野球を身に付けて長く野球を続けて欲しい」。そのために連盟も協会もチームもあるべきだし、指導者もいるべきだと思うからです。私はこれからも子ども達のために言わなければならないことは言い続けていきます。

新春第一弾は中体連（中学体育連盟）について驚くべきことを耳にしたのでその事を書きます。年末にラジオを聞いていると、女子が体育の時に履いていたブルマについて書かれている本の中で、中体連のことが出ました。中体連ができた理由、「スポーツの世界でスターを作らない」、びっくりしました。学校体育の中で素材、素質に恵まれた一部の選手を目立たせ、開花させるのではなく、学校の運動部全体をまとめるために中学体育連盟ができたと言うのです。

今まで色々疑問に思っていたことが納得できた気がしました。なぜ一度もそのスポーツを経験したことの無い教師が指導しているのか、その競技の名前がついた部なのにその技術指導が無いのか、高校、大学と先を見据えた大きなプレーをしないのか。一部の選手だけを大きく育てる指導をしてはいけないからです。

『平等』って何でしょう。私は全員に上達するための時間と場所がチーム内に同じだけある事だと思っています。そのため、段原クラブではレギュラーとそうでない選手のチームでの練習は同じです。同じ数を打ちますし、同じ数を捕ります。1, 2, 3年生同じになるように気を使っています。ただ、基本練習が必要な選手は別メニューでやることはあります。その方がその選手が上達するからです。同じ部費を払っている限り同じだけ練習をする、当たり前なことだと思います。その中で競争に勝った選手が試合に出ます。勝負の世界、これも当たり前のことです。

何度も書いてきましたが、今年、来年と段原クラブは苦しみます。これまでの歴史の中で、試合に勝つということだけをとれば難しい試合が多くなると思います。しかし、これも考え方ひとつです。今までにない経験を指導者としてできると思えば楽しみもあります。

新チームになりなかなか思い通りに伝わらない子ども達に、色々な引き出しを使い、様々な練習方法でどこまで変わることができるのか。段原クラブのチームとしての力が試される年と言えるかもしれません。

そのために指導者がまず現実を認め、考え方を統一し、ひとつにならなければいけません。会話を重ね、ひとりひとりの選手をレベルアップし、チームを上げる。保護者、選手、指導者、覚悟を決めてのぞむ2年間の始まりです。

第235話/2016.12.27

今シーズンの試合が終わって、新チームの課題がはっきり見えてきました。

『集中力』守備、走塁の1歩目のスタート。打席に入っていない時、守備でボールが飛んでこない時など、ほぼ睡眠状態だった頭の中を、試合中常に緊張し集中した状態にしておくこと。1試合終われば頭がぐったり疲れるように使う。今まであまりになめた試合を小学生から続けてきた子ども達、野球というスポーツは1球のミスも許されない競技だと知らずにやっていた選手には難しいことかもしれません。

野球はミスをするスポーツですが、ミスが少ないチームが勝ちます。センチメートルではなくミリメートルの勝負なのです。雑な子には向いていません。ミスを少なくする方法は、状況判断のものと予測と準備。そして、そのための集中力です。1球で打ちとる、甘いボールを打ち損じない、

走塁と守備のスタートも集中力です。

出来るまで言い続ける、練習し続けるしかありません。今までの段原クラブでは、練習は半日で十分という考え方でやってきましたが、今年の1,2年生はそれでは間に合いません。保護者にグラウンドがとれる時は、出来るだけ1日とってもらうようお願いしました。

身体能力に恵まれていない子ども達は、体の大きな強い力を持つ選手に勝つためには、頭を使い1歩早くスタートを切るしかありません。当然、体作りは野球をやっている間、やり続けなければいけません。チームの武器は何なのか。そして、ひとりひとり各自の武器は何なのか。一芸を身に付ける練習も必要だと思います。

先日、理事長杯予選が3月の第一土、日曜日だと聞きました。約3ヶ月、レギュラー番号を背中に付ける責任を背負える選手が何人出てくるのでしょうか？全ての結果はあなた達次第です。

上達するための方法は伝えてあります。素直にやった子ども達は成長し、高校できちんと野球を続けています。段原クラブの歴史が証明しています。

結果の良し悪しは色々あります。選手の評価は、入部して3年間の成長度です。自分が持って生まれた能力をどこまで伸ばすことが出来るのか、可能性は全員平等にあります。諦めない、もがき続けて下さい。私もとなりで一緒にもがきます。それが私の仕事だと思っています。

第234話/2016.12.19

段原クラブは中学生の軟式野球のクラブチームです。学校のクラブ活動との考え方の違いや私の指導者としての考え方を、今回は書きたいと思います。

学校のクラブ活動は、教育の一環としてスポーツなどに取り組むことにより、身体と精神力を鍛えたり、仲間との協調性を持ったり、勝利を目指す努力の大切さを学ぶなど、学校教育の中での野球です。

クラブチームはもちろん心と身体を鍛え成長することは当たり前ですが、次のステージ（高校野球）を目指すための場だと考えています。高校野球で、まずチームメイトとの勝負に勝ち、試合に出るために、個人の能力を付ける、伸ばす。これがクラブチームの使命だと考えています。

そのため、私は試合に勝つためのテクニックにはあまり興味がありません。野球の基本はバッター対ピッチャーの1対1の勝負の繰り返しだと考えています。それに勝てる選手になる、たくさん勝てばチームは自ずと勝つという事だと思っています。例えば、ランナーがチョロチョロしてバッテリを揺さぶる、ベンチやコーチャーが大きな声でピッチャーにプレッシャーをかけるなど、私から言わせれば力の無い者の姑息な手段を、子ども達にさせて欲しくありません。言い方を変えればバッターとピッチャーの対決を邪魔して欲しくないのです。

技術を伸ばす。その中には、バッティングだけでなくバントも盗塁（走塁）も守備もスローイングも状況判断も入ります。チーム力で勝つのではなく、個人の能力の集合体で試合をする。なぜなら高校に行けば、ひとりでチーム内で戦わなければならないからです。試合に勝つためのチンケな戦法やテクニックは、上のレベルで野球をするためには必要ありません。

何度も書いている原点能力が大事です。そして野球というスポーツの本質、理論に基づいた技術、これを子ども達に伝えるのがクラブチームの姿と考えています。『精神論より技術論』精神力が必要なのは、もちろん良く分かっていますし、経験もしています。しかし、結果が出ない事を心のせいにして逃げる指導者にはなりたくないと思っています。

新チームは、この冬もちろんバットをたくさん振ってもらいますが、守備、走塁の一步目のスピ

ードアップ、スローイングの安定、そして一番大事な集中力と状況判断、やることがたくさんあります。2年生7人、1年生16人で9つのポジションを取り合う中で、個人の能力がアップすることを望みます。

会得（身に付ける）に時間のかかる選手が多い新チームは、3年生より数多く練習するしかありません。グラウンド以外で何をやるのか。ランニング、素振り、ストレッチ、当たり前のことだけでなく、技術論について考えるなど、野球のことを考える時間を増やすことも必要だと思います。

秋、打てなかった、捕れなかった、投げられなかった現実を認める所から、やらなければいけないことが見えてきます。

第233話/2016.12.12

本年度の試合は11月26日（土）の山本浩二旗争奪野球大会で終わるつもりでしたが、新チームになってから私がほとんど試合を見ていなかったのも、今のチームに何が出来て、何が出来ないのか？それを知るために、12月11日（日）山口県の柳井中学校に試合をして頂きました。

私がイメージしていたよりも何も出来ませんでした。新チームになって約3ヶ月なので、出来ない事がたくさんあるのは当然です。それにしても想像以上に試合の中で何も出来ませんでした。正直「このチームは無理だな」と思いました。

バッティングでは、普通のストレートに振り遅れる。ストライクをとりにくるカーブを振れない。ランナーがいても進められない。投手にプレッシャーすらかけられない。これでは点をとれるはずがありません。

守備では、投手は無駄な四死球を出す。ワイルドピッチをする。長打を打たれる。捕手は各塁に正確で速いスローイングが出来ない。外野手はイージーフライを落球する。状況に応じた守備位置をとれない。

そして何よりも、野球選手としてダメなのは、全員がひとつのボールに集中していないことです。ランナーも守備者も一歩目のスタートが非常に遅い。『集中力』『一球にかける思い』そういうものが全く伝わってきません。ましてや守備の当事者以外は、それ以上にのんびりしています。試合中の緊張感、戦う姿勢というか、ピリピリしたのものがありません。ベンチにいる時や打球が飛んでこない時などは休憩しているように見えます。

この姿勢で試合をしているのですから何試合しても心、身体が疲れるはずがありません。一試合心を込めて、本気で集中して守るだけで、内野手や捕手はヘトヘトになります。投手は100球投げれば100回心を削ります。消耗しないのは手を抜いているからです。

どんな良い投手でも投げそこないます。中学生のレベルでは1打席に1、2球必ず打てるボールはきます。そのボールを見逃したり、打ち損じるのは、技術もあるでしょうが、集中力の無さが原因です。心を研ぎ澄まし、一球のボールに集中し、甘いボールを逃さない。1、2年生の試合には、野球というスポーツの恐さ、難しさ、一球のミスで勝敗が決まるという厳しさ、そういう緊張感が全くありません。何事も無かったように同じミスを繰り返し、自分のミスでチームの足を引っ張っているのに、反省し変わろうと努力しているようには見えません。

ただ声を出す、ただバッティング練習をする、それを努力とは言いません。それを一生懸命とは言いません。そして、試合が終わっても余力がたっぷり残っている君達は、全力を尽くしているとは言えません。体の力ではなく、心がヘトヘトになるぐらいの集中で試合に取り組まなければ、君達の野球人生は変わりません。小学生の時からやってきた、お互いミスを繰り返し、試合が終わっ

て勝っていたら全部OKのような野球は忘れてください。

野球は一球のミス（間違い）で勝負が決まる恐いスポーツです。一球も気を抜いて投げたり打ったりしてはいけないのです。練習から意識を変える必要があります。たくさん打てるから雑に打っていませんか？『走塁』『守備』をバッティング以上のモチベーションで取り組んでいますか？「もういっちょう」試合では、もういっちょうはありません。その時点で負けです。

1, 2年生の皆さん諦めますか、変わりますか。決めるのはあなた達です。

第232話/2016.12.05

12月3日（土）段原クラブの忘年会をしました。大勢の保護者の参加でとても盛り上がりました。2次会はそれぞれに分かれ、私は十数人の保護者とカラオケに行きました。2年生の保護者はここ2カ月程の溜まりに溜まったストレスを吐き出すように大爆発。楽しい時間を過ごしました。本来とても明るい性格の人達です。子ども達も本質は明るいはずです。スポーツは楽しむものですし、大好きで始めた野球を苦しそうにやるのは間違っています。

野球は修行ではなく、どこまで行っても明るいスポーツです。学校教育の中でスポーツが本来の楽しさを失っていったように思います。勝ったり負けたり、試合や練習の中でいろいろな場面があり、心が折れそうになることもあるでしょう。苦しいことを苦しそうにやるのと楽しそうにやるのは、どう考えても後者が良いに決まっています。

中学生はいくらでもやり直しができます。試合でうまくいかなければ、しっかり反省し考え、同じ失敗を繰り返さないように努力すればいいのです。

段原クラブのスタッフは良い結果を出す方法を知っています。4割、5割打つ方法を知っています。打たれない投手になる方法も、ゴロやフライの捕り方も知っています。素直に努力すれば結果はついてきます。信頼の中でしか本物は伝わらないと思っています。

3年生の進学先がほぼ決まりました。今、受験の不安と高校野球への期待とが入り混じった複雑な時期です。受験で人生は決まりません。自分の置かれた場所で精一杯やれば良いだけです。頑張っている人間を必ず誰かが見えています。見られているからやるのではなく、やっていたら見えています。

これから4ヶ月、もっともっとうまくなれます。ここからが段原クラブが他のチームと違う所『卒業する時が一番うまい』私は毎年そのつもりで3年生と接しています。特に年が明けてから本気でやりますよ。まず体作りです。故障しない柔らかで強い体を作りましょう。1, 2年生はスピード不足。この冬は厳しくなりそうです。

第231話/2016.11.28

11月26日（土）の山本浩二旗争奪野球大会をもって本年度の大会が終わりました。8月末の文部科学大臣杯から約3カ月、新チームはなかなか内容のある試合ができません。私は2試合程しか見ていないのですが、スコアブックやコーチから話を聞くと、入部の時から常に言い続けている「当たり前のことを当たり前にする」ができていないようです。

ピッチャーはストライクゾーンに投げる。ワンバウンドは投げない。野手はピッチャーが打ちとった打球を1つアウトにする。バッターはストレートに遅れない。バントはできて当たり前。もち

ろん「全力で走る。」「大きな声を出す。」「ベースカバーに入る。」誰でもできる3つを疎かにしては勝負以前の問題です。

27日(土)は雨でグラウンドが使えませんでした。良い機会なので、1,2年生、保護者に私の考え方、野球を長く続ける難しさ、夢と目標の持ち方、身体能力に恵まれていない選手の生きていく方法など話しをしました。確かにスポーツは体の大きさ、強さ、パワー、スピードが必要です。野球もプロで活躍するためには人並み外れた能力がなければいけません。しかし、中学・高校野球では、考え方、やり方次第でチームの役に立てる選手になれます。

全員が豪速球投手、ホームランバッターになる必要はありません。野球にはポジションが9つ、打順も9つあり、全て役割が違います。バッティング練習はどうしてもヒットを打つ、遠くに飛ばすためだけのスイングになりがちです。立場、役割によって練習の内容が違って当たり前です。アウトになる技術(バント、右打ち)もレギュラーなら身に付けるべきです。

口ではチームの役に立つ選手になりたいと言いますが、心の底では自分中心、力もないのに試合に出たい、ヒットを打ちたい、この2つぐらいしか考えていません。保護者も同様、一番の関心は我が子が出るか出ないか、チームの勝ち負けではないようです。

これから3ヶ月、チームは白紙になります。3月4日(土)、5日(日)山口ミラクルクラブ招待試合が平成29年度最初の試合です。その日まで全員で背番号を取り合います。「チームの役に立つ選手」それはどんな選手なのか、そのためにどんな練習をするのか、選手ひとりひとりが考え、行動しなければいけません。その競争の中でチームの力が上がります。

毎年そうですが、段原クラブの勝負は一冬越してからです。選手がひとりでも心を見せてくれれば、その子のためにチームを強くします。秋、当たり前前に試合に出ていた選手、特に1年生は、2年生との明らかな違いを見せなければ出る資格はありませんよ。

良い結果が出なければ、やり方を変えるか、選手を変えるか。どちらか一方なのか、両方なのか。楽しみです。

第230話/2016.11.21

11月19日(土)、11月20日(日)、第10回 府中オーシャンズ親善野球記念大会にA、B 2チームが参加しました。19日(土)は前夜からの雨が朝まで残り、オープン戦となりましたが、両チームとも2日間で4試合でき、とても良い遠征になりました。

1日目に久しぶりにAチームの試合を見ました。なるほど、勝てない理由が良く分かりました。最も大きなものは、選手達が自らの能力を信じていないことです。新チームになり約3カ月、試合も数多くこなし、努力もしています。自分達が思っている以上の力をつけています。確かに各自に足りない部分もたくさんありますが、持っている力を出せば、十分に勝負できるレベルにきています。保護者も含め、チーム全体でもう少し明るく試合をするべきです。おとなしい草食動物では勝負に勝てません。勝負の世界はギラギラした肉食動物の世界です。考え方が変われば個人もチームもレベルアップできます。

1日目の夕食後、公園で素振りをしました。主力の2人(佐々木、水元)が最後まで残り、お互いに「先には上がらない」と意識しながらバットを振っている姿を見て、今年のチームも必ず良いチームになると思いました。試合にたくさん出る選手が1番多くの練習をし、苦勞する。これが段原クラブの伝統です。そして、その年のチームは必ず良いチームになります。

2日目の2試合目、府中オーシャンズには勝てませんでした。今までと違った、戦う試合がで

きたようです。今年の試合も11月26日(土)の第6回山本浩二旗争奪中学生野球大会の準決勝、決勝が最後です。12月、1月、2月の3カ月、どんな練習をするのか、そしてどれだけ練習するのか。1、2年生の24人で9つのポジションを争います。Bチームの選手達、練習量も質もAチームに負けては、一生追いつけません。もうすぐ後輩が入部してきます。大丈夫ですか？

昨日、我が家に1通の喪中はがきが届きました。中学時代の野球部の恩師が亡くなった知らせでした。中学1年生の時、道はずれ、落ちていた私の家に来てくれ、「お前が必要だ、戻って来い。」この一言で私を救ってくれた恩人です。毎年、年賀状を見るたびに、直接お礼を言いに行かなければと思いながら、私の不義理で感謝の言葉言うことが、もうできなくなってしまいました。1日中、後悔の思いで苦しいです。父親、中学・高校の監督、私が今も野球が大好きで、今でもグラウンドでユニフォームを着ていられる幸せを作ってくれた3人がいなくなってしまいました。

もし次の世界があり、もし会える日が来るのなら、その時、背筋を伸ばして会えるように、野球の楽しさ、厳しさ、難しさ、そして素晴らしさを体の続く限り子ども達に伝え続けたいと思います。

山本先生、心から感謝しています。有難うございました。そして、申し訳ありませんでした。後悔。

第229話/2016.11.14

11月19日(土)、11月20日(日)の2日間、第10回 府中オーシャンズ親善野球記念大会があります。段原クラブは毎年必ず出場させていただいています。

私は福山で開催される瀬戸内大会と府中オーシャンズのこの大会がとても好きです。本当に良い大会だと思っています。

2日間で必ず4試合出来る。普段やることのない県外のチームも参加している。グラウンドが良い。運営はとても大変だと思いますが、参加する子ども達にとっては、この上ない大会だと思います。

今年は1、2年生の部員24人を12人ずつに分け、A、Bの2チームで参加します。1チーム12人で4試合、全員が十分な試合経験が出来ます。お金と時間と手間をかけて参加するに値する素晴らしい大会です。

子ども達には、大会を運営してくれる方、お金を出してくれる親、たくさんの人達に全力プレーで感謝の気持ちを表して欲しいと思います。

新チームになり、Aチームの試合はコーチに任せています。この大会も私はBチームを見ます。2か月間程、Aチームに対し、親も子もライバル意識を持つようにたきつけています。「1年生だから、体が小さいから、Bチームでしょうがない」、「来年、Aチームになれたらいいや」、これでは本人もチームも強くなりません。親も子も火花がバチバチ飛ぶような緊張感がチームには必要です。下からの突き上げ、気を抜いたらポジションを奪われる。少しでもAチームの選手にプレッシャーをかけられるように、Bチームの選手は頑張っています。両チームとも力をつけています。持っている力を思いきって全て出す：試合でやるのはこれだけで十分です。

今年、西部地区で開催された大会に参加するチームが減りました。参加料を払って1試合で負けたらサヨナラ。グラウンドにマウンドがない。大会が3日間にまたがる。これでは遠くからは来ないでしょう。子どもが参加する大会は2日間、1日目に必ず2試合出来る。私が市外の大会に出場するときの条件です。手間とお金をかけて、公式戦でもないのに1試合では、費用対効果が悪すぎます。

西部地区で開催される大会も、来年はしっかり考えないと先細りしていくと思います。いつも言

い続けていますが、大人の都合より子どものためを考えるべきです。開会式でマツダスタジアムを使用するより準決勝、決勝で使用するべきです。同じ高いお金（全チームの参加料）を使うのなら全チームに平等にチャンスがあるべきです。子ども達は、開会式をしたいのではなく試合がしたいのです。勝ち上がったチームが良い思いをするのが勝負事の鉄則です。

第228話/2016.11.07

私は三流のプロ野球選手でした。投手としてプロ入りし、1年目は2軍で9勝6敗4セーブ、勝ち星はリーグ3位、防御率は2.69。1年目としてはとても良い投手でした。2年目は1軍キャンプ、春のオープン戦で先発も経験しました。

そんな中での6月に野手転向、投手としての可能性がある中での転向なので、バッターとしての大きな期待があったのだと思います。私自身も打つ方に自信はありましたし、1年目は投げながら打率2割8分0厘ほど打っていました。十分に通用すると思っていました。

その思い通り、すぐに2軍ではチームの中心を打てるようになりましたが、なかなか1軍に上がれません。なぜなのか？武器がなかったからです。長打力？守備？足？どれをとっても全てそこそこで抜き出ているものがありません。もがきながらたどりついたものがホームランでした。「目立つ」それだけを考え、ホームランを狙うバッティングに変え、ひとつ武器を見つけたことにより、初めて1軍に上がることができました。

それが南海ホークスへのトレードにつながり、力を発揮するチャンスは増えましたが、つかめませんでした。原因は精神力の弱さです。高校生の時にはチャンスで打席に入ることが楽しくて嬉しくて。どんな投手も打てないと思ったことはありませんでした。常に上から目線、見下して打席に入っていました。それが年を重ねるごとにプレッシャーが増し、自信を失っていきました。特に1軍では出場したい気持ちと出てミスをしたらまた2軍に落とされるプレッシャーで、試合出場の喜びもなくなっていました。

良い結果が出るわけはありません。そんなことを繰り返し、10年（28歳）で現役生活を終えることになります。読売ジャイアンツ、南海ホークス、阪神タイガースの3球団でたくさんの選手を見てきました。一流の選手（10年以上レギュラーとして出続ける）にはかないませんが、技術的には勝負できたと思っています。しかし、野球は持っているものを試合で出せなければ何もないのと同じです。そういう意味で私は三流の選手にしかたれませんでした。

段原クラブは正しい技術を正しい練習で伝えています。そして子ども達は確実に身に付けていきます。3年生はもちろんのこと、2年生もこのところ、質の良い打球が打てるようになってきました。

段原クラブでの1年間は大きなものがあります。3年生と2年生、そして1年生は違います。自分がやってきた努力、そして身に付けた技術、自信と誇り、今年のテーマです。子ども達に私のような失敗をして欲しくありません。試合に出られる喜び、そして打てなくても、捕れなくても、打たれても、負けても、君達は野球人生のまだまだ途中です。中学野球なんて通過点です。全国大会に大した意味はありません。高校の甲子園も同じです。全て通過点に過ぎないのです。失敗しても君達に失うものはありません。

好きな野球。修行ではありません。好きなことは楽しくやるべきです。まず明るく元気に、顔から変えていきましょう。

第227話/2016.10.31

野球の試合では、誰もが出来る事とそうでない事があります。ヒットを打つとか、三振をとるなど、技術や精神力、そして運も必要な事があります。その中で、やろうと思えば今すぐ毎試合必ずでき、チームの役に立つ事があります。

段原クラブでは、入部したその日から何度も何度も言い続けています。今（新チーム）それが出来ません。「大きな声を出す！！（大きな、です）」「全力（全ての力）疾走する！！」「カバーに入る！！」、この3つです。本人がやろうと思うか思わないかだけで、体の大きさも力の強さも、バッティング技術も速いボールも何もいりません。思いだけで誰でもでき、チームの役に立つ。こんな簡単な事をなぜしないのでしょうか。それは思いがないからです。

人間の体は脳が支配しています。無意識で体が動く？それは努力に努力を重ね、何年もやり続けて初めて身に付き、考える前に体が反応するようになるのです。中学生ではそこまでいきません。常に頭で意識し続ける（思い続ける）事が必要です。気を抜くとは、思いが止まる事です。

勝負は勝ちと負けがあり勝った方が良いですし、勝つためにやらないのはルール違反になります。公認野球規則 1.05 <1.02> 「各チームは、相手チームより多くの得点を記録して、勝つことを目的とする。」と書いてあります。試合はチームが勝つためにやらなければなりません。個人成績（ヒットを打つ）のためにやることもルール違反なのです。勝つためにやらなければいけない試合で誰でも出来る、チームに役に立てる仕事をしない選手は、試合に出る資格がないということです。

言い続けている当たり前の事を当たり前にする。それをやろうともしない新チームは当然、良い結果を得る事はないということです。

「練習は個人のため、試合はチームのため」

3年生が続々と進学先を決めています。今年の3年生は向上心が強く、安全に試合に出られそうなチームでなく、今の力では少し厳しいなと思う学校を選ぶ子が多く、少し心配しています。

しかし、最後に決めるのは本人であり、決めたらやるだけです。これから4ヶ月、技術も体力もレベルアップし、スタートから勝負出来るように準備して下さい。自ら選んだ野球、そして段原クラブ、高校、言い訳はいりません。何をどうした方が良いのかは全員分かっているはずです。

段原クラブのスタッフは全員、心を込めて全力で取り組む選手と同じユニフォームを着てグラウンドに立ちたいと思っています。心が伝わらない時にはグラウンドに出ても、バットを振ってもそれは意味の無いものになります。言いたい事、分かりますよね。練習は数ではなく内容です。全力を出し尽さないと本物の力はつきません。

まず、自主練習する力が残らないぐらいの集中した練習、試合をするべきです。自主練習はそれをやった選手だけがするものです。

第226話/2016.10.24

10月22（土）、23日（日）の2日間、高校野球の指導に行ってきました。

普通の高校ですが、19人の部員で今秋の県大会で準優勝し、中国大会に出場します。どんな練習をするのか、どんな子ども達なのか、とても楽しみでした。

一日中練習をしないと聞いていましたが、中国大会の前なのでやるだろうと思っていたと、土曜日は雨が降っていた事もありますが、練習は本当にあっさり終わりました。自主練習をする選手も

数人いましたが、監督さんはほとんどみないそうです。

誰かが見ているからやる、見ていないからやらない、こういう選手が多いのは事実です。これでは上達しません。私も同じ考えです。練習は短く、自主練習で本当にやりたい練習をする時に上手くなる、疲れた体で技術は身に付かないと思っています。

2日間と短い時間でしたが、選手ひとりひとりに私の持っているものを全て伝えたい。しかし、大会前なので大きく変えるわけにはいかない。そんな中で、日曜日の練習試合で対戦相手の投手のレベルが低いとはいえ、2試合で36得点。私はそれまでのバッティングを知らないので比較は出来ませんが、子ども達の表情を見ていると、バッティングの楽しさを伝える事は出来たように思いました。

昼休みに気になった選手にティーを上げていた時、8人程の選手たちが自分にも教えて欲しいと室内に来た姿を見て、このチームが強くなるのは当たり前だと思いました。指導に行ったつもりでしたが、私の方が教えられた事が多く、中学から素材に恵まれた選手を集める事もない中で普通の県立高校が野球校に勝つ。

段原クラブも同じように出来る子どもを集めてはいません。短い練習時間など共通点が多く、トレーニングの考え方、子ども達への接し方、野球以外にしっかりやらなければいけない事など、私が監督さんから教えて頂いた事の方が多かったように思います。本当に意味のある2日間でした。

今回こういう機会を頂いた大浪さん、山内和宏さん、関係者の皆さんに心から感謝しています。そして選手達が中国大会で、持っている力を全て発揮できることを祈っています。

段原クラブの新チームは今、苦しんでいます。エースもポジションも固定出来ていない状況で良い結果がでないのは当たり前です。負ければ良いのです。その中から足りない事、出来ない事、やらなければいけない事を自分で見つけなければ、そして認めなければ変わりません。ひとりひとりが個々の能力を上げる、今はそれに集中する時です。チーム内でライバルを見つけ、火花を散らして競争して下さい。私は見えています。全員を見えています。変わるために練習があります。変わった姿を見せて下さい。子ども達が変わっていく姿を見ている時間が私は好きです。

第225話/2016.10.17

10月16日(日)広島県少年ソフトボール連盟の選手権大会に新入部員募集のチラシを配りに行きました。

久しぶりに小学生のソフトボールを見て驚いたことが二つありました。一つ目はピッチャーの投げ方です。ほとんどのピッチャーが飛んで1歩前から投げています。なぜこれが許されるのか。いつ、どんなきっかけで始まったのか。ルールが変わったのか。ルールブックにどのように書いてあるのか分かりませんが、どう書いてあろうと私には理解出来ません。「足を引きずっているからOK」とかいろいろ言い訳を重ねたとしても、全ての投手が飛んでいるのです。そして1歩前から投げています。いんちきです。ピッチャープレートは必要ありません。踏み出した足がサークルから出るなんて、どう考えてもおかしいです。陸上選手が3メートル程飛んで投げてもOKなのでしょう。協会はなぜこんないんちきを許すのでしょうか。試合に勝つためにルールの盲点をつくことができるなら何でもあり、間違っていると思います。子どものスポーツはあくまで通過点、正々堂々とやるべきです。少しでも前から投げたいのなら、ルールを変えてピッチャープレートを前にしたら良いのにはと思いますし、あくまで子どものスポーツはごまかすようないんちきまがいの事はやるべきではないと思います。ソフトボール協会の皆さん、しっかり考えてみてください。誰でも

分かる事です。

二つ目は、ほとんどのチームのユニフォームが変わっていた事です。なぜ変えるのでしょうか。理由が分かりません。チーム愛とか伝統とか繋いでいくものとか、そういう意識がないものだと思います。監督が変わる時にユニフォームを変える事が多いのでしょうか。しかし間違っています。チームは続きます。チームの長い歴史の中の一部を引き受けるにすぎません。その一部分のために自分の好きにして良いのでしょうか。高校野球では学校名が変わる時にユニフォームが変わることがあります。それでも私は少しじっくりきません。実は私の母校、愛工大名電も校名変更と同時にユニフォームが変わりました。OBの一人として寂しい思いをしています。チームの中で変わらないもの、OBがいくつになっても我がチームと思えるものを残していくべきだと私は思います。何百人と関わって続けてきたチームを数人の考えで変えるのはどうなのかと思いました。

またまたこんな事を書くソフトボールの関係者に嫌われるのでしょうかね。しかし何と言われようと私は子どものためにならない事とは戦いますし、OB全ての子ども達のためにチームは続けていくものだと思っています。

第224話/2016.10.11

10月9日(日)3年生の卒団試合と卒団式を行いました。毎年のことですが、入団から2年半あつという間です。これから高校入学までの6ヶ月、3年生が一番伸びる時です。プレッシャーから開放された子ども達は自分のために自分のやりたい練習を自らが考えてやります。そして下級生の指導もします。当然、力がつきます。卒団試合でも伸び伸び自分のスイングをし、新チームから15点を取りました。11日(祝)の練習も明るく大きな声が出て、大好きな野球を楽しんでいました。指導者として、厳しい中にもこの雰囲気練習に取り組める環境を1、2年生のときから作らなければいけない、修行でなくスポーツの練習をさせたいと思いました。

卒団試合を見ていて、新チームが心配になりました。文部科学大臣杯で広島スターズと競った試合をしたことで、少し全体が勘違いしているように思っていました。しかし、本当の力はありません。3年生と対戦すると全く試合になりません。卒団試合で一番気になったのは、格上に向かっていく、食らいついていく、そんな姿勢が全く見えなかったことでした。負けるのは当然です。しかし、腰を引いて逃げまくり怖がるバッテリー、バッティングからも守備からも闘志、闘う心が見られませんでした。力もなく心も無ければ結果は明らかです。力が無ければつけるしかありません。練習しかないのです。ひとりひとりが最低でも学年1、チーム1の練習をする、それがチームの力に変わります。有り難いことに練習をたくさんやり続け、結果を出した3年生が近くにいます。負けない努力をすればいいのです。

本気の子どもの私は付き合います。まず親が、そして子どもがあきらめないことです。言葉はいりません。体を動かすことです。これから春までの6ヶ月、1、2年生も3年生も野球人生の中で大切な6ヶ月です。どう使うかは君達次第です。

第223話/2016.10.03

10月2日(日)段原クラブ総会で保護者の役員が変わり、いよいよ本格的に新チームが始動しました。3年生は高校に向けて、1、2年生はチーム内の競争に勝つために努力していくことにな

ります。総会の席で1、2年生の保護者に話をしましたが、野球というスポーツは技術力の勝負をするものですが、最低限の体格と体力は必要です。1、2年生を見ると80%の選手が中学生の野球で勝負出来るレベルに体の力が達していません。来春に向けて一番の課題は体作りだと思います。

スピードとパワー、出来たら両方、少なくとも片方は手に入れなければ技術を発揮出来ません。特に1年生は、本来、小学校で身に付けておかなければいけない基本を全くやってないので、時間が必要になります。小学校の野球（ソフトボール）は試合を数多くこなすだけで、本来、下級生の時（試合に出る前）にやらなければいけない、基礎をおろそかにしているため、体の大きさ、強さで勝負がつくだけの野球になっています。その選手が年齢を重ね、体のメリットがなくなれば終わってしまいます。野球を長く続けるために、基礎、基本が一番必要です。

段原クラブでは、この部分に時間をかけて徹底することにより、3年生になってから実力が伸び、夏になれば勝負出来るチームになります。入部してきた子どもの素材の良し悪しでチームの成績が大きく上下するようであれば指導者は必要ないということになります。正しい練習を数多くやる（故障するほどではやっていけません）結果は出るものです。しかし、練習を何年も継続していくことは大変な事です。人はそんなに強くありません。心が負けそうになります。その時、保護者の協力が必要です。子供のために、時には鬼になり、時には仏様や天使のようになり支えなければいけません。ひとりの力で夢に向かって努力するよりは家族の力を結集した方が大きな力になります。厳しく、優しく親として出来ることをやらなければいけないこと、是非、彼らのためにお願いします。「親の思い以上に子どもはなりません」子ども達の成長のために、段原クラブスタッフ、保護者全員の力が必要です。また一年頑張りましょう。子ども達は結構いい思いさせてくれますよ。

第222話/2016.09.26

今、9月26日0時です。3年生の試合が25日（日）終わりました。最後の試合が雨のため抽選になり、最後に広島スターズに全力でぶつかって終わるという私の思いは少し残念な形になってしまいました。昨日の夜、布団の中で3年間のたくさんの出来事をひとつ、ひとつ思い出しながら、日曜日の試合の結果に全く興味が無くなっていきました。1年生のリーグ戦で広島レディースにエラーでやっと勝てたこと、カープジュニア（小学校6年生）に2試合連続完封負けしたこと、府中オーシャンズの招待試合で1年生のBチームは同じ1年生に2日間4試合1勝も出来なかったこと、文部科学大臣杯も全軟も段原クラブでは初めて1回戦で負けたこと、本当にまったく勝てなかった今年の3年生、そのチームが、あきらめず頑張り続け、努力し続け、チームスタッフたくさんの人達の協力を得て、最後の最後、勝負出来るチームになりました。前にも書きましたが、府中オーシャンズ、広島スターズに何度もぶつかり、はじき返され続けたことが、少しずつ子ども達の力になりました。この2チームには只々感謝です。自分達より上手い選手、強いチームにくらいつく、次こそはと練習する。指導者として子ども達の頂点を勝手に決めない。「もっと出来る」、「必ず出来るようになる」、今年はずっと言い続けました。今でもずっと段原クラブは1年生のリーグ戦でほとんど勝ったことがありません。それでも3年生の春にはある程度のチーム力になっていましたが、今年は思うようになりませんでした。時には聞くにたえないような言葉を子ども達に浴びせたこともありました。正しいかどうかといえば正しくないかもしれませんが。話を聞けば、何度もやめようと思った子が何人かいたそうです。最後まで本当にありがとうございました。9月に入り、堂々と段原クラブの試合を貫いてくれる選手、チームになってくれて感謝です。

これから君達は高校野球に向けて方向を変えます。ひたすら個人にレベルアップです。グラウンド

に立つ限り、全力で協力します。高校で野球をするために全員、足りないものが山のようにあります。私の持っている物、ひとつでも多く身に付け、頭に入れて卒業して下さい。これからの6ヶ月、一番上手くなれる時です。後輩に伝えることも大切な仕事です。これも君達の力になります。

最後の試合の夜は寂しい夜です。中々寝つけませんが、君達の努力のおかげでとても心地良い疲れを感じています。

島川、橋田、西、村田、大西、石田、長沖、目次、児玉、平見、浅井、山藤
ナイスゲーム ありがとう。

第221話/2016.09.20

9月17日(土)、18日(日)八幡大会がありました。例年この大会が3年生最後の試合でしたが、今年は9月25日(日)のリーグ決勝大会が卒団試合になります。18日(日)はあいにくの雨で試合が出来ませんでした。17日(土)には目標にしている広島スターズと対戦することができ、子ども達にとって意味のある1日になりました。今年は今まで一度も勝つ事が出来ませんでした。当然、見下されています。その為エースが投げてることはありませんでした。勝ちましたが不完全燃焼のかたちになりました。

段原クラブとして守備、走塁、バッティングでミスが多くあり、高校入学までにやらなければいけない事がたくさん見えました。しかしこの勝ちはこの対戦で広島スターズに火がついてくれば、とても価値のあるものになります。選手の成長のために、自分よりレベルの高い選手(チーム)との対戦が必要です。今年のチームは府中オーシャンズ、広島スターズという広島県2強と何度も対戦することができ、恵まれた年だったと思います。自分より上の選手がいることをしっかりと目でみ、感じ、身に染みることが大事です。その後の取り組む姿勢がこれからの野球人生を決めます。

19日(祝)の甲山ジャガーズの招待試合が雨で中止になり、新チームとしてはとても残念です。新チームもより強いチームと早いうちに対戦し、自分達の今の力を選手自身で知ることが必要です。それがこれから秋、冬の練習に大きく影響します。

段原クラブは1年生の時、ほとんど勝つことが出来ませんが3年生になれば勝負出きるように必ずなります。今年の3年生は大きな大会で中々持っている力を出せませんでした。先輩達に負けない力を身に付けています。努力もしています。残り2大会、自信を持って全ての技術を今までお世話になった保護者の前で披露して欲しいと思います。

勝ち負けはそれほど大事なことはありません。私は君達の努力を見てきました。それで十分です。

第220話/2016.09.13

広島カープが優勝しました。全国のカープファンは大喜びだと思います。嫌われることを承知で書きます。喜ぶのは結構ですが、なぜ25年も優勝することが出来なかったのか？なにが原因なのか？どこに問題があったのか？しっかりと検証する必要があると思います。お金の問題だけでしょうか？6チームでやっているペナントレースです計算が合いません。優勝を決めたジャイアンツ戦を見ていてカープが勝った理由もそうですが、ジャイアンツが勝てない理由がはっきりと判りました。プロスポーツ選手、アスリートです。私は下半身(足)が重要だと思っています。「全力疾走」

プロアスリートとして当たり前に出なければいけないこと、カープの選手は外国人選手を含め、全員が出来ています。ジャイアンツは情けない限り、全力で走ると故障する選手までいます。プロとして1年で大金を手に入れる選手がまともに走れない。厳しい言い方をすればお金を頂いてプレーを披露するレベルではないと思います。いくらバットを振ることが出来ても、あの走塁ではプロとしてどうなの？優勝出来なくて当然です。

段原クラブは9月11日（日）山本浩二旗に新チームA、Bに分けて2チーム参加し両方と勝ちました。私はBチームを担当しました。BチームとはAチームに選ばれなかった1年生です。勝敗は相手しだいですが、1週間前の大野シニア戦でエラーだらけだった選手達がエラー1つの1失点、この点だけ少し評価出来ます。基本の徹底と守備は足ということをしつ意識してくれるようになりました。試合に出るためにはまず守備です。打つ練習は楽しいです。しかしチームの為にはまず守備です。Aチームの選手に追いつけ追い越せ。チャンスはあります。練習あるのみです。

1年生のお母さん達に段原クラブとして当たり前のことを書きます。この試合が始まった時、ネット裏のテントの下に全員がいました。日焼けが嫌ならグラウンドに来なくて結構です。送り迎えのためだけなら、グラウンドに選手を降ろしたら帰って下さい。チームを応援する気のない保護者はグラウンドに必要ありません。次に相手のエラーで得点した時のはしゃぎっぷり、恥ずかしくないですか？段原クラブはランナーやコーチャーがサインを盗んだり、ピッチャーがセットポジションに入った時、ベンチやコーチャーボックスから大きな声を出して動揺を誘ったり、相手のミスに期待するようなバッティングをしたりして勝とうとは思っていません。正々堂々と、ピッチャーとバッターの1対1の勝負の中で練習で身に付けた技術と精神力で勝つことを目指しています。貴方達は小学校のチームでレベルの低い野球をやってきたので恥を知らないと思いますが、段原クラブは違います。相手のミスで大喜びするような選手・保護者にならないで下さい。私はプライドを持って段原クラブのユニフォームを着ています。

開会式で広島スターズの監督と話しました。今年のチームはまだ一度も勝っていません。ありがたいことに、あと3回対戦できるチャンスがありそうです。諦めません。最後まで全力でもがきます。広島スターズも全力できてくれると言ってくれました。何度かはね返されても格上のチームとやるのは選手にとって宝になります。今年のチームは恵まれています。チーム一丸、段原クラブは最後の試合が一番強い。

第219話/2016.09.05

今年の選手は平均以下の投手は本当に良く打ちます。前にも書いた通り、練習で身に付けた正しい技術があるので当然だと思います。しかし、少しレベルの高い投手（アウトコースにストレートが投げられる、変化球でいつでもストライクがとれる、スピードが少しある）になると中々持っている力を出せません。

なぜか？頭の問題だと思います。良い投手ほどしっかりとアウトコースに投げてきます。早いカウントから変化球でストライクをとりにつきます。そして追い込んだら自信のあるボールを持っています。では、良い投手を打つにはどうしたら良いか？まず追い込まれる前に勝負しなくてはなりません。1球目、2球目に集中する必要があります。アウトコースストレートか変化球、配球を読みます。そしてどちらのボールも引っ張りに入ると確率が下がります。意識はセンター返し。コンパクトなスイングで確率を上げます。ミスせず1球で打つ集中力が必要です。特に段原の中心打者に対してインコースのストレートを多投して勝負してくる投手はいません。本来、中心打者ほど配

給は読みやすいはずですが。私は高校時代4番を打っていました。甲子園に出るチームの4番、インコース、ストレートは投げてきません。変化球を待っていれば必ずきました。引っ張る意識を捨て、変化球を打つことで5割以上の打率を残せました。なにも考えなくても全てのボールに対応出来る技術があるのなら考える必要はありません。今の段原クラブにそのレベルのバッターはいません。0.250の技術で0.300を打つ。頭を使えば出来ます。これは何度も言っています。野球は頭と足でやるスポーツです。練習をして身に付けた技術を100%以上発揮するのか、半分しか出せないのか自分自身の考え方しだいです。中学レベルの投手を打つぐらい、そんな難しいことだと思いませんが・・・。正しい技術と正しい考え方、段原クラブは両方もしっかり伝えていきます。

試合に出ると良いこと、悪いことがあります。打てたり、打てなかったり、捕れたり、捕れなかったり、そして勝ったり、負けたり。自分のミスでチームが負けることもあります。厳しい言葉をぶつけられる事もあります。試合に出なければ良い思いをすることはありませんが、嫌な思いをすることもありません。出ればミスをし、苦しむことがある。出なければそんな思いをすることは無い。あなたはどちらを選びますか？

私はどちらでも構いません。自分で決めることです。苦しい道と楽な道、練習でも試合でも2通りあります。勉強も同じです。自分で選び、自分で責任をとる。私達指導者はあくまでもその思いのお手伝いをするだけです。思い通りにならない責任は全て自分自身にあります。

第218話/2016.08.29

8月27日(土)、28日(日)3年生は瀬戸内大会、1、2年生は文部科学大臣杯(全軟 春 予選)に出場しました。瀬戸内大会はAクラスで府中オーシャンズに、文部科学大臣杯は2回戦で広島スターズに敗れました。どちらも番付通り(実力通り)の結果だったと思います。段原クラブの選手がそれぞれのチームに入った場合、レギュラーで試合に出る事が出来るのは2人。7対2で試合をすれば結果は見えています。しかし、今までもずっと段原クラブは個々の身体能力は3対6、良くて4対5の中で戦って来ました。今年も勝負出来る2人以外の選手がもう少しづつ力を付けていけば、勝ち負けは判らないレベルになれると思っています。野球はチームスポーツだとよく言われます。確かにそうです。が、勝負の行方は投手が握っています。調子が最低の時で7回3失点が基準です。これ以下の投手ではトーナメントを勝ち上がることは不可能です。公式戦でマウンドに上がる資格は無いと思っています。野球はスピードだどつくづく思いました。投手のボール、走塁、野手の送球、スイング、全て早いほうが強いです。中心の2人以外は府中オーシャンズの選手に全てのスピードで完敗です。やっているつもりでしたが原点の原点、体作りをもっと真剣に取り組む必要をつくづく感じた1年でした。体作り(食事、睡眠、トレーニング)正しい技術もスピードがなければ試合の結果につながりません。

新チームはスタートしたばかり、ひとつの大会が終わり一区切りです。時間の無い中で良くやっただと思います。私の中ではチームは白紙です。来春に向けて1からポジションをじっくり考えたいと思っています。勝つためには投手を含めたディフェンス力、特に守備力のアップが必要です。点を取られるならヒットを打たれた時のみ、そんなチームにならなくては勝つ確率は上がりません。守備力と走塁にはスランプはありません。3年生は府中オーシャンズに完全に力負けしましたが、全員が今年一番の全力疾走を見せてくれました。「勝ちたい」「なんとかしたい」「諦めない」そんな気持ちはベンチの私に伝わってきました。続けて下さい。練習からやって下さい。どうやったら一泡吹かせられるか昨日からずっと考えています。結論は今まで以上に頭を使って練習するしかな

いということです。ちなみに文部科学大臣杯で負けた後、4人の1、2年が、福山から帰った後2人の3年生がフルスイング塾で打ちました。理屈ではなく、正しいかどうか、良いか悪いかそんなことはどうでもよくて、頑張っている選手と過ごす時間は良いものです。2日間の遠征で体はヘトヘトでした。決勝に負け、文部科学大臣杯も負けたと聞きましたが、心は6人の選手のお陰で前に向くことが出来ました。本気の選手がひとりでもいれば、その選手のために勝たなくてはなりません。そのためだけに本気でない選手にも教えなければいけません。監督とは厄介な仕事です。

3年生の皆さん、グラウンドに立っている限り私は貴方達を諦めることも、甘やかすこともありません。それが私の責任です。

第217話/2016.08.22

いよいよ、今週の土曜日から文部科学大臣杯（新人戦）です。今年は瀬戸内大会と重なるため、新チームは練習内容、練習試合、メンバー何から何までコーチに全て任せています。段原クラブは全ての指導者が同じ技術論、野球感で統一しているので何一つ不安はありません。今までにないとても良い環境で練習、試合をこなし準備をしてきた1、2年生は恵まれています。

「勝負」勝つか負けるかわかりません。そして必ず勝たなければいけない訳でもありません、が。自分達の置かれた環境をよく理解し、心を込めてプレーする責任はあります。試合はもちろんですが、その前に特に試合に出る選手はチームの誰より努力し万全の準備をする責任もあります。

いつも言っている通り、段原クラブの選手達は練習してきています。そのまま当たり前のことを当たり前にやれば、結果はついてきます。是非、自信に満ちた表情で堂々としたプレーを期待しています。これは段原クラブの子ども達全員に対する思いです。

夏の甲子園が終わりました。今年も一番正しい投げ方をした投手が勝ちました。アウトコース低めに正しいストレートをこころ一番で投げられる投手、そしてピンチの時、インコースを思い切ってしまう投手、私がいつも段原クラブのピッチャー達に要求していることです。

チーム力は投手力、広島代表は今年も投手だけが全国レベル、バッター達はほぼ勝負出来ませんでした。ずっと続いている広島県の打力の低迷はなぜなのでしょう？

小中学校の指導者の皆さんも考える必要があると思います。もちろん高校の指導者は甲子園に出るための野球ではなく、もう一ランク上の野球を考えるべきだと私は思います。木のバットを持って何も出来ない選手は野球選手ではありません。

第216話/2016.08.16

今年の段原クラブは弱い、本当にたくさん負ける。技術が無い訳ではありません。練習は間違っていないですし、努力している選手も多く、ほとんどの選手がしっかりと技術を身に付けています。ではなぜ勝てないのだろう。ずっと考えてきました。

1番は監督の力不足、そして今年の選手は良い家庭で優しい父母に大事に大事に育てられてきた優しく可愛い子。言い方を変えれば、動物園で生まれて育てられたライオンです。自分で獲物を捕らえることが出来ません。正しい練習をして正しい技術を伝えているので、普通に練習をすれば力は付きます。しかし、それを試合で出せるかどうかは別の話です。

つくづく思い知りました。私は子ども達に技術を伝えて上達させることは出来ます。しかし、生

まれて中学生になるまでの育ちを変えることは出来ません。指導者としての力不足を痛感しています。今までいろいろな方法で子ども達にチャレンジしていましたが、最後まで自信を持ってプレーする選手がいませんでした。私はプロ入りするまでずっとチームの中心選手でした。「勝ちたかったらランナーを置いて俺にまわせ」と常々口にする生意気な選手でした。高校3年で負けた2試合（甲子園と夏の決勝）は私がノーヒットだから負けました。勝っても負けても自分の責任。チームの先頭に立って風も雨の全部引き受ける、それが中心選手だと思っていました。

選手は横一列ではなく、縦一列に並ぶべきです。おててつないで横一列、くだらない運動会のようです。これから先、野球を続けていくのなら牙が必要です。これは他人に作ってもらうことは出来ません。自分で生やすしかないのです。試合は勝つか負けるか、大げさに言うと生きるか死ぬかの戦いです。戦いのための武器を持つためにお手伝いをしているだけです。それ以上のことが出来る指導者ではありません。

君達に変わりに試合で打つことも投げることも出来ません。戦うのはあなた達です。只々私の力不足、監督としての能力の無さを申し訳なく思っています。

オリンピックで金メダルを取った柔道の選手が言っていた「10分の1の力しか出せなくても勝てる練習をしてきた」ここまでやれたら良いですけど、難しいです。指導力が欲しいです。

第215話/2016.08.08

毎年、練習・応援Tシャツの背中という言葉は変わります。その年のチームに必要なこと、足りないこと、意識して欲しいことなどを考えて作ります。今年は誇りと自信、段原クラブの選手、保護者としての当然もって欲しいものです。大きな大会だったり、大事な場面、そして強い相手と戦う時に必ず必要となるものです。そしてそれがなければ勝つことは出来ません。

8月も半ば、3年生は残された大会はわずかです。最後まで私が望んでいた堂々とした戦いは出来そうにありません。完敗（手も足も出ないで負ける）しても、親子共々普段通りの生活、そして普段通りの練習、私の中には無い考え方です。負けてナイスゲームはありません。あったとしたら自分達を格下だと認めて戦った場合です。同級生と戦う学生野球、一生負け続けることになります。素材、素質、もちろん持って生まれたものがあります。そんな事はわかっています。

私は負けたことに腹を立てている訳ではありません。「こんちくしょう」、「くらいついてもなんとかする」、「次は絶対にいわしてやる」、「もっと練習しなくっちゃ」、「このままで終われるか」、こういうものが全く見えない3年生の親子に苛立っています。気持ちがないのなら後輩達にチャンスを譲るべきです。「誇りと自信」私と同じユニフォームを着て同じグラウンドに立つのなら持っていて当たり前のもので。野球は特別なものです。片手間でやられたら許しません。自信がなければ練習するしかないのです。自信も無いのに練習しないのは諦めです。諦めたらユニフォームを脱ぐべきです。諦めの悪いやつ、最後の最後まであがくやつ、そんな選手とこれからの残り少ない試合をやっていこうと思っています。言いたいことは山ほどありますが、これ以上書くと段原クラブのイメージが悪くなるので止めます。

第214話/2016.08.01

7月31日（日）県知事杯がありました。段原クラブと広島グリーンファイターズが中心になり

準備、運営する大会の1日目が無事終わり一安心しています。このところ、西部で開催する大会にチームが集まりにくくなっています。何が問題なのか？関係者で話をする必要がありますと思います。折角の1日が1試合では大事な1日をもったいない。子ども達の為にやるのなら勝っても負けても2試合出来るシステムを作るべきだと思います。

今は3年生が出られる大会がまだ数大会ある中で文部科学大臣杯（2、1年生の大会）まで1ヶ月を切っているというチームとしては難しい時です。段原クラブでははっきりと分けて新チームにも試合経験させています。今までと違う方法をとりました。これからも約6試合予定しているため下級生にとっては文部科学大臣杯に臨むにあたって恵まれた環境にあると言えます。試合の勝ち負けは別にして、これを有り難い事と捉え、心を込めて全力で取り組むべきです。それは保護者も同じです。

昨年、私がベンチにいる事により子ども達のプレッシャーになり力を100%発揮できないのではという考え方がありました。私はその程度の心では高校野球は出来ないと思っていますが、現実にはそんな選手がいるようです。今年の3年生を見ても少しそのように感じています。

段原クラブは正しい練習で正しい技術を伝えているので子ども達は3年生になるとレベルの高いものを身に付けています。しかし試合では私の思っているレベルの力が中々出ていません。今年の選手達はこんなものではありません。全員とは言いませんが、練習量と質に裏打ちされた力があります。私が見ていて今年、打てそうにない投手は見当たりませんが、中々思い通りにいかないのはやはり私のプレッシャーが原因なのではないでしょうか？私はプロ野球選手になり、1軍の打席に入るまで打席でプレッシャーを感じた事がないので良く判りません。まして自分のチャンスは相手のピンチ、なぜプレッシャーがかかるのか理屈でもおかしい話です。打つことが楽しいはずの野球です。打席が楽しめないのなら野球をする意味がありません。考え方ひとつで変えられると思うのですが。

試合の中であるチームのコーチが、足元にきた打球を避けた時にももの凄く大きな声で「避けるな当たれ」のようなことを言いました。私はものすごく悲しくなりました。「まだいるんだ」いつまで子ども達の足を引っ張る大人が野球にたずさわるのでしょう。上から叩いてゴロを打てと言ったり、なぜ野球の技術を伸ばして上げないのですか？バッターボックスにはヒットを打つために入ります。その為にはボール球を打ってはいけません。四死球をとるためにではありません。ヒットを打てるようにならなければ上で野球が出来ません。今、勝つことではないのです。ましてやルールブックに避けなければいけないと書いてあります。スポーツはルールに基づいてやるものです。指導者がそれを欺こうとすることは絶対にあってははいけません。

何度も言っていますが、広島の高校野球のレベル、特にバットを振るレベルの低さ、甲子園を見ればわかるはずです。

本当に今のままで良いのですか？中学生の野球にも責任があると思います。子どもの素材の違いと言い訳をするのはやめませんか？段原クラブは体が小さくてもずっとバットを振り続けます。私はそれが子ども達のためになると信じているからです。

第213話/2016.07.25

7月23日（土）、24日（日）岡山のオール笠岡ドリームスの招待試合に行ってきました。2日間で4試合2勝1敗1分、1番、3番バッターを欠き文部科学大臣杯のために2年生を試したりしながら、勝敗はまずまずです。しかし内容はボロボロでした。良かったのはエースのみ、後の選手は誰一人納得できていないはずです。日刊大会の時、守備のミスと四死球が減ったことにより、

良い試合が出来るようになったと書きました。私は少しずつ力が付いてきたと思っていました。勘違いでした。少しのプレッシャーだったり、集中力が切れたりしただけでエラー、エラー、エラー。私がもし投げているらグローブを叩きつけて「ふざげるな！！」と大声を出していたと思います。「バッティング練習は自分のため」「守備練習はチームのため」私はそうと思っています。段原クラブの選手は自分がヒットを打つことにとても興味があります。私もバッティング練習が好きなので打つことを中心にやっています。しかし勝つためには守ることが絶対に必要です。チームの役に立てなくても迷惑を掛けない。「チームのために」「勝つために」の練習はどのぐらいやっていますか？守備は出来て当たり前、ピッチャーが打ち取った打球を処理するだけです。そして送球、これも出来て当たり前、送球ミスは確実に失点につながります。今年何度もここに書いている「当たりのことを当たりにやる」これが出来なければチームが勝つことはありません。

今やっている高校野球も同じです。今年も守れるチームが勝ちあがりました。当然、守備練習をたくさんやった方が勝てるのはわかっています。50年野球をやってきたのですから、特に下のレベル程、勝つために守備でも私は嫌いです。打つ練習が面白いし、上のレベルでやるためにバットが振れることが必要だと思っています。今年の広島代表も今の野球で甲子園に出る確率は高いと思います。しかし、甲子園で勝ち上がるのは難しいと思います。守れるのは当たり前。その上でバットが振れなければ魅力がありません。私はそんなチームで野球をやりたいと思って毎年努力しています。そのために小学生の指導者の皆さん、守備、キャッチボールの基本ぐらい出来るようにして下さい。中学生になって本当に一からボールを初めて持つ子のように指導しなければいけないのはとても悲しいことだと思います。

段原クラブはサイン無し、子ども達の力と技術と頭で広島県N o 1になるという目標を掲げています。今年のように三塁ランナーを打って返すことがあまりにも出来ないとスクイズやヒットエンドランが勝つためには必要かなと少し頭をよぎりましたが、打って返せるように今まで以上に練習します。少しでもそんなことを考えてしまったことを反省しています。守備も打撃も走塁も練習する以外上達する方法はありません。上手いかなければ量を増やすか、方法を変える。これしかないのです。今以上に子ども達のためになる方法があるはずです。私が一番チームで考える立場にあります。3年生12人、残り2ヶ月私は手を抜きませんよ、言い訳、妥協一切無しです。1、2年生も同じく厳しくなります。やめるなら今のうちですよ。

しかし言っていること、無茶苦茶ですね。勝つために守備が大事、守備練習をたくさんした方が良い、でもバッティング練習が好き、監督がダメですね。

第212話/2016.07.19

7月16日(土)日刊大会の準決勝・決勝があり、結果は2位、番付通り広島スターズに勝つことは出来ませんでした。失点は守備のミスと死球、準決勝までケア出来ていたことが原因で敗戦、まだまだ力不足です。7月18日(祝)しまなみ予選、2回戦で五日市観音に負けました。この結果は正直まったく予想していませんでした。驕り、勘違い、私を含め選手、保護者全員が少し勝てるようになったことで、今までのひた向きさが無くなっていました。全軟の1回戦敗戦から「当たりのことを当たりに！！」、「力が無ければ練習するしかない」、「集中して自分達の力を出せば戦える」を常に頭に入れて子ども達は努力してきました(全員ではないですけど)。少し勝ったことでうすくなりました。そもそも1年生の時、カープジュニアに2試合連続の完封負けをしたチームです。少しでも気を抜く、手を抜けばこの結果は当たり前です。試合後、私は今まで思っていた

ことを半分ほど子ども達、保護者にぶつけました。全部言ってしまうと1日もかかってしまうので少し遠慮しましたが、言ってスッキリしました。今、私は負けて良かったと思っています。自分の力の無さ、技術の無さを認めなければ変わりません。自信がなければ自信がつくまで練習するしかありません。自信がなく、不安を抱えている選手がグラウンドの立つことはチームに迷惑を掛けます。胸を張ってグラウンド（打席）に立てるまでバットを振り続けるしかないのです。その為に私を利用すればいいのです。試合の前や打てなかった日、誰でも練習します。しかし本物の努力は毎日し続けることです。頂点（これで打てる）はありません。バッティングに絶対はないのです。本来、どんな選手も不安と戦い、それを消すためバットを振ります。不安がない選手は本気で野球を考えたことがないが、頭がないかです。

15人の選手の中で本気で練習したいと思っていた選手、みんながするみたいだからマズイと思っていた選手、両方いたと思いますが、渚崎グラウンドで約2時間バッティングをしました。私の考え方を打つ前に伝え、打ってみました。その後、6人の選手がまだ打ちたいというので9時半までフルスイング塾で打ちました。1日やっただけで簡単に結果が出るものではありませんが、やらなければ絶対に結果は出ません。私の体は朝6時半から9時半までユニフォームを15時間着ていたことでボロボロになりましたが、心はとても晴れやかで充実感で一杯でした。

自分からやった練習とやらされた練習、15人の中でどうだったかは私にはわかりません。しかし確実に何人かはきっかけを掴んだはずです。何かを手に入れそうな時の練習は楽しいものです。その時に指導者、保護者は邪魔をしてはいけません。そんな練習が私は好きです。練習し続ける子（選手）のために私はいます。

第211話/2016.07.12

7月9日（土）、10日（日）に日刊大会1回戦とチェーンリーグがありました。段原クラブは何とか苦しみながらも準決勝に進むことが出来ました。今回の3試合は相手の投手のレベルが中から上程度、このぐらいのレベルになると下位のバッターでは打つことが出来ません。6番から後ろのバッターは何も出来ませんでした。ヒットは打てなくても相手の投手に出来るだけ数多くのボールを投げさせるとか、ランナーがいれば進める事ぐらいはしてもらわないと試合に出る資格はありません。チームの役に立てる仕事出来るように練習して欲しいと思います。

何とか勝ち上がることができたのは、ピッチャーの無駄な四球がなかったとは言えませんが、今までより少なかったこと、エラーが3試合でひとつだったこと、その結果失点が2点に抑えられたからです。今まで四球やワイルドピッチ、エラーなどでヒットの倍の点を取られる試合が多かったのですが、いつも言っている通り、当たり前のことが出来れば試合になるということです。

結果的にはベスト4に残りましたが、不満は数多くあります。

- ・ ヒットを後ろに逸らす外野手
- ・ 送りバントが1球目で出来ない
- ・ ランナーに出てもバッテリーにプレッシャーすらかけられない
- ・ チャンスで中心打者がストレートに遅れる
- ・ 無死1、2塁で打球を引っ張れない左バッター
- ・ 追い込まれていないのにフルスイング出来ない下位バッター

勝ち上がるためには守備のミスはゼロが当然です。思い当たる選手がたくさんいるはずですが。これらのことはそれほど高い技術は要りません。強い意識で何とかなるレベルです。段原クラブは正し

い技術を正しい練習で伝えています。そして3年生は練習では身に付けた技術を出すことが出来るレベルになっています。これを試合に出せるか、選手達の考え方、精神力、自信、プライド、集中力いろいろな言い方があると思いますが、そういう部分の勝負になるのかもしれませんが。

高校野球広島県予選が始まりました。段原クラブのOBのみんな、思いきって野球をして下さい。そして3年生の皆さん、3年間よく頑張りました。勝っても負けても3年間最後まで努力し続けたこと以上のものはありません。いろいろな高校でいろいろな野球があります。それには上下はありません。自分のいる場所でそれぞれがそれぞれの野球をすればそれでいいです。最後は全国のチームが負けて終わります。堂々と胸を張って高校野球を終わって下さい。3年間で大きくなった心と体を後輩に伝えてくれたら、ありがたいです。中学生にとって一番近い目標の高校生と一緒にグラウンドで野球することは、彼らのプラスに必ずなります。是非、力を貸して下さい。グラウンドで待っています。高校3年生のみんな、君達は全員勝者です。ご苦労さま。

第210話/2016.07.04

7月2日(土)リーグ戦後期の2試合がありました。対八幡に3-3引き分け、対五日市9-2勝ち通算2勝1敗1分けで決勝大会に残れたと思います。リーグ戦はいろいろ試しながら4位までに残ればOKなので目的は果たせました。しかし、内容は良くありません。特にエース(背番号1)が物足りない。私は常々点を取られるなら打たれて取られなさいと言っています。ストライクゾーンに思い切って投げ込んで打たれたのなら練習しなければいけない事ははっきりします。相手のバッターがバットを振っていないのに点を取られるのは絶対にダメです。八幡戦がその一番ダメな投球でした。3-0で勝っているのに先頭から2者ファール、結局1イニング3四球3つのワイルドピッチ、3失点同点です。これは野球とは言えません。3割打てば良いバッターと言われます。軟式野球ではチーム打率2割前後ではないでしょうか?良いバッターでも3回に1回、もしくは4回に1回しか打ちません。それなのにリードしている場面で打たれる事を恐がって逃げる、ワンバウンドを投げる。なぜ、思い切って腕を振って向かっていかないのでしょうか?打たれたら練習すればいいだけの話です。エースがチームの先頭に立って戦わなければいけません。先頭が逃げたら戦いは負けます。そういう点で今年は背番号1を背負う資格のある投手はいないのかもしれませんが。「立場は人を変える」この言葉を信じ着けさせてみました。変わってくれることを望みます。

今年の広島市軟式野球連盟の総会でデッドボール(投球が打者の触れた時)について説明があり、今年から打者が投球を避けようとしなかった場合(避けるとはバッターの背中側に逃げることはデッドボールにしないし、そういう指導をしている指導者に注意するという説明がありました。当然のことです。ルールブックに書いてあるのですから。打者が打とうとしなかった投球に触れた場合、打者に1塁への安全進塁権を与える。ただし、ストライクゾーンで触れた時、打者がこれを避けないでこれに触れた時は除かれる、避けなければいけないのです。避けなければボールです。避けるとは危険から逃げる行動のことです。ルールブックにもはっきりと書いてある。軟式野球連盟からもそういうことをしないように言われている。それでも当たろうとする選手がいる。もっと酷いのはそれをデッドボールと判定する審判がいる。そして言うに事を欠いてルールブックにそんなことは書いてないと言う、話になりません。審判服を着てグラウンドに立つ前に当たり前のことをやっていきましょう。ルールブックの打者が安全に進塁できる場合というページ読んで下さい。

ストライク、ボール、アウト、セーフはアマチュアですから間違えることもあるでしょう。ある程度は仕方ないと思っています。(しかし、この前の試合の見逃し三振3つ全てボールですけど)

一塁手が完全に足が離れていてもアウトになりましたけど我慢します。ルール適用間違いはダメです。そして間違いを堂々と口にしてはもっとダメです。「ボランティアだから」とよく耳にします。ボランティアではありません。車のガソリン代以上のものをもらうはずで、それは責任をもってお願いしますということです。

私は指導者として子ども達に嘘をつかないようにルールブックを読みます。試合の中で悩んだ事があれば、軟連のルールに詳しい審判さんに教えて頂きます。誰も完璧を求めている訳ではありません。間違いはあります。認め変わればいいのです。子ども達のために大人はしっかりとしなければいけません。段原クラブではお父さん方に厳しく審判の練習をしてもらっています。全て子ども達のためです。

第209話/2016.06.27

6月26日(日)ある中学校の野球部と練習試合をしました。顧問の先生とは前任の中学校からお付き合いをさせて頂いています。最初に試合をした時にグラウンド整備の丁寧さ、しっかりした挨拶、言葉使い、試合に取り組む姿勢、どれも素晴らしく、段原クラブの子ども達に勉強になることが多いと思い、学校が変わってからも同様に年に2、3回試合をさせて頂いていました。しかし、今回は本当にガッカリしました。

中心だろうと思われる選手の言葉使い、取り組み方、審判に対する態度、どれも中学生の素直さも謙虚さも全く感じられず外の世界を知らない井の中の蛙、ただ不愉快な試合でした。想像ですが、勝つために必要な選手であるがために指導に遠慮があり、勘違いさせてしまい、我がままなプレーをし、本当はチームのためにならない選手になってしまっているように思いました。ある程度自信があったのですが、段原クラブとの試合で全く通用しない自分の力にいらだっていたのでしょう。自分の力の無さを認めたくないために審判のせいにして、くだらない言葉で紛らわそうとしていたのでしょう。上には上がいます。現実を見て、それを認め、今以上の努力をするしか近づく方法はありません。今のままでは勘違いしたまま高校へ行き、鼻を折られ野球人生が終わってしまいます。

上達する方法はひとつです。自分の未熟さを認め、正しい練習を数多くする。まず心(考え方)を変えることです。前からずっと中学生の野球で面白くないと思っていることがあります。まず、ピッチャーがセットポジションに入ると、コーチだけでなくベンチ全員でピッチャーに対して「ゴー」「ゴー」と大きな声を出すチームいます。本来の野球はピッチャーが投げようとしている時は声を出さないのが礼儀です。はっきり言って大嫌いです。基本をしっかりやらなければいけない時期に邪魔です。審判はなぜ注意しないのでしょうか？ランナーのバタバタしたリードも同様です。どちらもそんなことをして相手がミスでもしてくれたらという考え方です。そんな野球をしていると子ども達の技術は上達しません。ピッチャーとバッターの一対一の勝負をしっかりさせることが中学生のためになります。あくまで勝つ為のゲスな方法より、個の技術をアップする事に集中すべきです。小学校もそうですが、子どもの野球はあくまで基本、原点能力のアップを第一に考えなければいけません。試合中にそれを邪魔するようなプレーをさせるべきではありません。あんなリードは上では通用しません。何度も言いますが、中学野球は高校野球に行くための通過点なので勝つ為のテクニックを練習している時間などないのです。チームが勝つためのテクニックを身に付けある程度勝ち上がったとしても、それが自分自身の力と勘違いしてレベルの高い高校に行くと個人として通用しなければみじめな結果に終わります。

今の高校野球をよく見て下さい。昔の考え方のままの名門校どうなっていますか？全国レベルの高校は個々の力をアップしています。チームプレーの練習も大事ですが、個人練習はもっと大事だと思います。

第208話/2016.06.20

6月18日（土）大竹 晴海公園野球場で交流戦を行いました。府中野球同好会、オール笠岡ドリームス、東城有光クラブに参加頂き4チームで各2試合、計4試合を行いました。梅雨の真っ只中の晴天。暑かった。監督の日頃のおこないの賜物などと言いながらラッキーな1日でした。

そもそも交流戦をやろうという計画は私の中に数年前からありました。他のチームがやっているような招待試合で順位をつける大会ではなく、良いチームと良いグラウンドで良い試合をする。そして、そこに高校野球の関係者に来て頂いて、子ども達、保護者の緊張感や集中力、本気度を上げる、その中で今の自分のレベル、現実を知り、目標や夢を見つめ直す。3年生にとってのこれからの9ヶ月間、野球人生の中で一番成長出来る時期だと思っています。君達しだいですが、前からずっと言い続けている中学生の野球は通過点です。チームが勝つ事より個人の能力を伸ばすことが大事です。次のステージへ自信を持って送り出せる技術を身に付ける、そういう目的でやった交流戦、私は大成功だったと思います。

労力を提供してくれた保護者の皆さん、参加して下さったチームの皆さん、グラウンドにお越し頂いた高校野球の関係者（校名は伏せます）の方々、そして全力でプレーした選手達、ありがとうございました。進学はもう少し先の話で、誰がどこの高校へ行くのかわかりませんが、縁です。どこに行っても長く長く野球を続けてもらえることを願っています。本当はもう少し多くのチームに参加して頂き、広島全部の高校に連絡して軟式のクラブチームのレベルの高さをたくさんの高校野球関係者に見てもらえる交流戦が出来たら子ども達のためになると思っています。その為には同じ場所に良いグラウンドが必要です。残念ながら広島にはそんなグラウンドはありません。スポーツ王国などと広島自ら言っていた時代があるのに、野球のグラウンド事情は中国地方で最低です。政治の責任ですか？今回も大学のグラウンドを借りようとしても難しいものがありました。子ども達のために、次の世代のためにという考え方があればと思います。広島の高校野球は最近全国レベルから置いていかれているように思います。そのひとつの原因は中学野球（硬式・軟式・中体連）、小学生（硬式・軟式・ソフトボール）にあります。試合数の増加で一番大切な基礎練習が疎かになっています。

段原クラブに入部してくる子ども達を見ても、とても経験者には思えません。生まれて初めて野球をする子と対して差のないレベルです。プロ野球の指導者より、子ども達を指導する人達の方がしっかりする必要があります。「基本」とは「基礎」とは、しっかり私も含め勉強です。段原クラブの1年生は私から見れば野球未経験者なので時間を掛けて、つまらない練習をする必要があります。その為にはグラウンドだけでは足りません。親子共々気づいてやるか、気づかずに惨めな野球人生は送るのか分岐点です。

6月19日（日）練習の手伝いに来てくれたOBの島川、安達、比嘉、足立ありがとうございました。いつでも誰でも大歓迎です。グラウンドで汗をかいて飯でも食べましょう。酒でも飲みましょう（二十歳から）。ひとりでも多くのOBがグラウンドに来てくれることを楽しみにしています。

もうすぐ7月、3年生の皆さん集大成、本気（マジ）集中です。

第207話/2016.06.13

「慣れ」、この言葉は良い面と悪い面があります。3年生は段原クラブに入部して2年数ヶ月、いろいろな事に慣れてきました。入部したばかりの頃は、今までと違う練習や考え方、先輩や迫力があり怖い監督の圧力などで緊張していました。新しい理論や理にかなった練習でワクワクもしてははずです。しかし2年経つと慣れます。これはマンネリとも言います。

1年生の時には目を輝かせて聞いていた指導も、胸に一杯だった夢や希望も現実を見るようになり半分になります。そして男の子から男に変わり、プライドだけが大きくなります。素直さが小さくなります。それが野球の成長を妨げます。

これは保護者も同じ事が言えます。毎週毎週指導する指導者に対する感謝の心を慣れが半分にし、思い通りの結果が出ないと責任をぶつけたくなります。感謝して欲しいと言っているのではありません。慣れによっていろいろなことがルーズになり、それが子ども達に対する厳しさを欠けさせ、足を引っ張っていることになりませんか？よく子ども達を見て下さい。段原クラブの練習を見て下さい。クタクタで倒れそうになりまで走りますか？長時間しますか？水分はいつでもとれます。休憩もとります。これでなぜ全力をださない？声にしても、走るにしてもなぜ？試合はもっと楽です。なのになぜ？

あなたの子どもは全力を出し切っていますか？ こんな楽な練習の中でよく見て下さい。いつも言っている通り、子どもがやらないのは親の責任です。大人の正しい考え方、意見を聞かない子どもの世話をなぜするのですか？やらなければ、聞かなければ一切面倒をみない。洗濯も食事も小遣も、掃除も送り迎えも一切しなければいいのです。練習はやった方が良い事をみんな知っています。

いい事なのか悪いことなのかわかりませんが、段原クラブは退部者がいなくなればなるほど勝率は下がっています。私が甘くなったという事だと思えます。上のレベルを目指さないレクリエーションクラブになっていくような気がします。そのチームに私は必要ないような気がします。

活気にあふれた、全員が上を目指して必死でボールを追いかける集中した練習、試合がしたいです。ギラギラした目の子ども達と野球がしたいです。きっと楽しいだろうな。

第206話/2016.06.07

私は愛知県の愛工大名電高校出身です。沢山のプロ野球選手がいます。その中のトップがイチローと福岡ソフトバンクホークスの監督をしている工藤です。6月3日（金）、高校の野球部とプロ野球の先輩という嫌な力を利用して、試合後のホテルで少しの時間でしたが会うことができました。

シーズンの大事な時期。それも明日の試合のためのミーティングがあるという中で私のために時間を作ってくれました。それだけでなく、チームの子ども達全員に直筆のサイン入りカードをプレゼントしてくれました。私は今まで先輩という力を使うことを嫌っていました。迷惑を掛けたくなかったからです。話の勢いの中でチーム保護者の勢いに負けてこのようになってしまいました。

きっと工藤はそのような事を全て想像して、私（先輩）の顔を立ててくれたのだと思います。日本中で12人しかいないプロ野球の監督という仕事がどれほどハードなものなのか？その世界に少しは関わった私にもわかります。本人にも言いましたが、本当に体に気をつけてほしいと願っています。そしてお礼を言います。ありがとうございました。力を貸して頂いた高校野球部のOB会長、ソフトバンクのマネジャーの井原さん、本当にありがとうございました。

私と工藤監督は年の差が4つ、現役時代は西武×巨人の日本シリーズと私が南海ホークス時代。

私は2軍暮らしが長かったので少しだけグラウンドで顔を合わせています。対戦は1度だけ、ファーボールだったと記憶しています。グラウンドでユニフォームのシャツのボタンを2つ開けている工藤に「よくないぞ」といった事があります。その返事は「僕は身長が低いので体を大きくしないとプロ野球で勝負出来ません。トレーニングしていたらボタンが止まらなくなりました」でした。自分をしっかり見つめた答えに関心した覚えがあります。FAでチームが変わる時もトレーニング施設だったり、個人トレーナーがつけられるなどでチームを決めたと聞いています。そういう日々の努力が20年以上の現役生活を支えたのだと思います。確かに私の後輩（年下）ですが見習うところの多い野球人です。

プロ野球と中学野球、とんでもなくレベルの違いはありますが、バスから降りて歩いてきた堂々とした姿、立ち振る舞い、言葉使い、そしてチームの強さ。ダントツ首位でその日完勝してもホテル到着即ミーティングという厳しさなど、これからの段原クラブに生かしていきたいと思います。

第205話/2016.05.30

5月29日（日）日刊大会の開会式がありました。試合も無いのに開会式のためだけに集まるというムダな1日を過ごしました。中学生クラブチームは毎日練習出来る訳ないので土、日曜日はとても大事な1日です。その1日のうちの半日を潰すのはとてももったいないと私は思います。それでなくても午後から下り坂の天気。本当なら、雨の降らない午前中に練習をしておきたいのに？

私は誰でも出る事が出来る大会の開会式に価値を感じません。勝ち上がって代表として出る大会は価値があります。そんな時間があるなら少しでも長くグラウンドで練習した方が彼らのためになります。いろいろな考え方があるので組織にいると思いつりになりませんが。今、段原クラブは交流戦を計画しています。今年、歯が立たなかったチームに集まってもらって、高いレベルの野球をお互いに感じ、お互いのレベルアップにつながるような試合が出来れば良いと思っています。まだ計画の段階でどうなるかわかりませんが、良い選手達が意識し合いながらの試合を見てみたいと思っています。そして高校野球の関係者の人達から注目してもらえるようになれば、なお意味のあるものになると思います。

日曜日、3年生の進路の希望を聞きました。まだ少し早いのですが、目指すところがハッキリすればやる事がハッキリします。野球でも勉強でも良い効果が出るはずで。各自の思いがわかり指導する方もやり易くなります。思いを実現するため、そして高校での野球をやりあるものにするため今、そしてこれからが大事になります。本物を少しでも多く身に付け、身に付けることが出来なくても考え方はしっかりと頭に入れて高校に進学しなければいけません。

3年生の皆さん、残りの練習は何日ありますか？数えてみて下さい。1日を大切に、そして大事に、出来るだけ多くの技術を、そして考え方を吸収して下さい。私の力が必要ならどんどん利用して下さい。利用するべきです。あなた達の力が付いていくのはこれからです。高校に向けて勝負が始まります。

第204話/2016.05.23

5月21日（土）久々にミーティングをしました。内容は「身体能力に恵まれていない段原クラブの選手が1日でも長く野球をするための方法」、子ども達にどこまで伝わったかわかりませんが、

身長180cm以上にならない、100mを11秒前半で走れない、ボールを100m以上投げられない、空振りをしていない、スチールをいつでも出来るぐらいの能力を持っていないければ頭を使う以外結果を出す方法はありません。やらない人はほぼ、中学、高校で野球人生が終わるということになります。自分自身の野球人生なので自分で決めれば良いのですが、段原クラブの部員は私が預かった以上、正しい方法を伝える責任があるので何度か折を見て伝えなければと思っています。しかし、大事なものは聞く方のモチベーションです。望んでいない人間に何を伝えようとしても伝わることはないので、途中であきらめることになります。

日曜日、千代田中学校との練習試合後、1年生の練習を少し見ましたが今までと変わった様子は感じられませんでした。相変わらずの極々普通の子も達が極々普通のモチベーションで野球をやっているだけ、本当にこの子達は（親も含め）上のレベルを目指しているのでしょうか？私は魔法使いではないので、普通の子が普通に練習していれば普通のチームになります。そしてこのままだと17人の中で5、6人が試合に出て残り12人程度は控えということになります。なぜなら、このままではチームになりそうにないので、6年生で気持ちと能力のある選手を真剣に探そうと思っているからです。

私は普通という言葉が嫌いです。普通はつまらない、特徴がない、可もなく不可もなく、毒にも薬にもならないということです。他人とは違う、これは良いことです。鰯（イワシ）のように先頭が右を向いたら全員が右を向くような選手（人間）はつまらない。みんなと同じだと安心、こんな選手になって欲しくありません。1年生の皆さん、まず自分です。1人だけ、自分だけ上手くなれば良いのです。競争です。同級生は全員が敵なのです。勝負とはそういうことです。1人で練習しましょう。誰かが休めばラッキーです。そんな選手が私は好きです。

ある人から練習中に私が子ども達に使った言葉が不適切だとお叱りをいただきました。私の中には常に子ども達に言っている「野球をやりたくても出来ない子どもが世界中にたくさんいる。そんな中、五体満足で野球が出来る環境にある君達が一生懸命やらないのは失礼だ」があります。差別意識は全くありません。自分自身も子どもの頃、髪の毛が茶色いことや、顔が日本人離れしているため差別された経験があります。しかし、1人でも不愉快に感じられた方がいたのなら反省し、謝罪しなければいけません。その方とお会いし謝罪させていただきました。そして二度とこのような事がないようにしていかなければなりません。

「子ども達のためになる」と思ってやっている中に、自分よがりの部分があるようです。指導者として勉強しレベルを上げていきたいと思っています。

今の課題は思いに差のある選手（親）達を同じチームの中で同じ方向を向かって努力することが可能か？私の中では無理という結論です。（今は）むずかしい。

第203話/2016.05.16

スポーツは体が大きく、力強く、スピードがある選手が有利である事は間違いないです。野球もプロ野球選手を見れば判る通り、パワーとスピードがある選手が圧倒的に有利です。有利であることは事実ですが、絶対ではありません。体に恵まれないで何年も活躍している選手がいます。投手は少ないがいますし、野手には数多くいます。段原クラブは体に恵まれた選手があまり入部してきません。では、どうするのか？

まず、正しい技術を身に付けます。正しい技術とは正しい体の使い方です。小さい力を大きな力に変える技術です。次に野球というスポーツの試合のシステムを知ることです。いろいろなスポー

ツがあります。相手のある競技と無い競技、動き続ける競技と止まっている時間の長い競技があります。野球は相手があり、ボールが止まっている時間が長いスポーツです。ここにパワーとスピードを補う方法があります。私が子ども達に常々言っている、予測と準備、そして状況判断です。次のプレー（投手が投げてくるボール、打球が飛んでくる方向、相手の作戦）が予測出来れば予め準備が出来、対応しすくなりミスが減ります。ファインプレーとは、飛びついて捕るものもありますが、芯を食われた打球（投手がやられたと思った打球）を苦も無く正面で捕ることです。（予測と準備の一例です。）そして状況判断、イニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順を常に頭に入れ、試合が終わった時、1点勝っているために今、最適なプレーは何か、そして最低限しなければいけないことは何か考えてプレーすることです。体が大きくパワーとスピードのある選手に勝つため頭と足を最大限に利用しなければなりません。今年の選手（1、2、3年全員）はこの部分が欠けています。投手は球が速ければよいわけではありませんし、打者は打球が遠くへ飛ばばよいわけではありません。相手のあるスポーツです。自分勝手に自分の都合に良い野球をしていては、良い結果に結び付きません。

段原クラブはフルスイング塾が使用できるため、雨が降ってもバッティングが出来ます。技術の練習中心になり、このところ頭の練習がおろそかになっていました。それでなくても小学生の時、何も知らず野球の試合だけを数多くしてきた子ども達です。もう一度、本当の野球の考え方をしっかり座学で伝える必要があります。

体を作ることはスポーツにおいて一番大切な事です。力も強くなり、スピードも出ます。そしてケガもし難くなります。頭も鍛えなければいけません。有り難いことに野球は日本人の体格で世界と勝負出来る数少ないスポーツのひとつです。なぜか？そこに体に恵まれていない選手の生きていく方法があります。正しい練習をしています。技術も身に付いてきました。それを試合で生かすための頭です。本物を伝えます。

第202話/2016.05.09

最近、書くことが無くなってきました。これといった良いことも悪いこともなく、なんとなく日々が過ぎていっています。毎年、同じ時期に同じ大会があり、同じような相手と当たり、同じような試合をする。これを繰り返し、刺激が年々なくなってきました。大野シニアや安シニアが広島西協議会から脱退し、今までと違う日程だったり、チームだったり、新しいことをする気持ちの高ぶりだったり、少しうらやましいような気がします。私は色々なことをする時「例年通り」が嫌いです。もっと良くすることは出来ないか？良い大会をする方法はないか？子ども達のために大人は考えるべきだと思っています。

土曜日に協議会のトーナメント大会がありました。今年は8チームの参加です。湯来運動広場まで行って1試合、それはないよ。グラウンドが2か所2面あるのなら4チームずつ分けてチェーンリーグで1、2位を決め、後日準決勝、決勝をするべきです。はっきりいって重い大会ではありません。出来るだけ多くの選手を出させてあげたい大会です。これを単純トーナメントでやる理由がわかりません。子ども達にとって貴重な一日を試合時間より、移動時間が長い一日になってしまうのは可哀想です。私は大会をやるなら、せめて1チーム、1日2試合出来るように配慮するべきだと思います。

今年、県知事杯の段取りを広島グリーンファイターズと共に任されたので、1日目に全チーム2試合出来る大会にしました。遠くから来て、参加料を払って1試合で負けたらサヨナラ、私ならそ

の大会に遠くから参加しません。いつも言っていること、子ども達の団体は大人の都合より、子供の都合で動くべきです。本当に大事な、大きな次のステージがある大会（全軟等々）以外、1日目は勝っても負けても2試合出来るようにしてあげるべきだと思います。遠くまで行って試合に出る事なく、帰る子がいることをみんなで知るべきだし、考えるべきだと思います。

今年もプロ野球OBクラブの「子供の日野球教室」がありました。去年は東広島、今年も三原でありました。言いたい事は、はっきりしています。去年も書きましたが、技術がひどい、何も指導されていない、只々子ども達が可哀想です。

指導者の皆さん、せめてキャッチボールと下半身でバットを振ることぐらいは指導しましょう。私はいつも捕手とバッティングを見ますが、キャッチボールが出来ない選手に捕手は無理です。まあどこも無理ですが、バッティングも結局、体の大きい子が打つだけで技術は全くありません。上に上がった時に困ります。基本中の基本ぐらいは教えないと野球チームを名乗るのはどうかと思います。一番大事な最初、三つ子の魂百までではないですが、私の言う、育ちの悪い選手は中学で中々直りませんよ。全ての指導者で小学生の指導者が一番しっかりしていなければいけないと思います。自分が経験した少ないものでなく、もっともっと勉強を重ね、現代野球を伝えて欲しいと思います。

第201話/2016.05.02

全軟が終わりました。

私の予想通り、子ども達は身に付けた力を発揮する事なく1回戦で負けました。何度も書いている通り試合で出せない技術は無いのと同じ！！

確かに努力は大切です。努力しない選手はそもそも可能性すらありません。ただ、努力をどんなにしても、人一倍頑張っても試合で結果として出さなければ、これも意味の無いものと世間は判断します。今はメンタルトレーニングとか、体罰の禁止とか子ども達の心を守ることが重要だと言われています。私の中学、高校時代にはそんな考え方は全くなく、家でも学校でもグラウンドでも寮生活でも、全ての場面でとにかく厳しく厳しく指導を受けました。それが理由かどうかわかりませんが、甲子園での1打席目以外、グラウンドで緊張したことはありませんでした。

自分の持っている力をグラウンドで全て出す、その為に何が必要なのか？指導者として何をしなければいけないのか？練習で何をすれば？他人が手助けできるものなのか？

野球の技術を伝えるのはそんなに難しいものではありませんが（本人が出来ようになるのか、ならないのかは別）結果として出すのは難しいです。

プレッシャー、緊張、結論はそれでいいのでしょうか？

3年生はこれから高校野球を意識した野球をしていくことになります。出来るだけ早くはっきりとした目標を決めるべきです。試合に出るとか、ヒットを打つとか目の前の小さなことではなく、もっと先の大きなものを目指してコツコツ努力することが大切だと思います。ヒットを1本打ったぐらいで満足する野球では上には上げられません。野球人生の最後のステージを常に意識し、そのために今、何をしなければいけないのか？目の前の結果を欲しがってばかりいる努力が持っている力を出すことを邪魔しているように思います。たしかに試合に出たいし、出たら打ちたい、そしてチームも勝ちたいそれはよくわかります。それだけのために野球をするのは違うと思います。高いレベルを目指すためには、そのレベルの体、そして技術、精神力必要になります。それは簡単に手に入れられません。時間が掛かります。試合に出た、出ない、打った、打たない、勝った負けたで一喜一憂していたり、大会前だからいつもより打つとか、試合で打てなかったから練習するとか、そん

な練習で本物の力はつきません。

結局、ごまかしの努力では野球の神様はだまされないということです。段原クラブに入部した時に語った目標は中学野球でしたか？違ったはずですが。中学に全国大会？小さいです。そんなもので野球人生のアドバンテージはとれません。たかだか通過点に過ぎない。野球でプレッシャー。おかしくないですか？目指さないのなら口に出さないことです。周りが迷惑します。出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかです。

第200話/2016.04.25

「人事を尽くして天命を待つ」、29日（金）から始まる全軟西部大会前のグラウンドで出来る最後の練習が終わりました。昨年秋の文部科学大臣杯1回戦1-0の敗戦から9ヶ月、やらなければいけない事、全部出来たか？全て伝えたか？今自分自身に問いかけています。チーム作りする時に、こんなチームになれば勝負出来るのではないかとイメージします。バットを振る力は秋、冬、春と数を振ってきた事により、例年の段原クラブのレベルになってきました。ただ大きな試合ほどバッティングはあてになりません。勝負のカギは投手を含めたディフェンス力です。

過去、ある程度勝ち上がった時のチームには1試合を任せられるエースがいました。今年の不安要素はそこにあります。投手力と守備力がイメージの所まで上がってきませんでした。試合で100%の実力を出すことが出来れば勝負になると思いますが、もしプレッシャーなどで力を出し切れなかった場合は完敗する可能性があると思っています。監督が子ども達の足を引っ張らないよう、心の弱い選手達が出来るだけ練習のような力が出せるように言葉に気をつけながら試合を進めていきたいと思っています。

私は今年57歳になります。いわゆる古い人間です。最近、保護者達とギャップを感じる事が多くなりました。私の時代と違いギラギラした物を感じません。みんな大人しい良い保護者の方々です。きっと家でも子どもに声を荒げることもなく、瀬戸内海のような平穏な生活をしているように見えます。私の中学時代は太平洋の荒波のような家庭で心と体を鍛えて、野球で勝負出来るようになりました。人と人のつながりの薄さなど寂しく感じます。「自分にとって都合の良いものは利用させてもらいますけど、都合の悪いことは結構です」そんな感じがしています。

野球はチームスポーツです。レギュラーは9人です。ルールで決まっていますし、みんな知っています。部員が10人以上いれば試合に出るチャンスは減ります。極々当たり前のことです。チーム内で競い争い、奪い合いそして敗れたなら、その試合は潔く、チームのために全力でサポートに回るべきです。心からチームとして勝つという思いを全員が持てれば、そのチームは価値のあるチームになります。そして私が常に言っている「強いチーム」より「いいチーム」とは、見ている人達の心を揺さぶることの出来るチームです。全軟でそんな試合が出来れば君達の勝ちです。

第199話/2016.04.18

4月16日（土）17日（日）香川県丸亀市に遠征しました。素晴らしい球場（丸亀市営球場）と天気で予定通り試合出来、全軟に向けた練習試合を計画通り消化する事が出来ました。球場関係者の方々、審判、対戦相手のチーム、監督、保護者、そして段原クラブの保護者、たくさんの人達のお陰で2日間無事に終わり感謝します。本当にありがとうございました。

自分以外の人達の力（お金・労力）を借りて、野球が出来ている事を子ども達が理解し、感謝しなければ中学生のスポーツの意味が薄れます。本当にわかっているのか疑問に思うところが多々あります。試合をすると勝つ事と負ける事があります。その結果だけには大きな意味はありませんが、その内容には大切な物があります。私は子ども達が練習によって身に付けた技術を100%出し切れれば、それが勝ちだと思えます。その為に精神力（思い）が必要です。力を出し切れず負けた時には自分自身の不甲斐なさに腹を立て、自分に怒り、責め、悔しがって欲しいと思えます。今年の3年生は上手くいかない時に悲しそうな淋しそうな顔をします。グラウンドは勝負の戦場です。私はそれを「勝負に向いていない選手」と言っています。

2日目の最後の試合で完敗しました。それは構いません。明らかに能力の差があるのですから普通にやれば当然負けます。私が気に入らないのは内容です。グラウンドでの声、キビキビとした動き、そして勝つ事への執念、全て完敗！！力の無さを痛感し、指導者として悔しく、恥ずかしく自分自身に腹が立ちました。私の練習、指導の何が足りないのか、試合中、後、そんな事ばかり考えていました。広島にバスが到着し、降りてくる子ども達を見てガッカリしました。ほぼ全員が寝ぼけた目「あんな試合の後、寝られるんだ」日曜日の朝はゆっくり時間があり、寝不足ではないはずです。もしそうなら夜の過ごし方に問題があります。

悔しくないのです。グラウンドを出れば忘れてしまうのです。野球は勝負です。勝負の世界に向いていない子が足を踏み入れてしまったという事です。

バスが着いて座席下のトランクに入っている子ども達の荷物を保護者が降ろしています。それを子ども達は当たり前のように見えています。野球チームの光景ではありません。幼稚園児ではありません。中学生です。おかしいでしょ？保護者の皆さん、生まれた時から今までそうやって甘やかしてきた結果です。グラウンド作りから片づけ、荷物運び、審判、そしてお金、全てを与えて。それが当たり前でないという事を伝えていない。子ども達は何も生産しませんし、1円も稼ぎません。自分一人では何も出来ません。どれだけの人達の力を借りているのか、どれだけの人達のお陰で野球をさせてもらっているのか、教えるのは親の責任です。心を込めて全力でやる。当たり前です。

中学生の頭脳で一度言われたら誰でも意識して誰でも出来ること、そんな事もしない子どもにグラウンドに立つ資格はありません。「忘れました」、「意識していませんでした」、「次からやります」、「変わります」聞き飽きました。思っていない事を口に出すから出来ないのです。その場しのぎはいりません。本当に野球が大好きでグラウンドでハツラツといい顔で子どもらしい明るい選手と野球がしたいです。

人間は感情の動物です。本当に心の底から好きな事なら覚えられます。負けたら悲しいのではなく、負けたれ悔しいのです。この完敗が子ども達の野球が変わるキッカケになれば、お金を掛けた遠征が安い物になります。

第198話/2016.04.11

段原クラブは軟式野球連盟に加盟以来、広島スターズを目標にしてきました。打者は「スターズのピッチャーを打てますか？」、投手は「スターズの打線を抑えられますか？」これを基準にしています。高校野球で言えばスターズは私立の野球校。段原クラブは県立の普通校。これば入団してくる団員の小学校時の実績、能力の違いです。これを踏まえた上で私も含めスタッフはなんとか追いつきたい、そして勝ちたいと思い、今まで全力を傾けてきました。しかし現実には中々勝つ事が出来ません。当然です。相手は広島No.1のチームなのですから、選手・保護者も含めチーム全

体で全国を目指している私立の野球校にどうしたら勝負出来るようになるのか。「正しい練習を数多くやる」、そして「正しい野球をする」そう思ってやってきました。そして選手も保護者も同じように目指しているものだと思っていました。

しかし、そんなものは私の独りよがりでした。結局は県立この普通校です。本気で野球校に勝ちたいと思っている選手は一握り。目指しているのは自分の事だけ、試合に出られるか？そして出られたらヒットを打ちたい。そんなレベルです。

私は子ども達に3月はオープン戦、個人個人のポジション争い。4月からは全軟モード。チームが勝つ為に試合をする。そしてそれは常にスターズ戦を意識して戦うことを言ってきました。しかし相変わらずほとんどの選手がヒットを打つことにしか興味がないようです。私は、守備はチームのためバッティング練習は自分のためだと思っています。そして子ども達にも言ってきました。全軟で良い結果を出すために今、何が必要なのか？選手・保護者全員、本気で考えるべきです。

広陵高校の中井監督が講演で言っていた言葉、軟式チーム出身者と硬式チーム出身者の違い。「力の差は無いが、選手・保護者のモチベーションが違います。」まさにスターズと段原クラブの違いそのものだと思います。私は県立の普通校に入団してくる選手達をなんとか勝たせたい。そして次のステージに上げてあげたいと思い努力してきましたが、それは思いの無い相手には迷惑なのだと気が付きました。これからは選手・保護者を見て、そのモチベーションに応じて対応していくのがお互い嫌な思いをしなくて済みます。「私の時間は思いのある選手のために使う」そうしていこうと思っています。鈴木家の野球に対する考え方と温度差が有り過ぎるので、チームのために私の温度を下げようと思います。

第197話/2016.04.03

4月2日（土）理事長杯県大会がありました。結果は1回戦負け、原因は私の慢心にあります。組み合わせを見た時、2回戦の府中オーシャンズの事を考えました。先日の神辺東ベースボールクラブの招待試合でチームの中心選手が故障した事により、ピッチャーを2回戦に残さなければ勝負にならないと判断しました。その為、1回戦では4番手、5番手の投手で試合する事になります。昨年秋は全く戦力にならなかった選手ですが、この冬の努力で3月の練習試合で良い結果を出しています。対戦相手には申し訳ありませんが、十分に通用すると思いました。しかし、初めての公式戦の登板、まして福山市民球場、努力して身に付けた能力をひとつも出す事なく2回7失点、野球はメンタルスポーツだという事を思い知らされました。私の慢心が子ども達の油断につながり、みじめな惨敗を喫しました。練習試合でいくら打とうが、抑えようが公式戦は別物だという事です。本当に勝負は心の中にあります。中心の中の中心チームの核を失うと全ての選手の力が半減します。今年のチームは結局、兎玉のチーム、いるといないでこんなに選手達が変わってしまう。全員が不安な顔でグラウンドに立っています。選手達、悔しくないですか？

今年のチームは新チーム結成以来、3年生全員がベストの状態揃った事はありません。全軟まで約3週間、気持ちを高め、もちろん練習に集中し体と心がベストの状態に挑みたいと思います。私はあきらめません。ひとりでもあきらめず本気でグラウンド立っている子どもがいる限り、試合の前日まで、もがき、あがきます。今、段原プライドを見せる時です。

保護者の皆さん、子ども達を甘やかす事なく、全力サポートをお願いします。ケガで全軟西部予選に出られない選手を県大会に出場させる責任が全員にあると思います。その為に私は妥協しません。「次から気を付けます」、「次からやります」認めません。君達のために私は厳しくなります。

第196話/2016.03.28

26日(土)海田中学校、坂中学校と練習試合をしました。いつも思うのですが、中学校の野球部にも素材が素晴らしい子が多くいます。しかし、たいていの場合、バッターではスイングの数が足りず、バットスピードがありません。下半身が回らず上半身で打つのでインコースがさばけません。ピッチャーはフォームに問題があり、スピードのある子はコントロールに難があり、ストライクが入る子はスピードがありません。いつも「もったいない」と思います。

そして下級生は1日ボールボーイや得点係、ひどい時には審判をさせられ、野球部なのに貴重な1日が無駄に過ぎていきます。中学野球が出来る日数は限られているのに、これも「もったいない」と思います。グラウンド事情か指導者の考え方かわかりませんが、牽制の練習だけは良くやっているがわかります。試合で本当に牽制球が多い。段原クラブもしないわけではありませんが、原点能力を上げる練習が1番大事で、勝つ為のテクニックの必要性を感じないので、これも「もったいない」と思っています。

前にも書いた事がありますが、段原クラブは1年生の時ほとんど勝てません。今年の3年生も1年生のリーグ戦で勝てませんでした。その程度の素材が集まります。しかし毎年3年生になれば勝負出来るチームになります。

27日(日)1年生の練習試合を大野シニアとやりました。案の定2敗、当然です。段原クラブには小学校の軟式でエースという子は、ここ5年入ってきていません。マウンドに上がった事のない子投げては勝てません。そういう選手を2年間掛けてピッチャーに育てます。今年の卒団生のピッチャーも新3年生、新2年生のピッチャーも同じです。私は投手経験がありますし、プロ野球界の偉大な先輩達の教えもあるので、育てる事が出来ます。今年の1年生もピッチャー希望者が何人かいるので、その中で1番努力した子がエースになるのだと思います。そして1年生の時には歯が立たなかったチームを3年生の時には追い越します。あくまで子ども達が全力で努力したらの話ですけど・・・。

野球が好きで小学校の時、思うような結果を出す事が出来なかったから、段原クラブで変わりたいと思い、入部してきた子ども達が多いと思っています。1年生の皆さん、まずチーム選びは正解です。段原クラブには個人の能力を上げる事の出来るシステムと指導者と環境があります。しかしあくまで本人の努力があつての話です。小学校で大した成績を残していないのですから、今までと同じ練習量と質では勝負になりません。上達する方法、考え方は伝えられますが、やるのはあなた達です。まずチーム一、1年生16人の中で「1番やっている」と堂々と言える練習をして下さい。「上手になりたい」、「勝ちたい」魔法が使えなければ「正しい練習を数多くやる」これしか方法はありません。

第195話/2016.03.21

3月19日(土)、20日(日)神辺東ベースボールクラブの招待試合に行きました。気温が上がり、バットや腕が振れるようになってきました。ストレートに力のある投手がいなかったこともありましたが、冬の間たくさん振り込んだ選手は、打球の質が上がり距離も出て来ました。1年生の時、カープジュニア(小学生)に2試合連続完封負けしたチームが勝負出来るチームになってき

たように思います。まだ今年になって本当に良い投手と対戦していないので、真の力はわかりませんが少し期待したいと思います。ここ最近の試合を見て私が痛感したのが、心（精神力）。勝ちに行く試合で私の顔色が真剣になると子ども達の力が出ません。ベンチで遊んでいるくらいの態度でいると伸び伸び身に付けた力を発揮します。心の優しい真面目な子ども達のチームはそうしてあげるのが良いかもしれません。私の時代は厳しく緊張感のある中で、練習、試合があり、そこで負ける選手は結果を出せませんでした。家庭環境、学校環境が変わる中、野球の指導も時代に合わせる必要を感じています。監督の仕事は練習でひたすら個人の技術向上に努め、試合ではその力を全て出させてあげる事なので私の意識改革が今年のカギになりそうです。

練習中ではなく、試合中に2人ケガ人が出てしまいました。2人とも防ぐのは難しかったと思いますが、1日も早い回復が待たれます。段原クラブはケガ人に対するケアのシステムが確立されているので大丈夫ですが、予防に対して少し考える必要があるかもしれません。

3月20日（日）に新1年生の保護者に対して段原クラブ（私）の考え方を説明する時間を取りました。今年は今のところ16人入部してくれたため、今まで以上の競争が起こります。チームにとっても、子ども達にとっても、とても良い事で確実に個人のレベルが上がります。最後にはやった者が勝ちます。今までの段原クラブの歴史がそれを証明しています。

小学校の時、中心だった子をレギュラーになれなかった子が3年間の努力で追い越していくところを何度も見てきました。日曜日の大会も小学校でレギュラーでなかった子、チームで1番小さい選手が柵越えのホームランを打ちました。段原クラブでなかったら、その子は今でも内野ゴロを打っていたと思います。努力した子に良い思いをさせる。指導者の責任です。

まだ今シーズンは始まったばかりで、これからチームも子ども達も私も思い通りにならないことが出てくるはずです。そういう時こそ、自分達がやってきたことを信じ、大好きな野球を楽しみたいと思います。

新1年生の皆さん、段原クラブを選んだことで君達の技術が大きく伸びる可能性が上がりました。しかしそれには当たり前前の努力が必要です。良い先輩がいます。よく見て下さい。どこを見るかで君達の1年後、2年後が変わります。

第194話/2016.03.14

「中学校でクラブチームに入ると成績が下がる」ある6年生の親が言っていたそうです。

何言っているの？段原クラブのOBは昨年に引き続き今年も2人国立大学に合格しました。高校1、2年生にも野球との両立を目指して努力している子がいます。中学校の野球部の子は全員成績が良いのでしょうか？狭い世界しか知らない親は子どもの足を引っ張ります。

何かが上手くいかない時、ほとんどの人は自分以外に責任をなすりつけたがります。批判されることを承知で言えば、府中町の中学生の件は本当に不幸な事です。当然学校側に責任の多くがあります。しかし、はっきり意見を言える子どもに育てられなかった親には？高校の推薦が有る、無いぐらいで死を選んだ本人は？と私は考えます。人生は思い通りには行きません。努力したからといって必ず結果がついてくるとも限りません。特に野球というスポーツは失敗の連続です。

私は現役時代ピッチャーとしてベストボールが何球投げられたでしょう。バッターとして完璧な打球が何本打てたでしょう。出来ないことだらけ、だから練習をし続けるしかないのです。ピッチャーは完全試合や全員三振を目指し、バッターは全打席ヒットを目指します。しかし最後まで出来ません。だから苦しくても楽しいのです。私は野球とは人生とはそういうものだと思っています。

3月13日(日)本年度最初の公式戦、理事長杯西部予選がありました。一冬越して努力している選手達のバッティング技術が上達している事を前に書きました。前日12日(土曜日)の府中オーシャンズとの練習試合は持っている力を出せた選手が多くいました。しかし日曜日には持っている力を出したバッターは2人だけ、これが野球(人生)です。日曜日の対戦相手より府中オーシャンズの方がチーム力は上です。ではなぜ?メンタルです。公式戦だからだと思います。「勝たなければ」「打たなくては」自分で自分にプレッシャーをかけ、せっかく努力して身に付けた力を自分自身で出せなくしてしまう。こんなもったいない事はありません。

私は子ども達にいつもいっています。勝つ事が全てではない。試合は発表会です。苦しんだり、辛かったりしながら身に付けた技術、力を試合を見ている人達に披露する場です。出し切れればそれで良いのです。勝ったか負けたかは後からついてくるもので、今の全てを出す。足りなければ、また練習をすればいいのです。先に書いたように失敗するスポーツなのでから中学生の野球は通過点です。負けたからと言って何も失うことはありません。段原クラブの選手のみならず、せっかく好きな事をやっているのだから練習は苦しんで下さい。試合では自信あふれるカッコいい顔でプレーして下さい。君達の努力を私は見えています。力をつけています。段原クラブの野球を信じ、自分を信じプレーをして下さい。

第193話/2016.03.07

3月5日(土)、6日(日)山口ミラクルクラブ野球大会に参加させて頂きました。今年は西京スタジアムという立派な球場で試合をさせてもらうことが出来、子ども達にとって良い経験になりました。ありがとうございました。試合は3試合勝ち、決勝戦は雨で中止になりました。生意気に聞こえるかもしれませんが、野球人の目から見て普通にやれば勝って当然の力関係の対戦相手でしたが、中々当たり前の事が出来ず、どの試合も終盤まで勝負を決める事が出来ず、力の差ほど点差をつけられませんでした。

まず失点ですが、3試合でタイブレークを入れて4失点、打たれたヒットは3試合で3本、なぜ4点も取られるのか?これも当たり前の事が出来なかったからです。先頭打者のファーボール、ワイルトピッチ、パスボール、盗塁、スクイズ、ノーヒットで点を取られています。全て防げることです。これからの公式戦で勝ち上がる為に修正しなければいけません。

そしてバッティング、相手投手はスピード普通、コントロール甘い、変化球ほぼ無しというレベル、ヒットはまずまず出ましたが、チャンスで各自の持っている力が出せない。今回は内野ゴロでダブルプレーを3つ取られましたし、ランナー3塁で早いカウントで打ってはいけないボールに飛びついていくなど、頭のミスが目立ちました。このレベルのピッチャーを打てない理由は簡単です。精神的に弱いのか、ボールに手を出すか、自分の打ってはいけないボールを打ちに行くか、全てピッチャーに抑えられるのではなく、自らのミスでアウトになります。要は打ちそこなうということです。一冬越して努力してきた半分以上の選手はある程度のレベルの力をつけています。監督としてではなく、野球人の目から見てこの3試合は最低でも5点以上とれるはずですが、いつも言うように、身に付けた技術、能力を発揮するために精神力と野球頭が必要です。100%スクイズでしか点を取れないチームにスクイズで点を取られるのもバッテリーの頭です。

段原プライド、努力し続けている何人かの選手達、あなた達は過去の段原クラブのバッター達のレベルに近づいています。自信を持って欲しいと思います。守備も打撃も普通のこと、当たり前のことを簡単そうにやる。本当に難しいことですが、そんな選手が一番頼りになります。

今年は試合に多くの人数を連れていきません。新2年生は人数も少なく、力不足です。今は数多く練習する必要があります。新1年生との競争になります。8月末の文部科学大臣杯まで約6ヶ月しかありません。残って練習している選手の様子は必ずコーチから聞きます。土、日の大会の場合、土曜日の練習内容によっては残ったコーチから選手の推薦があれば日曜日の試合に連れていきます。今年の新2年生は試合に行きたくないのか、全く元気がなく、伝わるものがないそうです。

新1年生がたくさん入部してくれて学年を越えた競争が激しくなり、とても楽しみです。新2年生の皆さん、保護者を含めて考え方が変わらないとやることが変わりません。そして結果が変わりません。練習は変わるためにやるのです。

第192話/2016.02.29

2月28日(日)3年生とのお別れ試合とお別れ会がありました。

今年の3年生は11人入部し、1ヶ月で1人辞め、2年生の時に1人が転校し最終的に9人が卒業しました。9人の3年生で全軟県大会準優勝、小学生の時エースだった選手が1人もいない中、2年生の力も借りましたが、2年の秋から3年の春までに各自が努力で成長し、全員がチームのために仕事の出来る選手になってくれました。よく努力したと思います。一方で取り組む姿勢やチームの決まり事を守るという部分で、私は不満がありました。そこで後半は私が試合に行かないという選択をし、子ども達を試合に出すという方法をとりました。正しかったどうかわかりませんが、3年生が試合に出る事が出来た事実が残りました。その点では良かったのでしょうか。

これから進む高校野球という世界はとても特殊な世界です。今までのような考え方では通用しない事がたくさんあります。「ハイ」しか言えない空間で自分を持ち続け、自分を生かしていかなければなりません。私の50年間の野球人生で最も楽しくない3年間でした。1年生からレギュラーで甲子園に出場したのに楽しい思い出がありません。今の時代と違うのかもしれませんが、大差ないように思います。たくさんの苦しい事、辛い事、理不尽な事の中で「野球大好き」これだけは変わらないで下さい。自分を信じ、段原クラブの野球を信じて下さい。野球はスポーツであり修行ではありません。好きだから頑張れる。好きだから「打ちたい」、「捕りたい」、「勝ちたい」のです。

君達のユニフォームを着ている時の顔、本当に良い顔をしていました。高校もその顔でやって欲しいと思います。

1、2年生の皆さん、あなた達の試合で見ている人達に心を動かせましたか？確かに「上手い」「下手」、力が「ある」、「ない」、「強い」、「弱い」、「勝つ」、「負ける」があります。ずっと言い続けていますが、本当に大事な事はそこにはありません。人間は心のある生き物です。行動は心が支配しています。「思い」と言ってもいいかもしれません。野球というスポーツはその心がプレーに出ます。私が目指している「良いチーム」とはそういう事です。ひたむきに心を込めて、練習し、付けた力を全力で試合に発揮し全員でチームの勝利に向かっていく、その結果、勝っても負けてもいいのです。もちろん勝てればそれに越した事はありませんが、たとえ力足らず負けたとしても応援してくれる人達、君達の味方、敵、試合を見ていた全ての人から、心からの拍手を貰える試合が出来る、そんなチームになりませんか？その為には試合だけでなく、練習から変わる必要があります。本当に自分自身に厳しく練習できているのか、自分に問いかけて下さい。好きだから中途半端にやって欲しくないです。悔いのない野球人生なんて無いと思いますが、せめて段原クラブの3年間で悔いを残して欲しくありません。

君達が頑張っている間の協力は惜しみません。しかし、いい加減な選手のために私の時間を使

うつもりはありません。折角の出会い、大切にしたいと思います。

第191話/2016.02.22

なかなか暖かくなならない中、段原クラブはバットを振り続けています。1人ずつ順番にインフルエンザにかかり、中々全員がそろいませんが、故障者の復帰と新1年生が早く入部し人数が増えた事でそれぞれの学年が刺激を受け、何人かの選手の取り組み方が少しずつ変わったように思います。相変わらず何も感じていない選手もいるようですが、私にとっては有り難い事です。レギュラーを決めるにあたって悩まなくていいからです。全員が心を込めて本気で努力されると監督は困ります。自分の甘さに気が付いていない選手は全ての結果が自分に帰ってくる訳ですから、今のままで構いませんよ。野球は自分のためにやるのですから。

2月28日(日)のお別れ試合から3月一杯で14試合組んでいます。中止がなく、たくさんの選手が競争出来ればいいと思っています。プロ野球で言えばオープン戦、この冬練習をし、身に付けた技術、体力を試合でどの程度発揮出来るのか、その為には精神力が必要です。そして状況判断が必要です。2月の中旬ぐらいから私に何人かの選手のスイングが明らかに良くなってきているのが伝わっています。昨年秋より数段レベルが上がった選手がいます。自分がやってきた練習を信じ、自信を持って臨んで欲しいと思います。努力している選手の結果が楽しみです、良い結果が出るはずだと思っています。

遠征の出る時のバス料金の値上がりが凄く、少し悩んでいます。多くの人数を連れていけば1人の代金は下がります。しかし、多くの人数を全ての試合に出すのは中々大変です。試合には勝敗もあります。どうするのが一番良いのか、私の中で決めかねている状態です。お金が掛かる事を決めるのは本当に難しい。私も私の息子もレギュラーで必ず試合に全て出る立場だったのでお金が掛かる事を何とも思った事はありませんでした。しかしチームには色々な立場の人がいます。難しいです。他のチームはどうしているのだろう。いろいろな意見を聞いてみたいと思います。

監督の悩みは尽きません。

第190話/2016.02.15

2月14日軟式野球連盟県少年部の総会があり、その後、広陵高校硬式野球部監督中井先生の講演がありました。私は練習があり、聞けませんでした。色々な内容が普段私の言っていることと同じだったそうです。たとえば、夢を実現するためには常に思い続けること、プロ野球選手になりたければ、思い続けて人よりも多くの練習をしなければいけません。そしていいチームになるためには、保護者が我が子を応援するのではなく、チームを応援できるようになることなど、当たり前のことですが、現実には中々出来ないことです。

今段原クラブは、部員数の減少のためチーム内の競争意識がありません。特に新3年生の内野手は、新2年生の突き上げもなく、ピリピリしたものが全く伝わってきません。にもかかわらず本人達は「努力しています」と堂々と口にします。私も人の親です。我が子はとても大事に思っています。小学校1年生からソフトボールを始め、野球を辞めた28才までずっと厳しく接してきました。なぜか？大事な息子だからです。大事だから可愛いから厳しくする。私の父もそう思って私に接してくれたと信じています。それが子どもの為になると思っていましたし、ためになりました。

保護者の皆さん、特にお父さん、子どもに嫌われるのを怖がっていませんか？ただ怒れと言っているわけではありません。最低限の約束事、毎日のストレッチ、ランニング、素振り、野球ノート、そしてグラウンドでの集中、これぐらい管理しませんか？同じ失敗を繰り返したり、技術が中々身に付かなかったり、状況判断が出来るようにならないのはなぜなのか？やらなければいけない、当たり前のことがおろそかになっていませんか？日曜日からやっと故障者が復帰し、「誰かがポジションを取られるぞ」という環境が出来ました。その選手をどういう使い方をするのか、あなた達යි。今年私は言葉を信用しません。「頑張ります」、「一生懸命やります」はいりません。態度と結果で思いを証明して下さい。あと2週間で実戦が始まります。勝負です。勝負とは勝ちと負けと書きます。勝つ事が全てではありませんが、勝つために全力を尽くすことには価値があります。私は負けるのが嫌いです。チームが勝つ事に全力をかたむける選手、保護者と今年は戦っていきたいと思っています。競争の中でどんなメンバーが4月を迎えるのか楽しみです。

第189話/2016.02.08

受験のシーズンです。小学校から大学まで受験の話をよく聞きます。段原クラブの3年生も同様ですが、私も受験しているような気持ちになります。今、6年生がたくさん体験練習に来てくれます。その中で入部してくれる子どもは2、3割、先輩や保護者から頼まれてそもそも入部するつもりがなく義理で体験に来てくれた人もいるでしょうから、確率はもう少し高くなるかもしれませんが、入部しない子の方が多いのが現実です。私はその度に「あなたと段原クラブは不合格」と言われているような気持ちになります。チームを選ぶ基準は人それぞれで、他にもたくさんチームがあるので比べた結果、不合格という事だと思えます。努力が必要です。しかし私は野球のクラブチームは個人の技術と理論（考え方）を向上させる事に価値があると思っています。なぜかというと、通過点だからです。高校ではチームメイトはバラバラになり、今度は他チームから来た選手とポジション争いをします。そして勝たなければ試合に出られません。その次のステージ（大学、社会人、プロ）も同じです。結局、個人の能力が問われます。その点で今、段原クラブがやっている練習、考え方は正しいと思っています。入部してきた時、ほぼ何も出来ない選手達を高校野球のステージに立てるように個人の能力を上げて送り出す。これからもその為に努力していくつもりです。それを信じてくれる子ども達とグラウンドで思い切って野球をします。

今、高校3年生のOBが土日練習を手伝いに来てくれています。その選手は高校の時、野球でもつらい思いをしました。挫折と言うと少し違うかもしれませんが、気持ちを切り替え、軟式野球で全国大会に2度出場し、大学も合格しました。中学の時、将来の目標は指導者になりたいと聞いた事があります。人の痛みや、回り道や苦しい思いをした彼は必ず良い指導者になれると思っています。私は野球しか伝える事は出来ませんが、グラウンドで私の技術と指導方法を少しでも多く盗んで、彼の引き出しを増やして欲しいと思います。段原クラブの子ども達にとって、とても有り難く感謝しています。この経験は必ず君の役に立ちます。グラウンドで遠慮する事なく、どんどん自分を出して子ども達に君の持っている物を伝えて下さい。私は君の人を信じています。そして段原クラブの指導者のひとりだと思っています。本当にありがとう。

6年生の皆さん、こらからも私は不合格と言われても構わないので何度でも体験に来て下さい。グラウンドでは全員に技術を伝えます。1日練習しただけで変わります。本当の野球の考え方を是非、体験して下さい。

第188話/2016.02.01

2月になりプロ野球のキャンプが始まり又、春の甲子園出場校が決まり少しずつ球春が近づいてきました。今年のセンバツも広島の高校は選ばれず、私がずっと言ってきた野球のレベルアップについていけないのがはっきりしてきました。守備力があるのは当然ですが、それだけでは勝ち上がりません。バッティングのパワーが必要なのです。県予選で全くホームランが出ないようでは上では勝負になりません。もっと数多くバットを振るべきだと思います。1年生の時から続ければ何人かの選手は3年生になった時、遠くに飛ばせる力を身に付けられると思います。

段原クラブは前にも書いた通り2月は練習試合を組まず、ひたすら基本的練習をします。幸いにもグラウンドがしっかり確保出来ているので、バットを振る数、ボールを捕る数を多くし、野球の原点能力のアップを目指します。個々のレベルアップとチーム内の競争がチーム力のアップに繋がるはずですが、今年の選手は練習で手を抜いている選手がいません。まだまだ気迫というか、覇気というか少し物足りなさを感じますが、真剣さは伝わってきます。努力している選手には、少しでも多く試合で良い結果を出させてあげたいのでこれからの2ヶ月、指導者として道を間違わないようにしっかり考えて、練習、試合をしていきたいと思っています。昨年秋に力不足だった投手力、打力、走力、まあ言ってみれば全てですが、「一泡吹かせてやる」と私は思っています。これから2ヶ月で選手達と保護者、スタッフ、チーム全員が同じ思いになれば可能だと思います。

これからの2ヶ月、誰がレギュラーを取るのか、とても楽しみです。私の中で今、決めている背番号は本当に一つもありません。選手全員に期待しています。新1年生も同じですよ、アピールです！！

たくさん6年生が体験に来てくれてありがとうございます。全員に可能性を感じました。みんな入部して下さい。待っています。段原クラブは良いチームですよ。自信があります。

第187話/2016.01.25

寒い寒い週末が過ぎました。野球をするにはとても厳しい気温、たぶんそんな時は他のチームはひたすら走るのかもしれませんが段原クラブではやりません。私はなぜグラウンドであまり走ることをしないのか、いくつかの理由があります。まず、怖いから。事故、ケガなど不測の事態が起こり、最悪は命を落とす事が無いとも限らない。自分で練習している時には人間は無意識にストッパーを掛けるのでケガはしません。しかし、無理やりやらされるランニング、トレーニング（監督・コーチが見ている）時はストッパーが外れます。それが怖いです。次に一人で出来る練習は一人でやるべきだと思います。これが出来ない選手は遅かれ早かれ淘汰されます。夢を語るなら一人で練習出来なければ語る資格はありません。日本のスポーツはつるんで練習する習慣が古くからあり、私はあまり好きではありません。グラウンドでは人数がいなくては出来ない練習をするべきです。素振りやランニングは時間がもったいないです。

今シーズンの段原クラブの選手達は一人を除いて普通の子達です。足、肩、体普通、性格も大人しく厄介な子はいません。この子達が勝負の世界で戦っていくのは大変です。過去の段原クラブの選手達と同じモチベーションで同じような練習では厳しい戦いになります。練習を見ているとこれも普通にやっています。手を抜くわけではありません。私の中では、この冬ずっと物足りなさを感じています。私事ですが、私は体もあり、足も肩もある程度以上の物を持っていました。中学・高校の時、大きな声を出したり、人一倍がむしゃらに練習したわけではありません。それでもチー

ムで一番の成績を残せました。それは努力したものではなく、親からもらったものが大きかったからです。

勝てるか勝てないのか。これはやってみなければわかりません。大事なことは、個人もチームも勝つために目標や夢に向かって精一杯努力することです。そのために殻を破って欲しいです。

「がむしゃらってカッコいい」です。

第186話/2016.01.18

ここのところ、冬らしい気温になってきました。それでも段原クラブはひたすらバットを振り続けています。バッティング練習は試合の勝利にあまり役に立たないかもしれませんが、そんな事はどうでもいいです。「ノックで守備は上達しない」私はそう思っています。打球をいくつさばけるのか、守備力の向上のためにもひたすら練習が必要だと思っています。そんな簡単に試合の結果につながらないと思いますが、出来たら高校でも続けて6年間本気でバットを振り続けられれば、3割程度なら誰でも打てるようになると思います。しかしながら、そういう高校が見当たらないのがとても残念です。元ヤクルトの宮本が守備力が向上してダイヤモンドグラブ賞をとれるようになったのは、試合前の練習で打球を追うようになったからだと言っています。ノックと打球は違うものです。ノックではノックの打球を捕るのが上達します。試合で捕るのは打球、ノックはあくまで基本を覚えるため、下半身を鍛えるためのものです。私は今の練習で守備力も必ずアップするものと信じています。

今年のチームは秋に少し力のあるチームには全く歯が立ちませんでした。それだけに指導者として、とてもやりがいを感じています。どこまで上げられるか今のところ全く見えていませんが、勝つという事に対するプレッシャーが少ない分、昨年より思い切ったことが出来、試合が始まるのが楽しみです。子ども達には新3年生に対して厳しきなることを伝えていますが、まだ本気だと思っていないようなので2月になったらもっとはっきりと今年の方針を伝えたいと思います。「自信と闘志」今年の試合に出るための新3年生の条件です。これが無ければ下級生が試合に出ることになります。練習でひたすら技術の向上に努め、気持ち（心）を込めて試合をする。心を込めるとは表に出すことです。私に伝わらなければ意味がありません。3月にはそんなチームのベンチにいたいと思っています。そして秋に歯が立たなかったチームを慌てさせます。子ども達が少しずつ変わってきているのでそんな予感がします。

第185話/2016.01.12

1月10日（日）広島西野球協議会の理事会と新春の集い（新年会）がありました。今年も一年間始まるのだなと少しずつ思えてきました。私が一番信頼し、信用できるスタッフの大野シニアが脱退してしまっただのが、とても残念です。しかしチームのお付き合いはこれまで通り続けていきたいと思っています。宜しく願います。この冬はあまり気温が下がらずボールを使った練習が思い切って出来ています。今までの段原クラブの歴史で最弱と言われている今年のチームはこの冬、他のチーム以上の練習をする以外チーム力を上げる方法はありません。今、私の中で不動のレギュラーは一人だけ、ポジションは8つ空いています。悲しい話ですが、それだけ個人の力がありません。1月、2月、3月の3ヶ月でどこまで伸びるのか。力のあるチームに対して、昨年秋は10戦

全敗の力をなんとか10回の2回は勝つ可能性を持てるチームに引き上げなければいけません。そのためには、レギュラーの固定が必要だと思いますが、今のところその力を見せてくれる選手が見当たりません。先日子ども達に話をした、今年の段原クラブは「自信と闘志」。自らを信じ、闘う志を持った者だけがグラウンドに立つ。これを貫いていきたいと思えます。もし、そういう選手が9人いなければ試合に出ない、それぐらいの思いです。技術が足りないのですから気持ちで向かっていくしか無いと思えます。しっぽの下がった犬は大嫌いです。チーム一練習し、その練習を信じ、気持ちを前面に出して自分より力のある者に向かっていく、そういう選手と一緒に戦っていきたいと思っています。今年の冬は保護者の方々の努力のおかげで例年より多くの小学生が体験に来てくれています。そして全ての子ども達が今までより強い打球が打てるようになって帰っていきます。

小学生の皆さん、大きな夢があるのなら、この冬遊んでいるひまはありません。段原クラブに入団してくれるのが一番嬉しいですが、そうでなくても一日も早く次のステージを決め、一日も早くしっかりとした練習をするべきです。小学校のチームでお手伝いをしていても力はつきません。自分の夢のために貴重な時間を使うべきです。そして同級生との勝負で一步先に出るべきだと思えます。プロ野球選手は広島県No. 1にならなければなりませんよ！遊んでいる時間もったいないです。何度でも体験に来て下さい。確実に力がつきますよ。

第184話/2016.01.05

1月2日毎年恒例のOB戦を行いました。今年は現役（高校・大学）とそれ以外に分け9イニングを2試合しました。現役でない選手達も久しぶりの野球を楽しんでくれました。現役の試合は高校1、2年VS高校3年+大学生。毎年ですが、当然年上チームが圧倒します。今年は大学生2人の投手が高校生を完封しました。私も2人の投手に挑戦しましたが、外野フライ2つと三振に打ち取られました。久しぶりに本気で打ちたいと思えるようなボールを見る事が出来、興奮し楽しみました。来年は打てるように練習していこうと思っています。

ひとつ高校生の選手に苦言を言います。大学生と試合をして勝てないのは当然です。しかし気持ちで負けていてはグラウンドに立つ資格がありません。技術、体力で負け、精神力でも負ける。折角、自分達より上のレベルの選手と試合が出来るチャンスなのにそれを自分のための生かそうともしない。私は見ていて腹が立ってきました。段原クラブで何をやっていたのだろう。そして今、高校で何をやっているのだろう。はっきり言って高校1、2年生のOBから可能性を全く感じませんでした。大学で野球を続けられる心を持っている選手はいないと思いました。それ以前に高校でやっても今のままではあまり意味はありません。いつも言っている投手はバッターに向かって思い切って腕を振る。バッターはフルスイング、野手は大きな声を出す。基本的な事が出来なければ次はありません。今のままでは段原クラブOBを名乗ってほしくありません。君達の結果が出ないのは自分自身の問題です。

そしてもうひとつ、OB戦は前もってハガキで連絡しています。そこには集合時間（開会式開始時間）が書かれています。毎年遅れてくるOBがいます。年始で色々忙しいとは思いますが。部員や保護者はOBのために何日もかけて、この日のために準備をし、当日も朝早くからお世話をしてくれます。そういう人達の協力で毎年OB戦を行うことが出来ます。OBの方たちも社会人として時間を守ることは仕事の上でも重要なことです。自分の都合だけでなく、他の人のことも考え、時間を守り、折角の1日を楽しく過ごしてもらいたいと思えます。段原クラブとして1年に1回の大切な日です。お願いします。

OBの方々に楽しく野球をしてもらいたいと精一杯やっています。来年もたくさん参加して頂き、現役の選手達に本物を見せて下さい。今回参加してくれたOB、保護者、段原クラブの選手、保護者、1月2日に渚崎グランドに来ていただいた全ての人に感謝します。本当にありがとうございます。これからも段原クラブを応援して下さい。いつでもグランドに来て下さい。お願いします。

第183話/2015.12.28

2015年最後のつづやきです。

本年度の段原クラブは全軟県大会準優勝や日刊大会優勝など、勝ち負けの部分では良い年だったと思います。しかし私の中ではそれで？という1年でした。チームとは組織とは何？と考えた時、疑問に思う事が沢山ありました。もちろん試合には勝った方が良いと思います。そして野球のクラブチームなのでから技術が高い方が良いでしょう。しかしその前にひとりの中学生として、人として、どう？親としても子どもに対してどう？それが最善？そんな事を考えた1年だったように思います。人間は平等ではありません。生まれながらに体の大きさがちがい、スピードがちがい、力強さがちがいます。何倍努力してもどうにもならない現実が確かにあります。たいした努力をしなくても打ったら飛ぶ子、そもそも足の速い子、体の大きい子、結局その子達が試合に出ます。それが勝負の世界の現実です。この1年間はずっとそんな事を考えていました。なにが正解なのか？そもそも答えはあるのか、私の中ではまだわかりません。

ただ今言えることは「勝負は結局力の世界」だという事です。しかし中学生の子ども達に言うておきます。人としての能力、そして魅力が数え切れないほどある中で、野球が出来るなどというのはほんの小さな一部分でしかありません。プロ野球選手になれば、野球さえ出来れば人間性などというものは全くのクズでも何億円というお金を手に入れることが出来ますが、そんな選手は何万分の一程度です。クラブチームなので力のある子が試合に出るのが正解なんだと思いますが、私は頑張っている選手、心が伝わってくる子どもが大好きです。そういう選手が良い結果を得られるような指導者になりたいです。今の所は完全に力不足ですが、チーム1努力している選手がチームの中心にいるようなチームになればいいと思っています。

12月になり、保護者の皆さんの努力のお陰で6年生が昨年と比べて数多く練習の体験に来てくれています。1日ですが少しでも本物を伝えたいと思い接しています。彼らの今後の野球人生に少しでもプラスになってくれればと思っています。同じチームで出来るかどうか私は縁だと思っています。縁あって出会い、縁あって同じユニフォームを着る、それを大事にしたいと思っています。是非、3年間信頼関係を続けていける選手に入団してきて欲しいです。来年、私は少し思い切ったことを考えています。現実にそれが出来るのか、自分にそれだけの度胸と自信があるのか、今ははっきりとしたものが見えていませんが、そしてそれが本当に子ども達や段原クラブのためになるのか、それもわかりません。

選手達、保護者の方々、特に1、2年生の皆さん、秋に結果が出てないのでから、春になりメンバーが一緒の訳ありません。しっかりとした覚悟を持って来年に臨んで下さい。はっきりと伝えましたよ！！

第182話/2015.12.21

『喉元過ぎれば熱さを忘れる』、段原クラブの選手達は3週間前の2試合連続コールド負けという屈辱を完全に忘れてしまったようです。特に中心としてその試合に出ている責任を背負う必要のある選手が、練習での緊張感を欠いているように見えます。今の時点で明らかかな力の差を見せつけられたのにも関わらず、練習に取り組む姿勢、集中力、そして内容がそれまでと変わらない。生まれて13、4年間で出来た差を4ヶ月で埋めようと思えば劇的な変化が必要です。少し変わった程度では近づく事さえ出来ません。段原クラブでは今まで一冬超えて毎年、他チームとの差を埋め、勝負出来るチームになり戦ってきました。しかし今年のチームは、今までに感じた事が無いような大きな差を感じます。2年生の中での競争が無い、1年生からの突き上げも無い。試合でチームの役に立つ事が出来ない選手でも変わりがいないという理由だけで試合に出られてしまう。そしてこの程度なのに、親子共々少し力がついた程度で満足し、その上を目指して努力しない。勝負にはならないでしょう。私は常々「勝つ事が全てではない」と言っています。しかし、勝つために全力の努力をする事は絶対に必要だと思っています。まずチーム内の競争に勝ち、チームとして広島No.1を目指す。その過程の中で個人のレベルがアップし、高校野球に繋がっていくと思います。今年のチームが冬を越して今までのような手応えを感じる事が出来なければ、私が考え方を、そしてチームの作り方を劇的に変えなければいけないかもしれません。何度チャンスを与えても変わらない上級生より、可能性を感じるものがあれば、新1年生を抜擢するぐらいの思い切った事が必要になるかもしれません。

12月20日(日)体験の小学生が数人来ました。段原クラブは体験メニューではなく、通常の中学生のメニューに入って同じ練習をします。ロングティー、フリーバッティング、ティーバッティングいつものように段原クラブはバットを振ります。日曜日は合計約250スイング。全くボールが飛ばなかった小学生が、タブレットで撮った映像を見せながら正しい下半身を使ったスイングを指導すると全員外野に打球が飛ぶようになります。それにしても毎年思いますが、なぜ小学生はスタンスが広いのでしょうか。あれでは腰の回転のスピードが出ないばかりではなく、ボールを引きつける事が出来ず、確率は上がりません。正しい技術を1日指導するだけで確実に打球が変わります。小学校6年生の皆さん、いつでも体験OKです。たくさん打ち、ボールが遠くに飛ぶ喜びを感じて見て下さい。

第181話/2015.12.14

12月13日(日)来年3月の山口ミラクルズの大会案内を頂きました。喜んで参加させて頂くことを伝え、今年のカレンダーを見てみました。今年は春先の練習試合をひかえしっかり練習し、基本的能力のアップに努め、3月、4月に試合を多くこなし、全軟に入る方法を取りました。それが良かったかどうか分かりませんが、大会ではある程度自分達の力を出すことが出来ました。良かった事を変える必要はないので、来年も3月5日(土)、6日(日)と連絡を頂いた大会を初試合とし、それまでは、しっかり足を地につけた当たり前の練習をしっかりこなし、個々のレベルアップにつなげたいと思っています。秋の大会でのみじめな惨敗を全員が忘れること無く、集中した冬の練習になる事を望みます。この冬でチームも各個人も変わる事が出来なければ彼らの野球人生は負け続けほぼ18才で終わる事でしょう。長く野球を続けるためにも本当に大事な冬になると思います。

12日(土)段原クラブの忘年会がありました。たくさんの保護者の参加でとても盛り上がり良い会だったと思います。特に二次会のカラオケには20数名の参加があり、こちらが止めなければ

朝まで終わらないもではないかと思うほどのお父さん達パワーに驚かされました。ほとんどのお父さんが、元気で明るく、弾けている姿をみていて、子ども達はなぜ、同じ血、DNAを受け継いでいるのにグラウンドで出来ないのか、不思議に思いました。段原クラブが目指している野球は「自分達で考え、自分達でやり、そして自分達が最高に楽しむ、そのためには勝った方が面白い」です。子ども達もしっかり声を出し、自分を表現し、弾けるように野球に取り組める素材は持っているはず。それが思い切っただけで出せないようにしているのは私かもしれない、そんな事をお父さん達を見ていて感じました。ふざけたり、いい加減ではなく、心から好きな野球を試合で楽しむ、楽しむためには苦しく厳しい練習が必ず必要です。その苦しさも厳しさも全て自分自身のため、自分が試合を楽しめる為にやることです。私は最近子ども達に「練習をしなくても、指導を聞かなくても構わない、君達の野球人生なので自分で責任を取りなさい」と言います。しかし、私を信用、信頼し、本気で練習に取り組んでいる子どもには少しでも長い、そして意味のある野球人生になるように私の全精力を傾けようと思っています。「本気でやっている選手のために1日の中で「監督が一番長くユニフォームを着ている」を続けていこうと思っています。好きな野球、そしてそのユニフォームを長い時間着ていられるのは幸せなことですし、私を必要としてくれる選手がいる事に感謝し、彼らの役に立てる技術、練習方法、考え方、少しでもレベルアップ出来るように勉強したいと思っています。

第180話/2015.12.07

「チーム力は投手力」野球の勝敗は100%投手の力だと思っています。段原クラブは希望者が投手をします。今、1、2年生で8人が投手をやっていますが、小学校で経験のある選手はほとんどいません。経験が無いとマウンドさばきや牽制、バント守備などの時間が必要になります。私は出来るだけ投げる数を少なくして投手力を上げたいと思っています。俗にいう投げ込みは一切していません。なぜか？故障を防ぎたいからです。一番大事にしているのは正しいキャッチボールです。ピッチングはキャッチボールの延長だと思っています。土曜日の練習で一人ずつフォームチェックをしました。コントロールは正しいフォームで作るものです。そしてそれが故障を防ぐためにも大事な事です。あくまでもスピードよりコントロール、スピードアップは投げ方ではなく、体作りで上げるものだと思います。140km/hのストレートを投げたければ140km/h投げられる体を作る事です。身体能力が無いのにスピードを上げようとすれば、必ずフォームが乱れ故障につながります。まず正しいフォームを身に付け、身体能力を上げ、コントロールとスピードをアップさせるべきだと思います。この事を投手を希望している選手達にしっかりと伝えたいと思っています。1日フォームチェックしただけで日曜日には確実に全員が少しずつですが、ボールが変わりました。結果を急がず、この冬は徹底的に基本を大事にして投手を指導していきたいと思っています。バッターも同じように飛距離を伸ばしたいのなら体を作る事です。体の力以上を求めると確率が下がります。フォーム、タイミングもちろん大事です。そして体の力を上げる事も同じように大事な事です。

この冬からタブレットPCをチームで購入し、子ども達の投げている姿、打っている姿を本人に見せるようにしました。私が言っている事、そして自分が頭で描いた事が正しく体で表現出来ているのか？自分の感覚と実際のプレーの形の違い、思っている形ができていないのか？出来ていないのか？映像で見ることによって確認でき、より早くイメージと現実のプレーが近づいていけると思います。やっているつもりでも実は出来ていないことが子ども達にはたくさんあります。見ることで

本人が納得でき、より素直に練習出来るようになると思います。投げる、捕る、打つ、走る、全て正しい形があります。理にかなった方法をとる方が確率は上がります。口で説明しても伝わらない事が、子ども達に少しでも伝わりやすくなって欲しいと思います。当然、数多く練習することは必要です。しかし、何も考えずにただ走っても、投げて、打つても技術の上達はあまり望めません。まず頭の中でしっかり理解し、それを体で表現するために常に意識し、数をこなす、練習とはそういうものだと思っています。ただグラウンドだけの練習では人より上には上がりません。ひとりの練習は絶対に必要です。

3月までの4ヶ月、段原クラブの選手達が変われるのか、変わらないのか、君達の考え方しだいです。

第179話/2015.11.30

はじめに断っておきます。私はチーム名に「さん」などの敬称はつけません。なぜなら、日本語としておかしいと思うからです。それだけで他意はありません。あしからず。

11月29日(日)山本浩二旗の準決勝で広島スターズと対戦することが出来ました。野球人の目で冷静に見れば、今10回対戦して10回負ける相手です。先発メンバー9人で比べると1勝8敗、とても相手になりません。10月12日(祝)に広島スターズが県大会を10日(土)、11日(日)と戦った後、心も体も疲労困憊の状態でも勝てませんでした。今のチーム力はそれぐらいの差があります。段原クラブは正しい練習をしています。そして2年生も確実に少しずつですが、力がついてきています。しかし、そもそも10ヶ月前にはカープジュニア(6年生)と試合して2試合連続で完封されたメンバーです。それでも新チームになり、甲山ジャガース大会で勝ち、県議長杯では決勝まで進み、今回はベスト4まで来ました。私は今「このメンバーでよく勝てるチームがあるな」と思っています。少し勝てる試合があった事で選手も保護者も勘違いしていたと思いますが、0対7これが現実です。(5回コールド負け)

私は広島市軟式野球連盟に入った時から常に広島スターズを基準に考えてきました。バッターなら広島スターズのピッチャーが打てますか?ピッチャーなら広島スターズの打線を抑えられますか?守備は、走塁は、どうですか?そしてチームとして勝てますか?なぜなら、広島で1番の子ども達が入部し、1番練習して、1番勝率の良いチームだからです。そのチームを基準にしなければ高校野球で活躍することは出来ないのです。私は高校時代、愛知県で野球をしていました。(愛工大名電高校)愛知と言えば中京高校(現 中京大中京)です。中京に勝たなければ甲子園には行けません。練習の時から常に中京の選手を意識していました。そのせいかわかりませんが3年生の時、3回対戦して全て勝ちました。決勝でまさかの東邦に負けて夏の甲子園には出場出来ませんでした。常にトップチームを意識し、自分がそれを超えてトップになるんだと思いながら練習したものです。それがプロ野球につながったと思います。今の段原クラブは最初に書いたように10回対戦すれば10回負けます。私が言いたいのは結果の話ではありません。言い方が悪いかもしれませんが、「スターズをいわしたる」ぐらいの気持ちで練習そして試合にのぞんでいる選手が見えないのが残念です。私は小さい頃から負ける事に慣れていません。負ける事が大嫌いです。最初から勝負しないやつ、向かっていかないやつ、しっぽが下がっているやつ、そして負けても悔しがらないやつ、全て嫌いです。どんなに努力しても頑張っても出来ない事、勝てない事はあります。持って生まれた身体能力、どうしようもない事もあります。そんな事は50年も野球をやっていれば承知しています。グラウンドで大人しい良い子は必要ありません。熱くならないやつは段原クラブにはいら

ないのです。

勝った負けた結果ではなく、練習から試合終了までお前達は全てを出したのか？そして負けた後、その日からお前達は何をしたのか？私が言いたいのはそういう事です。

第178話/2015.11.25

11月21日(土)、22日(日)、23日(祝日)と3日間は久しぶりにしっかり練習出来ました。新チームになってから試合は多く中々時間をかけて練習をする事がなく、バント守備、牽制、中継プレー、ランダンプレーなど最低限チームとして出来なくてはいけない事を練習する時間をとれました。これらのプレーは1年生の時に覚えておかなければいけない、下半身を使ったスローイングなど基本的な考え方が出来れば、それ程難しいものではありません。本来2年生の時には、当然身に付けておくべき技術、考え方がまだまだの選手がおり、「本当に野球が好きなのですか？」と問いかけたくなります。バッティングに掛ける時間は誰でも沢山取ります。バッティング練習は自己満足のためですし、長い時間をかけてもそれほど疲れません。走ったり、捕ったり、投げたりする練習に比べればはるかに楽なものです。私の中ではバッティングはやって当たり前、やらない人間は野球の世界からなるべく早く身を引くべきです。

22日(日)出島グラウンドにOBの高校生、大学生、社会人の選手が4人手伝いに来てくれました。バッティングピッチャーやノック、ティーバッティングの指導など1日子ども達のために動いてくれました。段原イムズを持った選手達は私やコーチ達と同じ考え方で選手に接してくれるので信頼して任せる事が出来ます。子ども達にとっても、同じ指導でも現役の先輩達と練習する事で新鮮な気持ちで受け入れられ良い刺激になり、有意義な1日になりました。比嘉、安達、島川、入江、本当にありがとうございました。君達の野球人生、そして人生にもプラスになってくれればありがたいです。OBの皆さん、いつでも大歓迎です。現役の選手でなくても子ども達には必ず得るものがあります。力を貸して下さい。お願いします。3日間の練習を見ていて1、2年生の選手達がこの2ヶ月で確実に少しずつですが力をつけていることを見せてくれました。チーム力はまだまだ力不足の部分がたくさんありますが、今の取り組む姿勢を続けていれば君達は強くなります。

段原クラブの練習、考え方は君達の成長を見て間違っていないと改めて確信しました。指導者、スタッフ、保護者、選手の皆さん、お互いを信頼し「見ている人達の心を動かせる野球」が出来るチームを目指してこの冬、一層の競争を望みます。本当の力がつくのは自分で考えてやる平日練習、個人練習です。このところ集中して自分を追い込んでいる選手が多くなっています。楽しみです。

第177話/2015.11.16

11月14日(土)15日(日)の2日間、府中オーシャンズ親善大会に招待され参加させて頂きました。1日目天気予報の悪い中、1試合、試合をする事が出来ました。2日目は2試合、計3試合2勝1分(抽選負け)でした。守備では先頭打者に四球、打ちとった打球を内野安打、中継が繋がらない、ランダンプレーでは時間がかかる、打撃ではチャンスで1球目にスイング出来ない、ストレートを狙って遅れる。走塁では積極的なスタートが切れないなどミスはたくさんありました。いつも言っている「当たり前の事」まだまだ出来ない事がたくさんあります。しかし新チームになり、まったく勝てない試合が続き、故障者も出てチームとして大ピンチでした。その中で何人かの

選手はもがき、苦しみ、努力を重ね少しずつ変わってきました。特に児玉はたったひとりで全てを背負い敗戦の責任を感じ、今までにない経験をしてきました。本来、新チームは2人で背負う予定がひとりになり全てのものを抱えています。彼にとってはとても良い経験をしたと思います。やっと2、3人、彼が背負っている物を少しずつ分担出来るようになりました。その為少し試合になるようになってきました。2日間で得たもののある選手は、初めての試合で先発し完封した富樫、大事な場面でファーストストライクをスイング出来た守内、ここ一番で一番のスイングが出来た西、試合の途中でピッチングを修正出来た橋田、そしてタイプレクになり何も言わなくても集中し、大きな声を出し本気で勝ちたいと思っていた選手全員、この2日間を忘れないで下さい。段原クラブは間違っています。あきらかに身体能力に勝るチームに初めて試合に出るような1年生を出しても決して引けをとらない試合ができるようになるのです。私が予想していた内容よりは上の2日間でしたが子ども達を誉める事はしませんでした。なぜか？段原クラブだからです。段原クラブが目指しているのは、目先の勝利ではありません。監督がベンチで黙って座って、何もしなくても子ども達の力で広島県No. 1になる事です。とても遠い道なのはわかっています。しかしそこを目指さなければ高校に行き、その先の野球人生において自分で考え、自分で練習し、自分で結果を出す選手になれません。監督の操り人形に先は無いです。私はそう信じています。高校に行きバットを振れなくなっていく段原クラブの選手を見る度にとても悲しい思いになります。みんな、自分がやってきた野球、段原クラブの野球を信じ貫く勇気を持って下さい。「段原プライド」です。1、2年生19人、今までの段原クラブでは最も少ない人数です。この人数では結果が出ない選手でも試合に出る事が出来ます。チーム力、個人の力を上げるために競争が絶対に必要です。何十人もの部員は必要ありませんが、3学年で40人。チームとしても子ども達にとっても最適な部員数だと思います。そのために段原クラブの魅力を全員で発信していきたいと思っています。6年生の皆さん、ぜひ練習に来て下さい。1日で野球の本当の面白さを伝えます。1日で打球が飛ぶようになりますよ！！段原クラブの歴史で1番小さな4番バッターの大西、全ての練習、試合で1番声を出し、試合で結果が出ようが出まいが遠征から帰って来たその日も当たり前のように練習する、良い悪いなんてどうでもいい、ただただ感心しています。続けて下さい、私は君の努力に対して全ての力で答えます。くずくず愚痴を言っている奴ら、まず大西ぐらいやってみろ！！

第176話/2015.11.09

11月8日(日)プレミア12対韓国戦を見ました。日本の頂点にいる選手を見ることで自分自身の野球眼の曇りをとるためです。私がいつも言っている「今の選手が一番上手い」その通りの力を見せてくれました。20代前半から中盤の選手達が堂々と持っている力を発揮するのを見て技術の高さはもちろんですが、精神力の強さにも驚かされました。自分が20代の頃、技術はもちろん精神的に弱く試合で力を出せなかったのと比べて、今の選手達の強さに只々関心します。試合は5-0と日本が一方的に勝ったように見えますが、その中で2つのプレーにプロ(それも一流)の凄さを見ました。その2つとは、内野にとっても良い当たりのライナーが飛んだ時のランナーの帰塁です。小・中・高校生の野球でよく見かけるライナーゲッツーになる打球です。打球の高さや、点差、インニングなどの状況をしっかり判断し飛び出さず帰塁する。アマチュアが中々出来ないプレーです。段原クラブでは走塁練習の中で打球の高さで判断できるように指導しています。年々ライナーゲッツーはなくなってきました。プロ野球選手は打つ、投げる、捕る当然凄いに決まっています。それだけでなく走塁だったり、状況判断(頭)がアマチュアと違います。プロ野球を見る時、配球や守

備位置の取り方、打球方向など、プロの状況判断を意識して見るともっと野球が深くなり、面白くなります。小・中・高校生の皆さん、野球は頭と足でやるものです。

新入部員の勧誘の時期になり、保護者が話し合いその中で保護者同士が少し陰悪になりました。私は代表の立場で両者ともいさめました。2人とも思いは同じ、段原クラブが好きでなんとか良くしたいと思っています。だから熱くなるのです。私は新入部員を勧誘する時、部員や保護者が本気になれるかどうかは本人の思い次第だと思います。自分が1年なり2年経験して、本当にいいチームだと思えば素直に言葉が出るし、そうでなければ出来ません。卒団生の中にも様々な思いの人がいるでしょう。私は長い間、子ども達と保護者を見てきました。在団中に思い通りにならなかった場合、ほぼ自分の努力不足だと言いません。誰かのせいにはしたくないものです。野球チームの場合は、指導者だったり、チームの責任にして自分を正当化します。まあ、だからそんなものなのですが、私も結果が出せないことを人の責任にしたことがあるので良く判ります。話は逸れましたが自分の力を高めるためにはライバルが必要です。その為にもある程度、部員の数がいなければなりません。努力をせず、力もない選手が試合に出続けるのは間違っています。向上心を持ち、負けることが嫌いな野球大好き少年がひとりでも多く入部してくれることを期待します。

第175話/2015.11.02

10月31日(土)私は20年ぶりに小・中学生時代を過ごした愛知県蒲郡市に帰りました。その日の夜に愛知県南知多町の民宿で高校野球部の同窓会があったので足を少し伸ばし、出身中学校をのぞいてみたくなったのです。土曜日という事で急に行き行って閉まっていたとは思って、前もって訪ねたい旨を校長先生に電話すると、なんと中学校野球部の2年先輩、お互いビックリです。折角来るのなら野球部の後輩を指導して欲しいという事になり、午前中2時間程でしたが初めて母校での野球教室が実現しとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。中学校は私が通っていた40年前とほとんど変わらず、記憶が次から次へと甦り中学時代の楽しかった頃の気持ちに少しなれました。あの頃は打っても届かなかったレフト側のフェンスがとても近く感じ、中学時代の力の無さと自分の成長を感じました。短い時間でしたが、本当に楽しく懐かし時間でした。蒲郡市立三谷中学校の先生、生徒の皆さん、そして千葉先輩(校長)ありがとうございました。是非、また行きたいと思えます。

私は名古屋電気高校(現 愛工大名電高校)出身です。高校卒業以来、4、5年に一度ぐらいのペースで野球部の同窓会をやっています。今年、4年振りに集まろうと話が盛り上がり、初めて当時のライバル校、中京高校(現 中京大中京)、東邦高校の同級生にも声をかけようという事になりました。愛知県私学野球校3強そして公立の雄、大府高校のエースも駆けつけ18人集まりました。高校3年間、夢の甲子園を目指し、しのぎを削ったライバル達、56歳になるまで一度も話をしたことのなかった者たちが38年経ち一緒に風呂につかったり、酒を飲み、そして語り明かしました。思っていたよりも数十倍楽しく、面白く、人生の中で甲子園出場が決まった日、ドラフト会議で指名された日よりも興奮し、心の底からライバル達全員を大好きになれた良い一日でした。高校2年の夏に中京にサヨナラ負けし、中京が甲子園に行き、秋には中京、東邦に勝ち名電が春の甲子園に行き、最後の夏は決勝で東邦に負け、東邦が甲子園に行きました。3校の中で勝ったチームが甲子園という戦いをした当時は大嫌いなライバル、56歳になって、まさかこんな日が来るとは誰も思っていないでした。この同窓会を企画し、準備してくれ、そして集まってくれた仲間感謝します。青春を野球に賭けた3年間、話は甲子園や勝った思い出より、練習や上下関係の苦労話ばかり、

練習の苦しさは東邦が一番、彼らが甲子園で準優勝したことに納得しました。名電の練習がダントツで楽でした。甲子園で勝てなかった訳です。私は常々、甲子園はその県で一番練習をしたチームが行くべきだと思っていました。その通りの結果だった訳です。参加した全員が甲子園出場していますが、全員高校野球に悔いを残していました。「もう少し、あの時努力していれば」この思いはみんな一緒でした。

中学生の皆さん、愛知県の私学野球校3強全チーム甲子園の優勝経験があります。そして甲子園出場を果たした全員に残っている悔い、どんなに努力しても残るものかもしれませんが、まず今の一日を全力で、そして大きな夢に近づいて行って欲しいと思います。次は60歳、4年後の再会を約束して帰りました。みんなが次も思い切ってお酒が飲めるように健康で、今回よりも多くの仲間が集まることを願っています。本気で野球をすると本物の仲間が出来ます。

第174話/2015.10.26

段原クラブは今、苦しんでいます。新チームになり、ある程度苦勞するだろうとは予想していました。レギュラーの捕手不在と2年生の時から試合経験のある投手が伸び悩んでいます。チームの中心が1枚抜けると全ての歯車が回らなくなってしまいました。小さくてスピードの無い体の選手達をどうやって結果を残せるようにするのか？私の持っている指導者としての力をフルに使ってなんとかしなければいけません。今までやっていた練習内容を見直す必要も含めて考えなければならぬと思います。全体練習だけでは間に合わない選手達にはマンツーマンの個人練習が必要です。そのためにスタッフの出席率の向上、練習時間の確保など子ども達だけでなくスタッフの意識も変えたいと思います。部員の減少もあり、段原クラブは今、全員が本気にならなければいけない時だと思っています。

私は野球人生であまり負けた事はありません。小学校の時はソフトボール、中学は学校の野球部、両方ともその地域では優勝しました。高校では甲子園、負ける事は本当に嫌です。「よく負けても楽しくやれば」と言っている人がいますが、負けて楽しかった事は一度もありません。しかし、やるのは子ども達なので彼らがどう思っているかです。今までの野球人生で負ける事に慣れてしまっていると変わらない可能性があります。自分が試合に出られれば満足、ヒット1本でも打てば大満足、試合の結果は二の次、三の次、まさかこんな考えの人はいないと思いますが？練習は個人の能力をひたすらに磨き、伸ばす事に集中します。身に付けた能力をチームのために試合で発揮する、持っている力を100%出す事が勝利に近づきます。今年の選手達はまだまだ力は足りませんが、それ以上に自分の力を試合で出せない所が大きな問題です。メンタルの弱さ、私に何が出来るのか？練習の厳しさが必要なのか？それとも逆に甘くした方が良いのか？試合中にはどう接すればいいのか？今の子ども達に私は合わないのか？はっきりいってわかりません。

努力している選手に結果を出させてあげる事が出来なければ指導者として不適任だという事です。来春までの約半年、私と子ども達の野球人としての力量が問われる冬になります。

第173話/2015.10.19

先日ある大会の代表決定戦の日程が10月25日(日)だと連絡がありました。急な話ではあったが、ラッキーな事にもう一度チャンスがもらえる事に素直に喜びました。それがなんと10月1

7日(土)に都合の悪いチームがあるので抽選で代表を決めると電話が入りました。私は何をいつているの? 大人がそんな事を本気で言っているのが信じられませんでした。大会とは? 日程とは? そして参加するとはどういう事なのか。そんな基本的な事もわからず勝負の世界に関わっている大人がいる、なぜ? そもそも南部で県大会の欠場チームが出て、その枠が西部に回ってきたらしい、まず県大会を学校行事で欠場するチームは最初から予選に出るな!! 無責任です。1日で終わらない大会に出る場合、最後まで出場で来る事が参加の最低条件です。誰にでもわかる常識です。そして大会は大会本部が日程を決めます。それに対応出来れば参加、出来なければ不参加又は棄権、これも極々当たり前の常識です。ましてや大会本部が参加チームの事情を聞き、それに対応するなどという事はあってはなりません。なぜなら、一部のチームに有利になるようなことは勝負の世界ではあってはならないからです。ましてや都合の悪いチームがいるから試合をせず抽選などという考えは明らかに不正です。当然段原クラブとしては抽選に反対を訴え、25日(日)にグラウンドがないという大会本部に対し、その日のうちにグラウンドを確保し連絡しました。そして10月18日(日)なんとあった連絡は24日(土)に試合をするという事でした。なんとという茶番、こんな結果になるといろいろと詮索したくなります。そもそも誰か試合をしないで抽選に持ち込みたいの? なんて思われてもしかたありません。段原クラブには25日(日)だとしか連絡がなく、グラウンドを押さえたのになぜ24日(土)に変更になったのか、その返答とは25日(日)は打診をただけで決定ではないとの事、そして、では、どのチームが25日(日)の都合が悪かったのかと聞くと段原クラブには関係ないから答える必要がないとの事、大いに関係ありますよ。うちが反対しなければそのチームの都合で子ども達にとって一生に一回の試合(大会)がくじで決められる所だったのですから。「くじを引いた方が勝ち残る確率が高いとでも考えた人がいるんじゃないの」なんて言葉が、どこかから聞こえてきます。

私がこの件に関してここに書いた事、全て事実ですし、私の本心です。そして段原クラブの考え方です。異を唱える方がいれば、いつでも話をします。野球に限らず勝負とは、大会とは、日程とは、全てのチームに平等でなければなりません。決まったものに対応できなければ、不参加、棄権以外の選択はありません。一部のチームが利益を得る事は決してあってはならないのです。そして前からずっと言い続けていますが、次のステージがある大会の代表を決める試合が抽選は絶対ないのです。なぜなら子ども達はいろいろな事を辛抱し、苦しい練習に打ち込んでいます。それは試合で自分達の努力を発表するためです。くじ引きをする為に頑張っているのではありません。大会本部の方々には日程を決めたり、グラウンドを確保したり、試合を運営したり、審判をお願いしたり、大変な仕事なのは重々承知しています。いつも感謝しています。しかし、私達指導者と同じで自分で選んだ道です。ちゃんとやって当たり前だと思います。私は思った事をはっきりと口にするので敵が多いと言われます。しかし、子ども達にもいつも言っていることですが、生物の中で人間だけが言葉を持っています。使わない方がおかしいです。正しいと思った事を堂々と発言する、なにが悪いのかわかりません。先ほど書いたように、私は他の意見を聞く用意もあります。自分の名前も隠していません。段原クラブの鈴木伸良です。ここに書いている事に責任を持っています。

第172話/2015.10.12

10月11日(日)卒団式がありました。2年生になる時に親の転勤で名古屋に行った政岡が来てくれました。彼は引っ越ししたことで2つのチームを経験しました。彼の「段原クラブの選手は自分達が恵まれている事に気づいていない」という言葉は私にとってとてもありがたいものでした。

今の自分達の環境が野球をするためにどれだけ恵まれたものなのか、1つのチームしかしらない子ども達にはわからないかもしれません。何人の子どもが政岡の言葉を受け止めてくれたかわかりませんが、気が付いてくれる子がひとりでもいればと思います。段原クラブが常に言い続けている3年の最後が一番上手い、そうなれるようにこれからの3年生の取り組みがとても大事です。本気で練習に集中する3年生だけが練習に来て、1、2年生の見本になって欲しいと思います。

10月12日(祝)県新人戦の西部予選がありました。文部科学大臣杯県大会で優勝した広島スターズと試合をすることができ、子ども達にとって練習ではすることが出来ない大きな大きな経験をすることが出来ました。個人の力、チームの力、今何か出来て、何が出来ない。本物のチームと対戦するしか知ることの出来ないもの、少し各自が見えることの出来た試合でした。私としても、大事な場面で何が出来るか、そして何が足りないのかありがたい試合でした。ありがとうございました。明らかに個々の能力に差があるチームに、これからチームとして個人として何をしていかなければいけないのか、これからの6ヶ月、彼らの野球人生において重要な時間になると思います。試合に勝った方が楽しいに決まっています。しかし、悔しい気持ち、それが子ども達を大きくしてくれると思っています。カープが負けた時、大瀬良投手が泣いていたようにサヨナラのミスをした選手は泣いていました。私はいつも子ども達に大きなミスほど早くした方が良いと言っています。よかった！！高校の夏の予選ではなくて。これからいくらでも取り返すことが出来ます。「ひとりで勝つ事は出来ないが、ひとりのミスで負ける事は出来る」私がいつも言っている事です。明日は我が身、他の選手も他人事だと思わずに努力し続けるしかありません。

卒団式でも言いましたが、段原クラブがやっている練習、考え方、指導方法、私も他のスタッフも自信を持っています。自分達とチームを信じて全員で目標、夢に向かっていきたいと思っています。

第171話/2015.10.05

ラグビーのワールドカップが盛り上がっています。サモアとの対戦の前に特番(テレビ)がありました。その中で日本代表の中で一番小柄な168cmの選手が紹介されていました。その選手はワールドカップに出発する前、奥さんにこう言ったそうです。「俺はこの大会で死ぬかもしれない、そのぐらいでやらないと勝負にならないから、その時は再婚して幸せになってくれ」この言葉を残して旅立ったそうです。私は2試合日本の試合を見ましたが、本当に言葉には嘘はないと思いました。190cm110kgぐらいの外国人選手に立ち向かっていく、そして勝つためには半端な気持ちでグラウンドに立つ事は出来ません。ひと昔前ではテニスもラグビーも世界で戦えるなんて誰も思っていませんでした。長い歴史の中で努力に努力を重ね、何度も跳ね返されながらあきらめずやってきた事が結果に出ているのだと思います。私は野球しか知りませんが、日本の中で野球選手は本当に恵まれた環境にいます。今回のラグビーの試合は皆さん見るべきです。自分の甘さに気が付く事が出来ます。簡単に死に物狂いだとか、必死だとか、自分は努力している、頑張っているとか恥ずかしくて口に出来なくなります。今回の大会でベスト8に残れなくてもブームに終わる事なくラグビーの応援をしていきたいと思っています。野球をやっている小学生からプロの皆さん、全ての選手、自分達の環境に甘えていませんか？段原クラブの選手達、軽々しく努力を口にしない方がいいです。ラグビーの選手に笑われます。

新チームになって6試合程しました。2年生12人中2人怪我をしているので10人、ほぼ毎試合出られます。たいした結果が出なくても、それ程努力しなくても大丈夫な感じです。

私は今感じています。とてつもない物足りなさを。もう少し我慢しようと思っています。しかし

いつまで我慢できるか??新チームになった時、子ども達に言ってあります。「新チームからは妥協しません」、同じ物足りないのなら下級生を使うかもしれません。一桁の背番号に値しないのならその番号を無くすかもしれません。段原クラブの歴史の中でプライドと責任を持って背番号を背負って戦った先輩に失礼は出来ません。チームスポーツという事をもう一度保護者を含め、チーム全員が心に刻んで欲しいと思います。

第170話/2015.09.28

シルバーウィークの19日(土)、20日(日)の2日間、島根県隠岐・西ノ島に関西独立リーグ兵庫ブルーサンダーの若者達とプロ野球OBのおじさん達で町を元気にするイベントに参加しました。素晴らしい天気と空気、美味しい食事と景色、そして久しぶりの硬球での野球を心から楽しませてもらいました。ありがとうございます。木製バットでのホームラン競争でオーバーフェンスを打つことが出来、バッティングは健在な所を見せられましたが足はまったく動きません。1週間以上たった今も左膝の痛みがとれません。減量と下半身トレーニングの必要をつくづく思い知らされました。日曜日の夜遅くに広島に帰ってきましたが、あまりの疲れの為、このつぶやきを1週休ませてもらいました。人口3,100人の島に中学校はありますが、野球部は部員不足でなくなったそうです。やりたくても出来ない子ども達が日本中にたくさんいます。出来る事が当たり前だと思っている中学生の皆さん、君達は恵まれています。まして段原クラブの選手達は打とうと思えばいくらでも打てる場所があります。理不尽な根性トレーニングはありません。負けたからといって罰のようなランニングやノックもありません。体を壊すような投げ込み、走り込みもありません。全力で取り組んで当然です。思い通りの結果を得られず、自分の努力不足を棚に上げて愚痴をこぼしている全国の選手の皆さん、何も身に付きませんよ。自分で選んだチームでしょ。全ての責任は自分自身にあります。チーム一努力すれば必ず試合に出られると思いますよ。私は必ず使います。堂々と「一番練習しています」と言える練習をして下さい。その中から本物に見えるはずですよ。野球が出来なくなってからに人生が長いのです。その時、本気でやった人にはたくさんの仲間(味方)出来ています。

27日(日)チームの総会で役員がかわり、新しいチーム(1、2年生)になりました。3年生はこれから高校進学準備に入ります。私は是非、野球をやりたいと思っています。3年間きちっと最後までやり遂げる事により、人として男として大きくなれると信じています。そして一生の友と出会えます。試合は見るより出た方が楽しいに決まっています。いろいろな選択肢があると思いますが、努力が報われるチームを選んで欲しいと思います。10月からの6ヶ月3年生が一番伸びる時です。そのチャンスを生かすか、殺すか、あなた達次第です。私の力を必要としている選手はいくらでも使ってください。望めば全力で協力します。これからの6ヶ月、卒業の3月に一番の力をつけて高校進学、私は毎年そのつもりで3年生に接しています。1、2年生に今まで自分が身に付けた技術・考え方を伝えるのも大事な責任です。これからの君達に期待します。

第169話/2015.09.15

段原クラブでは誰でも出来る三つの事、「大きな声を出す」「全力で走る」「ベースカバーに入る」を入部の時に話します。技術のいらない、思うだけで出来る事です。しかし入部してきたほとんど

の選手が出来ません。小学校で野球（ソフトボール）をやっていたのになぜ出来ないのか？指導されてないからです。当然それ以上の事が出来るはずありません。誰でも出来る当たり前の事、私の中では送りバントもその一つです。体の大きさ、力の強さ必要ありません。足の速さも肩の強さもいりません。バットが持てれば誰でも出来る事。私は高校まで失敗した記憶はありません。たかが送りバントと考えています。中学野球では強烈なバントシフトもなければ、140km/hのストレートもありません。出来て当たり前です。

9月13日（日）リーグ決勝大会の決勝戦1点ビハインドの6回、7回無死一塁から二度ともバンド失敗しました。追い込まれて三振と内野フライ、人形が立っていても変わりません。段原クラブではグラウンドでバント練習はしません。なぜか？室内バッティング場が土、日何時間でも自由に使えます。その中で自分で考えてやるように子ども達にはいってあります。そしてわからなければ聞きにおいてとも言っています。バッティング練習は自己満足のため、守備や走塁そしてバント練習はチームのためです。失敗した二人は過去にも失敗があり一日だけ少し練習をしていたのを見ました。考えが甘いのです。2年生は3年生の足を引っ張ってはいけません。試合は一人で勝てませんが、一人のミスで負けます。役に立てなくても迷惑をかけない、社会生活と同じです。そのために努力するのです。自分の欲求（ヒットを打ちたい）のためだけでなくチームのための練習が必要だと思います。試合は結局一点差で負けました。送りバントが成功しても点が入った保証はありません。勝ち負けではなくいつも言っている当たり前の事を当たり前にやる。それをしっかりやって負けたのなら、また実力を上げるために練習を重ねればいいのです。

特別なことをやろうと思えば、まず基本（当たり前の事）が必要です。イチローや柳田だって最初から今の打ち方ではありません。きっちり基本のスイングを身に付けてから試行錯誤を重ねながら作っていったものだと思います。良い思い（勝利や活躍）をしたければ楽しくないし単調で苦しい基本練習が必要だと思います。

話は変わりますが、リーグ決勝大会に1、2年生で参加したチームがありました。チームそれぞれ考え方があり、他のチームの人間が言うのは筋違いを承知で言います。「面白くない」勝ち残った4チームでやる準決勝、決勝、勝ち残っていない選手が出るのは理にかなっていないと私は思います。予選は自由ですが決勝大会は内容のある試合にすべきです。それでなければ良い球場を取ってまでやる意味がありません。生意気を言って申し訳ありません。

バントを失敗した二人、私も高校2年の夏の予選で中京高校相手に2点リードの最終回3点取られてサヨナラ負けをした経験があります。3年生のキャッチャーのサインに首を振って打たれて負けました。39年たった今でも3年生に申し訳ない気持ちでいます。学生野球は最後みんな負けて終わります。大事なのは負け方です。やらなければいけない事はやっておこう。

3年生の選手達、今週中学最後の試合です。自分を信じて、チームを信じて持っている力を全て出して下さい。集中したら君達は力ありますよ！！

第168話/2015.09.07

9月6日（日）80'ホークスの招待試合が雨で中止になりました。招待試合を行うのには大変な労力が必要です。一年に一度の行事が中止になってしまい準備を重ねてきた人達、選手達の気持ちを考えると、とても残念に思いました。大会は抽選で順位を決める事になり、私は先輩（80'ホークスの監督）山内さんに挨拶するのが野球界の常識なので会場に行きました。チームとしては中止というメールを流しましたが、福山までほとんどの選手が来ていました。とてもグラウンドでの

練習は無理という事で、ほぼ初めて試合のメンバーの練習を中止にしました。

段原クラブは私が広島フルスイング塾という室内バッティング場を経営しているので、雨が降っても打撃練習が出来ます。強制的な練習ではなく本当にやりたい子だけで練習をしたかったのであえて休みにしました。試合に行かなかった選手が午前中打っているの、午後何人か打ちに来るだろうと思っていました。大会メンバー14人中11人が打ちに来ました。私が思っていた人数よりやや多め、2年生は必ず全員練習に来るのは予想出来ました。3年生8人中何人来るだろうか？最低で一人最高で四人とと思っていましたが五人でした。私は練習休みを指示したので来ない事は悪く言いません。自由です。3年生は残り2大会、2週間をどう使うのか自分ください。夢や目標を語っている選手達、口だけでは一歩も近づく事は出来ません。たった一日練習したからといって目に見えて変わるものではありませんが、しかしやらなければ変わる可能性は0%です。まして広島の高校野球をリードしている高校に進学したいと欲している選手なら、家族中が野球一色になれば行って迷惑を掛けるだけです。

3年生と試合をする最後のチャンスが雨に流れた事に何かを感じずにいられません。グラウンドでプレーをするのは子ども達です。自分の野球人生を長く意味のあるものにするのか、早く終わってしまうのか、あなた達が決めます。私には来年も同じように大会があります。3年生の子ども達、中学生として出来る試合、2大会です。是非、3年間を意味のあるものにして下さい。一日がとても大切な24時間です。

第167話/2015.08.31

「信頼」信じて頼りにする事。「信用」確かだと受け入れる事。「必要」なくてはならない事。辞書で引くところ書いてあります。

先週、私は6歳の孫とプールに行ってきました。まだ泳げないので浮き輪につかまっています。しかし何があっても私がいる限り絶対安心だと思っています。100%信頼しこの人は自分の事を守ってくれる、裏切る事はないと信用しているからです。そして彼女がプールで遊ぶためには私が必要なのです。そんな事が私にひしひしと伝わってきました。そして帰りには感謝の言葉をもらいました。自分を必要としてくれる、そして信頼、信用してくれる、とても気持ちのいいものです。私は指導者と選手、保護者の関係も同じだと思えます。自分の力が本当に必要なのか、不要なのか？信頼関係はあるのか？やりがいとはそういうところがとても大事です。相手が望んでいないのに自分の理論を押し付けてもお互い不幸になるだけです。折角好きな野球を休みの日にやるのですから、良い1日にしなければ意味がありません。信頼してもらっている孫と過ごした日のように子ども達と野球が出来たら幸せです。

スポーツをしていると怪我をする事があります。私も現役時代、骨折、肘、肩、手首、足首、一週間程度のものから一年以上完治にかかったものまで色々な怪我をしました。突発的に起こるものから、継続的にストレスからくるものまで故障の原因はいろいろあります。まず大事な事は予防です。負荷の強さだったり、フォームだったり、トレーニング、練習後のケアなど指導者は一番気を使います。その中でも残念ですが故障者が出る事があります。私はいつも言っている通り、中学野球は通過点なので無理する必要はないと思っています。早い発見、早い治療、そして早い復帰が子ども達のためになると考えています。そして二度と同じ事を繰り返さないためにトレーニングを含め専門家の指示に従うべきだと思います。その子がレギュラーであれ、そうでなくてもチームが勝つために無理に使うような事は考えたことはありません。段原クラブではチームトレーナーを決

めています。プレー出来るか出来ないのか、その判断は私ではありません。本人でもありません。勝ちたいがために子どもにリスクを負わせてはならないと思っています。しかし、チームトレーナーからOKが出ればプレーさせます。私とチームトレーナーとの信頼関係です。ひとりでも多くの子どもに信頼、信用そして必要とされる指導者になりたいです。

第166話/2015.08.24

夏の甲子園が終わりました。ベスト8に残ったチームとそうでないチームは何なんだろう？特に中・四国のチームの低迷は深刻です。何がちがうのか？私はバットを振る力が圧倒的に違うと思います。ではなぜそんなに違うのだろう？そもそも選手の能力（素材）の差？中国地方にはバットを振れる選手がいないのだろうか？確かに私は軟式の子も達を20年程（中学生）見っていますが、今だにゴロを打てと指導しているチーム（小・中学生）が沢山あります。そしてフライアウトになると怒られるシーンをよく見ます。しかしその全てのチームで外野の頭を越す打球を打つと、どの指導者も「ナイスバッティング」と誉めています。なんだそれ？こんなバカな事がまかり通っています。よくそんなチームに子どもを預けていますね。フライでアウトになると怒られる、でもヒットなら誉められる。こんな理不尽な指導が子ども達から思い切ってバットを振る勇気を奪います。バットを強く、鋭く1球目から振れなくては上のレベルでの野球は出来ないのです。目先の勝ちにこだわるばかり、ノーアウトでランナーが出れば必ずバント、私は相手がバントしてくれるととても有難く思います。特に初回は特別に嬉しいです。子どもの能力の差ではなく、考え方と練習内容の差だと思います。体を作り、バットを振る、出来るだけ多く打つ。そしてどう打てば打球が上がるのか考える。変化球は泳いでもストレートには遅れない、速く強いスイングを身に付ける、これを3年間しっかりやれば変わると思います。バントとエンドランの守備練習では魅力のあるチームは作れません。

8月23日(日)のカープ対ジャイアンツを見ましたか？草野球です。ランナーが出ればバント、スクイズ、ことごとく失敗、少年野球のような走塁ミス、プロ野球とはアマチュアが出来ないプレーをお客さんに披露して喜んでもらうものです。バントやスクイズは高校生でも出来ます。そんな物は誰もわざわざ球場まで見に行きません。終盤1点を争っている場面で思い切ったバント守備を引かれた中で決める。これがプロの技術です。プロ野球より勝ち上がってくる高校野球の方がしっかりバットを振っています。これもプロ野球が勝ちにこだわっている弊害だと思います。野球ファンの方々ももっとプロ野球の原点、プロの技術を見て驚いたり、喜んだりして欲しいと思います。初回からのバントにはブーイングが必要です。ヤクルトの山田や横浜の筒香、ソフトバンクの柳田など他チームには魅力的な選手が沢山います。ジャイアンツは？勝てば良い？勝てば正しい？少年野球も高校野球もプロ野球も？私はちがうと思います。

第165話/2015.08.17

バッティングを良くするためには数多くの球を打つ必要があります。試合で投手の投げるボールをたくさん打てればそれに越したことはありませんが、1日に100打席打つ事は出来ません。その為にフリーバッティングをします。それでも人の投げるボールを100球打つのは大変です。その代わりにマシンを打ったり、ティーバッティングで数を補います。バッティングにはパワー（ス

スピードを含む)とテクニック(技術)が必要です。子ども達のティーバッティングを見ていると、どちらを身に付ける為にやっているのか目的がよくわかりません。フリーバッティング前のアップのようだったり、休憩に見えたりします。ティーバッティングには色々な方法があり、それぞれ目的が違います。今までも数種類教えてきましたが、日曜日にヤクルトの山田選手がやっている練習方法を2種類新しく伝えました。後は彼らが自分の技術を高めるためにどれだけ意識して練習をするかです。自分自身の野球人生を長く楽しくするか、短くつまらなくするかは貴方達しだいです。私は指導者として上手くなる為の時間と考え方(練習方法)を伝えています。そこから先は自分自身の問題です。やるかやらないか、それだけのことです。

今甲子園大会真っ最中ですが。私はあまり好きではないので好んで見ている訳ではありませんが今年も点が入りすぎだと思えます。確かに年々打者はパワーアップしていますが技術的に素晴らしい訳ではありません。投手の力不足を感じます。どの投手を見ても色々な球種(ストレート、スライダー、カーブ、チェンジアップ、フォーク、ツーシームなど)を投げます。しかし、一番大切なボール、アウトコース低めのストレートが投げられません。そのため長打をくらいます。それが大量失点につながります。球種が増えると投手としてのレベルが上がったように思いますが、それによってストレートの質、精度が落ちては意味がありません。前にも書いたことがあります。投手としての原点能力(アウトコース低めのストレート)を高める基本的な練習が必要だと思えます。四死球、エラー、長打が無ければ大量失点することはないのです。その為に必要なのは基本です。

第164話/2015.08.11

上半身を鍛えてみようとしてトレーニングしてみました。たった4日間ですが少しハードにやりました。日曜日の練習でボールを投げてみると肩が回らない、油が切れたような感じで腕が全くしならない。今まで感じた事がない違和感があり、ボールが指にかかりません。野球というスポーツは本当に難しい。パワーがあっても体や腕のしなやかさがなければ、質の良いボールは投げられません。バッティングも同じく確かにパワーは必要ですが、技術がなければそのパワーはムダになります。ウェイトトレーニングする時には、強く太い筋肉ではなく、スピードのあるしなやかな筋肉をつけるようにしないと野球の成績につながらないような気がする。関節の可動範囲を広げ、柔軟な筋肉をつけるようにトレーニングする必要を感じました。プロ野球選手の良い投手、良い打者達もパワーだけで勝負していない。コンスタントな数字を残すのは、柔らかい頭と柔らかい筋肉です。

小・中学生の場合、体の大きさで技術の無さをカバー出来ます。高校野球も金属バットで飛ばすだけなら上半身の力で打てます。でもそれは本物ではありません。木のバットを持って打てる技術、野球とは本来バットは木製です。体のパワー、重さ、強さもちろんあった方が良いに決まっています。しかし野球でもっと大事な物、スピード、柔軟性、キレ、体と頭のしなやかさです。体に恵まれなくて悔しい思いをしている小・中学生たくさんいると思えます。あきらめず、キレ、柔軟性、しなやかさそして頭で勝負出来ます。ありがたい事に野球はポジション、打順で役割が違います。たくさんチームに役立つ仕事があります。プロ野球を見ましよう!!。野球の神様達がプレーを見せてくれます。よくアマチュアとプロはちがうという人がいますが、同じルールでやっているスポーツです。終わった時、相手より1点多く取れば勝つ、まったく同じです。野球の手本はトップに求めるべきです。今、甲子園大会をやっています。最近、三振が多いと思いませんか?私は上半身のパワーに頼ってバットを振っている事が原因のひとつだと思います。あくまでもバットは強い下半身としなやかな上半身で振るものです。確率も上がりますし、足を使えば飛距離も出ます。

私は投手も打者も守備も頭も「しなやか」が大事だと思います。

第163話/2015.08.03

新チーム初めての公式戦文部科学大臣杯が8月2日(日)にありました。結果は1対0で負け、打てない事はある程度予想していました。現在の2年生は完全に身体能力不足で基本的なパワーとスピードが児玉と村田以外の選手は中学2年生の平均以下なので2人が打たない限り得点は難しいだろうと思っていました。特に走る能力がほとんどの選手に無いのが、とても苦しい所です。センスと言いますか、走塁の坎と言いますか、リードのとり方、リードオフの仕方、スタートどれをとってもスマートに出来ない。相手の投手にプレッシャーをかける事すら出来ない。ランナーに出ると自分がおどおどしている状況では勝負になりません。バットは良く振っています。でもそれだけです。パワーとスピードあった方が良いに決まっています。そして走塁にはスランプがありません。一番チームとして計算できる能力です。足が遅ければ遅いほど技術(判断力)を磨かなければいけません。私はいつも子ども達に言っています。当然バットは振らなければ打てるようにはなりません。しかし、バットを振っているだけでは打てるようにはなりません。良い投手はアウトコースにストレートを投げられる技術のある投手です。そして良い打者はそれをセンターから反対方向に打ち返せる打者です。入部した時からずっと言い続けています。真ん中の甘いボールを引っ張って遠くに飛ばすだけで満足しているような練習では試合に通用しません。試合でチームの勝利に貢献出来るバッティングを身に付けるために練習をするのです。もちろん甘いボールは思いっきり引っ張って構いません。しかしここ一番良い投手を打つ為にはアウトコースのボールをセンター方向に打てなければ良い結果を得られる確率は上がりません。野球は確率のスポーツです。確率の良い技術を身に付けそれを試合で発揮出来る精神力があれば良い結果を得られます。2年生はまだまだ身体的にも精神的にもとてもひ弱です。チームを背負うどころか、自分の事で精一杯。1年生にも数名からだに力のある選手がいます。入部が遅く経験がまだまだですが、これから来春までの競争が楽しみです。新人戦1回戦負けなのでこれからこれより下はありません。弱いチームが今までと同じでは変わりません。ひとりひとりが今の自分達の力をしっかり知り、一番下から這い上がらなければなりません。

負けた事により監督として色々な事を変える事が出来ます。打つ事はもちろん今まで通りにやりますが、それ以外の練習をしっかりとやります。1回戦で負けた事により、お陰で8月、1、2年生はしっかり練習出来ます。今までより当然厳しくなります。体調管理をしっかりと出して来て下さい。休めばおいていかれますよ！！

第162話/2015.07.27

7月25日(土)笠岡ドリームスの大会に呼んで頂きました。強いチームばかりで今の力をはかるのにとっても良い試合をさせてもらいました。是非、来年も呼んで頂けるような良いチームになろうと思います。いつもと違う場所で野球をするだけで子ども達には良い経験になります。結果的にはベスト4に残れませんでした。3年生にとって残り50日、何をしなければいけないのか課題が見えた試合になったと思います。笠岡ドリームスの皆さん、本当にありがとうございました。

7月26日(日)は太田川リーグに新チームで行きました。8月2日の文部科学大臣杯の前、最

後の試合です。新チームなので打つ方はまだ期待出来ません。投手と守備がどの程度出来るのかを確認する試合です。2試合ともエラーが無く無失点、思っていた以上に投手と守備のミスが無く来週の試合も緊張することなく、持っている力を100%出して欲しいと思います。色々な試合をある程度2年生も経験しているので自分のやってきた練習と身に付けた力を信じて思い切ってプレーして欲しいです。8月に新チームの試合があるの早すぎます。まだまだチームは出来ていません。これは他のチームも同じ条件ですが、それにしても早いですね！！最低限今年の全国大会が終わってからやるのが筋だと思います。

高校野球広島大会が終わりました。今年も点を取られなかったチームが勝ちました。私は甲子園は投手が連れていくものだと思っています。前にも書いたことがありますが、チーム力は投手力、甲子園は投手を育てることが出来るチームが行きます。守備力があるのは当然です。しかし甲子園で勝つためには投手力だけでは勝ち上がりません。そのため今年も広島代表は苦しいように思います。1回戦は相手にもよりますが、2つ、3つ勝つためには打力が厳しいと思います。ここ数年の広島の高校野球はずっとバットを強く振れるチームがいません。トーナメントを勝ち上げるためにスモールベースボールが確率良いのですが、ガンガンバットを振るチームが広島にも出てきて欲しいと思っています。

段原クラブは、ずっとサインなし、スクイズ、エンドランなしで広島県一になろうと練習しています。まだ軟連の公式戦では実現していませんが、あくまでそういう野球で勝ちたいと思います。そのために他のチームの何倍もバットを振らなければいけません。2年生が今のままの努力を来春まで続けたら楽しみです。

第161話/2015.07.22

1年生のリーグ戦が終わり、いつものように決勝トーナメントには残れませんでした。1年生の時に勝てないのは毎年の事なのでこんなものだろうという感想です。段原クラブはこれからが他のチームと違います。正しい練習を重ねる事で3年生の時には勝負出来るチームになります。例年なら？これからの1年間、1年生が今までと同じではポジションを半分以上下級生に取られることになるでしょう。その時慌てても間に合いません。今日から変わる必要があると思います。段原クラブの監督としては誰が試合に出ても構わないのです良いのですが、自分の野球人生を長く楽しくする方法を段原クラブはわかっているのでやった方が良いでしょう。

8月になると大会が多すぎて重なってしまいます。部員がある程度いればみんなが試合に出るチャンスが出来、とても良いと思います。しかし、新人戦（文部科学大臣杯）としまなみ大会が重なるのはどうかと思います。その後の県知事杯も他の大会と重なります。お金をかけて遠くまでベストメンバーでなく行く意味が私にはあるように思えません。どうせ試合をするなら思い切った本気の勝負が面白い。そんな意味でしまなみ大会西部予選で負けた事はたいした事ではありません。しかし、負け方が気に入りません。私は試合に行っていないので子ども達に理由を聞きました。すると「朝から気持ちが入っていなかった」、「ウォーミングアップがいい加減だった」、「集中力がなかった」など、はあ～。

休めばいいのに！試合に出たくてうずうずしている子どもはたくさんいます。そしてレギュラーより何倍も努力している子どももいます。技術が無いのは罪ではありませんが、気持ちが無いのはグラウンドに出て段原クラブのユニフォームを着る資格がありません。折角、段原クラブで他のチームとちがう技術を身に付けても、発揮するためには頭が指令を出さなければいけません。結局思

いなければ体は動かないのです。だから心がないのならグラウンドに出ても良い結果は得られません。技術が少し劣っていても心のある選手と同じユニフォームを着てグラウンドに立ちたいです。

第160話/2015.07.13

私は今、自分自身にとっても腹を立てています。全ての組織には規則があり、野球にはルールがあります。スポーツ選手はその中で技術を尽くし戦います。私は段原クラブを立ち上げ監督になった時からずっと、野球が大好きで私を信じ、ひたむきに努力する子ども達と野球が出来ることを心から喜び、その為に全力を尽くしてきました。試合の勝ち負けより、信じてくれる子ども達が1本でも多くヒットが打てるように、打球処理が出来るようになって欲しい、そして野球というスポーツの素晴らしさを体感して欲しいと思ってやってきました。しかし、ここ数年勝つ事が目的、目標になり段原クラブの本来あるべき姿を見失っていたように思います。確かに今年は県大会準優勝、そして日刊大会優勝など勝っています。

でもそれでいいのだろうか？中学野球、勝てば正解なのだろうか？力があれば全てOK、ルールも規則も練習態度も関係ない、本当にそれでいいのだろうか？

私は教育者ではありません。野球の技術の勉強は今でも欠かす事はありません。練習内容も他チームには負けてないと思っています。それは入部してくる子ども達の人数、素材それがそして3年生になった時の結果が証明しています。勝負の世界は確かに力が全ての世界です。「力無き者はされ」です。私も勝負の世界に身を置いていた人間です。身に染みてわかっています。それでも今の段原クラブが正しいとどうしても思えません。人ごとのように書いていますが、自分で決断できず、ずるずると先延ばし、あいまいな態度で勝つ事を優先してきた代表・監督である私の責任です。そんだ自分がとても情けなく思っていますし、しっかりきまりを守り、一生懸命努力しているほとんどの子ども達に心から申し訳なく思っています。本当にすみません。その子ども達のために私の全ての力を使ってサポートしていきたいと思っています。野球というスポーツは高校に行くと、突然楽しくなくなります。そして今書いたような我がままは一切通用しなくなります。今のままでは確実に高校野球はありません。我がままは全て自分に帰ってきます。そして甘やかした親にも帰ってきます。自ら練習したいと言ってくる子ども達と打っている土、日練習後のフルスイング塾が楽しいです。そんな野球がしたいな～。

第159話/2015.07.06

スポーツをする上で体格（身長・体重）の違いはとても大きなハンディになる事があります。野球も大きな体の方が、ボールにスピードがあったり、打球が遠くに飛んだりします。同級生でも10cm以上身長に差があったりすることがあります。当然体の大きい子の方が早く良い結果が出たり、チームから期待されたりします。私は常に中学野球は通過点に過ぎないと言ってきました。結果を急ぐあまり無理して体や心を壊してほしくないからです。体格にハンディがあると筋力に差があります。大きな子のように投げたいとか飛ばしたいとか走りたいとか身の丈以上の結果を求めるとケガにつながります。他の選手と比べ少し手も早く、そして多く試合に出場し、良い結果を求める親の期待も負担になります。子ども達は人それぞれ持って生まれた力が違います。私はそれぞれの体、心、技術を見て試合での使い方、練習量を考えています。そして3年生になった時に一段ず

つ確実に上がっていければ十分です。駆け上がったたり、段を飛ばしたりすると転げ落ちる事があります。体に恵まれなくても野球は仕事があります。じっくりと体作りをすれば3年生で勝負出来るようになります。

1、2年生の子ども達と保護者の皆さん、一喜一憂せず、段原クラブのシステムを信じて下さい。3年生の4月からが本当の勝負ですし、それも野球人生の中では通過点に過ぎません。少々無理をしても壊れない心と体をじっくりと作れば、その上にどんどん技術は積み上げていきます。

あわてない、あわてない！！

フルスイング塾の室内バッティング場を土、日曜日練習前後に開放している話は書いたと思います。今、控えの2、3年生が本当によく練習しています。とても感心しています。しかし、時々レギュラーが試合で結果が出なかったからという理由で打ちにきます。私は不思議でなりません。

野球の技術に頂点はありません。特にバッティングは失敗ばかりです。もっと打ちたい、一本でも打ちたい、もっと飛ばしたい、三割打ったら三割五分、4割と野球をやっている限り突き詰めていくものだと思います。毎日やって当たり前、どんなに打っても安心したり、満足するものではないと思います。なぜなら、全部打ちたい（十割）それを目指してやるものだからです。

試合で打てなかったから練習する？ハァーって感じです。

たかだか中学生のピッチャーから2、3本打って満足？

そんな選手はそのままです。夢を語る資格はないと思います。頂点のない技術をやめるまで追い求める。これが野球だと私は思っています。そして私はもっと上達出来る技術、考え方、練習方法があるはずだと毎日考えています。

第158話/2015.06.30

文部科学大臣杯（新人戦）まで約1カ月です。現チームでレギュラーを張っている3人を除くと残り6つのポジションを1、2年生16人で争うことになります。私は年功序列という考え方はありません。ポジションを争うのは力のみです。今、目の前に大きなチャンスが全員にあります。チームいち練習するか、チームいち声を出せば簡単に取れます。1か月しかない今、1、2年生の心の迫力が私に伝わりません。今まで通り何も変わらず練習、試合をしている、とても不思議です。3年生の何人かのように手を抜いたり、集中していなかったりではないが、可もなく不可もなく普通、飛び抜けた身体能力のない段原クラブの選手が試合で勝つ方法は野球頭や技術がもちろん必要です。そしてもうひとつ気持ちの強さ、闘志、つまり闘う心です。内に秘めた闘志など何の役にも立ちません。思いは人に伝わらなければ意味はないのです。そしてまず、チーム内での闘いに勝たなければ勝負のグラウンドに立てません。ポジションは与えられるものではなく、奪うものです。監督の私にメンバー表にあなたの名前を書かず事が出来るかどうかは君達しだいです。各自が自分の良いものを見せて下さい。私がどんな選手が好きなのかわかってはいるはずですが。同じユニフォームを着て一緒にグラウンドで野球をしたい選手、「がむしゃら（ほかの事を考えず、ひたすらにある事をする）ってカッコいい」、何年か前のTシャツの言葉です。技術はあることに越した事はありません。子ども達は未熟で失敗します。その度に前を向いて向かってくる選手が私は好きです。「試合に出たい」「俺を使え」そんな気持ちをプレーでどんどん私にぶつけてきて下さい。そんな練習や試合を見るのが私の喜び、楽しみです。折角の休日、グラウンドに出て良い気持ちで過ごしたいものです。

3年生の皆さん、全軟が終わり、モチベーションが無くなったのならグラウンドに出ないべきです。

あなた達の野球は中学程度のものだったのですか？私は常に言っています。たかが中学野球、こんなものは通過点でしかありません。高校野球をするための準備期間です。3月一杯いくらでも上達するチャンスがあるのに、それを放棄しているのならグラウンドに出る意味はありません。練習は自分の為、試合はチームのためにやるものです。体は心が動かすものですから、心が無ければ何も無いです。

段原クラブのレギュラー程度で満足していたら先はしれています。

第157話/2015.06.22

6月21日(日)山本浩二旗という大会がありました。この大会は新チームの試合で例年は10月、11月にやっていた大会です。6月に新チームの試合、3年生を中心にしたチームの試合が、これから本格的になっていくこの時期にとっても難しい、たぶんどこのチームも同じだと思います。文部科学大臣杯もそうですが、新チームの試合は本来、3年生の最後の全国大会が終わってからやるべきだと思います。余る程選手がいるチームが圧倒的に有利です。高校野球で夏の甲子園が終わる前に新人戦は始まりません。小中学生の試合はいつも大人の都合が最優先されます。試合は勝ちましたが、野球のレベルはまだまだです。ポジションにしても打順にしてもいろいろ試して探っている状況です。1,2年生の選手全員にチャンスがあります。それを掴むために一番必要なのは守備力です。「段原クラブは打てないと出られない」そう思っている選手がいるようですが、ちがいます。一番大事な力は守備力です。守備はミスするとチームに迷惑を掛けます。打つ事は3人いればなんとか点は取れます。ピッチャーが打ち取った打球を確実にひとつアウトに出来る力があればレギュラーになれます。

選手の皆さん、打つ事に気を取られているようですが、チームのために必要なのは守備と走塁です。試合に出るためにはポジションがいります。自分の守る場所を探して練習をして下さい。

本気ならいつでもどれだけでも付き合いますよ！！

第156話/2015.06.16

6月13日(土)にブライディングカップを行いました。段原クラブは他のチームがやっているような大会はやりません。なぜか？1年間で10大会以上たくさん試合があります。私は小、中学校には試合よりも練習が必要だと考えています。レギュラーの選手は十分に試合経験が来ています。しかし控えの選手は中々試合に出られません。その子達のために小さな大会を毎年数回しています。レギュラーが出られない大会、それがブライディングカップです。4チームだけの大会ですが普段1試合フルに出られない選手に最初から最後まで試合を経験してもらうために行きます。野球というスポーツはルールで1度に9人しかグラウンドに立てません。部員が9人以上いれば当然控えの選手が生まれます。楽しい試合はレギュラーだけ、苦しい練習は全員一緒、おかしくないですか？会費も全員同じです。確かに勝負の世界は力が全てです。大会によっては私も勝ちたい大会があります。勝つための選手を使うようになります。しかし努力は力のある順ではなかったりします。精一杯努力しているのに中々上手くいかない選手もいます。そういう選手達に思い切って試合を楽しんでもらいたいと思って始めた大会です。試合は勝つ事もあれば負ける事もあります。勝つ事で選手達は自信も持ち、勝ち上がる毎に力をつけていきます。又、負ける事で変われる事もあります。

私は試合によってはわざと負ける訳ではありませんが、負けても良いとか、負ければいいのにと
思っている事があります。ひとりの選手の力で勝つ事は中々出来ません。しかし、負けはひとりのミ
スで出来ます。そしてその時には、その選手にはっきりと君のミスで負けたと伝えます。とても厳
しい口調で回りで見ている人が見ていられないぐらいの勢いで罵ります。なぜなのか？身に染みて
忘れて欲しくないからです。人はミスをします。まして子ども達は当然です。その経験を次に生か
して欲しいからです。たとえば試合の中でバントのケースに出来ない選手に回ってきました。勝た
なければいけない大会では代打です。そうでなければミスすると思っせてやらせます。そしてそれが
原因で負ければ厳しく言います。大事なのはその後です。その選手が責任を感じ練習が変わって
くれば、そのミスはマイナスにならないと思います。ピッチャーが打たれる事も、キャッチャーが
パスボールする事も野手がエラーする事も、試合の勝ち負けを左右する程の大きなミスをすれば
するほど、その選手が変われるチャンスです。中学野球は通過点です。大きなミスは早くした方が
良いです。高校野球の県の決勝や甲子園でやらないために、身に染みて一生忘れない程のミス、そ
して練習に取り組む姿勢が変われば、中学の試合の負けなんてたいした事ではありません。私がいつ
も言っている試合に勝つ事が全てではないと言っているのはこういう事もひとつです。野球は社会
生活によく例えられます。人に迷惑を掛けない。ひとりのミスでたくさんの人達に嫌な思いをさせ
ます。そういう意味でレギュラーが努力するのは当たり前です。今、段原クラブでは2年生の控え
の選手がよく練習をしています。ずっとあきらめず続けてくれれば来春が楽しみです。私は今、そ
の子達と練習をしている時間が好きです。自分がやっている事に自信が持てなくなっていた時に卒
団生が私に書いてくれた手紙を読みました。もちろん自分が全てなどとは思っていませんが、元氣
が出ました。卒団生も今高校で心と体の両方が辛い時期だと思えます。

段原クラブの野球を信じ、思い切ってやって下さい。君達は出来る！！

第155話/2015.06.09

私は厳しいと言われます。段原クラブは他のチームと比べて多く的人数がいるわけではありませ
ん。土、日の練習は基本、半日です。グラウンドでへとへとになるような練習はしません。試合のサ
インはありません。当然、スクイズ、ヒットエンドランはしません。何が厳しいかわかりません。
何度も書いてきましたが、中学生の大会で勝つ為、試合に勝つ為のテクニックを練習しても意味が
ありません。高校野球で困らないための基本技術、野球というスポーツの本質、状況判断、考え方、
取り組む姿勢これを徹底的にしつこく、うるさく言い続けているだけです。

先日テレビでプロゴルファーの丸山茂樹が言っていました。「小学生からずっと学校の友達が出
来なかった」学校が終われば夜まで毎日練習、友達と遊ぶという時間は無かったそうです。又こ
うも言っていました。「何かを極めようとすれば、色々なものを犠牲にしなければならない」私も同
感です。私はとても野球を極めていませんが、俗に青春時代に経験する色々な事を犠牲にし、甲子
園とプロ野球を手に入れました。今でも家族や色々な人に迷惑を掛けていると思えますが優先順位
の一番は野球です。家族でも仕事でもありません。中学生は当然勉強が一番なのでしょうが、野球
も人としてとても役に立つ勉強のひとつだと思います。段原クラブの選手を見ていると野球が一番
という選手もたくさんいますが、「何番目？」と聞きたくなる選手、保護者もいます。大事な場面
(試合)になればなるほど、あなたにとって野球は何番目？が勝負を決めると私は思っています。
出来たら野球が一番という子ども達のために私の時間を使いたいと思えます。

今年の一年生は過去最高におとなしい親子がそろっているの、まず頭の中を変えてもらうとこ

ろからやらなければいけません。私としては、今までスポーツをやった事がないような子ども達をクラブチームでスポーツをするという事はどういう事なのか、段原クラブとはどんな考え方でやっているのかから説明していかなければいけないと思います。どんなに素晴らしい体、身体能力があっても頭（考え方）が間違っていれば野球の技術は身に付きません。同じ失敗を繰り返す中心選手はチームの足を引っ張ります。一番の素質は毎日コツコツと努力を続けられる精神です。それが無い身体能力は宝の持ち腐れ、上のレベルに上がる事は出来ません。厳しくて当たり前、高校野球をやりたいから段原クラブに入ってきたんでしょ。それに答えるのが私の仕事です私は保護者にも子ども達にも厳しい言葉を使います。うっとうしいと思われる事も嫌われる事も承知の上です。これから甲子園という勝つ事を求められる野球の世界に足を踏み入れるのですから。子ども達のためになると信じて言い続けます。

第154話/2015.06.01

5月31日（日）段原クラブの全軟が終わりました。5回目の県大会出場です初めて決勝に進みましたが、4対1で負けてしまいました。たくさんのOBの方々、関係者の方々に応援を頂きありがとうございました。今年たまたま決勝まで進みましたが、段原クラブが強かった訳ではなく、過去4回の県大会と比べ、レベルが低かったと思います。参加8チーム全て見ましたが、私がもし、野球校の監督だとし、声を掛けたい選手は一人もいませんでした。ストレートに力のある投手がいませんでしたし、外野の頭上を遥かに越していくような打球を打つ選手だったり、目を見張るような足のスピードがある選手も見当たりませんでした。そういう中での決勝進出だったように思います。負ければもちろん悔しいのですが、私は終わって肩の荷が下りたようなホットしたような気持ちになりました。20年前、段原中学校の野球部の中にスポーツ少年団を作り活動を始め、独立して軟連の大会に出だして9年、元々大会に勝つ事を目指してではなく、高校で野球を続けて欲しいという思いでチームを作り指導をしています。私はとても甘い人間なので勝負の世界には向いていません。勝たなければいけない、そのためにはメンバーを固定した方が確率が高い、チームの流れを止めないようになるべく選手を変えない方が良いだろう、そんな感じでやる試合はしんどいです。全ては私の心の弱さからくるものですが。

決勝で負けたチームの監督が言うと負け犬の遠吠えのように聞こえるかもしれませんが、準決勝、決勝をなぜ1日でやるのでしょうか？西部予選は代表が2チームなので決勝に大した意味はないので構わないと思います。しかし県大会は代表が1チーム、おかしくないですか？投手の投球回数制限、私は賛成です。本来いらぬものですが、アホな指導者から子どもを守るために必要だと思います。（しかし、試合を制限しても練習でバカみたいに投げさせれば意味はありませんが）ある関係者に聞くと日程の都合だそうです。又大人の都合、中国大会は7月11日、12日。まだ1ヶ月以上あるのに？意味が分かりません。準決勝2試合目が終わって決勝開始まで30分しか時間をもらえませんでした。なぜ？1日目は9時過ぎから4試合十分に出来ました。2日目は3試合、開始時間は8時30分。これも意味が分かりません。子ども達の体を守るような事を言っていますが、30度近い気温の中、インターバルも十分に取らせないで急いで試合をする。なぜ？また大人の都合、早く終わりたいから？またうっとうしい生意気な監督と思われるでしょうが、何度でも言います。子ども達の野球は子ども達のためにあります。子ども達のためにやるのです。関わる大人達も子ども達のために働くのです。私が厳しくするのも、それが子ども達のためになると思うからです。お金、労力がたくさんかかってもみんな負担すればたいした事はありません。子どもの大会を大

人が早く進行して、早く終わって、早く帰ろうみたいな事はして欲しくありません。代表が1チームなら準決勝、決勝は別の日にやるべきです。チームの関係者はみんなそう思っていると思います。それが子ども達のためなのですから。

「投手力がチーム力」代表を決める試合はエース同士でやるべきです。

第153話/2015.05.25

5月24日(日)香川県の丸亀に日帰りで練習試合に行ってきました。今週末の県大会で使われるアクアスタジアムと同等の球場で良いピッチャーと対戦し子ども達にはとても良い経験が出来ました。県大会に出てくるチームのピッチャーは当然平均以上のレベルを持っています。過去の経験からも大量得点は望めません。その中でミスが減らし、競った試合の中で1点差で勝てる技術と精神力が求められます。そういう意味でも子ども達にも課題が見えたでしょうし、良い物もあり、自信になった部分もあったと思います。自信を持って集中すれば今年のチームは良いチームです。

試合での私の仕事は子ども達の持っている力を100%出す事が出来る環境をつくる事だと思います。足を引っ張らないように気を付けます。丸亀の対戦相手は公立の中学校の野球部です。どちらも熱心な先生がおり、若い外部指導者(野球経験者)がついています。前にも書いた事がありますが、本来なら中学校の野球部がしっかりやれば、クラブチームは要りません。本気で野球が出来る環境が学校に無いのでクラブチームが必要になります。

なぜ広島には出来ないのでしょうか？無料で使えるグラウンドがあり、選手集めをする必要が無く、うらやましい環境です。なぜやらないのですか？

中学校の先生が出来なければ他県のように外部指導者を利用すればいいのに・・・。そこにチームがあれば期待して入部する子どもがいます。大人はそれに答える責任があると思います。素材のある子ども達はたくさんいます。努力しない子どもを上達させる必要はありませんが、頑張りたいと思っている子供がいれば大人は全力でサポートするべきです。野球部(野球チーム)の看板を掲げているなら、まず野球の技術を伝えるべきです。子ども達が求めているのは精神論ではなく技術論です。そしてスポーツは技術で勝負するものです。(当然、技術を身に付けるために体力、体の力は必要です。)住んでいる町の学校にたまたま熱心な先生がいる、いないでその子の野球人生が変わってしまいます。とても不幸な事だと思います。しっかりやっている地域があるのですから、広島でも出来るはずです。小・中学校の指導者のレベルを上げなければ、広島の高校野球の低迷は回復しないと思います。結果が悪いのは練習の質か量に問題があるからです。野球に頂点はありません。今よりもっと良い方法があるはずです。子ども達のために毎日が勉強です。

県大会は良い天気、環境の中で選手全員が段原クラブで野球をする喜びを感じてくれたら、とても幸せです。

第152話/2015.05.18

今週は大会の試合開始時間について書きます。ほとんど全ての大会と言っていいくらい、第1試合は予定時間より早く始めようとしています。そして試合と試合の間も出来るだけ短くしようとしています。

なぜ？大会関係者が早く帰りたいからです。私がいつも言っている大人の都合です。日曜日の大会でも15分早く始めたいと言われました。私は断りました。段原クラブは子ども達のためにある

チームで、その大会も子ども達のために行われると認識していたので子ども達がしっかりと準備し、持っている力を十分に発揮出来る環境を作るのが大人の仕事だと思い予定通りに始めることを希望しました。ごくごく当たり前の事だと思います。その日は天気が時間とともに回復する予報でした。早く始める理由がありません。確かに1日グラウンドでお世話をする役員の方々は大変だと思います。心から感謝しています。しかしあくまでも子ども達の為にある野球の団体です。彼らが出来ただけ良い状態で試合に臨めるようにしてあげるべきです。不十分な状態で試合をさせ、持っている力を出せなかったり、ケガでもしたら試合の意味がなくなります。大人は子ども達に厳しい事を言うのですから、良い環境を作る責任があると思います。きつとうとましく思われていると思いますが、嫌われても子ども達の不利益になる事には、これからも声を発していきたいと思います。

県大会まで2週間となりました。昨秋の県大会では持っている力の半分も出す事が出来ず残念な結果でした。良い球場で良いチーム相手に試合が出来るのは幸せな事です。どのチームも努力を重ねて来ているはずです。子ども達が喜びだとか、ありがたみだとか、もちろん勝つ事の欲求だとか色々な思いを抱え、プレッシャーや責任を背負いながら、その中で自分の力を精一杯出し切って欲しいと思っています。昨秋に比べれば個々の力は数段大きくなっています。どんな相手でも勝負出来るはずです。緊張するでしょうが、その場に立てる幸せを感じて、思い切ってやって欲しいです。

あくまでも中学野球は野球人生の通過点でしかないのですから、ゴールはまだまだ先です。

第151話/2015.05.11

5月10日(日)プロ野球OBクラブの子どもの日野球教室に行ってきました。今年で21回目、私は20回は出ていると思いますが毎年同じ事を思います。野球チームに入部して何年か野球をやっているはずなのに、何も出来ない子がほとんど、投げ方も捕り方も打ち方も、とても毎週やっているようには見えません。段原クラブに入ってくる1年生も毎年同じで身体能力が高いか、低いかだけで技術的には全員基本を知りません。言い方を変えれば技術的指導を受けていないのです。身体能力の高い子が中心で結果を出しているだけ、能力のある子がたくさんいる年は強いがそうでない時は弱い、それだけの事です。

なぜ野球チームと名乗っているのに、野球の技術を教えないのだろうか？特に正しい投げ方、スローイング(ピッチング)はフォームです。正しく投げれば必ず正しいボールが行きます。そしてケガをしません(これが一番大事)。上達するためには数多く練習する必要があります。そのために故障しない体の使い方が必要です。段原クラブのピッチャーは一人も故障しません。私は野球教室で主にキャッチャーを指導しますが、サインの出し方も構え方も捕り方も、そして投げ方も全て出来ません。毎回本当にビックリです。ピッチャーとキャッチャーは経験した事の無い人には判らない事が沢山あります。判らなければ子ども達に伝えられる訳ありません。

ではどうするか？指導者が勉強するべきです。今、日本中で指導者講習会をやっています。指導書もたくさん出ています。私は野球、メンタル、栄養、トレーニングなど色々な本を毎月読んでいます。子ども達は間違った事を言っても「ハイ」と返事をします。大人(指導者)として子ども達より努力するのは当然だと思います。野球チームで野球の技術を教えてもらわなければ、子ども達が可哀想です。

小学生の指導者の皆さん、試合では基本的体力、走力、遠投力、スイング力など身に付きません。子どもの時にやっておかなければいけない事を数多くやって、体で覚える練習、それもつまらないような基礎練習をしっかりとやるべきです。目の前の試合に勝つことばかりにこだわり、今やる

べき事をおろそかにすると先（中学、高校、大学）に行って苦労します。まあ基礎の無い子は大学まで野球は出来ないと思いますが。野球チームが一番やるべき事は、正しい野球の技術を子ども達に伝える事だと私は思います。プロ野球も高校野球も、小、中学生の軟式野球も同じ公認野球規則にのっとって行われます。正しい技術、基本は同じです。プロ野球の一流選手が本当につまらない基礎練習を繰り返しやるのですから、子ども達がやるのは当たり前です。プロ野球選手は一年間で100試合以上しますが、その前後に必ず練習を何時間もします。1日試合だけで終わっている子ども達が上達しないのは当然です。野球人生は無限に続きません。ほとんどの子どもが18才（高校3年）で終わります。一日でも大好きな野球が長く出来るように今（小、中学生）がとても大事です。日曜日一試合だけで野球を終わった日刊大会に出た選手（段原の）、当然その後一人で出来る練習をしていますよね。練習はウソをつきません。そして野球の神様だけはいますよ！！

第150話/2015.05.04

全軟西部地区予選が5月3日に終わりました。OB、保護者、スタッフ、練習試合に協力して頂いた他チームの方々、全ての人達のお陰で優勝することが出来ました。ありがとうございました。

今年明けから正直チーム内では色々な問題がたくさんあり、子ども達、保護者に不安を与えていた部分があったと思います。私自身も大好きな練習が楽しく思えない時がありました。大人の都合で子ども達に迷惑をかけ、指導者として自信を無くしてしていました。そんな時、たくさんの方々が私を助けてくれました。私のやっている事が全て正しいとは思いません。もっともっと良い方法があるのかもしれない。いつも自問自答しています。今回、子ども達が段原クラブでやろうとしている野球、軟式野球ではなく野球を少し見せてくれて本当に感謝しています。いくら口で偉そうな事を言っても負ければ負け犬の遠吠えです。説得力がありません。広島の高校野球のレベルアップのためにもチーム力より個人の力が大事だと思います。中学生に大切なのは投手対打者の1対1の勝負に勝つ選手を育てる事だと思います。

段原クラブに入部してくる子ども達は小学校の時に中々良い結果を出す事が出来ず、大きな大会を経験していません。中学生に全国大会が必要だと思っと思っていますが、県大会の良い球場で野球をさせて上げたいと思っています。今回運よく出場出来るので自分達の力を信じ、思い切って楽しんで欲しいと思います。9年間で5回目の県大会ですが、まだベスト4の壁を破っていません。過去の大会は全て監督の迷いで子ども達に迷惑を掛けているので、今回は足を引っ張らないようにします。あくまでも子ども達のためにチームが勝つ事はとても大事ですが、彼らが夢に少しでも近づけるように全力を尽くしたいと思います。今回の大会にたくさんの方々に応援に来て頂きました。心から感謝します。本当にありがとうございました。

第149話/2015.04.27

前に書いた通り、4月は練習試合を多く組んでみました。全11試合、練習ではある程度の打球を打てる力をつけてきました。それが対外試合の投手相手に出せるようにするためにやってみました。暖かくなってきた事もあると思いますが、ある程度の投手なら打ち返せるようになってきました。バッターは投手の投げそこなったボールをヒットにするので、もちろん本当に良い投手は中々打てません。プロ野球選手だってダルビッシュや田中将大は打てないのですから、仕方ありません。

甘いボールをどれだけ確率良くヒットにする事が出来るのか、これが打者の仕事です。これから公式戦のプレッシャーの中で身に付けた技術を全て出せるか？発表会です。どこよりもバットを振り込んでいるのですから。自信を持ってピッチャーと勝負して欲しいと思います。十分に力は付いています。

卒団生が高校野球を始めて約1ヶ月、学校によって1年生の対応はちがいますが、私の耳に良い事ばかりが聞こえています。先日も瀬戸内高校と山口の岩国高校の監督さんに選手がお世話になっているので、挨拶に伺うと段原の選手の事、段原クラブで指導している事を評価して頂き、少し鼻を高くしました。

先週も書いた通り、段原クラブでは軟式野球をしていません。あくまで野球を指導しています。打つだけのように思っている人がいるかもしれませんが、一番大事にしているのは、予測と準備そして状況判断です。イニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順この5つを頭に入れて、今何をすべきか？今出来なくても思い続ければいつか出来るようになると思い伝えています。こういう指導が高校に入学してそれほど身体的に恵まれていない選手でもチームのお役に立てるのだと思います。勝つ為だけにやる野球もある意味正しいのですが、持って生まれ身体能力で勝負するのではなく、正しい技術と正しい考え方、そして正しい練習、時間が短くても体を壊すほどやらなくていいという事を子ども達の為にみんなが考えるべきだと思います。今週から全国大会に向けた予選が始まります。勝てるか勝てないのか、これはやってみなければわかりません。もちろん子ども達は勝ちたいのですから、そのために勝てれば良いと思います。私の思いは違います。野球を始めてから今までの練習、そして身に付けた技術、体力、精神か、持っている以上の事は出来ません。試合の中で全員が自分の全てを出して欲しい。心から全力プレーを望みます。「勝つ事にこだわるあまりに緊張して持っている力が出せない」これだけなければ十分です。勝てば子ども達、負ければ監督の責任なのです。選手達の力で私を喜ばせて下さい。

第148話/2015.04.20

4月18日(土)、19日(日) 鳥根県出雲市と松江市に遠征試合に行きました。

土曜日はとても良い天気、日曜日は小雨の中でしたが、皆さんの努力のお陰で予定していた全ての試合が出来ました。ご協力頂いた各チームの方々、保護者の皆さんありがとうございました。良い結果の出た選手、そうでなかった選手もいつもと違う景色の中で初めてのチームとする試合の中で良い刺激になったと思います。私も指導者として子ども達との接し方、試合の運び方、試合での勝ち方などいろいろな指導者の方々を見て考える事がたくさんありました。

試合に勝つ確率が高い方法は？

約50年野球に関わっていますのでもちろんわかっています。段原クラブは軟式のクラブチームです。野球と軟式野球は似ていますが違うスポーツです。私は野球が大好きです。そして子ども達に野球を伝えています。矛盾に思いますよね！なぜなのか？中学生だからです。中学生は高校生とは違います。もちろんしっかり健康、体の管理が出来、全ての子ども達の体を壊す事なく、高校に送り出している硬式のチームもあるのですが、私の耳にする話は沢山の子ども達がケガに苦しんでいるようです。中学生なのです。当然練習の量も質も高校生のようにはいかないのです。絶対に体を壊してはいけません。私は中学生が硬球を投げているのを見ると、とても恐くなります。中学時代、軟式で十分に高校で通用する選手を育てる事は出来ます。それに一部の特別な素材の子ども以外は軟式の方が良いと思っています。だから軟式のクラブチームを運営しています。

しかし私は野球の指導をしています。軟式野球はやりません。軟式野球で勝つ確率の高いチームの野球を何年も見てきました。私の思っている中学生の野球とは違います。まずバッテリーを中心にした守る野球、当然守備練習を重視しています。バッティングはボールを遠くに飛ばすより、低い当たり、ランナーがいれば最低でも進められるバッティングをします（ゴロを打つ）。そして走塁、内野ゴロで一塁送球の間に二つの塁を取る走塁をします。ランナーが三塁にいればヒットや外野フライで得点するのではなく、スクイズかエンドランで点を取ります。当然、選手は一球一球監督のサイン通りにプレーします。これが軟式野球です。勝つ確率を上げるためには必要だと私も思います。でも段原クラブは野球をします。野球で軟式野球の広島一番を目指しています。簡単ではありません。力のあるバッテリーが必要です。投手が打ち取った打球を確実にさばける守備力が必要です。走るだろうと思われる場面で盗塁出来る能力が、そしてそれを防ぐ能力が必要です。一本のヒットで二塁からホームイン出来る走塁技術が必要です。狙ったストレートは確実に弾き返し、ストライクを取りにきた変化球は思い切ってスイング出来、三塁ランナーを外野まで打球を運びホームに返す打撃技術が必要です。本当に簡単ではありません。現実には思うようには勝てません。

段原クラブはこういう考え方で練習、試合をしています。子ども達に求められているレベルはとても高いと思います。これを目指して努力する事が高校野球につながり、野球を好きになると信じています。

第147話/2015.04.13

今週は規則と罰則について書きます。どんな組織でも社会でも規則があり、守らないと罰が与えられます。しかし、罰はそれを与えられるためにあるのではなく、規則を守って欲したために抑止力として作られています。野球のルールやチームのルールも同じです。誰だって罰を与えようなど思っていません。野球のルールはとても考え方は簡単です。誤魔化したり、騙したりして勝とうとしなさんなという事が書いてあります。日曜日、練習試合をしましたが、相手のバッターがほとんどバッターボックスからつま先を出していたそうです。これは確実に指導者が指示しなければ子どもがするはずはありません。本来、主審が注意しなければいけません。広島のクラブチームにもそれに近い事をするチームがありますが。本当に子ども達の為になるのか考えればわかる事です。バッターボックスには基本的にヒットを打つために入るのはです。それを伝えるべきだと思います。本当はチームにも規則、罰則は要りません。何故なら野球が好きで上手くなりたいから入部してきたはずです。そして私が監督をしている事も承知の上です。当然、チームのトップが決めた事は守らなければいけません。どんな社会、組織でも当たり前、当然の事です。ましてチームの監督は子ども達にマイナスになる事を決める訳はないのですから。今までの野球経験、指導者としての経験の中から判断して決めているのです。そして最初に書いたように子どもを罰したいと思っているのではないのです。練習も試合もみんなに沢山させてやりたいのです。全員が野球を好きになり、上手くなって欲しいのです。しかし、その為には厳しい事も必要です。嫌な事、やりたくない事も避けて通れません。心も体もダメージを受けて回復させて強くなると私は思います。サイヤ人と同じです。

今週末は島根遠征です。天気は良さそうで楽しみです。子ども達は全員しっかり試合に出られるのでいつもと違う景色とチームとやる事を思い切って楽しんで何かをつかんで欲しいと思います。

第146話/2015.04.06

理事長杯 1 回戦で完敗でした。ピッチャーが 2 本ホームランを打たれ打線がつながらず、後半はエラーも出て負ける見本のような試合でした。全軟西部予選まで 1 ヶ月切りました。今年は昨年までと変えて 2 月に試合を組まず、数多くバットを振る事を試してみました。3 月から数試合打っていません。やはり試合で投手の投げるボールを打っていないから練習では昨秋より力強くなっている打球が中々試合で出ません。今週から全軟まで 10 試合、試合を組みました。全て出来るか天気しだいですが、これからは冬の間につけた力を試合で出せるように、タイミング、状況判断、配球、気持ちの持ち方など勉強して行って欲しいと思います。昨年も書いたのですが、ここ数年全軟に対して意識が過剰になっているように思います。当然試合ですし、まして全国大会までつながっているので勝てたら楽しいし、上に上がっていけば子ども達も良い経験にはなると思います。もともと私は他の大会とあまり変わらない感覚でした。その頃の方が勝てていました。勝ちたい気持ち、とても大切だと思います。その為に毎日努力を続ける事も大切です。でも段原クラブ（中学生の野球）は、あくまで夢を追いかける為の基礎（土台）をしっかりと作る時間で到達点ではなく通過点だと思います。その為に練習に厳しさが必要になります。練習で身につけた技術と自信を試合で発揮する。出して負けたらもっと練習する。出せない試合もあるでしょう、それでもまた練習する。その繰り返しで夢を追いかけるのです。中学生は 1 年、2 年、3 年と学年が上がれば野球から心が離れていく誘惑が色々出て来ます。男の子から男に変わっていく、とても難しい年代です。その中でも常に野球が 1 番という気持ちを持ち続けて欲しいです。

今、段原クラブは良い状態ではありません。悪い時は変わるチャンスです。みんなが少しずつでも変わろうと努力する事、あきらめない、個人もチームも私は今が大事（チャンス）な時だと思います。特に 3 年生の変化を期待します。

第 1 4 5 話/2105.03.30

春の甲子園大会のベスト 4 まで決まりました。私の予想通り、中国地方のチームは全て 1 回戦で大敗しました、ここ数年、中国地方の高校野球は全国のレベルから置いていかれています。なぜ？広島は野球王国と言われていた時代があったのに・・・。

私は前から言っています。野球が古い。進化、進歩している技術、考え方についていけていません。これは小、中学校の野球についても同じです。勝つ事にこだわるあまり、基本的な練習をおろそかにし、試合ばかり、基本が無いので中学、高校で伸びる訳がありません。

勝つ為のサインプレーやトリックプレー、そんな事に時間を使う暇があれば 1 回でも多くバットを振った方が子ども達の為になります。まず、個の力を伸ばす事が 1 番大事な事です。ピッチャーとバッターの 1 対 1 の勝負、これが子ども達の野球の基本であるべきだと思います。その為に投手はストレートのスピードを上げ、それをアウトコース低めに投げる練習を徹底的にするべきです。アウトコース低め、投手の基本中の基本です。甲子園で大量点を取られる投手はこれが出来ません。変化球も確かに必要です。しかしその前に身につけなければいけない技術、困った時はアウトコース低めにストレートを投げる技術です。時代は違いますが私は高校時代、投球練習の 90% はアウトコース低めのストレートでした。大した投手ではありませんでしたが、それで甲子園に行け、負けはしましたが、失点は 1 点でした。夏に向けてスライダーを練習して投手としてレベルが下がったような気がしました。

前にも言いましたが、子ども達の野球は原点能力をしっかり伸ばす事が、先の野球人生を助ける

と思います。今年もたいして勝てないと思いますが、そこにこだわって段原野球をやりたいと思います。監督の力ではなく、子ども達の力で勝つ野球です。

第144話/2015.03.23

土、日曜日とても暖かくしっかりと練習が出来ました。一冬越してグッと伸びてきた選手とそうでない選手、秋の時点でのポジション、打順、レギュラーが変わりそうです。チーム力、個人の力を上げるためにチーム内で選手同士の競争が必要です。特にチームの中心にならなければいけない選手が安心しないようにしてほしいと思います。段原クラブでは高校に行ってから色々な状況に対応できるように、2つ以上のポジションを守れるように練習しています。子ども達の可能性を出来るだけ広げるためです。チャンスも広がります。その為にチームの勝つ確率は下がるかもしれませんが、クラブチームは今勝つ事より、先（高校）で良い思いをするためにあると思っているので当然だと思います。今、小学生が色々なチームに入部したり、体験に行っている時期だと思います。ここ3、4年私はとても不思議に思っている事があります。色々なチームを体験して比べて選ぶのは結構だと思います。しかし体験に来る子ども達に夢を聞くと、ほぼ全員プロ野球選手だとか、甲子園に行きたいと答えます。それも大いに結構です。

ではなぜ？誰よりも早く入部して野球をしないのですか？

小学校の練習や試合がいつ終わりましたか？

何か月遊んでいるのですか？

段原クラブは3年生の3月まできちっと練習でき、高校の練習に行く前日まで面倒を見ますが、ほとんどのチームが中学野球は2年半しかありません。その中で土、日の練習だけだと数えてみて下さい。3年間で何日練習出来るのか、小学校の野球が終わってから中学のチーム（学校部活、クラブチーム）に入るまでのロス、本当にもったいないと思います。プロ野球選手と夢を語っているわりには、考え方がとても甘いと思います。私なら1日も早く新しいチームに入り、1日でも多く同級生より練習しようと思います。それが夢を語るだけでなく、自分の物にする方法です。人と同じ事をやっていてトップに立てるわけありません。私はよく厳しいと言われます。全くわかりません。夢を語るのは子ども達です。甲子園もプロ野球選手も経験した私はその難しさを知っています。何をしなければならないのか知っています。子ども達の夢に協力するために、極々当たり前の事を言っているだけです。本当に厳しいのは選手を切り捨てる指導者だと思います。段原クラブは本人があきらめない限り、全ての指導者が全力で応援します。だからレギュラーも控えも同じ練習を同じ数するのは。小学生の皆さん、もう4月になります。すでに出遅れていますよ。夢を語るのは簡単です。こんな事を書くとまた嫌われるかな？

第143話/2015.03.16

3月15日（日）3年生のお別れ会をしました。午前中試合をして午後から会館で食事をしました。1試合目に高校3年生のOBが3年生相手に投げてくれました。3イニングピシヤリ、3年生はこの程度のストレートに反応出来ないようでは高校野球で通用するのに時間が少し掛かりそうです。しかし段原クラブの選手は正しい考えが出来るはずなのであまり心配していません。今まで通り取り組みれば大丈夫なはずです。ただひとつ高校野球は段原クラブとちがってあまり楽しくあり

ません。そこは頭に入れておいて下さい。その中で自分で目標、目的をはっきり決めてやりがい（楽しさ）を探して下さい。たくましくなって帰ってくるのを楽しみにしています。3年生の選手が一人一人とても立派な挨拶をしてくれました。感謝の言葉をたくさん頂きました。とてもありがたかったのですが、言葉を聞いている間、私はずっと自分に問いかけていました。

「おまえは本当にこの子達のために全力を尽くしたのか？」

「感謝の言葉を頂けるだけの事を伝えたのか？」

「もっと出来たんじゃないか？」

ずっと考えていました。野球人生がいつ終わってもおかしくない年齢になってきました。出来ることは全てやる。子ども達にはではなく自分に妥協しない。3年生の言葉を聞きながら自分に言いかけました。チームは子ども達のためにあります。そして練習も試合も彼らの為にします。今やっている事、そして自分の言っている事が本当に彼らのためになっているか、自分の都合になっていないか、もう一度よく考えようと思います。チームはいろいろな価値観を持った保護者と子どもが集まります。同じでないのが当たり前です。その中で全員が同じ方向（チームとしての成長）に向かっていけるようになりたいと思います。私が常々している強いチームではなく「良いチーム」だねといってもらえる。そして部員も保護者も堂々と良いチームですと言える段原クラブになりたいです。

第142話/2015.03.09

3月7日（土）今春大学に進学するOBの保護者4人と食事をしました。その時私はとてもありがたい言葉をもらいました。その子供は小学生の時はチームの中心選手ではなく、なんとか上手くなりたいとベースボールアカデミーに入り私と出会いました。二人とも不器用で守るポジションが無く、バッティングも穴が多くとても苦労していました。6、7年前の私は今より数倍厳しく、教室では毎週涙を流していました。それを見て母親はそんなに辛ければ辞めた方が良いのではと何度も言ったそうです。しかし本人は「辞めない、続ける」と次の週には練習に来ていました。親子で毎日葛藤していたそうです。そんな時、練習を毎週見ていた父親が言ったそうです。「鈴木さんに任せておけば大丈夫だ」その一言で彼らの野球人生は変わりました。

段原クラブでの3年間はもちろんの事、高校でも3年間だれにも負けない練習をし、今春大学での野球人生をスタートさせます。この子達の小学生時代を知る人たち全員が大学までの野球人生を誰も想像出来なかったはずです。なぜ、ここまで彼らが成長し頑張ってきたのか？第一に本人の努力、保護者の協力、そして指導者との信頼関係だと思います。「任せて大丈夫」私が指導者として関わった約5年間、親子共々私と段原クラブを信じ、ただただ一生懸命ついて来てくれました。私が子ども達を高校に送り出す時、いつも言う事があります。指導者に自分の事を好きになって欲しければまず、あなたが先に相手を好きになりなさい。全ての事があなたを少しでも良い方向に向かわせたいと思って言っている事だと伝えていきます。保護者が指導者を信頼出来なければ子どもが付いていく訳ありません。私は信頼がどんな練習よりも技術を伸ばすために一番必要な事だと思います。ひとりでも多くの子どもに信じてもらえる指導者になれるように手を抜かず、常に向上心を持って子ども達と向き合っていきたいと心から思いました。

今年段原クラブのOBは国立大学に3人合格しました。学校生活と両立出来るクラブチームの証明だと思います。現役の部員達も成績が悪いのは段原クラブ（野球）のせいではなく、自分自身の問題です。高校受験にクラブチームが不利だなんて言う人は能力が無いだけです。段原クラブの子

ども達は今年も全員第一志望校合格です。(すると思います)

第141話/2015.03.02

2月28日(土)今シーズン初めての対外試合(山口ミラクル大会)をしました。紅白戦を3試合ほどしましたがユニフォームの違うチームとの試合は緊張感があり、この冬につけた力を出す事が出来るのか心配でした。新3年生でチームの中心として期待している選手の3人がそれぞれの理由でベンチに入れられない状況なので勝つという事よりも新2年生や控えの選手がチャンスを生かしてほしいと思っていました。エースは少し球数が多いのが気になりましたが、それ以外は今の時期では言う事ない内容でしたし、冬の間努力を重ねてきた選手の打球が確実に強くなってきています。細かい所に色々ミスがありますが、初試合としては上出来でした。ただ2試合目、明らかに格下のチームに主審の判定がとんでもなかった事を差し引いても点を取られたのは、バッテリーはもちろん守備の反省は必要だと思います。本当は言いたくありませんが、主審のストライクゾーンがあまりにも高すぎます。ルールブックをしっかりと見るべきです。高めは肩の上部とベルトの上部の間、それも打つ姿勢で決定されるべきとあります。当然構えた時より低くなります。ほとんどの投手がそうだと思います、高めに抜けた(投げ損なった)球をストライクに取ると投手は成長しません。バッターもボール球に手を出さざるえなくなり上達しません。子ども達の成長のために大人もしっかり勉強するべきだと思います。学生野球の場合、子ども達はクレームを付けられません。だからこそ大人がしっかりする必要があると思います。横からカメラで撮って練習するべきです。試合の進行を早くするためにストライクゾーンを広げるのは絶対にあってはならない事だと思います。子どものスポーツに大人の都合は要りません。

3月1日(日)雨の為大会が中止になり、久しぶりにミーティング(勉強会)をしました。私がいちいち講習会で勉強した事や、プロ野球選手時代のミーティングを参考に子ども達に今考えて欲しい事、覚えて欲しい事を話しました。一番大事なことは「自分が今、なぜ野球をしているのか」、「なぜ段原クラブに入ったのか」この部分をはっきりさせる事です。理由は人それぞれ違って当たり前ですし、どんな理由でも構いません。そこがはっきりすればやる事は見えてきます。努力を続ける事はとても難しく大変です。その為に、しっかりとした「なぜ？」が要ります。全ての結果(良いも悪いも)にも「なぜ？」(理由)があります。幼児のようにいろいろな事でなんで？と興味を持って野球に取り組んで欲しいと思います。わからない時には私を使って下さい。私の持っている全ての力を使ってあなた達に協力します。

第140話/2015.02.23

今年の段原クラブはまだ対外試合をしていません。練習の数にこだわりたかったので試合を組みませんでした。全てのプレーのスピードとパワーアップをこの冬の課題に決めてやっているの、数多くバットを振る、ボールを捕るための練習にこだわりました。その中で1日練習出来る日は、朝、第一試合対策として3回ほど試合形式の練習をしました。

2月28日(土)の山口ミラクルズさんの招待試合が今年の初試合となります。チームのピークを少し遅くさせても基本的、原点能力のアップを目指してやってきたので試合の結果にはこだわられません。今はチーム内で競争をする時です。気持ちを表に出して、気迫溢れるプレーをしてくれ

ば、それで十分です。2日間大会なので22名メンバーを変えて、努力している選手はチャンスを与えたいと思っています。君達の全力を見せて下さい。

先日、福山80'ホークスの山内さんと話をしました。山内さんはプロ野球界の先輩で最多勝を取った事のある大投手でした。そんな素晴らし実績のある人が監督をやっているチームなのに昨年、新入部員が2名だったそうです。なぜ?いろいろな理由があるでしょうが一番恐ろしいのは噂です。私も取得しましたが山内さんも学生野球を指導出来る資格を昨年取りました。その為、チームを辞めて高校の指導に行くという噂が流れたそうです。その他にもグラウンドが無いので練習場所が遠いなどe t c、全て事実無根です。段原クラブも同じような状況です。フルスイング塾に入らないとレギュラーになれないとか、監督はレギュラーしか指導しないなど色々耳に入ってきます。

山内さんと私は元プロ野球選手です。野球に人生を掛けて戦ってきました。その野球の世界で頑張っている子ども達の足を引っ張るような事をする訳がありません。私達は自分の経験してきた野球だけでなく、今も講習会や野球教室なので指導者として自分のレベルアップに努めています。中途半端な野球経験で古いままの理論を子ども達に押し付けている指導者とは違うプライドを持っています。野球は根性ではなく技術なのです。本物を自分の目で見て下さい。

段原クラブは平日週二回、17時~19時まで練習をしています。前々からこれはメリットでもあるが、デメリットでもあると思っていました。家が少し遠い子が出られないため入部出来ないと思われるからです。これもまた間違った噂です。練習、全て自由参加です。平日練習に来ていない選手もいますし、何時に来て構いません。家も学校も違うのですから当たり前です。平日は自分のやりたい練習を自分で考えてする日です。休むことも自由です。正しい段原クラブを皆さんに理解して欲しいです。野球人は野球大好きな子どものためには全力を尽くします。私は野球人です。

第139話/2015.02.17

2月15日(日)練習体験の子ども達が数人やってきました。その保護者の方から間違った情報を聞いたのでそれについて書きたいと思います。まず、一つ目は「クラブチームで野球をしていると中学校の内申書で不利になる」よく耳にする話です。これは全くのデマです。私は教育委員会の方と話をした事がありますが、中学校のクラブ活動と学校外のクラブチームの活動は同等に評価しなければいけないのです。もう、そうでなければ教育委員会に相談するべきです。高校受験で推薦をもらえないのはチームのせいではなく、本人の質の問題です。現実、段原クラブの選手は学校で不利な扱いを受けていません。二つ目は土日にある学校行事に出られないのでは?という事です。段原クラブでは各家庭の判断に任せています。グラウンドに来るのも自由、来ないのも自由、これは学校行事があろうがなかろうが全ての練習、試合、当たりの事です。出席を強制する権利は誰にもありません。学校行事を休むか、練習、試合を休むのか全て本人、保護者が決めるものです。

昨年、秋の文部科学大臣杯の準決勝、決勝の日と運動会が重なった選手がいました。準決勝に勝つと県大会に出場出来ます。その選手が試合に出たいと言ってきました。私は中学校の校長先生と話し合い、1試合目(準決勝)だけ出場し、終わりしだい運動会に駆けつける事に決めました。試合に勝つ事も出来、運動会のリレーに出る事も出来、本人、保護者、学校の理解のお陰で良い判断が出来たと思います。私は今までこのような事で何度か学校へ行き先生達と話をした事がありますが、ちゃんと正直に理由を説明して話をすると全ての方々が応援してくれます。選手達の努力が一番大きいと思いますが、普段の学校生活が正しければ何も心配する事はありません。段原クラブの子ども達はちゃんと進学し、しっかりとした高校生活を送っています。

中学時代に勝った、負けた、確かに勝つ事も大事な事だと思います。私だって勝ちたいし、勝たせてあげたいと思っています。しかし、私の中にはもっともっと大きいと思っています。それは個の力を伸ばす事、野球の技術は当たり前です。(野球のクラブチームですから)

高校に行って困る事のない理論、考え方、体力、精神力、出来るだけ多くの事を伝えて送り出す事が責任だと思っています。

私は今年56歳になります。年々衰えを感じていますし、同級生の死の連絡を受けたりした時に明日に不安を感じます。今年に入ってから後悔しないように出来る事は全てやろうと練習の望み方を変えました。練習時間以外でもユニフォームを着て、個人練習をしている選手がいれば時間と体力の許す限り付き合うようにしています。選手にとって迷惑かもしれませんが、自分のものを一つでも多く、少しでも早く、伝えたいと思っています。今年の選手は良く練習をします。良い子達です。ルールで許されませんが、全員ベンチに入れて上げたい子ども達です。

2月28日(土)に招待試合があるので背番号を決めなければいけません。監督にとって辛い仕事です。

第138話/2015.02.09

私は口が悪く厳しいらしい。言葉使いが悪いのは自分でも自覚しています。これは多分育ちだと思っています。私の父はボートレースの選手をしていました。小学校の低学年の時には日曜日に湖でボートの練習をさせられていました。2年生ぐらいの時に、体が大きすぎるという理由で自転車の練習に変わりました。父は野球では飯は食えないと私が野球する事を快く思いませんでした。一応、プロスポーツの世界を経験した人なので全ての事に厳しく、5年生の相撲大会で優勝した時以外誉められた覚えがありません。中学に入って本格的に野球を始めてから、反対していた父が全ての試合を高校卒業まで見に来てくれました。県大会で優勝しても、甲子園に出場しても、プロ野球に指名されても一度も誉めてもらえませんでした。母に後々聞くと色々な所で私の自慢をしていたそうです。中学、高校時代に何度も野球を辞めたいと思った事がありますが、父が恐ろしくて言いたせませんでした。私が今、何よりも野球が好きでこの歳になっても情熱をもってられるのは父のお陰だと思っています。

プロ野球の先輩である田野倉さんという方がトロフィーなどを扱う会社をされています。スポーツハウス鈴木もお世話になっています。今年送って頂いたカレンダーに毎月、言葉が書かれています。2月は「悪く思われたくない気持ちは、言うべきことを言えなくする」です。親が子どもに、指導者が選手に悪く思われたくないから言わない、それが本当に子どもや選手のためになるのでしょうか？その子をその選手をなんとか良くしたい、一本でもヒットを打てるように、一球でも捕れるように、一試合でも多く勝てるように、私の父は野球がわかってなかったと思いますが私を男として野球選手としてそんな思いで厳しく接してくれたのだと思います。結婚するまでずっとうとうとうしくて恐かったです。寮のある高校を選んだのは家を出たかったからです。本当に親の心子知らずでした。そのカレンダーの5月は「苦労はさせたくないと思う親心は子どもを怠け者にする」です。私は口が悪いです。厳しいかもしれませんが、それに耐えられない親や子もいると思います。正しいとは言いません。優しい言葉で野球を上達させる事の出来る指導者の方もいるでしょう。優しく、苦労なく上達して試合に勝てる、それが出来たらいいですね。今の私の能力ではまだ出来ません。私は自分の父親が厳しい人で本当に良かったと思っています。今はもういませんが父の事が大好きです。そして心から感謝しています。

第137話/2015.02.02

今年に入り大学受験が終わった高校3年生のOBが、自分の練習の為もありグラウンドに来てくれています。この学年は努力する事が当たり前の選手が何人かいてチーム内の競争もあり、チームとしても強く一緒にグラウンドに出ている時間がとても楽しい年でした。そんな子ども達なので大学まで野球を続ける人数が多く、いつもでも野球に情熱を燃やしているのだと思います。チームの中学生にとってもレベルの高い先輩と練習する事で技術、取り組み方など見習うことがたくさんあり良い刺激になっていると思います。

中廣、西川、坂本、七田、好きな野球を長く続けられるように、ケガに注意して今まで以上に競争の中で精一杯努力して欲しいです。君達は勝負の出来る技術と気持ちを持っています。私の教え子なのでから自信を持って挑戦して下さい。

また1月2日のOB戦で一段とたくましくなった姿を見せて下さい。楽しみにしています。練習に来てくれてありがとう。

その4人の中で七田という選手は中学生の時は広島を代表する投手でした。高校ではその力を十分に発揮する事は出来ませんでした。もちろん本人の努力が足りなかった事が一番の理由だと思いますが、この悔しさを返す為に国立大学に合格し野球をやるそうです。勉強と野球、今まで以上に苦しい道だと思います。その為に3月一杯、段原クラブで練習するそうです。中学時代の正しいフォームに戻せば正しいボールが投げられるようになるはずです。全力で協力したいと思います。今、彼は1、2年生のピッチャー達に彼の持っている考え方、技術、練習方法などを伝えてくれています。中学で好結果を残した事も、高校で結果を出せず苦労した事も両方大きな経験、財産です。この大切な経験を後輩達に伝えて欲しいと思います。人と人には相性があります。指導者と選手も同じです。私も中学から野球を始め、プロ野球を引退するまで何十人という指導者と接しました。結果を出せられるかどうかはあくまでも本人の努力による所が大きいです。指導者との出会いもとても大切だと思います。私は中学の先生、高校の監督もプレーしている時はあまり好きになれませんでした。確実に私の野球人生の恩人です。たいして努力もしていない私の事を見捨てることなく厳しく指導して頂き、我慢して使ってもらいました。本当に感謝しています。

たぶん段原クラブにも他のチームにも指導者に事を疎ましく思っている選手がいると思います。当然です。君達の事を思えばこそ、嫌な事を言わなければならないのです。私は段原クラブの選手全員、大好きな子ども達です。だからこそ、いやがられよと嫌われようと厳しい事を言います。必ず君達のためになると信じているからです。他のチームの指導者の方々も同じはずです。今まで段原クラブに入部してくれた全ての子ども達が良い思いをして卒団してはもらえてはいません。途中で退部した子もいます。次のステージでは相性が合う指導者に出会えるかもしれません。その為にも野球を続けて欲しいといつも思っています。強いチームより良いチーム、監督の評判は悪いですがコーチと選手は良いチームになってきました。これは自信を持っています。

第136話/2015.01.26

私は広島フルスイング塾というバッティング教室を運営しています。段原クラブとは全く関係がなく、私個人でやっている施設です。ここには小学生もいれば硬式チームの選手、少し前にはソフ

トボールをやっている女の子もいました。もちろん段原クラブの選手もたくさん入っています。私が段原クラブの代表・監督をしているので雨でグラウンドが使えない時や土、日の練習前、後に好意で段原クラブの選手に開放しています。

先日、チームの保護者からあり得ない話を聞きました。「段原クラブはフルスイング塾に入らないとレギュラーになれない」こんな事を言っている他のチームの人（小・中学生の保護者）がいるそうです。私はただただガッカリしました。一生懸命野球に取り組んでいる子ども達の成果を発表するチャンスをそんな事が理由で決まる訳ありません。もしそうだとしたら段原少年野球クラブ（段原スポーツ少年団）は20年も続きません。私は野球に嘘はつきません。当然です野球が大好きなのですから。10年前にベースボールアカデミーというバッティング教室をエスコム府中の三宅先生が開き、私がお手伝いをしました。その時にも子どもを使って金儲けを始めたと言う人がいました。皆さん考えてみて下さい。広島市内で3か所で打って、Tバッティングが出来て、中2階で保護者が見学出来、簡単なトレーニングの出来るスペースがある、倉庫と駐車場、家賃でいくらかかると思いませんか？その中に防音の壁、ネット、マシン、ボール（軟式、硬式）、バット、照明、土 e t c 協栄電気工業（株）様をはじめたくさんの方々のご協力を頂きましたが、私も銀行から何百万かの融資を受けております。儲かるのならカープのOBがとっくにやっていますよ。毎日10時過ぎまでやってみて下さい。人の口には戸が立てられません。特に私ははっきりとものを言うので敵が多いのも承知しています。それにしてもいい加減です。ひがみとしま思えません。一度も段原クラブの選手をフルスイング塾に勧誘したことはありません。毎年、背番号はスタッフとの話し合いで決めています。そしてフルスイング塾に入っていない選手がレギュラーのポジションをとっています。キャプテンにしてもエースにしても同じです。そんな基準で決める程度の人間だと思われていた事に腹が立ちます。私はそんな程度の思いで野球をしていません。全ての生活サイクルを段原クラブとフルスイング塾、つまり野球を中心に回しています。子ども達に厳しい事を要求するのだから自分が野球に妥協する訳にはいきません。

何度も書いてきましたが、私は本気で上手くなりたいと努力する子ども達のお手伝いをしたいと思っています。やる気のない子を無理やりグラウンドに出し、ボールを投げさせたり打たせたりしてもお互いに楽しくないのです。出来なくても毎日頑張っって少しずつ、本当に少しずつですが上達していく選手と一緒にユニフォームを着て練習をしている時が本当に幸せです。儲かっていたら軽自動車に乗っていませんよ！！

—追伸—

1月31日（土）朝9：55からTSSの番組でフルスイング塾が取り上げられます。野球少年達は練習で見られないかもしれませんが興味のある方は是非見て下さい。木曜日の子供達も映ります。

第135話/2015.01.19

1月に入り少しずつ6年生が練習の体験にやってきます。みんな大きな体をして恵まれた素材ばかりで驚いています。しかし、その大きな体の使い方が全く出来ていません。とてももったいなく思います。特にバッティングは全員が同じ指導者に教えられたように同じ間違いをしています。まずステップが広い、そしてそのステップは必ずベースよりに踏み込んでいます。バットは体から離れ、ファールグラウンド方向にスイングしている。（ドアスイング）下半身は全く回らない。そのため打球はフック、ドライブがかかり、ファールになる。遠くに飛ばない。小学校のグラブチームで

何年間か野球を経験し、指導もされているだろうに基本がまるで出来ていない。なぜだろう？野球は頭（頭脳）「状況判断による予測と準備」と下半身とするスポーツです。一番大事な下半身の使い方がわかっていません。そのため、せっかく持っている能力がボールに伝わりません。だから速く強い打球が飛ばないのです。下半身の使い方が上手くなればとても楽しみな選手達です。現実に1日体験に来ただけで確実に打球が変わりました。正しい体の使い方を習うだけでも段原クラブの体験の価値があると思います。6年生の皆さん、打球が遠くに飛ぶと野球は楽しくなりますよ。

1度練習に来てみてはいかがですか？1日で変わりますよ！！

前にも書いた通り、段原クラブでは今、全てのスピード強化月間です。形よりスピード、自分の100%を伸ばそうと選手達は練習をしています。チームの原点に戻り個々の力でやる野球、荒々しくどちらかといえば雑な野球でも魅力のある野球をするために個人練習に時間を費やしています。体に恵まれていない選手も少しでも力を伸ばそうと頑張っています。簡単に結果は出せない、中学では出ないかもしれません。それでも努力し続けなくてははいけません。そういう子ども達が打つ1本のヒット、抑える1イニングこれが私の仕事であり、喜びです。信じて入部してくれた選手達、そして信じて努力し続けている選手達の練習が見ていて今年に入り少しずつ楽しくなりました。各自が持っている力、それぞれ能力は違いますが、良い頭で練習する選手が増えました。手を抜いている選手が恥ずかしくなるチームに少しずつ近づいてきたように思います。一つの技術を身に付けるには時間がかかります。しかし諦めなければ必ずたどり着きます。その可能性を今の選手達に感じています。楽しみです。練習中チームメイトは全員敵です。チーム内の競争に勝ち試合のグラウンドに立てるのです。

第134話/2015.01.14

インフルエンザが流行しています。段原クラブでも少しずつ出てきました。予防接種をしてもかかることがあります。私は昨年だけ予防接種していなかったらインフルエンザにかかりとても苦しい思いをしたので絶対に予防接種すると決めました。子ども達は予防接種していない子が圧倒的に多いのには驚きました。それも野球に対する思いと通じているのかもしれませんが。

1月11日に西協議会の理事会と新年会があり、本年度の日程がほぼ出ました。3月15日の理事長杯の予選からシーズンがスタートします。ここ2、3年勝つ事にこだわり段原クラブらしい野球が出来ず、ベンチであまり楽しめていない自分にイライラしていました。

今年の段原クラブが目指している、子ども達個人個人の力で1対1の勝負に勝つ、見ている人達が心打たれるような野球が出来るように子ども達と努力していきたくと思います。雑でいいのです。子どもだから。あくまでも個人の力を最大限伸ばしていける指導にもう一度立ち返り、目の前の勝利にこだわるあまり、各自の個性、長所が小さくならないように、そして試合ではグラウンドの上で選手が持っている力を出す事の出来る環境を作りたいと思います。そのために私の心の成長が一番必要になってくると思っています。

1月に入り少しずつ小学生が体験に来てくれています。毎年思う事ですが、体験に来た選手が8割入部すれば間違いなく県で優勝出来ます。今年もまだ少ない人数ですが、全員が良いものを持っている選手ばかりで驚いています。しかし残念な事にその持っている能力の使い方がわかっていません。正しく使うと投げるボールも打球も見違えるように速く、遠くに飛ぶようになります。実際半日の練習で結果が変わります。6年生の皆さん、打球を変えたければ1度体験に来てください。正しいスイングすると強く速い打球が打てる事を教えてあげます。バッティングは遠くに飛ぶと楽

しいです。子ども達は全員、ホームランが打ちたいのです。小さくても夢は追いかけていいのです。強く、速く腕とバットが振れる。段原クラブの原点を思い出して今年は雑に野球をやりたいと思います。

今週はホームページにアップする担当者がインフルエンザにかかりアップが遅くなりました。失礼しました。

第133話/2015.01.05

1月2日に恒例のOB戦がありました。今年は20周年記念という事でグラウンドには204名、祝賀会には185名のOB、現役の選手、保護者の方々が参加してくれました。グラウンドにOBの選手が60数名集まったので6チーム作り3試合しました。どの試合も緊迫した好ゲーム楽しんでもらえたと思います。高校生、大学生のプレーを見て現役の中学生が少しでも刺激を受けてくれてより一層高い目標を目指して練習に取り組んでくれたらと思います。

祝賀会では懐かしい顔を沢山見ることが出来、私はとても楽しい時間を過ごしました。OBから磁気ネックレスと時計を頂き両方とも着ける習慣はありませんでしたが、これからは大事に使わせて頂きます。ありがとうございます。参加してくれた全ての人が満足してくれたのか、とても心配です。来年の1月2日も同じようにOB戦を行います。また沢山の参加を待っています。1日楽しく野球をしましょう。私はここ数年、体の衰えのため試合に出ていませんが、今年見ていてむしろ出たくなりました。1年間じっくり体を作り直し、来年にはマウンドに立てるように努力したいと思います。やっぱり野球は見るものではなく、やるものだと思います。

先週頭髪の話を書きました。本来、私は野球イコール丸刈りという考え方には反対です。ルールを守り、しっかりやらなければいけない事をやり、チーム及びチームメイトに迷惑を掛けなければ問題はありません。実際、段原中学校の野球部でスポーツ少年団をしていた時は頭髪は自由でした。それで出来ていました。しかし今の段原クラブでは無理です。親が管理しきれない、そして確実にその行動がチーム及びチームメイトに迷惑を掛けています。厄介な連中との目撃情報が入っています。公園の隅の方でたむろしていれば喫煙を疑われても仕方ありません。グラウンドではもちろんの事、私生活、学校生活でも段原クラブの一員として責任ある行動が求められます。結局、私が言いたいのはそういう事です。チームスポーツをするという事は社会生活と同じで、自分のミスで他人に迷惑を掛けるという事です。野球が優先順位が一番だからクラブチームに入部したはずです。そうでないなら道を変えるべきだと思います。何度も書いていますが、私はただ野球が大好きな子どもと全力で野球がしたいだけです。ほとんどの段原クラブの選手はなんの問題もありません。楽しく野球出来ています。

今年も野球大好き少年が入部してくれる事を待っています。

第132話/2014.12.29

12月27日(日)で今年の練習を終わりました。小学校の時に大きな舞台を経験した事の無い選手が努力を重ね少しずつ力がついてきました。特に体に恵まれていない選手が多いのでそれだけでハンデがあります。力で圧倒するような野球は出来ませんが、くらいついて勝負出来るチームになりつつあります。このまま努力し続けて欲しいと思います。心配な事もあります。2年生の一部

の選手が髪の毛を伸ばし出した事です。段原クラブは丸刈りを強制していませんが、短く刈るように指導しています。理由は過去の経験から、髪の毛をいじりだした選手が道を逸れる可能性が高いからです。練習、試合中も集中力が途切れがちになり、練習量も丸刈りしている選手の方が確実に多いです。理屈でなく、今までのチームの歴史の中で結果として出ています。まあ全員が本気で努力しない方がレギュラーを決めるのに悩まなくていいので私としては楽ですが・・・。今まで何度も何度も変わってくれることを期待して話をしたり、チャンスを与えたりしてきました。来年は甘さを捨て、厳しく接していこうと思っています。グラウンドで一緒に同じユニフォームを着てやりがいのある選手、楽しい選手と練習、試合をしていきたいと思えます。

野球の技術なんて人として魅力のひとつでしかありません。それだけでは人として足りないのです。集中力の無い練習ではそれすら身に付ける事は出来ませんが、髪の毛なのでなびく女性はどうでも良いのです。野球が上手くなり、甲子園なりプロ野球選手になれば女の子はいくらでも寄ってきます。今やらなければいけないのは鏡を見て髪の毛をいじる事ではありません。私は嫌いです。どうしてもというなら他のチームを紹介します。

1月2日のOB戦、20周年祝賀会たくさんの参加ありがとうございます。寒いようですが、出て良かったと思える温かい試合、祝賀会にしたいと思えます。現役の保護者の皆さん大変だと思えますが、宜しく願います。みんなで楽しみましょう！！

年賀状、皆さんの協力で目標達成することが出来ました。本当にありがとうございました。

第131話/2014.12.23

12月21日(日)カープジュニアという広島県軟式野球連盟に登録している小学生のチームから選抜された選手のチームと1年生が試合をしました。県内の6年生の選ばれた選手達だという事なのでとても楽しみにしていました。結果は2試合とも0-2で負け、ある程度予想通りの結果でした。段原クラブの1年生はまだ体が小さく、細く、スピードとパワーがありません。特にスピードがある選手は2人しかいないので16mの距離で投げられたら間に合いません。相手の守備が雑で何度かチャンスがありましたが、3塁ランナーを返えずバッティングの力はまだありません。身長でも6年生より小さくたぶん走力も負けていると思えます。しかしこの結果は段原クラブとしては当然の事です。1年生の時は毎年この程度の選手達です。ここから正しい理論と正しい練習で3年生になれば必ず他のチームと対等に戦える選手になります。それが私の仕事なのです。1年生の選手がこの結果をどう受け止め、何を思い、何を考え、何をするのか、これからの彼らにとってとても良い刺激になってくれれば幸いです。

今年の段原クラブの12月、1月、2月、3ヶ月間の練習テーマはスピードアップです。走力はもちろん、投げるボール、スイング、守備の足の動き、カバー、捕球後の送球、全てのプレーのスピードを上げる事を意識するように伝えてあります。形(フォーム)もたしかに大切ですが、原点スピード、パワーがなければプレーとして生きてきません。1、2年生に特に足りない部分だと思えます。食事、睡眠を含めた体作りからトレーニングが必要です。野球はスピードが一番必要なスポーツなので、ひとりひとりがどれだけスピードという事を頭に入れて練習する事が出来るかが大事になってきます。この冬で体を変えるぐらいのつもりで取り組んで欲しいと思えます。1人でも2人でも覚醒する選手が出てくる事を期待します。

平成27年1月2日に段原スポーツ少年団としての20周年記念祝賀会を行います。出欠のハガキまだ出していない方、出して下さい。欠席でも出して下さい。人として常識です。願います。

午前中のOB戦も楽しみです。懐かしい顔を見て昔話に花を咲かせ野球を楽しみたいと思います。みんなで晴天を祈りましょう。現役の保護者の皆さんには苦勞を掛けています。本当にありがとうございます。しっかりと全員の心に残る温かい1日にしたいと思っています。宜しくお願いします。20年前の何もわからない中でスポーツ少年団に登録するまでの苦勞や、段原中学野球部と離れて段原少年野球クラブを作らざるおえなくたったとても悲しい思い出などが思い出されます。しかし、20年続けてこられて全てが結果として良かったと思っています。20年間1日でも段原スポーツ少年団、段原クラブに関わって頂いた全ての方々に感謝致します。本当にありがとうございました。私が目指している強いチームではなく、良いチームになれるようこれからも子ども達と努力していこうと思います。

第130話/2014.12.15

先週の廿日市大会で今シーズンの試合は終わり、来年の春に向けてチーム内の競争が始まりました。今まで着けていた背番号を全部回収し、全員横一線でポジションの取り合いです。レギュラーになるためにまず一番は当たり前のプレーを確実にこなす事、そのために必要なのは基本です。この冬のチームとして目指すのは基礎体力のアップ、スピードとパワーを上げる事、そして正しい基本の動きを身に付ける事です。全てのポジションそして全ての動きに理にかなった動作、体の使い方があります。いくらスピードやパワーをつけても使い方が間違っているのはそれが結果につながりません。逆に正しく使っても基本的な体力が無ければこれもダメです。1、2年生にとってとても大切な野球人生において重要な三ヶ月です。本気でやると体は変わります。そして投げるボールが打球が変わります。一桁の背番号を背負うために、まずチーム一の練習量そして質を各自が目指して個人のレベルアップ、そしてチーム力のアップへつなげて欲しいと思います。

3年生は受験が近づいてきました。一人一人立場が違うので一言では難しいですが、高校受験で人生が決まる訳ではありません。合格目指して努力する事が大切だと思いますが、その為に野球が出来ないのなら、そもそも高校で野球をするのは無理です。高校野球は学校によってちがいはありますが、段原クラブのように甘くありません。中途半端にやって無駄な時間とお金を使うぐらいなら最初からやらない方が良いでしょう。男の子は社会に出て一人で戦っていくための心と体を作るためにスポーツ(野球)をするのです。本気でやらなければ何も得るものはありません。厳しくて、しんどくて当たり前なのです。それが嫌ならさっさと逃げるべきです。どうせチームやチームメイトに迷惑をかけるだけなのですから。

最近、土日の練習後にフルスイング塾で打つ子が増えているという事を書きました。私は日曜日、ためしてやろうと思い、練習の最後少しランニングを入れてみました。思った通り、打つ子が激減、なんと一人でした。あくまで自主練習なのでやろうとやるまいと構いません。要は結果の世界ですから。その選手は最近思い通りのプレーが出来ず大きな壁に当たっていました。いいチャンスなので一対一で一時間ほど指導出来ました。打てる(バットが振れる)方法は伝えたので後は本人です。忘れず続けて欲しいと思います。努力し続ける事で悩みが生まれる、工夫する、わからなかったら監督、コーチの力を借りる。頑張っている選手のために使う時間は私にとって、とても楽しい時間です。

第129話/2014.12.08

段原クラブだけなのか他のチームもあるのかわかりませんが、朝一番の試合で全く打てない。よく頭が起きるのに3時間、体が起きるのに5時間、起床してからかかると言われています。受験の時に先生がよく言っていたのを覚えています。その理論から何年か前の段原クラブは移動の車の中でグラウンドに着くまで寝ている選手がいるほどつまらないチームでしたが、最近は保護者も5時間前起床の話をし、やっていると思っていました。集合時間も今までより早くしてウォーミングアップの時間を長くしたり、プラスチックボールを打って、思い切ってバットを振ってみたりなんとか変えたいと工夫してきましたが結果は変わりません。

12月7日(日)の廿日市大会準決勝もまったく打てず1-0で負けました。良い投手が相手なら打てない事もあります、私の目には普通以下のストレートと普通のカーブを多く投げる投手にしか見えませんでした。中心打者ならカーブだけを狙って2本は確実に打てたと思える程度です。選手達に常に言っている「狙ったらカーブの方が打ちやすい」をやろうとする選手がいません。右打者はレフトに左打者はライトに意識が向かっているので3流、4流の投手しか打てません。なぜなら良い投手はアウトコースに投げってくるからです。

先日BS放送でプロ野球OBの金本、古田、宮本の2000本安打を打った3人が出ている番組を見ましたが、アウトコースを反対方向に打つ練習し身に付けた事が2000本安打につながったと3人とも同じ事を言っていました。当然だと思います。レフト、センター、ライト3方向に打つ事が出来て3割という打率が残るのです。私は中学、高校時代、体が大きく中心を打っていたのでアウトコース、それも変化球が多くきました。ずっとセンターから右に打つ事を意識していました。それが5割という打率につながったと思います。すぐに身に付くとは思いませんが、野球を続けていくためには必要な技術です。練習するべきです。まあ技術より先に5時間前起床をひとりも実践していない親子の甘さを変えなければ何も変わらないと思いますけど。

試合終了後、解散しましたがまだ15時前、いつものように何人かがフルスイング塾で打つと言ってきました。湊崎のグラウンドも12時から18時まであり、3年生が練習しています。予定表に書いてあるので全員知っています。私は監督なので3年生の練習に行くのは当たり前です。無惨な試合の後ですから選手も全員練習に来るものだと思っていました。1、2年生22人練習参加はフルスイング塾とグラウンドで11人、これが段原クラブの現実です。この程度の親子でも段原クラブのスタッフと練習内容、そして正しい技術、考え方を伝えているのである程度勝てます。しかし、ここまでです。これ以上にはなりません。全ての引き出しを開け、全てを伝えようとしても無理です。本人(親も含む)がそこまで望んでいません。監督、コーチがグラウンドにいて、練習している選手がいるのに家に帰り、シャワーを浴び、遊びに行くのか、ゲームをするのか、テレビを見るのか、寝るのかわかりませんが、平気なのが私には理解出来ません。あきらめているならチームになぜいるのですか?それともそんなに自信があるのですか?結果も出せないのに可愛げがありません。私は湊崎で西、橋田、山藤にノックをしましたが、本人達がやろうとしてやっている練習なので打っていて楽しかったです。いつもやりたい子ども達と練習したいと思いました。この子達に私は必要だと思える練習はやりがいがあります。段原クラブは人数が減った方が良いチームになるように思いました。さみしい話です。

第128話/2014.12.01

11月29日(土)で20周年記念のブライディングカップが一段落しました。日程の都合で参

加頂けなかったチームも、もちろん参加して頂いたチームも感謝致します。ありがとうございます。これからも段原クラブを宜しく願います。

段原中学校野球部の中で段原スポーツ少年団を立ち上げ20年が経ちました。私はクラブチームを作るつもりも、まして監督をしたいとも思いませんでしたが野球部の考え方が変わり、クラブ化するしか方法がなく、段原少年野球クラブとなりましたが、学区外の子ども達にも本気で野球をする場所を提供出来るようになり、グラウンドの問題など様々な悩みはありますが、これで良かったと思っています。チームを作るのは易しい事ですが、続けて行く事は大変です。これからもチームと子ども達の役に立てる間は精一杯やっていきたいと思っています。

1月2日に恒例のOB戦も楽しみですが、今回は20周年の祝賀会も予定されています。数多くのOB、保護者の方々にお会い出来る事を楽しみにしています。お酒を飲めるようになった(大人になった)OB達が堂々と私と昔話や近況を語る事が出来ればうれしいです。今シーズンも12月6日(土)、7日(日)の廿日市大会が最後の試合になります。気温がグッと下がり寒いようですが、来春に向けての各自の課題がはっきりと見つけられるような試合になると良いと思います。新チームになり、控えの子ども達がよくバットを振っています。すぐに結果に結び付くものではありませんが、卒業の日まで今の気持ち、姿勢を続けていけば必ず良い事があります。私もスタッフも見ています。今レギュラー番号を付けている選手を来春には何人も蹴落とすことを期待しています。のんびりしている選手を一気に抜き去って下さい。変わりたい、出来るようになりたい、試合に出たい、そして打ちたい、そんな気持ちを全身で表現して練習して下さい。私はそんな君達と練習するのが大好きです。

第127話/2014.11.26

私は今悩んでいます。8月31日の文部科学大臣杯の西部予選から新チームがスタートし、約3ヶ月弱20試合程度してきました。その中で県議長杯優勝や、県少年部県大会準優勝などある程度勝っています。1年生が半分先発で出ている中で本来なら良くやっているとも言えるのかもしれませんが。しかし私の中では納得出来ない部分があります。それは2年生で試合に出ている5人の内容です。大事な場面ではほぼ打たない。守備で(送球も含め)イージーミスをする。走塁が消極的、そして一番の不満は1年生が半分出ている中でチームを引っ張っていかうという気持ちが見えない事です。私は常に子ども達に言い続けている事があります。「試合に出ている選手は打てなければ守備で、守りもダメなら走塁で、そしてそれでもダメなら声でチームの為に仕事をしなければいけない」要はチームが勝つために心を表に出さなければならないという事です。今、試合の中で私に伝わる物がありません。そして悩んでいます。「いっその事2年生は切ってしまうかと」子どもは未熟です。ミス、間違いをします。そんなことは27年子ども達と野球をしていれば承知しています。技術的なミスは良いのです。頭、心のミスは防げます。思うか思わないかだけなのです。私は思いのない子と一緒に野球をしても楽しくありません。せつかく大好きな野球をするのなら真剣に集中して本気でやりたいだけなのです。考える度に久野、西本、出口、黒瀬4人の2年生の顔が浮かびます。彼ら4人は体が細く、小さく、力がありません。練習をレギュラーの子達より沢山やっても中々結果に結び付きません。試合に出ている選手より、心を込めて練習しています。スタッフ全員がわかっています。しかし、情だけで試合に使う訳にはいきません。勝負の世界なのですから、少ないチャンスしかありませんが諦めず努力し続けて欲しいと思います。2年生で試合に出ている5人、あなた達が切られないのは、出られない4人が頑張っているからです。試合でミスはします。

誰でもします。試合に出られない選手が全員納得のいく練習、試合の取り組みをする責任があると思います。1年生で出ている選手も同じです。好きな野球を本気でやる。難しい事だとは思いません。なぜなら段原クラブで本気でやれば必ず上達するし良い結果が出るのですから、やらなきゃ損です。

11月24日(祝日)にあった県少年部県決勝大会の決勝戦で明らかに勝てる試合を私の判断ミスで負けてしまいました。マウンドに上がるっている投手の打者に向かっていく姿勢の無さに感情的になり、交代させた事により逆転されてしまいました。子ども達には本当に申し訳ないことをしたと反省しています。長くやってもまだまだ心が弱く、監督として未熟だと痛感しています。まず自分自身が二度と子ども達の足を引っ張らないように変わらなければいけないと思っています。すみませんでした。

子ども達と一緒に成長して、誰からも良いチームだと言われるようにしたいと思います。

第126話/2014.11.19

今週は本当に忙しく書き込みが遅くなりました。

週末11月15日、16日に府中オーシャンズの招待試合にA、B2チーム参加させて頂きました。Aチームは4試合で3得点(タイブレークで勝ちBクラスで優勝)、Bチームは4試合で3得点、新チームの秋は投手が有利だと思いますが、それにしても打てません。Bチームは1年生ばかりの10人(1年生の主力はA)なのである程度予想通りでした。技術の無さを気力でカバーするような所も見られず、口では夢を語るのに行動しない不思議な選手達です。力が無いのは十分に承知していますが、心も無ければクラブチームで野球をやる意味はありません。負ける事に小学校の時から馴れているように見えます。私は負ける事に馴れていません。小、中、高とずっと強いチームでしたし、プロでも勝つ事を目指してやってきました。指導者になってからもずっとある程度以上のチームを指導してきました。負ける事が悔しいのは当たり前で恥ずかしくさえ思います。男は恥をかきたくないから努力するものだと思います。残念ながら段原クラブの選手達は小学校の時、チャンピオンチームの中心だった子がいません。勝負での勝つ事に対する執念が親子共々感じられません。チーム内でポジションを得て試合に出る事が出来るだけで満足感、達成感を感じているようです。そんな事で満足しているような選手が将来の夢を語っても無駄です。近づく事も出来ません。私は常々選手達にわからない事は聞きにおいでと言っています。ほとんどの選手は来ません。私に近づきたいものがあるのかもしれませんが、大した数字も残せないのに何の疑問もいらない、そして同じ失敗を繰り返す、不思議でしょうがありません。

本当に野球が上手になりたいのでしょうか？

土曜日の試合でボロボロだった1年生の二人のピッチャーをその夜、強制的にシャドーピッチングで指導しました。日曜日には前日とはちがった結果が出ました。

当然です。正しい練習をすれば良くなるに決まっています。では何故、私は選手達がくるまで教えないのか？本人が望んでいなければ(聞く耳が無ければ)身につかないからです。まず、自分で考える、試す、悩みに悩んでもがくべきです。自分で何かを掴めばそれにこした事はありません。最後の手段として指導者に頼るべきだと思います。それにしても段原クラブの選手は野球の事を考える時間が少なすぎると思います。夢を語るなら、語るだけの事をするべきです。その為の協力は私はしたいと思っています。あなた達の答えを探すぐらいの引き出しを私は沢山持っています。是非、利用して下さい。チームが強くなるのは簡単です。中心選手が一番練習すればいいのです。そ

の点では新チームはまだまだです。

第125話/2014.11.10

11月8日(土)9日(日)県軟連少年部新人戦県大会がありました。前日、突然ショートを守る選手が足が痛いと言いだし、現在のベストメンバーから2人のレギュラーを欠いて試合に望まなければいけませんでした。確かに勝つという目的のためには大きなマイナスですが、チーム力をアップするためには他の選手にチャンスが増し、プラスだと思ふことにしました。運よく2試合勝ちベスト4に残りましたが、試合内容は明らかにダウン、特にショートの代わりは務まりそうな選手がいません。守備力は50%減といった感じです。スポーツをしていれば故障する事があります。しかし今、段原クラブで怪我をしている選手はほぼ練習以外でしています。段原クラブの選手として責任を持った行動でチームに迷惑を掛けないようにして欲しいものです。今週の府中オーシャンズの招待試合はA、B2チーム参加させてもらえます。全員が試合に出るチャンスがあります。1日も早い回復を望みます。

9日(日)は雨のため順延になりました。今まで必ず抽選、初めての試合順延です。子ども達の為には当然のことです。今まで何度も言い続けてきた事が伝わったかどうかわかりませんが、とても良いことです。チームにとっても故障者が回復する時間があります。せっかく広島スターズと試合出来るのですから全員がベストの状態ですぶつかっていきたいと思います。文部科学大臣杯西部大会決勝では手も足も出ませんでした。あれから2ヶ月子ども達は確実に少しずつですが力をつけています。勝敗よりも気持ちで負けない堂々とした試合をしてくれると嬉しいです。自分の力をはかるチャンスです。

今のチームのレギュラーでなく、二桁の背番号の選手達がいい感じになってきました。技術的にはまだまだですが、争うように練習する気持ちが出てきています。私はフルスイング塾という室内で練習が出来る施設も持っています。段原クラブの選手は野球教室として使用していない時間は時間無制限1日¥1,000で開放しています。土曜日、日曜日、祝日の練習、試合の前後にいくらでも打つ事が出来ます。今までほとんど決まった3年生が使っていましたが、新チームになり、1、2年も積極的に利用するようになりました。バッティング練習は数多く打てば必ず打てるようになるとは限りませんが、打たなければ可能性もありません。本当に強いチームはチームの中心選手が一番練習するチームだと思いますが、段原クラブはまだまだそのレベルにはなっていません。あくまで中心以外の選手の努力が目立ってきているのですが、続けていく事によってレギュラーのポジションを奪って欲しいと思います。野球はバッティングが一番ラクで楽しい練習です。毎日打ってもそれが立派な努力だと思いませんが、それすら出来ない選手はそれ以上の厳しい練習をしている訳はありません。1年生で入部した時「毎日ストレッチをして下さい」こんな簡単な約束も果たせず卒団するまで体が硬いままの3年生もいるのですから。努力は本当に必要で大事な事ですが私はクラブチームの監督なので結果で選手を評価します。今頑張っている二桁の選手達、今週の土日たっぷりチャンスがあります。持っている力を全て出せるように、強い気持ちで試合に臨んで下さい。全力で応援します。

県大会でベンチに入れなくてもスタンドから本当に大きな声を出してくれた道下、ありがとう、私は君が大好きです。だから厳しく接します。頑張ろう！！

みんな、のんびりしているレギュラーを引きずり降ろせ！！

第124話/2014.11.03

せっかくの三連休、天候が不順なため十分な練習が出来ませんでした。その中で11月2日(日)は太田川リーグという大人との試合に3年生と先週府中オーシャンズとの練習試合に行かなかった1年生5人が行きました。段原クラブでは試合の前の練習でバットをしっかりと振る為に飛ばないプラスチックのボールを使っています。そのボール11月3日(祝)の県議長杯の時17球減っていました。私は数え間違いだと思っていました。どう考えてもそんなに失くして帰る訳がないと思っていました。コーチの指示で3年生に捜しに行かすと、なんと11球出てきたそうです。信じられません。そこまでいい加減な子ども達だとは思いませんでした。まして捜しに行く指示を出した時、3年の保護者から1年生もいたのだから来るべきという声があったそうです。

3年生とは何? チームの顔で当然、人間としても野球の技術も全て1年生の手本とならなければいけないのではないのですか。私の指導力が足りないのでしょうか? 常々言っていますが、躰は親の仕事です。チームの道具も自分の道具も大切に作る、当たり前です。監督がわざわざ言わなければいけない事なのではないのでしょうか? そんな事は小さい頃からの育て方ではないのでしょうか? 3年生の皆さん、そんな事もわからない、出来ないのなら野球をする以前の問題です。3年生としての責任、1、2年生の手本、見本にならないのなら練習にくる必要はありません。まして高校で野球をやっても良い事にはならないと思います。中途半端な気持ちでグラウンドに出ても得る物はありませんよ。しっかりとした反省を望みます。

県議長杯で優勝する事が出来ました。この大会はピッチャーがある程度持っている力を発揮してくれました。やはり野球は投手力です。優勝したことは良いことで自信を持って欲しいと思います。しかし野球の頂点はありません。勝った中にもいくつも当たり前のことが出来ないプレーがありました。コーチも私もしっかり伝えたので考え方の間違いや送りバント、盗塁、送球、ケース打撃、出来なければいけない事を確実にこなせるように各自がしっかり自覚して練習し、これからの年内残っている試合で変わった姿を見せて欲しいと思います。屈辱の県大会から投手の気持ちが少しずつ前になるようになってきました。投手は投げるボールに心を込めてバッターに向かっていく。打たれたらもっと練習する、考える、そうやって成長していくのだと思います。たくましく、チームを任せられるエース、誰がなるのかわかりませんが、みんなで競争してチーム力をアップさせて欲しいと思います。勝ったことに満足することなく上を上を目指していきましょう。取りあえず今日だけはみんなおめでとう、そしてありがとう。

第123話/2014.10.27

高校野球秋の中国大会で広島は3校全て1回戦で敗れました。これで来春の選抜大会に広島チームは出場出来ません。私はこの結果を大会前から予想していました。全てのチームが1回戦で負けるとは思いませんでしたが、選抜に広島チームは出られないだろうと思っていました。数年前からずっと言っていますが、広島高校野球は全国レベルに比べ完全に遅れをとっています。なぜなのか? 技術や考え方の進歩、進化に指導者がついていけないからです。全てのスポーツは今の選手が一番です。昔が凄いことはありません。しかし野球だけ昔の選手が凄かったと言う人がいます。極端に言えば王さんは今、ホームラン王になれないのです。当時の環境の中でNO.1だったことは事実ですが、その実力のまま現代では同じ成績は残せません。野球も他のスポーツと同じく

日々成長し続けているのです。それに広島はついていけないのです。何度もいっています。ゴロを打っていても現代野球は勝てないのです。確かに小学生や中学生のたいしたレベルでない野球なら相手のミスで勝つ事があるかもしれませんが、しかし、全国のレベルでは通用しません。ましてプロ野球選手には一生なれません。高校野球の指導者の皆さん、ピッチャーはアウトコース低めにストレート、バッターはフルスイングで外野に飛ばす、上に上がるための基本です。守れることは当然のことです。野球で勝つ為に守備は出来て当たり前です。

10月26日(日)府中オーシャンズに練習試合に行かせてもらいました。文部科学大臣杯県大会優勝チームですので、段原クラブの選手にとって、今の自分達の力を試すこれ以上ない相手です。2試合とも2対2の引き分けでした。打撃では2試合でヒット11本、エースから4本の2点、今の力通りだと思います。レギュラーの中心選手以外が力不足です。特に2年生は基本の振る力をつけなければ1年生に追い越されます。新チームになってから練習を見ていると1年生の努力が目立ちます。守備では投手を変えた時の内野守備がガタッと落ちます。ここでも2年生の奮起が必要です。能力のある投手を守備の都合で投げさせられないのは困ります。捕手は1年生ですが府中オーシャンズの捕手も1年生、現在の力では守備力は負けています。本人が何を感じ、何を思ったのか、段原クラブの2人の1年生キャッチャー頑張れ!!君達の可能性もかなり大きいです。投手は2試合で5人投げました。県大会でみじめに負けてから三週間、競争意識の中確実に進歩しています。今全員に言っていることは、しっかり腕を振って強いストレートを投げる事、変化球も同じように腕をしっかり振る事です。そしてバッターに向かっていく気持ち、姿勢をマウンドで出す事、バツクのミスで2試合で4点取られましたが今やろうとしている事は全員が表現出来たと思います。これから春に向けて公式戦で投げる投手を絞っていきます。私の思うエースは7回投げきれぬ投手です。体と心に力をつけてエースを目指して下さい。

今年の残りの試合は、県議長杯、県少年部の県大会、府中オーシャンズ大会、廿日市シニア大会、段原クラブのブライディングカップが2回、チャンスはあります。チャンスをつかむためには練習しかありません。今、自分は何をどうしなければいけないのか、しっかり考えて練習して下さい。わからなければ聞きにおいて。

いくつかのポジションで良い競争があり楽しみです。

第122話/2014.10.20

新人戦(文部科学大臣杯)が終わり、3年生の卒団式も先週終わり、本格的に新チームになりました。運良く県大会に出たものの運だけでは勝つ事が出来ず、選手の力不足がはっきりして子ども達にとってこれからやらなければいけない事がわかり、全員でポジションを奪い合う気持ちが練習の中に少しずつ見えてきました。この秋は先入観にとらわれず本当にチーム力が一番上がるポジションと選手を探していきたいと思います。選手たちはチャンスが欲しければ、それを体で表して下さい。内に秘めた闘志など何の役にも立ちません。思いがあるなら、体で声で表現しなければ相手に伝わりません。そして私はそんな選手が好きです。

10月19日(日)太田川リーグが2試合あり、1、2年生で行きました。全員やって欲しい事を伝えて打席に入るようにしました。バントは全て出来ましたし、大人の投げるボールをある程度打ち返すことが出来、競争意識が良い方向に出ているように思いました。投手もまだまだストライクの数が少ないのが不満ですが、逃げるような投球がなく、心が伝わったボールが少しずつですが、出てきたように思いました。みんな0という結果が欲しいのは良くわかりますが、まずスト

レートで打者に向かっていく！中学生にはこれが必要です。特に秋から来年の春までにコントロールはもちろんです、体を作り、ストレートのスピードアップです。そしてエースになりたければ完投出来る体力です。新チームは試合で投げる人数は絞ります。競争です。

卒団式の終わった3年生、高校受験です。練習なのか、勉強なのかしっかり切り替えて気持ちの入らない時はグラウンドに来ないで下さい。誰のためにもなりません。自分のため、後輩のため、そしてチームのためにグラウンドに来て下さい。一番上達出来るこれからの5ヶ月、大事にして下さい。

早いですが年賀状の季節がまたやってきました。皆さんの協力よろしくお願いします。電話でも結構です。目標6,000枚、大変です。

第121話/2014.10.14

10月12日(日)卒団式がありました。今年の3年生は18人入部し16人卒団しました。入部者全員揃って卒団するのはとても難しいです。監督が信頼されてない事が原因だと思いますが、私も50年野球をやってきました。その中でたくさんの指導者の方々に出会いました。考え方の違う人や野球理論の無い人もいました。辞めたいと思った事は中学、高校時代には何度もあります。でも辞めませんでした。と言うより辞められませんでした。中学生の時は父親が許しませんでした。自分で決めた事(野球をすること)を途中で投げ出すのは絶対、何があっても許さないというのが理由でした。高校の時は家の周りの人や同級生達が私が野球の特待生として進学していたのを知っているで辞めて帰るといふ恥をさらしたくないと思ひ我慢しました。もちろん先輩より恐ろしい父親がいるという事も辛抱出来た大きな理由です。そして何より大きかったのは夢をずっと持ち続けていたからです。「プロ野球選手になりたい」辞めたら終わりです。野球を始めた時にはみんなが持っている夢です。思い続けた選手が勝ちます。卒団生、1,2年生大きさや内容は人それぞれで構いません。野球の中に夢を持って下さい。勝負の世界は辛い事ばかりです。1本のヒットを打つために数えきれない程バットを振らなければいけません。そして、これで良いという頂上がありません。だからやりがいがあります、喜びがあります。とても難しい野球、最後まで正解がわからない野球、だからこそ長く長く夢を持って続けて欲しいと思ひます。

私は段原クラブの選手に高校野球を経験して欲しい、出来たらレギュラーとして夏の予選のグラウンドに立って欲しいと思ひ、中学生を指導してきました。その為、厳しくプレッシャーも与えてきました。技術はもちろん最後の夏は精神力が必要だし、まず3年間踏ん張る為に怒られる事になる必要があると思ひているからです。厳しい言葉を浴びせられ、はぶてる、落ち込む、悲しむ、逃げるこれでは勝負の世界で舞台に立つ事さえ出来ないと思ひています。しかし今の時代、通用しない子がたくさんいます。チーム存続のために変わる必要があるようです。選手を選んで言葉を選ぶ、チームとして今勝つという結果を得るために必要な事のように思ひます。やってみます。クラブチームとして何を子ども達に伝え、何を身に付けてもらう事が大事なのか、私はまず野球の技術、これが最優先だと考えています。

技術を身に付けるためにやらなければいけない事、この部分に妥協はしません。話がまとまりません、私の中で整理がついていないからです。何かを変えなければいけない事はわかっています。しかしそれが本当に何なのか。色々試すしかないと思ひます。楽しみです。

3年生のみんなありがとう、残り5ヶ月後輩の指導お願いします。必ず君達の力になります。

第120話/2014.10.06

10月4日(土)文部科学大臣杯(全国大会)県大会がありました。試合前のシートノックと相手投手を見てコールドで勝てると思いました。思っていた通り初回1点をとってまだ無死満塁「何点入るのだろう」初回で試合は決まると思いました。なんとそこからフライ3つでチェンジ、目を疑いました。遅いストレート、入らないカーブ、甘い所にしか投げられないコントロール、打てない理由が見つかりません。ランナーが出ればクイック出来ない、キャッチャーはセカンド送球出来ない。でも4対3で負けました。なぜ?段原クラブの選手がそれ以下だったからです。出ているほぼ全員が緊張からか、当たり前のことすら出来ない。これほど心が弱い子達の集団だとは思っていませんでした。特にバッテリーがシッポの下がった犬では勝負になりません。前から何度も言っているように野球は相手があるスポーツです。相手を見て、それに対応します。相手を見て緊張する理由がわかりません。いくら練習して技術を身に付けても試合で出せなければ無いのと同じです。精神に力が無ければ、持っている技術は意味が無いのです。私から言わせてもらえば、たかだか県大会、何万人の観衆がいる訳でもテレビ中継されて何百万人が見ている訳でもないのです。この程度で力が出せなければ、これから先の野球人生はありません。上のレベルには上がれないのです。練習してどんなに力をつけても心が弱い選手には無理です。自分自身で強くなるしかないのです。試合後私は、明日この相手はコールドで負けると言いました。その通りになりました。段原クラブはそんなチームに負けたのです。失礼な言い方かもしれませんが、あれだけミスを連発して、まったく持っている力を出さないでちょうど良い勝負になる相手です。当然、次はコールド負けです。

私は踏ん切りがつかしました。チーム事情に関係なく、本当に一番力のある選手がマウンドに上がるべきです。まずそこを最優先にして他のポジションを考えて行きたいと思います。そしてあくまで守備優先、今までの段原クラブの選手とは違うので自由に打っていて点はとれません。バントもする、盗塁もする、エンドランもする。打つだけしか出来ない選手はチャンスが減ると思います。

チームの方針の変更はスタッフと話し合いが必要ですが、今いる段原クラブの選手の能力(技術・精神力)では勝てない事がはっきりした訳ですから何かを変えなければいけません。それから保護者の方も子どもの野球に集中して下さい。寒い開会式に、そして雨の予報の日曜日に半袖のアンダーシャツ、バカですか?考えられません。指の爪は伸び放題、グローブのひもは切れる、伸びたまま、スパイクの歯は無い、バットはへこんでグリップテープは剥がれている。子ども達は未熟です。ほったらかしていて大丈夫な程しっかりした子どもですか?親の仕事、責任です。

私は変わります。チームのため、選手のために変わります。覚悟して下さい。私は負けるのが嫌いです!!

第119話/2014.09.29

9月28日(日)総会も終わり新チームに移行しました。折角の機会なので保護者の意見、質問、考え方を聞いてみたかったのですが、私の前では言いづらいのか、ほとんどありませんでした。これからもなければいいのですが、言いたい事があれば影で言わないで直接、私に言って欲しいと思います。特にお母さん方、くだらない話はやめましょう。私の耳に入っていますよ。新チームは今の所1年生が多く試合に出ているので上級生から愚痴が出るでしょう。勝負の世界に身を投じたのですから、勝つか負けるかふたつしかないのです。チーム全員が理解している事を望みます。

10月4日（土）、5日（日）文部科学大臣杯（新人戦）県大会です。抽選に恵まれて出場出来ます！！折角の機会なので1、2年生のこれからの糧になるような試合が出来たら良いと思います。自分達の今の力がどの程度なのか、力のある投手と対戦して、自分のバッティングで何が出来るのか？段原クラブの投手は県レベルで通用するのか？とても良いチャンスです。勝っても負けても得るものは沢山あります。その為にまず自分の持っている力を全て出さなければいけません。結果にこだわる事なく気持ちでぶつかって欲しいと思います。3年生が全員揃って最後試合をしたいと言うので10月11日（土）たくさんの方々の協力でなんとか出来るように努力しています。なのに日曜日の練習に塾で欠席が数名、何だそれ、言葉が出ません。ガッカリしました。試合本当にします？

第118話/2014.09.22

9月20日（土）八幡大会で3年生の試合が終わりました。史上初めて学校行事が重なり5人が欠席の最後の試合になりました。21日（日）にたまたま太田川リーグの試合があり、全員で試合をさせたいと思い、3年生で行きました。こちらの思いは子ども達にはあまり伝わらず、最後まで心を動かすような試合は出来ませんでした。エースと4番不在、チームにはやはり中心が必要だと痛感した一年でした。私は野球が上手い子どもが好きなのはではありません。心を込めて懸命に努力し、やろうと思えば誰でも出来る「大きな声を出す」「全力で走る」「カバーに入る」当たり前のことをする選手と一緒に野球がしたいだけです。

段原クラブには佐々木という若いコーチがいます。スポーツ少年団8期生のOBです。彼は国際学院高校から専門学校を出て、現在介護の仕事をしています。段原中学校の野球部から別れ、段原クラブとして独立し、部員9名でスタートした時から手伝ってもらっています。当時はまだ学生でした。休みの日、同級生達が遊んでいる中子ども達のために力を尽くしてくれました。今では社会人となり、結婚し、今年子どもが生まれます。仕事の勤務時間が不規則な中、チームのために頑張っています。夜勤明けにそのままグラウンドに来てくれたり、練習に出てから夜勤に行ったりしてくれています。彼は中学1年生で野球部に入部してきた時、身長138cm、遠投38m小学生の時の野球経験はありませんでした。3年間で10試合程度しか試合に出ていません。それでも今も野球を愛し、子ども達を愛し、段原クラブを愛し、精一杯やってくれています。21日（日）も午前中試合の後、3年生の何人かがフルスイング塾で打ちたいといえば、その日4時から夜勤なのにも関わらず、3時半までバッティングピッチャーをしてくれました。本当に頭が下がります。ありがたいです。段原クラブのコーチが心が良いと何度も書いてきましたが、本当にその通りなのです。

選手、保護者の皆さん、頑張るなんて当たり前です。手を抜いたら、自分の時間を削り、家族との時間を削り、遊ぶ時間を削ってチームのために力を貸してくれるスタッフ達に失礼です。スタッフの最大に喜びは、子ども達と保護者、そしてスタッフが心を一つにし、目標に向かって全力で努力をする事です。結果は良ければ越したことはありませんが、勝つ事だけが目的ではありません。出来なかった事が努力し出来たそれが大事な事だと思います。スタッフは子ども達の真剣な顔、喜びの顔、悔しい顔、あきらめない顔、本気で素敵な顔が見たいのです。

3年生の皆さん、野球人生の本番はこれからです。人生の中心に野球を置くのか、あくまで趣味として続けるのか、またはまったく別の道を選ぶのか自分自身で決める事です。ただグラウンドに入るなら中途半端は迷惑です。心を込めて野球をする人、大歓迎、ぜひ1、2年生にあなた達の技術、心を伝えて下さい。それがチームの伝統です。

第 1 1 7 話/2014. 09. 16

9月13日(土)文部科学大臣杯(新人戦)西部大会準決勝、決勝がありました。本当に運よく決勝に進む事が出来、この大会で初めて県大会に進みます。昨年まではこの大会は7月にあり、部員があまり多くない段原クラブとしては、まだ3年生の大事な大会がある為、新チームの練習をする時間がなく、チームとして形を作れないままの大会で中々結果を出せませんでした。今年は1ヶ月遅くなってくれたおかげである程度の試合が出来ました。しかし、本当に強いチームと比べると明らかに力不足です。半分1年生という事もあります。体が細い、小さい、ひ弱です。身長は努力ではなんともなりません。食事、睡眠、トレーニングによって強く、早く、太くする事は出来ます。野球というスポーツはスピード、パワーが必要です。バットを振るだけでは打てるようになりませんし、ボールを投げるだけで良い投手になる事も出来ません。体作りも大事な大事な練習です。しっかり食べてよく寝て、そして練習です。

9月14日は西協議会リーグ決勝大会がありました。1試合目1-4で負け、3位決定戦はタイブレークで勝ち3位でした。今年の投手陣は安打の倍点を取られてきましたが、1試合目はいつものように2安打で4失点、段原クラブは6安打で1得点です。計算が合いません。今年のチームの選手は良くバットを振っています。バッティングの技術力はある程度のレベルにあると思います。しかし、試合の中で特にチャンスに力を出せません。なぜか？考え方が間違っているからです。上半身に力を入れて強く引っ張る、何も考えずただ思い切りバットを振るだけではチャンスに打てるバッターにはなれません。状況をしっかり頭に入れてチームのためにどんなバッティングが必要なのか、長打がいるのか、ヒットを打つところなのか、バント、右打ち、絶対転がす必要があるのか、三振しても思い切っていく場面なのか、やらなければいけない事を考え決めます。そしてそのために、どのボールをねらうのか、どんなスイングが必要なのか、打席に入る前に頭の中でイメージを作らなければいけません。本能でバットを振るだけでは数字を上げる事は出来ないのです。あくまでバッティングは投手、状況次第で変化出来る能力が必要です。3位決定戦では選手達から少しその兆しが見えました。

9月20日(土)、21日(日)3年生にとって最後の八幡大会、3年間の努力で身に付けた折角の技術を正しい考え方で思う存分発揮して欲しいと思います。君達は正しい練習をしてきたのですから自信を持って下さい。

第 1 1 6 話/2014. 09. 08

今年は私の野球人生50年で初めての経験を何度もさせてもらえる。9/7(日)福山80ホークスの招待試合の決勝戦、最終回二死ランナー無しから同点に追いつかれタイブレークで負けました。今年初めてタイブレークで負けるまで(8/23瀬戸内大会)、段原クラブはタイブレークで負けた事はありませんでした。今年のチームは負けです。何故なのか？ここ一番で力を出せる選手がいないからです。タイブレークといえば、無死満塁から始まります。攻撃としては最大・最高のチャンスです。これ以上ないチャンスです。なのにその状況を楽しめる選手がいません。自分のチャンスは相手のピンチ、楽しめない理由がわかりません。そして良い投手ほどピンチの時にはアウトコースに投げてきます。世界中の野球の常識です。1年生の時から試合、練習のたびに何度も説

明しています。そしてその場でセンター方向に打ち返せなければ、良い投手を打てるようにならない事も伝えてきました。しかし……。3年の最後になってもその考え方が出来ません。どんなに練習して技術を身に付けても考え方が間違っているのは試合を決めるような場面で結果は出せないのです。最終回の二死ランナー無しから追いつかれる。なぜ？相手の打者は7番バッター、ヒット（ショート捕れた）、次の8番バッター、またヒットを打たれ1、2塁、ここまでは100歩譲ります。次の9番バッターに四球、絶対あり得ない。そして1番バッターにヒットを打たれ同点。この間、投手の投げたボールは全てストレート、皆さん考えられますか？150キロでも出せると思っているのでしょうか？これもずっと言い続けてきた事です。「ピンチにストレートしか投げられないのは、バッティングピッチャー」キャッチャーは変化球のサインを出していました。でも首を振ってストレート、そして打たれる八百長です。

やはり私は子ども達に信用、信頼されていないのだと思います。練習で自分の体力、技術を高めなければいけないのは当然です。しかしそれだけでは試合で結果を出す事は出来ません。なぜなら野球は相手がいるからです。打者なら投手を知り、投手の投げるボールに自分を合わせる、そして状況に応じて対応を変え、チームが勝つために一番確率の高いバッティングをしなければいけません。投手も打者をよく見てイニング、点差、ランナーなどを頭に入れ、終わった時1点以上勝っているためにボールを投げなければいけません。本能でバットを振ったり、ボールを投げたりしては平凡な選手にしかなれないという事です。その点で今年の3年生は頭を使う能力が低いように思います。ただ練習するだけではここまでです。練習しない選手は以前の問題ですが！！これは夜にあった1、2年生が出たスポーツ少年団の試合も同じです。相手を見て、自分の対応を工夫する。打つための第一歩です。コントロールは良いのか、スピードはあるのか、変化球はどうなのか、もう少し考えて準備すれば数字は上がるのにとってももったいないと思います。

最後に保護者の応援に不満があります。80ホークスの大会の1試合目、先発は2年生、その時には全く声を出していなかった母親達が投手が3年生に変わった途端、大きな声援、我が子に対する大きな声、なんだあれは、恥を知れ、誰だって自分の子が可愛いのはわかります。しかしグラウンドで、試合でそれを出したらチームは終わりです。チームのTシャツを脱ぎ、チームから離れた所から見て下さい。昨年あたりから感じていた事です、個人を応援しに来るのなら必要はありません。段原クラブはチームです。それが出来ないのなら二度とグラウンドに姿を見せないで下さい。試合は全て段原クラブの試合、学年など意味はありません。ここまで落ちたか段原クラブ、とても淋しいです。

選手達、私がずっと言い続けている「野球は一つのプレー、一球のミスで負けるスポーツ」だという事を体験出来ました。1、2年生の試合も同じです。チームが負けるという代償を払ったのですから、成長する必要があります。言葉より体験、これからの野球人生に生かして下さい。波多間、橋本、大塚、重く責任を感じて、生まれ変われ、大きくなればチームが負けた価値があります。

第115話/2011.09.01

8/31（土）文部科学大臣杯（新人戦）西部大会がありました。段原クラブは2回戦からで勝つ事が出来ました。まだ3年生の試合が残っている中での新人戦で、私はどうしても3年生中心のチームにつく事が多く、中々新チームを見る事が出来ませんでした。その中でブライディングカップや県知事杯、スポーツ少年団の大会などでチームはある程度試合経験をすることは出来ていました。内容としてもまずまず良い試合を続けていました。その中に入っていくのはとてもプレッシャ

一があり、私とその良い流れやムードを壊す事だけはしないように気を使いました。前にも書いた事があると思いますが、段原クラブはスタッフ（コーチ陣）に恵まれています。7月、8月私が3年生中心のチームの試合にいつている間、コーチにそれ以外の選手の練習、試合を任せていました。正しい考え方で正しい練習、試合をしてきて試合の形が作れるようにしてくれました。今回の大会はそのチームの足を引っ張らないようにコーチの意見にしっかりと耳を傾け、子ども達の持っている力100%出せる環境を作っていこうと思います。1、2年生なので技術的には未熟です。レギュラーも決まっていません。1試合目は11人中1年生が6人出場しました。2年生の奮起を期待します。3年生も屈辱の瀬戸内大会から1週間、全員ではありませんが何人かの選手の変わろうとする姿が見えます。その何人かの選手のために最後まで私も全力を尽くす責任があると思います。そもそも何の目的でどこを目指して段原クラブを選んだのか？

もう一度、入部した時の初心を親子共々思い出して終わり良ければ全て良しではありませんが、最後の大会の最終打席まで心を込めた野球を見せてくれる事を望みます。

話は変わりますが、高校軟式野球の延長50回歴史に名を残した事は本当に素晴らしいと思います。選手達には心から拍手を送ります。しかし、50回も攻撃して1点も取れない野球を正しいとは思いません。ランナーをゴロやスクイズでしか帰せないのは、はっきり言って間違っていると思います。バッティングはあくまでも球を外野まで飛ばす事を目的にするべきです。中学生でも正しく打てばスタンドまで飛ばせます。高校生の体力があれば正しい練習をすれば出来るはずです。選手達にはご苦労様、よく頑張ったと言いますが、指導者として考えなければいけない事があると思います。また偉そうな事を言ってしまいました。今週はとにかく、段原クラブのコーチ陣にお礼を言います。ありがとうございました。これからも心ある指導を宜しく願います。

第114話/2014.08.25

まず、皆さんにお詫びしなければいけません。私はこのスペースで今まで生意気な事を書いたり、批判をしたりしてきました。自分の能力を過信し、指導者として正しいと思い込んでいました。プロ野球を引退し、少年達の指導を始めて26年、ずっとある程度の成績を残してきたし、卒団生達も高校、大学で活躍してくれて、ずっと自分が正しくて他はおかしい、間違っている。結果も出ないのに勉強もせずいつまでも同じ事を繰り返している指導者を軽蔑もしていました。本当に申し訳ありません。私にそんな資格はありません。

2年間教えてもピッチャーにストライクを投げさせられない、バッターに向かっていく気持ちを持たせられない、平凡なゴロを捕れるように出来ない、まともなスローイングをさせられない、チームを引っ張るキャッチャーを育てられない、チャンスを楽しめるバッターがいない、アウトコースのストレートを打てるように出来ない、声の出せない選手はずっと出せるようにならない、教えられない事が数え上げたらきりがありません。結局何も指導出来ていない。自らのチームの選手をまともに育てられないのに、なんと偉そうな事ばかり言ってきました。本当に恥ずかしいです。ここ2年程私の言っている言葉が子ども達に伝わっていないような感覚が時々ありました。何度教えてもすぐに忘れてしまうと思った事もありました。ある講習会で聞いた覚えがありますが、「指導者が何かを伝えたいとどれだけ頑張っても、それを聞く側がそれを望んでいなければ何ひとつ伝わる事は無い」という事だと思います。信用出来ない者に何を言われても頭には入りません。そして何も身に付きません。私は野球が大好きです。そして段原クラブが大好きです。今まで関わってくれた全ての人々のためにも守っていかなければいけません。そのために何をどうするのが一番良

いのか、私はチームの代表としての責任を果たさなければいけません。

私はクラブチームとして段原クラブを立ち上げた時、クラブチームを選んで入部している親子は、私と息子の関係のように生活の全てが野球、家族中がその野球中心という人達ばかりだと思っていました。中体連に比べれば指導は楽だと思っていました。でも現実にはそうではありません。鈴木家の考え方が特別なのかもしれません。世間的には変わっているのかもしれません。でも私は野球が優先順位が一番なのです。これはどこまでいっても変わりません。私はただ野球が好きで好きでたまらない。心をこめて見ている人達を感動させる野球、勝っても負けても敵も味方にも心から拍手をもらえる野球がしたいです。チーム全員で笑ったり泣いたりしたいです。

第 1 1 3 話/2014. 08. 18

8月16日(土)県知事杯のチェーンリーグにA・B2チーム出ました。結果的には両チームともベスト4には残れませんでした。しかしBチームは1、2年生ですが、自分達の持っている力を出せたと思います。ピッチャーもストライクが取れ、試合をつくる事が出来ました。新人戦まで2週間これから本当の競争です。守備がしっかり出来る選手から出るチャンスがあります。いつも言っている通り守備は10割です。

Aチームには少しガッカリしました。確かにある程度のレベルのピッチャーでしたが、ほとんど無抵抗、工夫も執念も勝つ事に対する執着、こだわりもない残念な試合でした。いつものように四球とエラーで点を取られリズムの悪いまま回を重ね負ける、一番悪い今年の段原クラブの試合をしました。最後の約2ヶ月2週続けて雨で大会が流れ集中し続けるのは難しかったかもしれませんが、3年生にはとてももったいない一日でした。野球人生はやり直せません。練習で結果を出すためではなく、試合で自分が身に付けた力を全て発揮出来るように心を強く持って欲しいと思います。自分の為にやっているのは当然ですが、今まで応援し続けてくれている両親、関係者、自分以外の人を笑顔にするためにも残りの大会、勝ち負けでなく君達の本物の力と心を見せて欲しいと思います。

試合後チームでバーベキューをしました。選手、保護者が楽しんでくれればそれでいいのですが、私はあまり楽しくありませんでした。人数が多すぎるし、暑いし、夏はエアコンの効いた室内で食事するのが良いです。たくさん的人数がいても結局いつものメンバーとしか話をする事もないので、みんなで集まる必要は無いと思います。特にバーベキューは後片付けが大変です。せっかくみんな頑張ってくれたのにすみません。

第 1 1 2 話/2014. 08. 13

また大会が雨で抽選になりました。代理抽選。私は前日から台風は必ず東に逸れる、日曜日雨は降らないと言っていました。その通りグラウンド整備の必要はありましたが、しっかり練習出来ました。言いたい事は、子ども達の為に大人は全力を尽くしたか？ということです。何度も言っていますが中学3年生の一年間は一生に一度、大会は来年もあります。今年の3年生は出られないのです。大人はそういう意識で子ども達と接することが必要です。

段原クラブの3年生残り約一か月、思い切って彼らが力を発揮出来るように指導者として全ての力をかたむけたいと思います。「段原クラブは最後が一番強い」をチームとして目指していきたいです。

高校野球 夏の甲子園大会が始まりました。まだ2日間ですが、点がたくさん入ります。なぜでしょう？高校生の体も大きくなり確かにバットを振る力は年々強くなっています。バットを振れないチームは勝てません。私は投手の原点能力が低いと思います。原点能力とはアウトコース低めにストレートをピンチの時に投げられる能力です。大量点を取られるのは四死球、エラー、長打です。困った時にアウトコース低めにストレートを投げる事が出来ればビッグイニングにはなりません。バッターがどんなに練習をしてもストライクゾーンの四角は打てないのです。確かにスピードは必要です。変化球もあった方が良いでしょう。しかし一番大事な能力はアウトコース低めにピンチで苦しい時ほど投げ込める能力です。広島大会から思っていました、今の選手は試合をたくさんやっているようですが練習(基本)が足りないように思います。これは小・中学生も同じように感じます。試合が多すぎます。

私はまず、練習をきっちり、しっかりやり試合の応用に入る前に基本を身に付ける必要があると思います。

第111話/2014.08.04

8月2日(土)、3日(日)2日間、しまなみ大会が因島でありました。残念ながら強い雨で土曜日は中止、なんと抽選になりました。私は我慢が出来ません。又、嫌われるのを覚悟で言います。いつも子どもの大会は大人の都合で運営されます。なぜ日曜日に試合を順延しないのでしょうか。グラウンド?ベスト4までを試合して決めて抽選をするべきです。その為に2日間グラウンドを確保しておくべきです。

私は抽選の時子ども達に勝つ必要は無いといいました。なぜか?そんな準決勝、決勝には意味がないからです。大人達には来年も大会があります。しかし子ども達の中学3年生は1回しかないので。なんとかして試合をさせられるように最大限の努力をするべきです。出来なければ大会を運営しない事です。チームが行う招待試合とは違うのです。大人の都合は子ども達の世界に通用しません。チームやリーグや連盟は子ども達のためにあるべきだと思います。抽選しただけで参加料15,000円何に使うの?

久しぶりにある小学生のグラブの練習を1時間程見る機会がありました。上級生は試合をしていたのでたぶん下級生だと思います。内野のポジションに入りノックを受けていました。ただただ驚きました。何人かユニフォームを着た方がいたので指導者だと思いますが、本当にあの練習で野球の技術が上達すると思っているのでしょうか?各ポジションに3人から4人います。1本ずつ打つのでなかなか順番が回ってきません。とても効率が悪い。そしてノックの打球の8割は捕れません。捕ったとしてもまともな送球が出来ません。なぜ基本的なボールの投げ方、捕り方をマンツーマンでやらないのでしょうか?九九の出来ない子に因数分解をやらせてどうするのでしょうか。プロ野球選手でも手で転がすゴロを何百球も捕り基本を身に付けます。少・中学生にとって絶対にやらなければいけない練習、それは正しいボールの投げ方と捕り方、そして下半身を使ったバットスイング、この基本を身に付けなければどんな練習しても上達はしません。そして我流では頂上の低い山しか登れません。急がば回れです。

指導者の皆さん、子ども達のために勉強をしましょう。出来るようにならないのは指導者の責任です。これからもどんなに嫌われても子ども達のために言いたい事を言っていきます。

第110話/2014.07.28

高校野球広島県大会が終わりました。今年もアウトコース低めに投げる確率の高い投手がいるチームが勝ちました。当然です。投手として一番大事な事なのですから、低めに投げてゴロを打たす、すべてのプロ野球の投手が意識している事です。なぜなのか？ゴロを打たせていれば点を取られる確率が低いからです。なのにゴロを打てと指導している指導者がいます。点を取りたくないのだろうか？決勝戦、広陵の投手は低めに投げてゴロを打たす事を意識して投げたそうです。相手の新庄は内野ゴロアウト15、思い通りです。点は入りません。8対0から最終回逆転した星稜高校、9回はゴロを打っていません。想像ですが勝ちたくて小さくなっていた時には打てず、あきらめて、開き直り思い切ってバットを振った結果どんどん外野に打球が飛び逆転につながったと思います。バッターは打球を外野まで飛ばす為にバットを振るべきです。試合の流れの中でどうしてもゴロを打たなければいけない場面も確かにあります。ゴロを打っていれば勝てる相手もいます。しかし高いレベルに上がりたければ外野に飛ばす練習をするべきです。

公認野球規則の1.02に「各チームは相手チームより多くの得点を記録して勝つことを目的とする」と書いてあるのですから、金属バットを持って外野に飛ばない選手が大学、社会人、プロ野球、木製バットで勝負出来るはずがありません。

段原クラブの高校3年生のOBが練習の手伝いに何人か来てくれました。中学生にとって憧れの先輩です。3年間、高校野球を全うした選手は本当に良い顔をしています。甲子園に届かなかった全ての3年生、ご苦労様でした。貴方達の素晴らしい経験をぜひ後輩に伝えて下さい。27日(日)も石田(瀬戸内高校)、足立(県立広島工業高校)2人が来てくれました。中学生は話が出来ただけでとても喜んでいました。いつでもだれでも大歓迎です。他人を指導する事で気づく事も沢山あります。後輩のため、自分のために経験して下さい。

8月になると段原クラブでは、しまなみ大会、日刊大会、県知事杯、瀬戸内大会、新人戦と3年生にも、1、2年生にもとても大事な試合がたくさんあります。私は今まで全て勝とうとはしてきませんでした。出来るだけ沢山の選手を出させてやりたいと思っていました。しかしここからは本年度、段原クラブの集大成の2ヶ月です。全ての試合、私は本気で戦います。

選手達、目の色を変えて段原クラブのユニフォームを着てグラウンドに出なさい。「相手チームより多く得点を記録して勝つことを目的とする」同じ方向を向いていない選手はグラウンドに立入りを禁ず！！

第109話/2014.07.22

7月21日(祝)しまなみ予選で今年に入って一番の心のこもった良い試合を見せてくれました。選手個人的には不満な部分もありましたが、それは試合後に話をしたので次には変わろうと努力してくれると信じています。

段原クラブの選手は小学校の時に県大会や全国大会に出場したチームにレギュラーはいません。カープジュニアに選ばれた選手もいません。エースは子供会のソフトボールチームの捕手、ショートは外野手でした。5番バッターは弱いチームのライトで9番、2打席目には変えられていた選手でした。そんな子ども達が2年間、ひたむきに努力を重ね、監督の私に怒鳴られそれでも諦めず、段原クラブの練習と自分の努力を信じて頑張ってくれています。この試合で打った選手達のスイングの数は、どのチームにも負けていない自信があります。私がいつも言っている「正しい事を数多

くやる」これが上達する道です。証明してくれています。まだまだ子ども達にとって中学野球などは通過点に過ぎません。結果に満足する事なくたまたま良かった子も悪かった子も野球の技術に頂点はありません。常に上を目指して夢に向かって頑張り続けて欲しいと思います。私はそんな選手のためにユニフォームを着ています。指導者として勉強しなければならない事は無限にあります。私も子ども達に負けられないように努力し続けます。

7月20日(日)に練習に来てくれたOBの五百蔵(東京国際大学)、山藤(広島城北高校)、渡辺(安芸府中高校)、大野(広島工大高校)、暑い中で長い時間、打撃投手、ノック、Tバッティングの指導、本当にありがとうございました。高校で3年間頑張った君達の思いは確実に今の選手達に伝わったはず。心からお礼を言います。時間があれば何度でも後輩達のために力を貸して下さい。それからまだ勝ち残っている高校球児のみんな、高校野球は人生の最終ステージではありません。負けたっていくらでもやり直せるのです。自分の持っている力を思い切って発表して下さい。

そんな君達を私は楽しみにしています。そして段原クラブに笑顔で戻って来て下さい。全員が私の自慢の選手なのですから。

大塚、努力は裏切らないだろ！！

第108話/2014.07.14

高校野球が始まりました。

私は高校時代が野球人生で最も苦しく野球を楽しむ事の出来ない3年間でした。時代は変わりましたが、今も高校野球はスポーツを楽しむというより、修行というイメージがあります。

全高校球児、3年生の皆さん、よく頑張りました。一番大切な3年間最後まで続けるという事が出来たあなた達は全員勝者です。最後の夏、野球を思いっきり楽しんで下さい。野球はスポーツなのでから楽しまなければ意味が無いです。

毎年、夏のパンフレットを見て不思議に思っている事があります。人数が沢山いる野球校(甲子園出場経験校)と言われているレギュラーの中に1年生がけっこう入っています。なぜなのでしょう？たぶんそのような学校は毎年優秀な中学生を勧誘しているはず。その選手達はその高校で2年間、みっちり練習しても中学から入学したばかりの1年生に勝てないということなのでしょう。なぜ？私も中学生の時にはそこそこ自信があり名古屋電気高校(愛工大名電)に特待生として入学しました。しかし、1年生の時は3年生には全く歯が立ちませんでした。当然です。高校で2年間練習しているのですから上達するに決まっています。入部したての1年生に負けるはずはないのです。桑田、清原、松井レベルの選手なら別ですが、私は野球校で1年生の夏からレギュラーになるという事はドラフトに指名される選手になるのは当たり前だと思っています。しかし現実には何年も見ていますが、3年生になった時それほどの選手になっていない場合が多いように思います。つまり、その高校には選手を成長させるシステムが無いという事です。だって2年間そのチームで毎日練習しても入部したての1年生に勝てないので。なぜそんな事になるか、指導者はしっかり反省するべきだと思います。上達するのが当たり前の成長期なのです。1年生がレギュラーにならなければいけないのは、勧誘してまで入部してきた素材を伸ばすことが出来ないのか、その1年生が桑田、清原、松井レベルなのか、どちらかしかないはず。

またこんな事を書くと嫌われるのですが、選手を指導するという事は練習をしない選手を上達させる事は出来ませんが、何を言っても全て「ハイ」と返事をして頑張る選手なら指導者は上達させて当たり前、出来なければ身を引くべきだと思います。

あ～また本当の事を言うと嫌われる！！

第107話/2014.07.07

7月5日（土）リーグ戦の後期2試合ありました。

なんとか勝つことができ、準決勝に進めそうです。沢山いたピッチャーを絞り、久しぶりに完投させました。まずまず良く投げたと思います。少しでも自信をつけてくれれば良いのですが。しかしバッティングの方は思わしくありません。特に中心になって欲しい選手の内容が悪いです。バッティングはとても難しいものです。いつも打てるものではありません。

それにしてもあまりに形が悪いし、2年間作り上げてきた自信という物が感じられません。私はその部分が一番気に入りません。私が求めているのは段原ブランドです。

1年生の時から下半身を使ったフルスイングをずっと練習してきました。そして試合の中では、その身に付けたスイングを相手のピッチャーに合わせてするのです。その為にまずピッチャーを観察しなければいけません。そして対応を考えます。打席に入って本能でバットを振って打てる選手は、ずば抜けた才能と素材が必要です。今の段原クラブにはいません。

この2試合の場合、相手のピッチャーを見ればすぐにどんなバッティングが必要か簡単にわからなければいけません。まず体が大きくない、フォームが中々まとまっている。その状態だけでピッチャーはアウトコース中心で当然カーブもまあまあストライクが入るだろうとわかります。欲を捨てれば一番打ちやすいタイプのピッチャーです。私なら迷わずカーブを狙います。そして2ストライク後は、少しポイントを後ろに下げて少し遅れてもいいからセンター方向に打とうとします。そういう考え方も話しています。しかし、中心打者から欲（長打）が抜けません。もう夏です。どこのピッチャーもピンチになればアウトコース中心に投げられるレベルには来ているはずですが。チャンスでランナーを帰し、チームの勝利に貢献するために頭の中を変える必要があると思います。2試合で一死ランナー三塁で内野フライ4つ、三振1つ、今年のチームは自由に打たせて点を取れるレベルではないようです。私の考え方に反しますが、勝つ為にはエンドランなりを使う必要があるかもしれません。それも選手次第です。練習では素晴らしいスイングで立派な打球が打てるようになっています。私はずっと言い続けています。「野球は足と頭でするスポーツ」です。

第106話/2014.06.30

久しぶりに土、日曜日2日間試合がなく練習が出来ました。土曜日、1ヶ所バッティングで150球以上投げて体がパンパンです。これからの2ヶ月間、3年生はもちろん、1、2年生もたくさん試合があります。3年生はチームとしての勝利の為に、1、2年生は8月30日の新人戦に向けてチーム内の競争に勝ちベンチ入り、レギュラーポジションをつかむ事を目指して努力してくれる事を望みます。

日曜日、OBがお世話になっている島根県の益田東高校が広島に練習試合に来るといので監督さんに挨拶をしに行きました。久しぶりに高校野球を見ました。当然中学生と比べれば、スピード、パワーは上です。ただ技術的には少しがっかりしました。県立広島工業との試合でしたが、まず両チームとも内野守備がダメです。グローブでボールが捕れません。どんな練習をしているのかわかりませんが、足が動かないためバウンドが合わない、無理に正面に入って体で止めようとしていて

グローブに入らない。ゴロはグローブで捕るもので体で止めるのではありません。学生野球では正面に入って体で止めるような指導を時々見かけます。私は何でもかんでも正面は間違っていると思います。ボールは正面からずらした方が捕りやすいのです。バッティングでは両チームともインコースのストレートを芯で打った打者は一人もいませんでした。全員が振り遅れていました。バッティングのいろはの「い」はストレートに遅れないスイングを身に付ける事です。金属バットでインコースをさばけなければ木製バットでは何も出来ません。上半身の力でバットを振っていてもインコースは打てないのです。下半身でバットを振る基本が必要だと思いました。ピッチャーは平均以上の力を持っているように思いました。益田東のピッチャーはフォームも良い、ストレートとスライダー、コントロールも良いものを持っています。ただ身長が低く、ボールに角度が無いので三振が取れません。特にスライダーで勝負に行く時、コースを外すので振ってもらえません。ベースの上で低いボールを使えるようになると三振も取れるし球数も減ると思います。県立広島工業のピッチャーの素材は素晴らしいと思いました。ただ、フォームが雑です。当然コントロールは悪くなります。正しいキャッチボールをしてボールを自分の視界の中で離せるようになると素晴らしいピッチャーになれる可能性があると思いました。今のコントロールだと四死球やワイルドピッチなどでヒットを打たれずに失点する事があると思えます。トーナメントを勝ち上がる為にはコントロールが必要だと思えます。

それにしても両チームとも沢山の選手がいます。あんなにいてみんな練習出来るのでしょうか？段原クラブは1年生から3年生まで基本的に同じ数の球を打っていますし、捕っています。そのためにも今ぐらいの人数が良いのだと思えます。声を出して、ボール拾って、グラウンド整備していても、野球は上手くならないですもんね！！

第105話/2014.06.23

22日(日)日刊大会1回戦がありました。

前夜から雨が降り続き試合は出来ないだろうと思っていましたが、大会関係者の努力のお陰で抽選という子ども達にとって不幸な選択にならずに良かったです。

段原クラブはやっと故障者がユニフォームを着られるようになり、5月の全軟の頃の80%程度にチームの状態が戻ってきました。その間に試合経験を積んだ控えの選手が力を付けた事によりチーム力はアップする可能性も出てきました。3年生も残り3ヶ月、もう一度チーム内での活発な競争の中で個人の力を上げ「最後が一番強い段原」これを目指して行って欲しいと思えます。試合では3本のホームランが出ました。3本とも立派な当たりでした。3番、8番、9番のバッターが打ちました。これが段原クラブです。全員がしっかり下半身を使ってフルスイングする。1年生の時からそれを目指して練習してきました。特に8番バッターの選手は小学校の時にはライトで9番打者、2打席目には代打を出される選手でした。体も大きくありません。毎日毎日に努力の積み重ねがオーバーフェンスという素晴らしい打球を飛ばせる選手にしたのです。身体能力に恵まれて小学校の時から中心選手。そんな選手が活躍するのは当たり前です。段原クラブは違います。小学生の時レギュラーでなくても正しい練習をする事により勝負出来る選手になれます。これからも満足する事なく今まで通り努力し続けて欲しいと思えます。本当に立派なホームランでした。

ところで今、サッカーのワールドカップをやっています。私はサッカーだけでなくプロ野球でも解説者という人達にずっと疑問を持っていました。解説を辞書で引くと「よくわかるように物事を分析して説明する事」と書いてあります。今回のワールドカップ勝敗予想、誰も当たらない。プロ

野球の順位予想も当たらない。解説者というより応援団、ファンです。サッカーの世界ランクからして日本はリーグ3連敗しても何の不思議もないのに必ず勝つような事を言う。ベスト4だのベスト8だの夢を語るのは素人の仕事で、プロの解説者の仕事ではないと思います。本当の事をたとえそれがファンにとって嫌な事でもハッキリ言えるプロの解説を聞きたいと思います。どこかのテレビ局そんな放送をしてくれませんか？

ギリシャの記者のように悪いものは悪い、間違っていることは間違っているとはっきり言える人がプロだと思います。日本は本当に事をはっきり言うと嫌われる国ですから難しいですかね。私は野球もサッカーもレベルアップのためには、ファン（サポーター）の人達も記者も解説者も選手を甘やかさない事が必要だと思います。大きな報酬を得ているのですから結果が悪ければ批判、非難されるのは当然だと思います。

私もその覚悟で段原クラブの監督をしています。（報酬は得ていませんが）

第104話/2014.06.16

段原クラブと私は今、弱っています。

子ども達を指導するようになって26年、ピッチャーがストライクを投げられない年は初めてです。何をやっても3年生のピッチャーは全員良くなりません。私の持っている引き出しを全部使って様々な練習方法、考え方を試してきましたが全部ダメです。本当に困りました。自分の無力を痛感しています。1、2年生のピッチャーはそれなりにストライクを投げられます。チームの為に切り替えるか？毎日悩んでいます。本人達はそこまで考えているのかわかりませんが……。そもそも自己申告でピッチャーをする事に無理があるのかもしれませんが。本当に投手としての能力を持っている選手を指導者が見極め育てていくのがチームのためには正しいのだと思います。ただ、私の思いは高校野球での可能性にあります。

身体能力の劣っている子供ほどピッチャーが出来るようになれば試合にでるチャンスがあります。野手はポジションにレギュラー1人でいいのです。高校野球でチャンスをもたらすためにピッチャーが出来るという事がプラスになると思うのです。チームのため、個人のため難しいです。

毎週土、日曜日の練習前もしくは後にほぼ必ずフルスイング塾で打っている選手が4、5人います。疲れている時には休む事も大事だと思う事もありますが打っています。私や親からの強制ではなく、上手くなりたい、打てるようになりたいという自分達の思いでやっています。当然チームの練習とは関係ないので私は行きません。しかし本当に良くやっているの、ここ何回かのぞきました。どうせバットを振るのなら正しく振った方が良く、集中した方が良くと思い日曜日も練習後みました。ティーを上げて、スイングを見ましたが私は見ていてとても気持ち良くなりました。全員何も言う事はありません。とても綺麗な正しい打ち方を身に付けました。後は試合で出来るかどうかです。そして自分の打てるボールを振れるか、要は身に付けた技術を頭と心を使い試合で出すだけです。練習はウソをつきません。バッティング練習は野球の練習の中で一番楽で楽しいのですからやるのは当たり前ですが、本当に良くやっていると思います。私は君達に期待しています。

話は変わりますが元気になりたいです。

第103話/2014.06.09

皆さん、先週の週刊ポストを読まれましたか？

私はずっと言い続けてきた野球の技術は日々進歩、進化している10年、20年、30年前の指導者が経験してきた野球とは変わっています。自分の経験で指導してもダメですよ、その通り書いてありました。私はずっと言ってきました。「ポイントを前にしてダウンスイングやゴロを打ってはダメです。フライを打ちなさい。投手はテークバックを小さくしなさい。バントは点の入る確率を下げますよ。相手が楽になりますよ」全て書いてありました。全てのスポーツの記録は今が一番です。野球だけ昔の選手が凄い訳ありません。今の選手が一番力があります。当然です。日々進化、進歩しているからです。しかし、指導者がそれについていけません。いまだに上から叩け、ゴロを打て、投手はテークバックをゆっくり大きく、一塁にランナーが出れば必ずバント、こんなチーム、指導者を小、中学生の野球でよく見かけます。子ども達が可哀想です。指導者の皆さん、勉強しましょう。子ども達は間違っている事でも「ハイ」と言います。正しい技術、考え方を伝えなければいけないのです。私も含めて日々勉強です。

8日(日)太田川リーグ(大人の草野球)がありました。1年生中心のチームで臨んでみました。草野球とはいえ大人です。1年生のピッチャーにはまだ変化球を禁止してあるので甘いボールはすっ飛ばされます。どこに投げると打たれるか、どのコースで打ちとれるのか、今しっかり覚えて欲しいと思います。そのために打たれる必要があります。打たれる事が自分自身の財産になるのです。4人のピッチャーが投げました。しっかりストライクを投げる事が出来ました。入部した4月、1か月前の5月、そして6月確実に全員進歩しています。ピッチャーについては大満足でした。しかし、内野と捕手の守備には不満だらけです。小学校のチームで当たり前の基本をやっていないので少し時間がかかりそうです。

段原クラブでは今が一番を目指して練習をしています。意識と目標を持って練習することにより、確実に少しずつでも上達します。今より7月全員が何かひとつでも変わっている事を期待します。

試合は東広島の吉川グラウンドという所でありました。段原クラブには八本松から来ている選手がいます。3年生のピッチャーですが、1年生のバックに足を引っ張られましたが大炎上しました。試合後家までどの程度の距離かわかりませんが、走って帰っている姿を見ました。まだまだ力は足りませんが、本人が諦めていない内は私も諦めません。

これからも本人の為に厳しく指導していこうと思いました。山吉、がんばれ！！

第102話/2014.06.02

6月1日(日)県知事杯1回戦がありました。

段原クラブはA、B2チーム参加し、両チームとも勝ちました。特にBチームは先発9人中5人1年生で中体連とはいえ3年生を相手に立派な試合をしたと思います。エラーひとつの2対1。いつも言っている当たり前の事を当たり前にする野球が出来ました。

私はAの監督をして見ていませんが、コーチからの報告も全体に集中力があり保護者の応援も含めてとても良かったそうです。次のチェンリーグは相手のレベルが上がります。新チームとしてとても良い経験になります。全力でぶつかって欲しいと思います。

Aチームはほぼ良い所はありませんでした。相手投手の変化球はストライクが入らない、ストレートは速くない、クイックや牽制はあまり上手くない、グラウンドは狭い、点はとれて当たり前です。ベルトから下のストレートを待っていれば、いつでも打てるレベルです。はっきり言って藤の木のグラウンドなら、狙ってホームランが打てます。段原クラブの3年生になればそのレベルになって欲

しいです。投球練習を見た瞬間に打つべきボール、スチールが出来る、高いボールに手を出さなければ確実に投手は崩れるこれくらいの事は頭に入ります。常に言い続けている目で見える情報を頭で処理する、中学生として当然出来なければいけない事、何度言っても出来ません。目が開いているだけで脳と繋がっていない。いちいち指示しなければ動けない、考えない。

ケガでベンチを外れている伊藤と波多間は外から見ていると私の言っている事が良くわかるそうです。でもそれでは意味が無いのです。試合に参加している選手が今何をすべきなのか、そのために何を意識すべきなのか、今までの練習、試合の中で言われてきた事を脳にインプットしなければいけません。本能でやっている内は何度も同じ失敗を繰り返します。「野球はボールが動いていない時間が長い、その時間に頭を使うスポーツである。

話は変わりますが、お母さん達に厳しい事を言います。

暑くなってきました。日に当たれば日焼けします。当然です。屋外スポーツですから。Aチームの試合中、誰一人試合の応援をする訳でもなく、遠く離れたテントの中で傘まで差して、時々笑い声、野球はチームスポーツです。段原クラブは野球のクラブチームです。「チームです」練習も試合もチームのためにやります。私はチームのためにグラウンドに立っています。「チームのために」という思いのない人間はグラウンドに必要ありません。全員が同じ方向を向いて子ども達のために力を尽くすのです。当然試合中は全員が同じ場所で一つになってチームを応援すべきです。学年でかたまたたり、離れている人がいたり人間同士なので合う、合わないもあるでしょう。考え方も違うでしょう。しかしチームの前ではそんな事は意味ありません。

私の方針がチームの方針です。もう一度言います。練習も試合もチームのためにあります。あなたの子どもの為ではありません。試合はチームが勝つ為にやります。あなたの子どもの子がヒットを打つためではありません。親のレベルが子どものレベルです。まず、親がクラブチームの保護者として、当たり前の方が出来るようにならなければ子ども達も今のままだと思います。

これはスタッフ全員が今年度になってずっと感じていた事です。グラウンドは母親達の世間話をする場所ではありません。子ども達の為に野球をする場所です。そして保護者はそれを全力で応援するのです。ひとつになれないのならグラウンドに必要ありません。

第101話/2014.05.26

子ども達にはいろいろな性格の子がいます。

野球は広いグラウンドでやるスポーツです。当然明るく大きな声が出せ、元気な子が必要です。ボールが動いていない時間がかなりあるスポーツなのでその間に考え指示を出し、自分もチームも次のプレーの準備をしなければいけません。大きな声を出す事により自分とチームの集中力を増し緊張を解かすことができ、相手にプレッシャーをかける事も出来ます。スポーツとはいえ勝負なのでですから戦いです。勝つために子ども達は試合にのぞむのですから姿にも声にも迫力が必要です。堂々とした自信に溢れた態度でプレーしなければいけません。自信を少しでも大きくするために苦しく練習が必要です。

中には何度言っても声が出ない、いつもグラウンドでオドオドしている選手がいます。「性格だから仕方ない」と思っているのなら野球を辞めるべきだと思います。ヒットを打ったり、ゴロを捕ったりする事は技術が必要です。出来ない事もあります。しかし大きな声は誰でも出せます。やろうと思うだけで出来ます。態度も同じです。誰でも出来ることすらない選手はチームに必要なのです。自分の事だと思っていないあなた、あなたの事です。何度言ってもダメなら私はも

ういいませんよ。

私はよく野球は頭と足ですスポーツだと子ども達に話します。脳が常に動いていなければいけません。グラウンドには大切な情報がたくさんあります。まず相手の打順で誰が良いバッターなのか教えてくれます。インニングの合間のスローイングで肩の強さ、コントロールが、ピッチャーが投げればクイック、スピード、変化球が、クイック、牽制、コントロール、打順が一周りすればバッターの特徴、足の速さ、さまざまな事がわかります。

せっかく教えてくれた相手選手の情報を使わない手はありません。野球は相手と対戦するスポーツです。相手を知る事で有利になる訳です。常に話しますが、今の段原クラブの選手達はなかなか脳が動きません。というより動かそうとしていないように思います。野球は明るく元気で脳がしっかり動く選手が上手くなります。そういう選手がひとりでも多くなってくると楽しい野球が出来ます。

第100話/2014.05.19

私のつぶやきも今回で100回目になります。

野球を始めて約48年、子ども達を指導するようになって27年、その中で思った事、私の野球観、段原クラブの現状などを書いてきました。思い通りにならない事が多く、不満やグチも多くなりました。良かった事やうれしかった事、誉めたい事もたくさんありますが、私は人を誉めるのが苦手な中々書くことが出来ません。

今回も少し厳しい事を書きます。5月18日(日)東広島八本松中学校に練習試合に行きました。朝7時頃現地に着くと、八本松の選手達がグラウンド整備をしていました。まずグラウンドをレーキで掻き、トンボでならし、その後をブラシできれいにしていました。聞くと6時半からやっているとのこと、上級生もしっかり動きその上で下級生に指示を出していました。

私が着くと全員がしっかりと動きを止め、大きな声で挨拶をしてくれました。当たり前なのですが、段原クラブの選手には出来ません。同じ野球をしている中学生なのに、なぜこんなに違うのか。当然指導者がそういう部分を厳しく指導出来てないからだと思います。怒られれば段原クラブの子ども達も同じ時間に集まり、同じようにグラウンドを作り、同じように大きな声で挨拶をすると思います。でも1, 2度です。そしてまた出来なくなりもう一度怒られれば又1, 2度すると思います。それが野球の指導者の仕事なのでしょうか。グラウンド作り、先輩としての見本となる行動、挨拶、本当に監督、コーチの仕事なのでしょうか？親としての責任はないのでしょうか？

私は学校は勉強と団体生活のルールを学ぶ所、野球チームは野球の技術(個人・チームとして)を学ぶ所、躰は親の責任だと考えています。まして挨拶、時間を守る、準備、片付け、当然練習、試合に取り組む姿勢などは育ちだと思います。厳しく怒ってやっとなる「意味がありますか？」当たり前の事をするのにそれが必要ですか？野球が上手になりたい、プロ野球選手になりたいと夢を持って段原クラブを選んだのではないですか？

親子共々全力を尽くす、私は当たり前だと思っています。グラウンドや道具を大切に使う。親や指導者を信頼し感謝する。上手になりたいのですから練習、試合に集中し、頭で考え工夫し努力する。全て当然の事です。

「うちのの子は頑張っています」という親がいたとします。当たり前の事なのです。口に出す程の事ではありません。やらない方がおかしいのですから。心と体を鍛えて夢に向かうために段原クラブに入ったのです。夢や目標にたどり着くために苦しい思いをするのも当たり前の事です。親も

一緒に苦しい思いをするのも当たり前です。ピッチャーが一球ストライクが入ったら拍手するようなレベルの低い保護者や選手ではクラブチームとしての価値はありません。野球のことにに関して、保護者の皆さん、子ども達を甘やかさないで下さい。特にお母さん方、我が子が可愛いのはわかりますが可愛いのならなおさら厳しく接するべきです。

勝負の道を選んだのです。負け犬がどんなに吠えても惨めなだけです。まず親がクラブチームのレベルになる事を望みます。段原クラブはお遊び仲良しクラブではありません。

第99話/2014.05.12

5/10(土)新入団選手の歓迎会をしました。

本年度は13名の選手を迎える事が出来ました。毎年たくさん子ども達が体験にきます。チームのレベルが低すぎるのか、指導者の出来が悪いのか入部しない選手の方が多い中、入部してきた子ども達のために3年間、チームとして、指導者として全力を尽くします。小学生の時負けていたチームメイトや他のチームの選手達を3年間で追い越して高校に行けるようにお互い努力していきましょう。

あなた達はまずチーム選び(指導者選び)は間違っていないのですから。一步リードです。1年生の自己紹介の中で段原クラブに決めた理由を聞きました。ほとんどの選手がバッティング練習での先輩達の打球の勢いや飛距離を見てヒットやホームランが打ちたい、速い打球、遠くに飛ばしたいと思い入部を決めたそうです。子ども達が求めているのはそういう事です。確かに試合には勝ちたい。しかしスクイズやエンドランで勝ちたいのではないのです。自分のヒットやホームランで勝ちたいのです。その欲求に答えるのが大人の仕事なのです。ただ野球というスポーツは団体(チーム)スポーツです。チームのためにやらなければいけない仕事もあります。それが守備・走塁です。

私はバッティングは自己満足のため、守備・走塁はチームのためだと思っています。あくまでスポーツは自分のためにやります。そのために打つ事に対する思いが高くなるのは当たり前です。ボールを遠くに飛ばしたい、ホームランを打ちたいと思うのもけして悪い事ではありません。しかしそれだけではチームとして良い結果(勝つ)を得るのは大変です。勝つという事を求めるなら、守備・走塁のレベルアップが打つよりも必要になります。楽しいのは打つ事です。そして楽です。守備練習と走塁練習はあまり楽しくありません。そしてきついです。でもチームとして勝ちたければ必要な事です。

平日練習の基本、ランニング、トレーニングそしてバッティング練習中の打球に対する集中、やれる事はたくさんあります。やるか、やらないかは本人次第、バッティングは自分のため、守備と走塁はチームのため、どちらもとても大切です。

第98話/2014.05.05

全軟の準決勝で負けました。

この結果はある程度予想していました。私は前々からチーム力は投手力だと言ってきました。今年のチームは投手をやりたい選手は何人もいますが、投手は一人もいません。投手というものは、まずストライクを投げられる。チームを背負う精神力がある。この二つが最低条件です。これが無ければマウンドに上がる資格はありません。ですから今の段原クラブには背番号1を背負う選手が

いません。当然大きな試合を勝つ事は出来ないのです。試合には負けましたが、段原クラブがやろうとしている野球の中で打つ事だけは出来ました。ヒット10本。ちなみに打たれたヒットは2本。下半身を使って強く速いスイングで外野まで飛ばす。バントもエンドランのサインも無い。これが段原クラブの野球です。

1年生の時から徹底して練習してきた成果は十分に出してくれました。段原クラブは勝つ為、点をとる為の小細工はしません。それが子ども達の夢に協力する事になるとは思えないからです。

今回は投手を含め守備であまりに当たり前の事が出来ずに負けましたが、段原クラブの練習、目指している物は間違っていないと思います。全員がこれだけ打席でバットを振れるチームは他にありません。野球を始めた子ども達は全員、ヒットやホームランを打ちたいのです。そしてプロ野球選手に憧れるのです。バントをしたり、内野ゴロを打っているのは、夢に近づけません。いつも言っている当たり前の事を当たり前にする。投手はストライクを投げる。野手は打ちとった打球をひとつアウトにする。送球は100%。これが出来れば試合は勝つのです。指導してきたつもりでしたが、試合で出来ないのですから足りないのでしょう。もう一度チーム内の競争です。

明日から学年は私の中で完全に無くなります。実力のある者がベンチに入り、試合に出ます。3年生のみなさん厳しくなりますよ。

第97話/2014.04.28

27日(日)大人のチームと試合をした。

本気で投げしてくれるピッチャー相手で、とても良い練習になった。私はいつもピッチャーがチームを背負っていると言っている。それは、技術はもちろんだが精神的に強い事が一番に求められる。バッティングは良い打者でも軟式で3割打つのは難しい、7割以上はアウトにとれるのである。圧倒的にピッチャー有利なのです。野球は確率のスポーツなのですから。

ピンチに心も体もピッチャーが逃げる理由はありません、どんどん攻めるべきなのです。相手投手のピンチになった時の絶対に逃げない気持ちの入ったボールを見て「中学生相手には絶対に負けない」という気持ちがひしひしと伝わってきました。プライドと責任感のある良いピッチャーだと思います。段原クラブの投手達に一番欲しい物です。とても良い見本を見て勉強になったと思います。私が何度も何度も話をするよりも実際に体験するのが一番です。

5月3日(土)から始まる全軟に向けてやる事はやってきました。選手達の技術は十分に付いています。後は試合でその持っている力を出すだけです。段原クラブは試合でサインが無いので監督の出来る仕事は、選手達が思い切って自分の力を出し切れる環境を作る事です。

勝ち負けより大事な、心を込めて力を出し切ることを選手達に期待します。

第96話/2014.04.21

野球は選手9人が試合に出ています。

先発で出る9人がレギュラー、それ以外が控え選手という事になります。だいたい中、高校生の野球では背番号一桁1~9番がレギュラーです。1が投手、2が捕手というようにポジション別になっています。一桁の背番号を背負うという事はプライドと責任も一緒に背負うという事です。私も30番という責任を背負っています。その責任を果たすために日々、野球の技術を追求し練習方

法を工夫して選手の技術を少しでも伸ばし、それを試合で発揮出来るように全力を尽くしています。

今、段原クラブでは私が思うレギュラー（必ず大事な試合に先発で出る人）が5人います。20日（日）の十日市との練習試合でその内の4人がまったくチームの為の仕事が出来ませんでした。

私は全ての試合でヒットを打つ事など求めています。バッティングは水ものです。どんな選手でも打てない試合はあります。しかし同じ失敗を繰り返したり、守備に影響が出たり集中力がなくなったり、全力疾走しなかったり当たり前の事をせず、チームの足を引っ張ることは許しません。取り組む姿勢をいつ誰が見ても他の選手の見本とならなければいけません。それがレギュラーの努めです。

チームの中心選手は試合に数多く出ます。良い経験を控えの選手よりたくさん出来るのです。練習をその分多くするのは当たり前です。指導者が厳しくするのも当然です。プライドと責任も大きいのです。それを負えなければ自ら退くべきです。監督は選手に期待し、信じ、背番号を与え、メンバー表に名前を書きます。段原クラブのユニフォームを着て、堂々と自分とダメと誰よりもしてきた練習を信じ、身に付けた技術を試合で発揮して欲しいと思います。あなた達は力があります。なぜなら段原クラブのレギュラーなのですから

第95話/2014.04.14

4月12日（土）13日（日）生名島で合宿練習をしました。

毎年行っている合宿で今年で4回目、初めて1年生も含め選手39名全員で行いました。今回は日曜日雨に降られ予定通りにはいきませんでした。例年通りバッティング練習だけはしっかり出来ました。土曜日昼間3時間、夜間2時間、日曜日3時間打ちました。1年生は土曜日の夜にミーティングで段原クラブ野球心得の説明も出来、目指していく技術、考え方を理解してもらえたと思う。日曜日の午後は体育館でバドミントンとソフトバレー大会をして楽しみました。投手が試合形式の練習が出来なかった事が少し残念ですが、5月3日（土）の全軟2回戦に向けてまだ練習試合が4試合、1日練習試合が2度あるので十分取り返せると思います。

日曜日のランチ特打でバッティング投手をしました。打った選手達はけっこう厳しいコースのボールもバットの出る角度が良く、スピードもつき、打球の方向、角度がとても良くなっていました。練習してきた物が技術として身に付いてきています。全員確実に格段の進歩をしています。

自分のやってきた努力を信じて自信をもって試合に臨んでくれれば必ず良い結果が出ると思います。2、3年生の体重アップも全員クリアし、1年生のストレッチ試験も1ヵ月で全員努力の後が見てとれました。今の気持ちを続けて欲しいと思います。きっと良いチームになります。

第94話/2014.04.07

5日（土）大野シニアと練習試合をした。

天気はあまり良くなく寒かったのでお互いの子ども達は中々持っている力を出すことは難しかった。1年生から3年生まで大野さんのお陰で全員試合に出られたし、グラウンドが3面あったので練習も出来ました。大野さんありがとうございました。

1年生が初めての対外試合を経験しました。最後の試合で雨も降ってきて条件としてはとても悪い中でした。しかし私は一番楽しめた試合でした。1年生全員から勝ちたい気持ち、試合を楽しん

でいる気持ちが伝わってきました。個人の結果ではなくチームとして勝つ「みんなで勝つんだ」という思いがプレーや声からよくわかりました。ベンチにいてとても心地良かったです。

2、3年生も1年生の時はこうでした。それがだんだん目の前の結果にこだわりだし、チームよりも個人の結果を欲しがり心からチームとして勝ちたいという気持ちが薄れ、チームメイトを心から応援しなくなります。そしてチームとして戦えなくなるのです。

1年生の試合をベンチで見て、本来の野球とはチームとはこういうものでなくてはいけないと思いました。練習ではもちろん、チームメイトもライバルです。ポジション争いの中で力をつけていくべきだと思います。しかし試合になれば一番はチームが勝つ事です。そのために出ている人もベンチにいる人も全員で相手と戦わなければいけません。そして試合に出ている選手は喜びをプレーで表すのです。やる前から結果を気にして自分にプレッシャーを掛けて力を出せないような事は、絶対にあってはなりません。せっかく努力は身に付けた技術を堂々と発表するべきです。

段原クラブの選手なのですから自分のやっている練習に自信を持って下さい。

第93話/2014.03.31

甲子園で新庄が負けました。

昨年の瀬戸内に続き、やはり広島代表は打てない、特にボールが遠くに飛ばない。今の高校野球は打てなければ甲子園では勝てません。岩国も同じです。投手力で予選は勝ち上がれます。特に中国地方は全国レベルと比べて打撃力が落ちます。投手力だけで甲子園に出場できます。

私は前からずっと言い続けています。確かに甲子園に行くためには投手力は最低条件です。しかし勝ち上がるためには打撃力が必要です。どんな練習をしているのか私にはわかりません。野球は守備力もちろん大事です。守備練習必要です。そんな事はわかっています。しかし、私は魅力を感じません。広陵が甲子園で勝ち上がったのは何年前でしょう。もっともっと打つ事、振る事、強い、速い打球を打てるスイングを身に付ける練習をするべきだと思います。

特に野球校と言われる高校は能力のある選手を選んで入学させる事が出来るのですから、中学生の時に打てた選手を集めてなぜ打てないのでしょうか。

段原クラブは選手を選んでいません。力のある小学生を勧誘しません。ただ常にバッティング練習中心にやります。フォアボールを選んだりランナーを進めたりする練習はしません。ひたすらヒットを打つために練習をします。それがチームの勝利のためにはあまりなりません。なぜかという、いくら練習をしても良い投手は打てないからです。プロ野球選手がダルビッシュや田中将大を打てないのですから。でもバッティング練習を中心にやります。なぜなのか、子ども達はヒットを打ちたいのです。ホームランを打ちたいのです。打つのが楽しいから野球をやっているのです。それに答えるのが指導者の仕事です。

でも、もちろん勝つためには投手力、守備力が大事です。そんな事はわかっています。広島の高校野球のレベルアップのためにはバッティングの力が必要だと思います。特に外野の頭を越えるスイングの力が必要です。ゴロでは点は取れないのです。

第92話/2014.03.24

3連休、1日目は安シニアさんと練習試合を組んでいました。

突然の暴風雨、私が経験した中で一番の風で本当にビックリしました。同じ広島でこんなに天候がちがうなんて驚きです。安シニアさんには豚汁までごちそうになり、ありがとうございます。又、今度は天気の良い時にお願いします。

この連休は段原クラブとして、たぶん初めて3日間1日練習で、学年で少し時間をずらしましたが私は1日とても疲れしました。中日には1年生の政岡の送別会もありグッタリです。土、日は天気も良く子ども達のモチベーションも最後まであり良い練習が出来ました。新1年生も13名の入部がありひと安心、新2、3年生にも良い刺激になっているようです。

先週の敗戦により少し勘違いしていた事に気づき、練習の集中力が高まったように思います。何かを変えなければいけない思いが伝わって来るようになりました。過去に結果を出したチームがやっていた練習の雰囲気近づいてきました。是非、工夫を重ね今の危機感を持ちそれでも楽しく野球をやって欲しいと思います。少し楽しみになってきました。選手と指導者両方で、上を目指して苦しんで楽しんでいけばいいと思います。土、日の集中続けて欲しいです。

第91話/2014.03.17

段原クラブは今、とても弱い！！です。

まずピッチャーのコントロールが無い、キャッチャーが盗塁を刺せない、守備でイージーミスをする、盗塁に思い切りがない、そして一番の問題はバッティングです。段原クラブの方針であるストレートに振り負けなし（遅れない）がまったく出来ない、バッターとして最も悪い。ストレートに遅れ、変化球に泳ぐというヒットが出る可能性の無い状態に全員がなっている。

バッターはまずピッチャーの一番速いストレートを遅れずに打てるかどうか最も大事な能力です。それが出来なければピッチャーには勝てません。要は間に合わなければ打てる可能性は無いということです。自分の体の中（ベースの上）にボールが入ってきたらバッターの負けなのです。そのためにコンパクトな速いスイングが必要になります。そしてタイミングの取り方がとても重要です。どんなに綺麗なフォームを身に付けてもタイミングが取れなければヒットは打てません。ここが中々指導で伝え難い所です。自分で考え、試し、工夫し構えからテークバック、ステップ、足の使い方など自分自身でどうすればピッチャーの速いストレートに遅れないタイミングでスイング出来るのか身に付けなければ打てる日はやってきません。ピッチャーでないような相手から大きな当たりを打ち勘違いし満足しては上達は望めません。とにかく速いストレートを打ち返さなければ始まらないのです。バッターとして成績を残すために最低限必要な事です。より一層の工夫と努力を望みます。特に昨年から試合経験を積んでいる中心選手（大事な試合には必ず先発で出る選手）はもっともっと練習で苦しむべきだと思います。試合に出られる分けですから当然です。

指導者としても選手の先の野球人生の為に、より一層厳しく接していく必要があると感じます。140km/hのストレートをしっかり打ち返せる、スピード負け、力負けしないスイングを身に付ける事が私は学生のバッターにとって最も大事な技術だと思っています。それが出来て次のステージに上がれると思います。ピッチャーのアウトコース低めに投げる技術と同じ、技術の基本だと思います。これからも段原クラブはその技術を 目指して努力していきたいと思っています。

第90話/2014.03.10

段原クラブは野球のクラブチームです。

保護者がクラブチームに求めているものは何なのでしょう？最近わからなくなってきました。学校では勉強と団体生活のルールを学びます。塾でテストの点の取り方を学びます。クラブチームに礼儀や挨拶、言葉使い、精神的なものを求めたら親は何をするのでしょうか？お金と食を与えるだけですか？

私は野球のクラブチームはひたすら技術を身に付ける場所だと思っています。試合で結果を出すための技術、高校野球で通用する技術、もっと言えば本物の考え方と技術を少しでも多く自分の物にするための場所であり、指導者は正しい事をひたすら教えるのが仕事だと思います。礼儀が挨拶や言葉使いなどは、親の仕事だと思います。先生、親、クラブチームの指導者は役割がちがうはずです。それぞれが責任をもって自分の仕事を子供のために全うするべきです。それでも最後は本人の努力です。確かに持って生まれた能力には差があります。努力だけではどうにもならない差がある事もわかっています。しかし言い訳はチーム一練習してからするべきです。

私の経験ではチーム一練習した選手は必ずレギュラーになっています。大体たいした努力もしない選手や親がよくグチグチ言うものです。アマチュアで結果を出すのは練習です。それも小学生の時からの積み重ねです。小学校の時、まともな練習をしていないとそれだけでハンディを背負います。チーム・指導者選びは大事だと思います。

第89話/2014.03.03

小さい頃にかかった事があるかもしれないが、記憶の中では初めてインフルエンザに冒されました。

熱が39、4度まで上がり体中が痛く本当に苦しい思いをしました。今までは予防接種を毎年していましたが、今年はサボったばかりにこんな事になりました。「誰でも出来る事を当たり前にする」子ども達にいつも言っている私が手を抜いた罰が当たりました。反省です。

それにしても自分の体のポンコツぶりを今回つくづく感じました。自分が思っているよりは子ども達と野球が出来る時間は残り少ないように思います。次の世代に出来るだけ早く技術、考え方、練習方法など伝えておかなければと思いました。

3月1日(土)、2日(日)山口ミラクルズの招待大会がありました。2日間で4試合行い運よく優勝する事が出来ましたが、昨年秋からの各個人の課題はまったくクリアされておらず私の眼からだチーム力は落ちていくように思えました。不満だらけです。

相変わらず不用意に四球を出すランナーが出るとオドオドする投手陣、投手をリード出来ず盗塁を刺せない捕手、イージーミスをする内野手、牽制球でアウトになるランナー、チャンスで内野フライ、三振を繰り返すバッター、ストレートを狙っているとって振り遅れるバッター、明らかに変わった力を見せてくれた選手は2人だけでした。練習で出来ても試合で出せなければそれは身に付いているとは言えません。勝負は頭です。バッティングは打てるボールを打つかどうか、甘いボールを1球で確実に打てるかどうか、そして状況判断です。守備は予測と準備、ピッチングはボールに心を込められるかどうかです。練習で徹底的に技術を追求し、試合では思い切って自信を持ってそれを100%出す。自分のやってきた練習を信じて堂々と胸を張って自分の力を発表するのは。段原クラブは正しい練習をしているので、それが出来れば負けるはずはありません。自分を信じられるまでひたすら練習するしかありません。オドオドするのは自分が納得出来るまで練習していないからです。グラウンドで誰に臆することなく正々堂々とプレー出来る選手になって欲しいと

思います。

第88話/2014.02.25

2月21日（金）、22日（土）私は大阪で行われた日本プロ野球機構のプロ野球公認指導者養成講習会に行ってきました。

法律・地域社会との関係・少年の体・心理・栄養・メディカルコンディショニング・フィジカルコンディショニング・野球指導者に必要な医学・ドーピングなど2日間で約12時間の講習を受けました。今まで野球の事ならある程度わかっているつもりでしたが、初めて聞く内容ばかりでとても価値ある時間でした。今まで間違った事も多々あり正しい知識が指導者には必要だと実感しました。特に肘の故障は100%近く、小学生の時に軟骨の骨折をした事が原因だそうです。小学生の指導がその子の野球人生を大きく左右してしまいますのです。前から思っていました。小学生は試合が多すぎます。もっともっと先を見た育成が必要だと本当に感じました。

段原クラブでは入部時に肘の検診をし軟骨の状態を調べ指導につなげていこうと思います。プロ野球選手としてトップの野球を経験してきました。しかし子供達の指導は別の物です。長く野球人生を送るための手助けをするため、特に体を守ってあげなければいけません。私たちの時代は、とんでもない非理論的な練習をしてきました。たまたま体が大きく、強く、丈夫で上手く手を抜いて故障をせずにプロ野球選手になれました。しかし、10年のプロ野球人生の中で肘、肩を故障し、最後に膝を壊し野球人生を終えました。ケガで野球が出来なくなる子供を出してはいけません。ケガはスポーツに付き物だとよく言いますが、防ぐ方法がたくさんあります。まず、小・中学生の時、勝つ事にこだわらない事です。食事、睡眠、正しいトレーニングで体を強く大きくし、正しく故障しにくい投げ方、打ち方を身に付ける事が大事です。練習時間も考える必要があります。「子供は大人のミニチュアではない」この言葉をしっかりと頭に入れて目の前の結果にこだわる事なく、本来のスポーツである野球を1日でも長く楽しめるように子供達を指導していこうと思います。

小学生の指導者の皆さん、勉強しましょう。小学生の肘の故障は一生ついて回るのです。治ったように見えても必ずその後、選手を苦しめます。責任とれますか？

それから面白いデータがひとつ。アンダー18才の日本代表投手の8割は中学生時代軟式野球経験者だそうです。このあたりにも故障との関係があるように思います。私も中学時代は軟式野球をやっていましたが、高校入学時、何のハンデも感じませんでした。逆に硬式野球は「なんと簡単だな」と思った記憶があります。高校で野球をやるために早くから硬式でやった方が良いという事はデータで見ても経験からも根拠はありません。問題は軟式か硬式かではなく正しい練習をして体と心を故障しない事が大事です。

第87話/2014.02.17

よく伝統という言葉野球チームに使います。

だいたい良い意味で使われているし、強いチームに使う事が多い。私の高校時代には名電は打力、ライバルの中京は守備力というようなチームの伝統がありました。ただ良い事ばかりではなく、例えば学校の食堂に1年生は出入り禁止とか、洗濯機を使えないなどくだらない伝統も多くありまし

た。(本当にくだらない) チームや選手のために良い事は伝えて続けていくべきだと思う。しかし良くない事は出来るだけ早く改めるべきだと思う。

段原クラブでは、もちろんフルスイングする事、自分達で考えて野球をする事、一人で練習出来る事、出来るだけ全ての学年が同じ練習を一緒にし、上級生の技術、取り組む姿勢を下級生に伝える事などが伝統だと思っています。

3年生は9月に試合を終えます。もちろん受験もありますが、10月以降は出来るだけ練習に出て下級生に今まで自分達が身に付けた技術、考え方を毎年伝えてきました。過去の卒団生達は全員とは言いませんが、本当に良くチームのため、後輩のため、そして自分のために練習に出て力を貸してくれていました。試合が終わりプレッシャーから開放され結果を欲しがったりしなくなり、本当に自分のために自分で思い、必要を感じてチームや後輩や自分のために練習すると上達します。10月～3月までが3年生が一番伸びる時なのです。自分達が1、2年生の時には3年生にお世話になったはずです。受けた恩は忘れてはいけません。感謝の心がチームを強く大きくしていくものだと思います。そして自分自身も魅力ある選手、人間にしていけるものです。

自分以外の誰かのために何かをする。野球に通じる何かを感じませんか。私はよくプレーには人間性が出ると子供達に言います。練習で技術を鍛える事はもちろん大事です。受験勉強も大事です。でもそれだけでは人を大きく鍛える事は出来ないと思います。

仲間のためにチームのために、そして自分のために、段原クラブの伝統だと私は思っています。

第86話/2014.02.10

受験のシーズンです。

県立の選抜Iと私立の推薦試験が終わりました。受かった人も落ちた人もいるでしょうが次もあるし、第一志望の高校に入学したからといって幸せな人生が保証された訳でもありません。私はここ数年、子供達の高校選びに疑問を持っていました。夢や目標や勉強したい事があって選ぶのではなく、3年生の成績でこの点数ならこの高校だとかそんな基準で選んでいるように見えます。

こんな野球がしたいからとか、こんな勉強がしたいとか、そんな思いで高校を選んでいないように思います。私は小学生の頃からプロ野球選手になる事が夢でした。そのために県内で一番強い高校に行こうと思っていました。愛知県なので中京高校(現 中京大中京)です。

中学2年生の担任の先生から学年250人の中でテストの成績が50番以内でなければ受からないと言われたので、それまであまり勉強していませんでしたが3年生になった時には34番までなりました。(本当はそれ程の成績はいりませんでした・・)

中京で野球がしたいという目標があったから勉強をしました。現実にはいろいろな縁で名古屋電気高校(現 愛工大名電)に入学しましたがある程度勉強していたおかげで高校では野球に集中する事が出来ました。高校の授業についていくのがやっとでは野球どころではありません。出来るだけ早く夢や目標を持って、そのために勉強も野球も頑張っただけ欲しいと思います。

クラブチームで野球をやっているからといって勉強をおろそかにしていいわけありません。練習の無い日もありますし、時間はあります。やる気があるのか無いのかの問題です。受験直前になってジタバタしても遅いのです。野球と同じで日々努力していなければ良い思いは出来ません。どちらもやった者勝ちです。そうはいつでもまだこれから試験を控えている人は精一杯努力して下さい。

1、2年生は3年生になって慌てないように、今から目標を決めて1日1日それに向かって努力する事です。野球も勉強も「継続は力なり」です。選手が一番大事な素質とは、毎日毎日努力し続

けられる精神力と体力だと私は思います。今年の段原クラブにはそんな選手がたくさんいます。練習に行くのが楽しみなチームになっています。

新1年生もそんな選手に入ってきて欲しいと思います。そして楽しく野球がしたいです。

第85話/2014.02.03

冬季オリンピックが始まります。

先日テレビで女子のアイスホッケーチームの特集を見ました。長野オリンピックは自国開催のため出場出来ましたが、それからは全て代表決定戦で敗れていたため今回強化のため、2大会連続で金メダルを取ったカナダ代表の選手をコーチに招いたそうです。そのコーチが最初の練習の時に「日本の選手はなぜ笑わないのか」と言ったそうです。「アイスホッケーが好きだからやっているのではないか?」「そもそもスポーツは楽しむためのものではないのか?」と、とても楽しんでいるようには見えなかったそうです。

日本のスポーツは学校体育が中心で発展・発達してきました。その中心には教育(修行)があります。野球も同じように学校や軍隊が体力の向上や精神力を鍛える手段として使われてきました。

今でも特に学生野球は、スポーツとして楽しむよりも修行をしているような部分が多く残っています。練習中や試合中の笑顔は不謹慎だと思われがちです。私も最近までは、そんな考え方が強かったように思います。当然集中せず、無駄話をしたり、手を抜いたりする中での笑顔はあり得ません。そんな状況で上達はしません。

しかし、考えて下さい。中学生は野球が大好きでほとんどの選手が小学生の時からやっています。まず好きな野球をしているのです。そして段原クラブは好きなポジションを自分で選んでやっています。好きな事をやっているのに楽しまないのはおかしいです。苦しい事も練習の中には当然あります。それも自分の技術、体力を上げて試合で楽しむためのものです。自分自身で選んだスポーツ、チームです。苦しい事も含めて楽しんで欲しいと思います。段原クラブはそういうチームを目指していこうと思います。そしてなれると思っています。

先週も何人か、6年生の体験が来ました。本当に取り組む姿勢の良い子ばかりでありがたいです。

こういう子供達ならぜひ一緒に野球をしたいと思います。入部してくれたら強くなりそうで楽しみです。今の1, 2年生もよくやっています。みんなで競争です。うまくなりますよ!!

第84話/2014.01.27

先日、学生野球資格回復者に認定されました。

どういう事かというと今まで約50年間プロ野球経験者は教員免許をとり2年間、教壇に立たなければ高校生の指導が出来ませんでした。私は高卒なので一生ダメでした。しかし、何年もプロ野球側と学生野球の関係者が話し合い、歩み寄りやっとプロ野球機構と学生野球協会両方の研修を受けレポートを提出し認定されれば一定の手続きの後、高校生、大学生の指導が出来るように規則が変わり、私は研修を受け認定されました。過去にいろいろな問題があり断絶していた関係がたくさんの方々の努力により修復された事を感謝し喜んでいきます。

これからのプロ野球OBの方々がお金のためではなく純粋に学生達のために力を尽くす事を望みます。今までの努力を無駄にする事のないようにしなければいけないと思います。

私は現実には段原クラブの監督をしているので、なかなか学生を指導する機会は無いです。なぜこの研修を受けたかという、知らない事を勉強したかったからです。自分がプロで野球をやっていたのは26年前です。それから理論も練習方法もケアの仕方も全ての事が進化、進歩しているはず。子供達の指導に携わっている以上、最善、最上の物を提供する責任があります。今までもいろいろな講習会に出たり、先輩方にアドバイスを頂いたりして勉強してきたつもりですが、野球の技術に絶対はありません。子供達のために指導者は子供達以上の努力が必要だと思います。昔野球やっていたからとか、元プロ野球選手だったからという理由、ましてや時間がありから、野球が好きだから程度で子供達を指導しては失礼です。2月にもプロ野球機構の公認指導者養成講習会が2日間あります。法、心理、栄養コンディショニング、医学、ドーピングなどさまざまな講習です。信じて段原クラブを選んでくれた子供達のため、チームのために指導者としてスキルを少しでも上げたいと思います。

1月に入り少しずつ6年生が体験に来ています。みんな楽しそうに手を抜かず一生懸命練習してくれて好感が持てます。ずっと今の気持ちを持ち続けていけば、どのチームでやっても上達します。今体験に来てくれているような選手が入部してくれると楽しみです。これからも一生懸命練習する子は、いつでも誰でも来て下さい。歓迎します。

第83話/2014.01.20

寒い日が続いています。

中々練習をするには厳しい中ですが段原クラブは相変わらずバッティング練習を中心にやっています。とにかく数多く強く振る事を意識しています。6年生の体験が毎週土日、週こど少しずつ来るようになりました。今年は動きが遅く感じていますが、今のところ本当に一生懸命にやってくれて気持ちの良い子ばかりです。私は前からずっと言っているように野球の実力はどうでもいいのです。心の底から野球が好きで、向上心があり、集中して頑張る子と野球をしたいと思っています。

今、体験に来てくれた子供達とは是非一緒にやりたいと思います。とても気持ち良く楽しい練習が出来て、現役の部員達も刺激になっていると思います。今の気持ちで3年間取り組めば誰でも上達します。これからの中学校生活は色々な誘惑があると思います。それに負けてしまった選手も数多く見てきました。どんな素材があろうと身体を動かすのは心です。思いがなければ目標にはたどり着けません。

段原クラブはやろうと思っている子はいつでも上手くなれる環境があります。1、2年生も今チーム内の競争をしています。誰が勝ち残るのか監督としてとても楽しみです。

野球大好きな6年生、いつでも体験に来て下さい。待っています。

第82話/2014.01.15

12日(日)西協議会の理事会及び新年会がありました。

本年度の役員、大会日程などが決まり、今年も始まったなと思いました。私は理事会の席で保護者の方が審判をする事が多くありますが、各チームで練習して頂いてレベルアップをお願いしました。段原クラブでは練習の中に入って頂いて保護者の判定の練習を常にしています。なぜかという子供達のためだからです。私達指導者は子供達に厳しく接します。そして子供達は頑張ります。

大人も負けないように努力する必要があると思います。今まで何度も試合の中で子供達は辛い思いをしてきました。出来るだけそんな事のないように皆さん練習して下さい。

日曜日は南原の中電グラウンドで練習でした。寒さはある程度予測していましたが、グラウンドが凍っていてそれが解けて大変でした。子供達の昼食時に指導者、保護者が少しでもと思い、砂を運んだり、水を取ったりしました。いつもの事ですが、チームのために動いて頂ける保護者の方々には本当に感謝します。それに引き換え一部の選手には毎度がっかりさせられます。昼食後のアップは各自でやります。次の練習メニューも開始時間も伝えてあるのにダラダラ、立ち話、ろくに動きもせず練習に入ればミスを繰り返す。野球が好きだとか、上手くなりたいとか言うのに努力はしない。不思議でなりません。あなた達が昼食を食べている間、グラウンド整備をしている大人を見て何も感じないのですか？野球をする以前に人としてダメです。絶対上手くなりません。今、盛んに言われている体罰禁止それはあなた達を人間として認めているからです。言葉や態度で伝わると思っているからです。まず人として感じる心を持ちましょう。必ず野球につながります。もちろん自分のための野球ですが誰か他の人のために頑張るのも必要です。

第81話/2014.01.06

2014年のシーズンが始まった。

1月2日に恒例のOB戦があり、今年もたくさんのOB、保護者の皆さんと1日楽しく過ごしました。現役の選手・保護者には準備から片づけまでお世話になりありがとうございました。練習は1月5日（日）スタートしました。休みの間、しっかり練習していた者とそうでない者の差がはっきり出ていました。私がいつも子供達に言っている事、自分の為に野球をするのです。手を抜けば全て自分に帰ってきます。痛い目に合うのは自分自身なのです。私の仕事は、全力で頑張っている選手を応援し、技術を伝え、上達させ次のステージに上がるお手伝いをする事です。頑張らない選手を上達させる力はありません。

段原クラブが目指している野球は、選手自らが考え、自ら行動し投手と打者の1対1の勝負を楽しむ野球であり、個人の能力を伸ばし次のステージ（高校野球）で堂々と野球が語れ、出来る選手になって欲しいと思っています。野球はよく団体スポーツ、チームプレーが大切だと言われます。それは勝つための野球にはある程度必要だと思います。しかし段原クラブではあくまでも個人の能力にこだわります。基本的能力である打つ、捕る、走る、投げる、この力を伸ばす事に今年も取り組みます。その中で自ら考えて、試合の中で野球脳を鍛えて欲しいと思います。

1対1の力勝負が出来る投手、打者がたくさんいる事を望みます。楽しみです。広島の高校野球も甲子園にでる野球ではなく、もっと基本的な力を付けるべきだと思います。今のままだと全国に取り残されます。

話は変わりますが、私が安佐南郵便局で午前中働いています。年末年始年賀状のシーズンアルバイトで高校球児が毎年来ます。K陽東の野球部の生徒のいい加減さに呆れました。時間は守らない、仕事での私語が多い、本当にいい加減な生徒がたくさんいました。ここ数年勝てない理由がよくわかります。何のために野球をし、野球から何を学んでいるのでしょうか？お金を頂くのですよ。指導者は何をしているのでしょうか？野球も弱い、人間性もダメ、やりたくないのに無理やりやられているのならやらない方がいいです。迷惑です。段原クラブの選手があのような選手にならないようにしっかり話をしたいと思います。

第80話/2013.12.23

12月21日(土)22日(日)の2日間、大阪で学生野球資格回復研修会がありました。

何かと言うと過去50年間、元プロ野球選手は高校、大学生の指導が制限されてきました。それを無くして出来るだけ指導出来るようにしようという制度に改正され、そのための資格を回復するためにプロ野球側の研修を1日、学生野球側の研修を2日計15時間の研修を受ける必要がありました。高校時代以来の座学で少々大変でしたが、どの研修も興味深い内容で学生野球の考え方や関係者の思いが強く伝わり充実した2日間でした。

よく言われていたプロとアマの断絶は100%プロ野球側に問題がありました。選手の引き抜きや裏金問題などです。やっと関係者の方々の努力のお陰で扉が開きました。しかし本当に大事なのはこれからだと思います。学生野球でお金を得ようとするOBがいない事を望みます。関わり方にもよりますがせっかく出来た制度です。キチッとルールを守って学生野球の発展のために協力していく姿勢で全員が取り組んで欲しいと思います。私達プロ野球経験者にとっても学生野球関係者にとっても歴史的な出来る事です。後は使い方です。長年尽力されて頂いた方々に心から感謝します。

本当にありがとうございました。私はもちろん出来る事があれば是非協力していきたいと思っています。

話は変わりますが、1月2日毎年恒例のOB戦が湊崎グラウンドで行われます。ひとりでも多くのOB、保護者の参加を楽しみにしています。現在野球をしていなくても同窓会のつもりで来て下さい。懐かしい仲間と思い出話に花をさかせましょう。試合後はフルスイング塾で打ち上げも用意しています。

平成27年度はいよいよ段原スポーツ少年団、段原少年野球クラブ20周年です。来年度中に案内させて頂きます。その連絡先の確認のためにも沢山の参加待っています。

第79話/2013.12.16

よく素質、素材という事を聞かれます。

「プロ野球選手になるためには、努力だけでなく素質がなければダメですよ」とか「鈴木さんは体が大きかったのがプロ野球選手になれましたけど、私は小さかったのであきらめました」などです。では、小さなプロ野球選手はいないのでしょうか？そして小さくてダメだった方、私より練習したのでしょうか？

野球はストライクゾーンが体の大きさでちがいます。ゴロは地面を転がります。たしかに投手は背が高い方がボールに角度が付きますので有利だと思いますが、小さい選手でもチームのために出来る事がたくさんあるのが野球だと思います。言い訳をしている人達は間違いなく大した努力もせず逃げています。最低限まずチームで1番練習してみてください。1年間毎日毎日1番多く、長く、そして内容のある練習をして下さい。必ずレギュラーになれます。人間は思い通りにならない事があるとたいてい自分の責任にせず他人のせいになります。野球で言えばチームだったり、指導者のせいにします。試合に使ってもらえないなどと言います。簡単な事です。チームで1番練習すれば良いのです。試合は使ってもらうのではなく監督に使わせるのです。大した努力もせず、苦しい事から逃げて他人のせいにして不平、不満を言っているのはとてもプロ野球選手どころか、チームのレギュラーにも当然なれません。

私が思う素質とは毎日毎日正しい練習を続けられる事「継続は力なり」です。体が小さいとかグスグス言っている暇があったら動け、考えろ、走れ、バット振れ、体を強くしろ、柔らかくしろ、スピードを上げろ、その他やらなければいけない事は山のようにあります。

私は20年以上子供達を見てきていますが、チーム1練習した選手が試合に出られなかった事はありません。確かにプロ野球選手になれる確率はほぼ0に近いです。そしてその中で食べていける選手はもっと少なくなります。

野球は一生出来るスポーツです。そして日本の文化です。本気でやった者だけが次の世代に伝えるべきだと思います。長く長く野球に関わっていける選手がひとりでも多く段原クラブから出てくれれば幸せです。

第78話/2013.12.13

私は中学、高校の時、監督の事を嫌っていました。

プロ野球選手の時トレーニングコーチの事が嫌でした。ずっと父親の事も嫌っていました。それは私の嫌な事、厳しい事をはっきりと言われるからでした。サボった時、手を抜いた時に怒られる、怒鳴られる、そして叩かれたからです。でも今は全ての方に心から感謝しています。野球を続けられたのも、プロ野球選手になれるのも、私のために心から怒って頂けたからだと思っています。野球を辞めたいと思った時も本気で止めて頂きました。子供心とはいえ、反発していた事を申し訳なく思っています。

段原クラブを作り監督になった時から私は子供達に嫌われることは覚悟しています。子供達が嫌がる事うっとうしく思う事、厳しい事を言わなければいけないからです。それが監督の仕事のひとつだと思っています。親という立場も同じ事だと思います。

私と子供達は縁あって同じユニフォームを着る事が出来ました。段原クラブを選んでくれた子供達を高校に送り出す時に、困らない技術と考え方を身に付けてもらう責任があります。

当然それを望んで入部したものだと思っています。そのためには嫌われても言わなければならない事、しなければいけない練習があります。全ては選手のためなのです。コーチには子供達のクッションになってくれるようお願いしています。指導者も親も子供達の敵ではありません。味方(仲間)なのです。嫌われてもうっとうしがられても言わなければいけない事は言います。なぜなら君たちが好きだからです。大切だからです。

この冬はチーム内競争です。勝ち残ってレギュラーを取りましょう。全員にチャンスがあります。とても楽しみです。

第77話/2013.12.03

12月に入りました。

今シーズンの試合も終わり、来春に向けてチームは再スタートです。3年生は2番手投手の故障からチーム力は半減してしまい、苦しい試合が続きました。今年のチームモットーである「チーム一丸 俺達は出来る」はずの力を全て出せずに不完全 燃焼に終わったように思います。私の思うチーム一丸というのは学年関係なく選手、保護者、指導者が同じ方向に向かって協力し努力するということです。その点では物足りなさが残りました。もったいない一年だと思いました。

2年生は10月から本格的に新チームに移行し短い期間にたくさんの試合がありました。予想を上回ったのは投手です。1イニングやっとなった投手がなんとか試合を作れるようになり ました。今の時期、経験からすればよく頑張ったと言えます。バッターの方は力を出せてい ません。練習ではある程度のスイングは出来ます。しかし試合では出せません。力がないのか？ あるのに 出せないのか？どちらにしてもこの冬練習するしかありません。

私が子供達にいつも言っている事、当たり前の事を当たり前にやる。たとえば投手はストライク ゾーンに投げる、バッターはストレートに遅れないで打つ、そして全力で走る、大きな声 を出す、カバーをする。まずこれが出来なければ次のステージには上がりません。試合に勝つ テクニック はプロ野球選手になってから覚えれば良いのです。

アウトコース低めにストレートをいつでも投げられる投手、相手投手の一番速いストレート に振り遅れない打者、段原クラブが目指しているのはこの2点です。この2つが出来て状況判 断が出来れば負けません。ストライクゾーンのストレートでバッターを抑える、そして速いストレート を打ち返せる。これが出来ればプロ野球選手になれるのです。逆に言えばこれが出来なければなれ ないのです。この冬は単純に個々の力をつけるための練習をしたいと思います。野球はチームプレ ーとよく言いますが、ピッチャーとバッターによる1対1の勝負の繰り返しです。その楽しさを選 手達に伝えて行きたいと思います。

「3年生の諸君、先輩に伝えてもらった事を後輩に伝える事なく卒業していくのですか？私 は人のために動けない人間が高校受験を勝ち残れるとは思いません。」

第76話/2013.11.25

23日(祝)三原浮城の10周年記念大会に招待頂き2試合させて頂きました。

両試合ともサヨナラ負けをしました。負けることはかまいません。公式戦ではないのでいろい ろな選手を試します。今出来る事と出来ない事を指導者と選手が確認するために練習試合や招待試合 はあります。11月に入ってずっと試合が続き、しっかりとした練習が出来ていなかった事や開会 式から試合会場に移動し、まったくウォームアップする時間をもらえなかった事、主審が試合を急 ぐあまりとんでもなくストライクゾーンが広がった事など力を出せなかった原因はいろいろと考 えられます。また、大人の都合で子供達に迷惑を掛けました。

毎度毎度なぜ子供に関わっている大人達は子供達の都合を優先しないのだろう、なぜ試合を少し でも早く始めて、早く終わろうとするのだろう。まったく理解出来ない。用事があるのなら来な ければいいのに。いつも思う事ですが、誰のために大会があるのだろう。大人の見学のため？子供達 のためです。朝からとてもいやな思いをしました。しかし、そんな事を差し引いても段原クラブの 試合は淋しい内容でした。失礼な言い方ですが、試合相手は明らかに格下でした。普通にやれば負 ける事はありません。今の段原クラブの選手達は素材に恵まれていませんが、努力を重ねて少し づつ力をつけてきました。投手も小学校の時投げていた選手はいません。心を込めて集中するとある 程度の力を出せるようになってきました。

今年のチームに一番必要な集中力！本気で勝ちたいと思う気持ち、これが全く伝わりませんで した。県大会で優勝した事で満足してしまったのか、理由は良くわかりませんが一日をもったいない 使い方をしてしまいました。野球の技術に頂点はありません。いくらでも上があります。

勘違いしていた選手がいたとすれば良い勉強になってくれればと思います。少しでも気を抜くと どこにでも負けてしまう。まだまだ本当の力はないのです。二度と一日を無駄にしないで下

さい。野球が出来る日数には限りがあります。80%の選手が高校3年生で野球人生を終えます。少しでも長く続けるために1日を大事にしてほしいと思います。

失敗してもかまいません、それを力に変えましょう！！

第75話/2013.11.18

16(土)17日(日)府中オーシャンズの招待試合がありました。

Aチームは1日目2勝しAクラスに残り2日目は準決勝大野クラブと1対1の引き分け抽選で負けて3位になりました。1年生中心のBチームも4チームでの交流戦に参加させて頂き2日間で3勝1敗と大健闘しました。私はBチームの監督をしたのでAチームの内容は良くわかりませんが、スコアブックやコーチからの話を聞くとピッチャーは良く頑張ったようです。

今年の大野クラブのバッテリーの力が抜けています。この2人に勝てなければチームも勝てません。ピッチャーのストレートに力負けせず打ち返す、キャッチャーのバッティングを押さえる、この2点が選手として高校野球で活躍出来るための目安だと思います。その点では、まだまだ力を上げなければいけません。ピッチャーは6回2死まで0点に押さえてきて、ホームランだけ打たれてはいけない場面でホームランを打たれ引き分けました。絶対にあり得ない！！4番バッターです。私が見た中では今年広島で一番のバッターです。何度も対戦してピッチャーもキャッチャーも十分わかっていたはずですが、それもカウント2ボールからストライクをとりについて打たれています。極端に言えば四球でも構わない場面です。ストライクを投げるのならアウトローしかありません。絶対にホームランにならないコースに投げなければいけません。

今まで何度も状況判断を伝えてきました。状況判断とは終わった時どうしたら1点勝っているかを考えて野球をする事です。もっともっとしつこく言い続けなければいけません。残念ながら段原クラブには小学生の時トップチームでやっていた選手がいません。そのため緊迫した1点勝負の経験がありません。1球のミスで負ける事があるという試合をした事はありません。野球の怖さ本当の難しさを知らないのです。1対0や2対1の試合を数多く経験しなければ守備もバッティングもここ1番の力が付きません。5点も6点も入るような試合では上手くならないのです。1球の怖さ、ひとつのプレーの大事さを覚えられません。

秋のうちに経験出来た事はバッテリーにとってもチームにとってもプラスにとらえ財産にして欲しいと思います。お互い刺激し合って広島の少年野球のレベルが上がっていく事を望みます。Bチームは対戦相手に比べて体重が半分ぐらいの選手達が本当に良く食らい付いて頑張ったと思います。特に宮田の活躍は素晴らしく感心しました。Bチームに腐る事なく守備もバッティングもチームを引っ張ってくれました。たぶん2日間で4試合フルに試合に出たのは人生初だと思います。最後はバテていました。Bチームの選手、ひと冬越して体に力を付けAチームの選手を脅かして下さい。それがチーム力のアップにつながります。私は勝つ事を目的にやっていませんが、勝つと楽しいのは事実です。いつも言っているように当たり前の事を当たり前にやれば終われば勝っています。しかしそれが難しい。

最後に府中オーシャンズの皆さん2日間2チームで8試合もさせて頂き本当にお世話になりありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。

第74話/2013.11.11

11月9日（土）、10（日）広島県軟式野球連盟少年部新人戦県大会がありました。

雨に恵まれて相手投手が崩れてくれたラッキーもありましたが全員の力を合わせて優勝することが出来ました。審判、グラウンド作り、応援、たくさんの保護者の方の協力がありました。ありがとうございました。特にケガをしていて試合に出る事が出来ない選手の保護者も協力して下さいました。私がいつも言い続けているチームの為にチームに協力する、チームを応援するという事をして頂きました。選手、指導者、保護者が同じ方向を向いた時、チームは最高の力を出します。そんな大会だったように思います。

2年生のみんなは覚えているかどうか分かりませんが、あなた達がまだ6年生の時体験に来た日が雨でフルスイング塾での練習になった時に「今日体験に来ている子供達が段原クラブに入部したら県大会で優勝出来るよ」と私は選手に言いました。その日の選手が全員入部した訳ではありませんが、私はその日の選手から可能性を感じました。見る目が間違っていなかった事と、やっている練習、指導が正しい事を証明出来て良かったです。

サインが無くても、スクイズやエンドランを1度もしなくても試合に勝てるのです。もちろん勝つための練習、勝つための作戦をし、選手をベンチの操り人形のように動かした方が勝つ確率はいいのもかもしれません。インコースのボールを避けなくて当たった方が勝てるのもかもしれません。しかし段原クラブではしません。あくまでピッチャーとバッターの1対1の勝負にこだわります。バントも盗塁も自分の意思で出来る選手を目指します。そしてピッチャーを壊しません。今大会も2日間で4試合全て違うピッチャーが先発しました。まだ2年生、無理する必要はありません。今大会はたまたま運よく勝つ事が出来ました。選手達も保護者もその事は素直に喜んでいいと思います。しかし、ピッチャーのコントロール、ベースカバー、変化球、体力、キャッチャーのスローイング、ショートバウンドのストップ、外野の守備、中心打者のチャンスでの打撃、たくさん課題があります。2年生は努力します。チーム内の競争もあります。もっともっと成長出来る環境です。特にピッチャー8人、背番号1を来年の春に決めます。全員にチャンスがあると思います。レベルの高い争いを望みます。チーム力は投手力、楽しみです。

今大会でバント失敗なし、チームとして練習しなくても各自の意識で出来るようになりました。中継プレーでピンチを救ってくれた石飛、難波、竹田、ありがとう、最高のプレーでした。平日黙々と基本練習を繰り返し練習していた成果が出ました。これからも基本を大事に練習して下さい。

全員、奢ることなく上を目指しましょう！！

第73話/2013.11.07

11月4日（祝）山本浩二旗大会がありました。

マツダスタジアムで小・中学生のチーム約70チームが集まり開会式、昨年と同様に前日の雨で試合をさせてくれないと思っていましたが、今年は大丈夫だったようです。当然です。市民球場なので、子供達のために少々無理してもグラウンド整備をしてジャイアンツ戦の時のように試合出来るようにするのが当たり前です。

もう一度言います。市民球場だし、市民球団なので。プロ野球界の先輩 80' ホークスの山内和宏さんと大先輩の山本浩二さんに挨拶させて頂き、開会式を終えました。

段原クラブは今年も瀧崎グラウンドの当番で、朝早くから保護者の方々には、グラウンド作り（前日の雨で大変でした）、掃除、ホームランネット、駐車場案内、審判接待など協力を頂きました。

ありがとうございました。ホームグラウンドの責任が果たせました。

私は段原クラブを学年で区切るのは嫌いです。常にそういう話をしています。全てが段原クラブの行事で試合です。学年は関係ありません。何度も話をしているのに、この日3年生は半分の6人、保護者は3人でした。ホームグラウンドでの試合、手伝わないまでも、後輩の試合気にもならないのでしょうか？

結局いつも言っているようにチームより個人、自分の事しか考えられないのです。この考え方が今年の成績に表れていると思います。

今グラウンドに来ている子供達は、一生懸命にやっています。新チームになり少しずつですが力をつけています。レギュラー争いも白熱していました。この競争がチーム力を上げます。

一冬越した春、どのくらい伸びてくるか楽しみです。

第7 2話/2013. 10. 28

そろそろ3年生も進路を決定する時期になってきました。

私は中学2年生の頃から愛知県に住んでいたので中京高校(現中京大中京)に行きたいと思っていました。理由は簡単です。一番多く甲子園に出ていたからです。そのために野球の力はもちろん必要だし、勉強もある程度頑張りました。

結果的には一番熱心に誘ってくれた愛工大名電に進学しましたが、甲子園にも出場出来ましたしプロ野球選手にもなれました。中学時代の努力が役に立ったと思います。

段原クラブの選手を見ていると夢や目標が小さく見えます。3年生になって成績を見て高校を考えています。それでは自分に妥協します。苦しい時に頑張るモチベーションがありません。

男の子は大きな夢を持って人から何を言われようとがむしゃらに向かっていく姿がカッコいいと思います。実現出来なくてもいいのですが、努力し続けていく過程が選手を技術的にも人間的にも大きくするのは、男は家を出て独立しなければなりません。

そのため野球というスポーツを通じて心と体を鍛えます。そのお手伝いを私はしていると思います。だから厳しくもなります。選手のためだと思うからです。野球で飯を食べる人はほとんどいません。プロ野球選手になるだけでも、ほぼ不可能です。甲子園に出ることもとても難しくてもです。でも夢を追う価値があります。

野球は男の子を大きくする事が出来るスポーツです。とても難しく複雑です。これでいいという所がありません。だから楽しいのです。やりがいがあります。小さな体で大きな夢を持って努力し続ける選手と野球をやりたいです。私は精一杯持っている力を注ぎます。

段原クラブが夢を持った子供達で一杯になる日が来ると良いな～。

第7 1話/2013. 10. 21

新チームとして活動して初めての大会がありました。

2試合勝って決勝で負けました。3試合出来た事でピッチャーを全員試す事が出来ました。段原クラブではポジションを自分で決めます。2年生はピッチャーを希望している選手が7人います。しかし一人は学校の水泳の時間にケガ、もう一人が1塁の牽制球でランナーと接触してケガ、今投げられる選手は5人です。なんとか打順一回りを抑えてくれるようにこの秋になって欲しいと思っ

ています。

今のところこの基準まで来ているのは一人、なんとか試合を作ってくれるようになりました。後の4人はまだまだ四死球が多すぎます。投手はコントロール、スピート、変化球まずこの3つが必要です。自分はどれで勝負するのか、どんな投手になりたいか、なれるのか、目指している投手像が見えていません。まず自分をよく見て、はっきりしたものを決めることです。そしてそのための練習をするべきです。一段ずつでかまわないので確実に力をつけて欲しいと思います。自分でピッチャーを希望したのですから常にマウンド上で生き生きと嬉しそうに楽しそうに投げて欲しいと思います。

チーム力は投手力、あなた達の成長なくしては段原クラブの勝利はありません。1人だけがグラウンドの高い所に上がる資格はチーム一努力した選手に与えられるものです。みんなで背番号1を奪い合って勝ったものが春からマウンドに上がる事が出来ます。楽しみです。

バッティングは体に恵まれない選手が多いので、とにかく振る力をつける事が必要です。この秋、冬の段原クラブの決まり事！1日500スイング！！

高校野球をやる気があるのならやるしかありません。普通の体、普通の素材の選手が結果を出す方法は、正しい事を数多く、それも全力で集中してやる、これしかありません。

勝ちたければやる、やらないのなら辞める、クラブチームとはそういう所だと思います。

第70話/2013.10.15

9月末から本格的に新チームが始動して初めての大会が14日（祝）にありました。

旧チームの失敗を繰り返さないようにまず私が変わり、本気で向かって来る選手だけでチームを編成して、ここ2年程甘くなっている指導者、選手、保護者の考え方を変えていこうと思い、まずは今まで最上級生になれば全員ベンチに入れていた事をやめ、試合の戦力にならない選手は練習に残すという事をやろうと思っていました。特に1日1試合しかない場合は、20人ベンチに入れても試合に出る事のない選手が必ずいるので残って練習をして少しでも力をつけた方がその選手のためでもあると思っていました。

今、2年生は18人います。明らかに力の差がある選手もいます。2日前までは残そうと思っていました。しかし結局全員ベンチに入れました。

何度も何度も考えました。私は勝負事にはやはり向いていないようです。今年の2年生は力に差はありますが練習は一生懸命にやります。土曜日でも日曜日でも本当に声を出し、活気のある良い練習をしてくれました。私の望んでいる野球の大好きな子供達と夢に向かって一途に努力する事が新チームになって少しずつ出来てきました。練習が楽しくなっています。選手一人一人の顔を見て、とても残すとは言えませんでした。何が正解なのか私には判りません。試合に出られなかった選手も出た選手も午後からの練習に集中してやってくれました。今の姿勢が最後卒業するまで全員続いてくれる事を望みます。チーム内の競争の中で必ず力がつきます。

3年生の中には野球から心が離れてしまった選手がいます。2年生は入部してからひとりも退部者がいませんし、是非今のまま私が楽しくてしょうがない週末を過ごせるように頑張っ欲しいと思います。

第69話/2013.10.07

今日7日(月)、たまたま休みだったので高校野球秋の県大会決勝を見に行きました。

まだ新チームになって経験が少ないのでミスの多い試合でした。私がいつも言っているように技術的なミスは未熟なので仕方ありません。しかし考え方の間違いはいけません。

新庄が4点リードしているのに、四球や死球を出してはいけません。0-0と同じようなピッチングをしています。点差があればダブルプレーもいりません。そういうミスで終わったら5-3になっていました。点差をしっかりと頭に入れてプレーしていれば5-1のゲームでした。新庄と崇徳にはもう少し力の差があるように思いました。段原クラブのOB達が中国大会で自分の持っている力を発揮してくれる事を望みます。

チームは土、日2日間4試合練習試合をしました。土曜日は小雨と久しぶりの試合ということで投手陣は四死球が多くピリッとした所がありませんでしたが、日曜日は2試合で1失点ムダな四死球もなく前日の失敗を繰り返すことなく修正してくれました。タイムリーも出てチーム内のポジション争いが、良い方向に出ていると思います。内野、外野もちろん投手も全員が競争です。

私が望んでいるチーム状況です。仲良しクラブではなく、まずチーム内で勝ち、そして他のチームと戦う、2年生から試合に出ている選手ものんびりしてられません。チャンスをもたらした1年生も結果を出してくれています。ひとりとして安心する事なくピリピリとした練習、試合を続けていけば本物の力がつきます。楽しみです。

第68話/2013.09.30

27日(日)午前中に卒団試合を行い午後から卒団式をしました。

3年生にとってひとつの区切りの日になりました。高校野球を目指してこれから半年、より一層の成長するために自分の意志で自分のために練習が出来ます。一番技術を上達させる事が出来る半年間です。3年生全員が夢を追いかけて今まで以上に、自分に厳しく練習に取り組んで欲しいと思います。その姿が後輩、チームの良い刺激になります。

今年はチームも選手も指導者も苦しんだ1年でした。いろいろな事を試したり、工夫したりしましたが、それが中々チームの勝利につながりませんでした。個人打撃成績、投手成績を見ると打撃成績は例年と変わっていません。今まで以上にバッティング練習をした成果は出たと思います。しかし投手成績は過去最低でした。1試合平均失点が4点。去年より1点多く、一昨年より2点多く取られています。失点が4点ということは5点取らないと勝てません。いくら打って大変です。よく5割以上の勝率が残せたと思います。

前にも書いた通り、チーム力とは投手力、数字を見てもその通りだとよくわかります。新チームも投手希望の選手は7名います。しかし今のところ打順一回り抑える事の出来る投手はいません。来年の春までに背番号1を付けるに値する投手が現れる事を期待しています。

私は変わります。ここ2、3年甘過ぎました。もう一度厳しく子供達のためだと信じて嫌われ役になります。選手、保護者の皆さん、覚悟してグラウンドに来て下さい。

来年の卒団式に選手が半分になっているかもしれません。選手、保護者、スタッフ一丸となって段原クラブを再生させたいと思います。

第67話/2013.09.24

時々試合の決着をつけるために抽選をする事があります。

封筒だったり、箸だったりを選手9人ずつ引いて○だったり、印がついている物が多い方が勝ちになります。結局試合はこういう事だと思います。たとえばポジションだったり、打順だったり自分と対する相手に勝った数の多いチームが勝ちます。まれに投手が圧倒的に負けて、他の8人は勝てるのに試合は負けるという事もあると思いますが、私は学生時代、試合の度に自分と同じポジション、同じ打順の選手には絶対に負けたくないと思っていました。ピッチャーをする事が多かったし、打順はだいたい4番だったので私が負けると言う事はチームが負けること、そういう思いで試合をしていました。事実、高校時代の公式戦で負けた試合は私がノーヒットでした。

段原クラブのレギュラーの選手を見てみると、相手チーム、相手の選手に対する闘争心、競争心、そういう気持ちあまり感じられません。もちろん野球で一番必要なものは技術です。練習はひたすら技術、体力を向上する為に行います。しかし試合では、その身に付けた技術を全て発揮出来なければ意味の無いものになります。そのために精神力、自信や闘争心や集中力などが必要になります。

私はOBの選手達から練習中や試合中、優しくなったと最近よく言われます。私の優しさの度合いが強くなるにつれチームに成績が落ちてきました。年をとるにつれて私は自分を守るようになり、嫌われるのを怖がっているのかもしれない。なにが本当に子供達のためになるのか、もう一度原点に戻る必要があるように思います。

20数年前、子供達と初めて野球の練習をただひたすらに勝ちたいと思ってやっていた頃を思い出さなければ。

第66話/2013.09.18

3年生の最後の試合が週末にあります。

今年のチームを私は期待していました。中心選手が2年生から経験を積んでいたし、ベンチに入っている下級生とのバランスも良かったのである程度良い結果がでると思っていました。しかし期待とは違った1年間でした。チームを引っ張ってくれるはずの中心選手が大事な場面では力を出せず、ことごとく勝負の試合に負けていました。

今年の初めにも書きましたが、私と3年生は相性が悪いようです。最後、選手には本来の力を出して欲しいので私は遠慮しようと思います。邪魔をする人間がいないので思い切ったプレーをして力を出し切って下さい。

中学3年生の1年間は一番上達す時期だと思います。肉体的にぐっと成長するとき、精神的に集中して正しい練習を数多くやれば必ず伸びます。折角の良い時に野球に集中できない選手が毎年います。入部する時はみんな夢を持っています。それなのに3年生になると野球に集中出来ず、少しずつそれていきます。まず髪、眉、服装が変わります。そして顔つき、眼つきが悪くなります。親が気づかないのでしょうか？それとも気付いても何もいえないか、言わないのか。

私は20年以上子供達を見てきました。こうなった子供は、もう高校野球は出来ません。入部しても必ず途中で辞めます。自分の子供だけはちがうと思っている親が多いと思いますが、100%続きません。なぜかと言うと高校野球は代わりの選手はいくらでもいるからです。2度も3度も手を差し伸べてはもらえません。

私はずっと人間は間違いをする生き物なので、立ち直るチャンスを毎年何度も与えてきました。

コーチやスタッフから退部や試合から外すべきだという意見が出てチームに残し、試合にも使ってきました。しかし、今私の判断は間違っていたかもしれないと思っています。甘すぎたのかもしれませんが。私はただグラウンドで打ったり、投げたり、捕ったりする子供達の夢や目標のお手伝いがしたいだけです。

今日もみんなと楽しい野球が出来た、いい1日だったなど、気の合う仲間と美味しいお酒が飲めたらそれで十分です。

第65話/2013.09.09

日曜日は1日とても疲れしました。

午前中に臨時総会を開きました。議題は賭け事についてです。保護者から一人のコーチと数人の子供達が高校野球の優勝チームを当てる予想をし、それに少額だがお金を賭けていたとのメールをもらいました。当事者から事情を聞いたところ、県予選が始まる直前にどこが勝つかを数人で話していて、みんなで予想しようという事になり盛り上がったので100円を全員で出そうという事になったそうだ。コーチの話では、子供達が少しでも高校野球に興味を持ってもらって1試合でも多く球場に見に行ってくれば良いという思いからお金の話を出してしまったそうです。実際にはお金のやり取りはなかった事もあり、スタッフも子供達も全く罪の意識はなかったという事です。法律に詳しい方に聞いたところ、金額の大小ではなく金銭を賭けることは法律で禁じられていると教えて頂きました。

この機会に子供達にしっかりと説明し理解してもらう必要があると思い、全員に今までチーム内外を問わず金銭を賭けた経験を聞きました。約80%が経験ありました。保護者全員にこの事実を知ってもらうとともに、子供達に対して家庭でしっかりと指導して頂くために、そしてコーチに対してはチームとしてどのような対応をするべきか話し合うために集まって頂きました。

私はこのコーチを中学入学の時から知っています。とても野球が出来るとは思えないほど体が小さい少年でした。3年間続かないと思っていました。レギュラーにはなれませんでした。高校野球もしっかりと続け、本当に野球大好きな選手になりました。段原スポーツ少年団が段原中学校から離れ、段原少年野球クラブとしてたった9人の子供達とスタートした時から今まで、20代の一番自由に遊びたい時にチームのために尽くしてくれています。毎週治療院に通いながら子供達のためにバッティングピッチャーとして何百球も投げてくれます。夜勤明けでも練習に出てきます。私とチームにとっては掛け替えのない存在です。

今回の事は良いか悪いかどちらですかと言われれば悪いことです。誰に聞いても悪い事です。そんな事はわかっています。総会での保護者の皆さんの考えは全員ではありませんでしたが、ほぼ100%子供達には各保護者が説明、注意し理解させる、コーチに対しては私が責任を持って厳重に注意し、二度とこのような事の無いようにするという事でした。保護者の皆さんのコーチに対する温かい言葉、心づかいに対して私は感謝の気持ちで一杯になりました。

本人はこの件が大きくなってから本当に心から反省しています。スタッフ全員で強く強く注意し二度と間違いを犯さないように話をしました。これは私も他のスタッフ、保護者、子供達全員です。

段原クラブは今回間違いを犯しました。しかし全員で反省しこれを糧とし今後、今まで以上に良いチーム、良い選手になれるようにスタッフ、保護者、子供達全員で努力していきたいと思えます。

恥ずかしい事ですが、しっかりと反省し、より大きく強く、良いチームになるためにホームページに書くことにしました。

第64話/2013.09.04

時々、体と当たりそうな投球を避けないバッターがいます。そしてそれを時々アンパイアはデットボールにします。私は考えられません。

まず野球規則には、打者が打とうとしなかった打球に触れた場合、安全に1塁が与えられると書いています。ただし、バウンドしない打球がストライクゾーンで打者に触れたとき、打者が投球を避けないでこれに触れたときには除かれると書いてあります。

私が問題にしているのはこの避けないでの部分です。これは「よける」又は「さける」と読みます。避難の避という文字を使います。困難から「逃げる」、「はなれる」という意味です。全力でボールからのがれようとしなかった場合、1塁は与えないという意味です。

子供達はヒットを打つために練習をするべきです。指導者の皆さん避けるなという指導は間違っています。高校へ行って硬球が当たったら大怪我をする可能性があります。アンパイアの皆さんストライクゾーンもそうですが、野球規則通り判断するべきです。あくまでも全力で避けようとしなかった場合はボールにすべきだと思います。

バッターボックスの内側のラインぎりぎりに立ちインコースのボールを避けてデットボールをとり、投手にインコースのボールを投げにくくさせて真ん中から外よりに甘いボールを打つそんなチームがあります。規則通りに判定してもらえば、こんなチームもなくなり子供達の技術も伸びます。

高校野球でも故意にカット打法をファールを打つことはバントと同じ扱いにするという規則があるにも関わらず、準決勝まで見過ごされていました。そのチームは何年か前にも同じような選手がいたと記憶があります。規則を知っていてやらせたとしても、規則を知らなかったとしても指導者に問題があります。当然地方大会からやっていたでしょうから県高野連、アンパイアにも問題があります。広島県代表の投手の2段モーションも同じです。県予選OKで甲子園はダメ、同じ規則でやっていないのですか？

私が聞いた話では強いチームやベテラン監督にはアンパイアが遠慮、萎縮してしまっている事があるそうです。あってはならない事だと思います。いつも犠牲になるのは子供達です。まず誰のためにやっているのかを指導者もアンパイアも一番に頭に入れておけば良いことです。

スポーツは確かに相手をゴマがしたり、隙を突いたり、だますようなプレーもありますが、少年野球には必要ないと私は思っています。投手と打者の1対1の勝負が原点です。

私はこれからもそういう指導をしていきたいと思えます。

第63話/2013.08.26

24日(土)25日(日)瀬戸内大会参加のため福山に行きました。

残念ながら雨の為、土曜日の2試合は抽選になり日曜日はCクラスになりました。福山の連盟の好意で市立体育館で体を動かす事が出来ました。しっかり体を動かし汗をかけました。

本当にありがとうございました。

4時過ぎにホテルに入りましたが、私はとてもショックを受けました。なんと選手が誰ひとりとしてバットを持ってバスを降りませんでした。雨で試合は中止、体育館で動けたとはいえバットは

振っていません。次の日試合はあります。私には考えられません。勝てないし、上達しないのは当たり前です。毎日バットを振る事が習慣になっていないのです。

それとも旅行にでも来たつもりなののでしょうか？夢や目標は無いのですか？野球が人生の一番ではないのですか。本当に勝ちたい、上手くなりたい、甲子園に行きたい、プロ野球選手になりたいとは思わないのですか。その程度でなぜクラブチームに入ったのですか。なぜ段原クラブなのですか。夢や目標のない選手に興味ありません。

26日(月)スポ少大会の準決勝、決勝がありました。コーチが休みをとっていたので試合がなくても練習する予定でした。学校が始まる選手が何人かいて人数が心配でした。しかしなんと練習だったら学校に行くけど、試合なら出るらしく思ったよりたくさんの選手が来ました。それとも来ないと私に嫌われるとでも思ったのでしょうか？私が嫌いなのは練習なら学校に行きますけど、試合なら出ますという考え方です。学校行事で休むのは構いません。普段の練習態度、取り組む姿勢がしっかりしていればなんの問題もありません。自分の都合で良い所だけ欲しいという考え方が問題なのです。

勝つ事に飢えている選手、ギラギラした目で相手に向かっていく選手、とにかく野球が大好き1日中野球の事を考えている選手、負けることが大嫌いな選手と一緒に野球がしたいな！！

私より野球好きの6年生が入部してくれると良いな！！

第62話/2013.08.19

今週は投手について書きます。

私は野球の勝敗はほぼ100%投手の能力で決まると思っています。言い換えればチーム力とは投手力でもあると言えます。今年の高校野球広島県予選を見れば良くわかると思います。バッティングはいくら練習しても投手がキチッと投げれば打つ事は出来ません。バッターは投手の投げ損なったボールしか打てないのです。ですから投手は投げ損なわなければ点を取られないのです。では投げ損なうとはどういう事なのか、ストライクゾーンの真ん中に投げるもしくはストライクを投げようとしてボールゾーンに投げてしまう事です。投げ損なう確率が高い投手ほどダメな投手(勝てない)という事です。まずコントロールが一番大事と言う事になります。この場合のコントロールとはストライクゾーンに投げるのではなく、捕手の構えたミットに投げられるというレベルのコントロールです。ストライクを投げるのは投手として当たり前です。

ではミットに投げられなければどうするか？真ん中に投げて打たれないスピードを持つか、鋭い変化球を身に付けるかのどちらかが必要です。スピードが無い、ミットに投げるコントロールが無い、わかっているにもかかわらず中々打たれない変化球が無い、この場合はマウンドに上がらない事です。なぜか、必ず失点して負けるからです。ボールは遅くより速い方が良いに決まっています。そのためには基本的な身体能力を高めなければなりません。走るスピードを上げ、体全体の筋力を上げ、関節の可動範囲を広げる練習を続ければ必ずスピードは上がります。そしてコントロール、大事なのはフォームです。同じことを繰り返せば同じボールが投げられます。

そのためには下半身の強さが必要です。そして変化球、大事なのはストレートと同じように速く強く腕を振って投げる事です。タイミングをずらそうとして腕が振れなければバッターから空振りを取れません。

いろいろ書いてきましたが、マウンドに上がればひとりでチームを背負いひとりで相手バッターに向かっていける精神力が勝負です。ピンチになればなるほど最高のボールを投げ込める、気持

ちでバッターを攻められる投手、段原クラブにそんなマウンドでカッコよく堂々と立っている投手が現れる日が来ると良いと思います。

第61話/2013.08.12

今、高校野球甲子園大会真っ最中です。

私はバットを思いっきり振るチームが大好きです。浦和学院VS仙台育英はすごい試合でした。両チームとも高校生としては好投手ですが、それをものともせずフルスイング、素晴らしいバッティングを見せてくれました。まだ、瀬戸内高校は登場していませんが、中国地方の他の4県のチームは全て初戦敗退しました。それもほとんど点を取れずに負けてしまいました。私は常々言っている、現代野球に取り残されてしまっています。バッターのスイングが弱い、打球が遅い、当然遠くには飛ばない。トーナメントに勝つために投手を含めた守りの野球、バント、走塁、進塁打、少ない得点で競り勝つ確率は良いかもしれませんが、しかし楽しくない、そして本物のチームには勝てない。

最近プロ野球が初回から送りバントをします。これはファンに問題があります。あまりにも勝つ事を求めすぎています。そして球団も長期的にチームを作ろうとせず、すぐに監督を交代させます。どんどん野球が小さくなっています。プロ野球はプロ野球選手にしか出来ない技術、プレーを見せてお金を頂くところです。高校生でも出来るバントは最後の手段だと思います。

土曜日の新人戦2回戦で段原クラブはやっと1点差で勝ちました。内容は良くありませんでした。まだ、3年生が残っているうちの新人戦なのでミスは仕方ないと思っています。5点取った中で3点を犠牲フライで取りました。チームとして目指している野球、3塁ランナーを「打球を外野まで飛ばして帰す」ことが出来ました。スクイズやエンドランではなく、打って帰すことで選手の力になる。コーチからの進言で私はスクイズとエンドランをやめ攻撃のサインを無くしました。

指導者の皆さん、自分の采配で勝とうとし過ぎです。私は選手の力で勝たせてもらいます。1年生の時から目指して練習したことが試合に出て勝てると楽しいですよ。

中学生の正しい技術はシンプルに強く、速くだと思います。

第60話/2013.08.05

8月4日(日)日刊大会チェーンリーグが終わりました。

2チーム参加していたのでAチームは3年生、Bチームは2年生と分けました。チーム力はダウンしましたが、たくさんの選手が試合を経験出来たことは良かったと思います。特に3年生でレギュラーではなかった選手にとっては練習試合とは違った緊張感のある打席、守備、走塁は身になってくれたと思います。

今回はレギュラー論について書きます。私が決める基準は守備力です。守れる選手から使います。今年のレギュラーもその守備位置で一番守れる選手が一桁の背番号をつけています。なぜか？守備のミスはチームに迷惑を掛けるからです。そして失点するからです。野球というゲームは失点しなければ負けることはありません。守備に不安のある選手を先発で使う時には2打席目までに打ってくれなければ困ります。たぶん選手や保護者の中には、あの選手は打たなくても変えられないのに、あの選手は変えられるそれはなぜ？と思ったことがあると思います。

理由は簡単です。守備力に差があるからです。試合の最後まで出たければ守れるようになることです。そうでなければ圧倒的なバッティングで守備のマイナスをプラスに変えることです。

今の段原クラブの選手達は打たなければレギュラーになれないと考えている選手が多いように思います。そのためバッティングにばかり気持ちが向いています。たしかに打つ練習は守ることに比べ楽しみし苦しくありません。

段原クラブのチーム練習も打つ時間が圧倒的に長いです。でもその中でも考え方しだいで守備練習はいくらでも出来ます。いつも言いますが強制的にノックを捕らされてもダメなのです。あくまで自分から自分のために自分で考えて練習しなくては身につかないのです。バッティングは自分が満足するためですが、守備はチームが勝つために絶対に必要です。投手力を含めた守備力で勝つか負けるか決まります。チームとして勝利を味わいたければ、選手ひとりひとりがチームに役立つプレーとはどういうものなのか、何をしなければいけないのか、そしてそのためにどんな練習が必要なのか考えるべきです。そして取り組むべきです。チームとして勝ちたければです。

最後にひとつ、人数の関係で2人2年生を3年生のAチームに入れました。その内のひとりの母親が試合中に一番、大きな声で3年生を応援してくれていました。我が子はチームの都合で3年生の中に入れられ、ほぼ出場するチャンスがないのにです。チームで戦うというのはこういう事です。私はベンチでとても温かく思いました。

本当に感謝します。そして必ずうけたものはお返しします。ありがとうございました。

第59話/2013.07.29

高校野球広島代表は火曜日に決まります。

どちらが代表になっても好投手なので全国レベルのチームと対戦するのが楽しみです。しかし決勝再試合のコンディションが心配です。私は何年も高校野球を見に行きませんでした。理由は段原クラブOB全員を応援することが不可能だからです。よく中学のチームの選手や指導者が出身選手の応援をする姿を見ます。しかしそれはほとんど勝ち上がったチームです。準決勝や決勝だったりします。私には出来ません。応援に行くのなら出身選手全員の試合に行くべきです。1回戦で負けてもベンチに入っていないなくてもOBに変わりなく、その選手も3年間努力した事も事実です。勝ち上がったチームの選手だけが頑張ってきた訳でも、えらい訳でもありません。勝つことが全てではないのです。高校野球を3年間全うした選手達全員を評価するべきです。これからも私はたとえ甲子園に出場するOBが出て試合の応援に行くことはありません。もちろんテレビでは応援しますよ。

しかし、今年1試合、マツダスタジアムに行きました。広陵・瀬戸内戦です。なぜかというところまず出身OBが試合に出ていない、そして今年プロ野球のOBが学生野球を指導出来るようになる資格回復研修があるので、広島県の高校野球のトップレベルと言われているチームを見ておきたかったからです。私は途中から4イニング程度見ただけですが、瀬戸内高校の投手以外は少しがっかりしました。トップと言われているチームの選手が当たり前の事が出来なかったからです。

指導していないのか、していても選手が試合で出来ないのか、わかりませんが残念なプレーが多すぎます。私がいつもいっている技術は未熟で当たり前しかし頭のミスはダメです。

広陵の2番手投手は変わった回の送りバンドで3塁ベースカバーに走りませんでした。私はそれを見て当たり前の事が出来ない投手では接戦を勝つことは出来ないと思いました。次の回のバンド処理のミスは予想された事です。その後の1、2塁の場面でも次の1点は勝負が決まってしまう1

点なのに左バッターに引っ張られました。その時のライトの守備位置もありえません。ヒットで2塁ランナーを絶対帰してはいけない場面です。キャッチャーからもベンチからも外野を前に出す指示はありませんでした。ありえない事です。とどめを刺されました。

瀬戸内高校も1、2塁からのライト前ヒットで広陵のライトは間に合わないホームに送球しているのに後ろのランナーが次の塁に進んでいないなどミスがありました。もっと楽に勝てた試合です。

結局、投手力の良いチームが勝つようです。広島はもっと野手のスイングの力強さをつけるべきです。この部分が一番全国レベルと差があるように思います。

3年間しっかり下半身を使ってバットを振り続ければ、横浜高校のように全国レベルの好投手をホームラン2本で攻略するような試合が出来ます。好投手の攻略はすぐに、右打ちだ、足だ、バンドだなんていいますが1番は1本で1点とるホームランです。花巻東の大谷投手もそれで夏負けしました。

広島県にもそんなチーム出て来ないかな。

第58話/2013.07.22

私は中学1年生の秋、左手を骨折しました。

野球部の練習をしばらく休んだのをきっかけに、心が野球から離れ、親のお金に手をつけるようになり、どんどん人生を転げ落ちていってしまいました。悪い事はバレます。父親の知る所となり、私の人生で一番殴られた夜がやってきました。今でもはっきりと覚えています。父の手が痛くなったからかギターで叩かれたギターは砕けました。次にバットを取ろうとした時、母が全力で止めてくれました。私は殺されるかもと心の底から震えました。そして二度と同じ過ちを繰り返してはならないと誓いました。

その夜から学生服を着せされ家を追い出され、家の店に勤めていた女性のアパートに2泊しました。殴られ過ぎて顔が腫れていたので学校も2日間休みました。その後、父にもう一度土下座をして謝り、家に戻る事を許されました。しかし野球部に戻る勇氣はありませんでした。同級生からは辞めて欲しいと言われたし、まして先輩の前に出ていくのはもっと厳しいものがあります。そんな時、野球部の先生が我が家にやってきました。私は怒られると思いました。先生は「野球部に鈴木が必要だ。戻ってこい。つらいけど1ヶ月頑張れば何もなかったようになるから」と言って下さいました。泣きました。

私はその後、甲子園に出れたり、プロ野球選手になれました。本当に父と先生のおかげだと思っています。あの日、殺されるかと思うぐらい本気で殴ってくれた人が私の父親で本当に良かったと心から思っています。その日から高校の入寮までランニングと素振りには1日も欠かしませんでした。間違った時、本気で怒ってくれる人は恩人です。感謝。

第57話/2013.07.16

硬式でも軟式でも中学生がクラブチームで野球をすればメリットとデメリットがあります。

メリットは練習の量と内容が濃く、高いレベルの技術指導が受けられます。1年の時から球拾いやランニングだけでなく、しっかり練習でき1年生同士の試合も出来ます。大会の数が多いため年間の試合数が多く色々な地域のチームとの対戦することが出来るし、レベルの高い選手をみること

が出来るなど選手として技術を高めるためには圧倒的にクラブチームに分があります。

しかし会費、遠征費などお金が掛かります。グラウンド作り、審判、大会運営など保護者の協力が必要です。学校行事、テスト週間などに関係なく試合、練習があるなどデメリットもあります。

両方をしっかり理解し受け入れてクラブチームに入部したはずですが、自分に都合の良い所だけを利用するのは間違っています。

なぜかと言うと野球はチームスポーツだからです。個人の都合を優先するのはおかしいと思います。野球のクラブチームに入部したのならチームを最優先に考えるべきです。部員がみんな個人の都合で行動してしまえばチームは成り立ちません。練習は個人の技術を伸ばすためにありますが、練習を休む選手に試合のチャンスがある訳がありません。

3年生にとって集大成の7月～9月です。チーム全員（選手、保護者、指導者）の気持ちをひとつにして、3年生に少しでも良い試合をして卒団してもらいたい。残り少なくなった試合に1打席でも、1イニングでも多く出てもらいたいと全力をつくす時だと思っています。

メリットがあればデメリットもあります。良い所だけ欲しいは通りません。私は両方しっかり受け止めてチームのために全力を尽くしてくれる親子と一緒に野球がしたいです。

そしてチームの誰が試合に出ていようと、どんな試合展開だろうと最後までチームのためにチーム全員が必死に走る、投げる、打つ、捕る、応援する、勝っても負けても心地良い試合がしたいです。

第56話/2013.07.08

今週は大人の都合について書いてみようと思います。

私は小学生のソフトボールから今年で子供の指導をさせてもらって25年になります。その間いろいろ連盟、団体、組織の大人達を見てきました。昨年書いたマツダスタジアムの大人達、軟連の大人達、子供達の都合より、大人の都合を優先します。

今回は、試合が雨などで中止になった時の抽選について私の考えを書きます。

まず、大会をするのなら予備日を最低1日は用意するべきです。単独のチームでやる招待試合は別です。特に勝ったチームに次のステージがある大会は絶対です。試合をせず抽選で勝ったチームが上の大会に上がるのはありえない事だと私は思います。予備日がない場合は、当事者チーム同士でグラウンドを確保して代表を決めれば良いと思います。それでもなんともならない場合に限り、両チーム同意のもと抽選するべきです。

なぜかと言うと、子供達には中学3年生という1年は1回しかないからです。その年のどの大会も一生に一度なのです。それが、くじ引き！！私には考えられません。

大人達には何年も何度も毎年同じ大会があり、それほど重要だと思っていないように見えます。子供達に関わっている大人達はもっと子供達の1試合を大切に思って下さい。来年は無いのです。試合をしないで抽選をするのはやめて下さい。

子供達は大人を信じて練習をしているのだからお願いします。

第55話/2013.07.01

6月29日（土）福山80ホークス、JKBクラブと練習試合をしました。

急に決まった試合でしたが私にはどうしても福山に行きたい理由がありました。今年の段原クラブはピッチャーが思うように成長していません。特に6月に入ってから計算できるピッチャーは故障者も出たりしていない状況になっていました。私にとって初めての経験で色々な練習方法を試してみましたが良くなる兆しがありません。

そこでプロ野球時代の先輩である山内和宏さんに助けを求める事にしました。私もピッチャーの経験がありますし、今まで色々なプロ野球OBの方々の理論、指導方法も勉強してピッチャーの指導にもある程度、自信を持っていました。でも本物は違いました。まず、指導している姿や足を上げて立つ姿勢がカッコいい、一流選手ならではの姿です。2、3年生のピッチャーにとってこれからの野球人生においてとても大きな1日になったはずです。

私にとっても反省と勉強をさせて頂いた良い日になりました。つくづく自分がまだまだ指導者として力不足であり、野球というスポーツの難かしさや奥の深さを常に子供達だけでなく、自分がまず勉強し続けなくてはいけない事を痛感しました。指導者との出会いで今まで以上に成長出来る可能性のある子供達がたくさんいるはずです。段原クラブで本当に良かったと思ってもらえるように自分の引き出しを増やし、いろいろなタイプの選手に対応出来る指導者になりたいと思います。

1時間以上8人ものピッチャーを指導して頂き、本当にありがとうございました。チーム関係なく心を込めて指導して頂いている姿に本物の野球人を感じました。自分のチームの選手だけでなく、みんなが野球大好きになってくれる事を望んでいるのが野球人です。

私もその一人です。本当に心から感謝です。

第54話/2013.06.24

私は段原クラブの監督の他に、広島フルスイング塾というバッティング教室を主宰しています。

協栄電気工業株式会社様をはじめたくさんの方々の協力と銀行からの融資で倉庫を借り、土を入れネットを張り、照明を付け防音の壁を取り付け、マシンとボールを用意しました。会員の方々の会費で運営しています。段原クラブとはまったく関係ありません。ただ段原クラブの選手が多く会員になっているので、お返しの気持ちで雨の日や数多くバッティング練習したい時など貸しています。あくまでも会員の方々の会費のおかげで段原クラブが使う事が出来ている事をお忘れなく。

チームの方はバッティング練習で工夫したり課題を持って練習し、試合で状況を考えている選手達は内容のある打球が打てるようになってきました。相変わらず頭を使わず自己満足のためだけにバットを振っている選手はチームの役に立つバッティングが出来ません。どんなに素晴らしい身体能力も脳が正しい指令を出さなければ、良い結果は出せません。確率は上がりません。

「予測と準備」野球はボールが動いてない時間の長いスポーツです。その時間でどれだけ予測し、頭の準備が出来るか、これが大事です。打ったと当たった、捕ったと入ったは違うのです。

2年生の方が内容のある野球をしている選手が多くいます。3年生の皆さん、本能だけで野球をやっても時間をかけたほどの結果は得られませんよ。もっと考えましょう、工夫しましょう、悩みましょう、そしてわからない事は聞きにすればいい。何度も何度も言っています。

野球は足と頭でやる先進国のスポーツです。

第53話/2013.06.07

このコーナーも1年になりました。たくさんぼやいてきました。これからは出来だけ楽しい話を書けたら良いと思います。

土曜日の1年生のリーグ戦は雨で中止になり残念でした。小さい1年生が必死に食らいついていく姿を見てみたかったです。次が楽しみです。

日曜日は日刊大会、3年生がAチーム2年生がBチームで2チーム参加させてもらいました。両チームとも久しぶりに打つべき選手が打ち圧勝、失礼かもしれませんが、相手投手の力からしてこの程度は当然です。これくらいの力は段原クラブの選手は持っています。前から言っていますが、練習での力は先輩達と同等です。それが試合で出せないだけです。練習で身に付けた技術を頭と集中力と精神力で試合の結果に結びつける。それが野球です。

今年の選手は頭と心が力不足です。練習内容を変え基本に戻りつまらない練習を全力でこなす。少しずつ、投手も、守備も打撃も変わってきたように思います。ただ、はっきり言って明らかに力の無い投手から点を取っただけです。走塁ミス、バントミス、捕手の送球、配球ミスの長打、2年生の守備のミス、まだまだ当たり前のプレーを当たり前に出来ていません。

段原クラブがやろうとしている野球とは、技術のミスは仕方ないが、頭のミスはしない、ストレートに負けないスイング、自分達で考える野球、もっともっと自分に厳しく上を目指して欲しいと思います。私はあきらめません。これからもグズグズ言い続けます。段原クラブは最後の試合が一番強い、指導者はみんなそう思っています。

2年生も3年生も保護者の皆さんがよく声を出して応援していただきました。チームがひとつになった時も学年が違っても同じようにチームが勝つために応援してもらえるとありがたいです。

学年関係なくチームはひとつ、段原クラブはひとつです。

第52話/2013.06.10

自分の体の衰えは感じていました。

しかし、チームで一番足の遅く選手より私の足が動かなくなっていたとは、ショックです。練習を見ていると本当に遅くて全力で走っているように見えないといつも思っていました。まさか自分があれより遅いとは信じられない、拳句の果て肉離れとは情けない。

今月で54歳、若いつもりでいたのは気持ちだけで体は、特に足は確実に年相応に衰えていました。選手達に厳しくしているのに自分には甘い、今取り組んでいる減量と並行して下半身のトレーニングも少しずつやらなければいけない。子供達に見本のプレーを見せられるようにしたいと思います。まず、肉離れを治さなければ・・・。

先週は守備の基本をもう一度やり直しました。今週の土曜日には1年生のリーグ戦、日曜日は日刊大会、2、3年生2チーム出場出来るので、特に1、2年生は自分達の今の実力を測る事が出来、これからの課題が見つかるはずである。今持っている力を全て思い切って出して欲しい。そしてこれから何をしなければならぬのか？高校で野球を続けていくために今、何を身に付けなければならぬか早く理解して、努力を続けて欲しいと思います。

上達するためには、まずは沢山食べる、良く寝る、課題・目的をもってトレーニング、練習、試合をします。3年生あきらめるな！1、2年生大きな夢を持って、そしてやるしかない。

第51話/2013.06.03

今、段原クラブは段原スポーツ少年団として活動を開始してから18年最も勝てないチームになっています。子供の指導を始めて25年こんなに勝てないのは初めてです。指導者になってからずっとチームがある程度強かったので、私は自分の指導に自信を持っていました。技術の講習会に参加したり、プロ野球のOBの方々から教えて頂いたり、進歩している理論も勉強し、正しい指導をしているつもりでした。結果が出ないのは子供達の練習不足及び能力の無さだと思っていました。

はっきり言って、私が教えて上達しなければ野球に向いてないのだとぐらいに感じていました。今年のチームもこの春にはある程度の自信を持っていました。それが、まったく勝てない。なぜなのか？私の思い上がり、勘違いが原因です。日曜日の夜、月曜日の仕事中でもずっと考えました。私のまちがいが練習の甘さにつながっています。基本をおろそかにした練習、厳しさのない練習、これが確実に試合の中で当たり前の事が出来ないミスとして出ています。

良く考えてみると去年から守備のミスが増えています。正しいキャッチボールから始まる基本、私の思い上がりがそれを疎かにしてしまったのだと思います。子供達も打つ事だけに興味を持ち、打てさえすれば試合に出られるという思いになり、守備の重要性を忘れていました。そして試合ではヒットの倍の点を取られ、当然負けるこの繰り返しです。守備のミスはチームの足を引っ張ります。全て私の責任です。初心に帰り段原クラブを作り9人で始めた頃、手取り足取り一生懸命に汗をかいて子供達と基本練習を繰り返していた頃を思い出し、謙虚にやり直したいと思います。本当にチームは監督の器以上になりません。3年生には本当に申し訳なく思います。最後まであきらめずチームを作り直したいと思います。

これから面白くない練習が多くなると思います。今までより厳しくなると思います。最後にはみんなの良いチームになりましょう。

あきらめない。

第50話/2013.05.27

私は段原クラブを発足させ監督になってから今日までずっと3年生の控えの選手に気がつかってきました。試合の中で出来るだけたくさんの選手を出したいと思ってきたし、練習の内容、数に差をつけないようにしてきました。野球というスポーツはレギュラーは9人です。部員がそれ以上いれば、控えになる選手が出ます。1年生の時に10人以上入部すれば、3年になった時必ず誰かが控えになるのは最初からわかっている事です。私は背番号の1～9は実力以外で付けるのは間違っていると思っています。11以降はいろいろな思いや条件、理由で必ずしも野球の実力だけで決めなくてもいいと思います。そしてそうしてきました。選手や保護者にも伝えてあります。背番号を決め時には私だけでなくコーチの意見も聞き、練習、試合を一番長く見ている人間が話あって決めています。

他のチームの事はわかりませんが、試合を見ている限り、段原クラブが一番多く控えの選手を使っていると思います。そのような点から控えの選手、保護者から「気を使ってもらってありがたい」、「実力が無いのに試合に出場するチャンスがもらえて嬉しい」と思ってもらっていると思っていました。しかし大きな間違いだったようです。どうも今年の3年生の保護者は自分の子供の実力を客観的に判断出来ないようで、控えになっている事に不満をもっているらしい。特に2年生がレギュラーをとっている事を良く思っていないそうである。なぜ？わからない、スポーツは実力の世界です。学年に何の意味があるのですか？私は入部の時、段原クラブには年功序列はありません。レギ

ユラーは実力のある者がとりますとはっきり伝えました。わかって入部したはずで。

はっきり言います。昨秋の新チーム結成以後の打撃成績1～4位は全て2年生です。今、3年生で控えの背番号を付けている選手は全て10位以下です。練習試合の1試合目と2試合目では投手の実力がちかうのにです。当然、野球は打つだけではありません。守備、走塁、全ての能力を考えて背番号を決めています。1試合だけを切り取れば1番力のある選手がミスしたり、打てなかったりする事があります。野球はそういうスポーツです。しかし1年をトータルすると必ず力のある者が数字を残します。番付通りなのです。保護者は自分の子供は頑張っていると思っています。しかし他の選手がどれほど練習時間以外で努力しているか見たことがありますか？知っていますか？頑張っている、努力している当たり前です。それはスタートラインに立っただけです。やらない選手がおかしいだけです。みんなやっています。レギュラーの選手ほど練習は数多くやっています。子供達は、自分の実力をわかっています。チーム内の立場、位置を理解し少しでも上に上がろうと努力しています。3年生だから何ですか？そんなものに何の意味も価値もありません。勝負の世界で価値があるのは力です。それだけです。

ただ私は段原クラブを選んでもらい3年間頑張ってきた選手は好きです。なんとか勝って、喜んで欲しい、そして少しでも多くの選手をグラウンドに立たせたいといつも思っています。しかし勝負の世界なのです。力があるのに2年生という理由だけで出られない選手の気持ちはどうですか？力がないのに3年生という理由だけで試合に出て、その選手のミスで負けたらどうしますか。その選手の気持ちはどうですか？

良く考えて下さい。チームスポーツをやる限り必ずレギュラーと控えは存在します。みんなでお手をつないで仲良く頑張ろうなどというチームは勝負の世界に入ってくるべきではないと思います。ポジションは奪うものです。これが段原クラブの考え方です。納得出来なければ他のチームでやれば良いと思います。

私が目指している良いチームにはほど遠くなっています。残念です。

第49話/2013.05.20

段原クラブ非常事態宣言です。

今年新入部員が11名だった時、少し不安に思っていました。冬を越して春になり、練習試合が始まり公式戦へと移ってきました。例年より練習量は多いのに結果につながらない。

今まで以上にやっているのになぜ？いろいろな原因をずっと考えていました。私の中で結論がやっと出ました。バッテリーの力不足です。やっぱり野球は投手力そして捕手力。過去の段原クラブのどの年より、投手はコントロールがありません。そして捕手も投手に対して愛情、気づかい、相手打者の観察力、記憶力、リーダーシップそしてスローイング全て足りません。

結局野球はバッテリーの力がチーム力なのです。どんなに守備練習してもヒットは捕れないのです。四死球は防げません。先に点を取られるので打者は常にプレッシャーがかかっています。それも1イニングに2点以上取られるので1点づつでは足りません。今年の投手は、まずストライクゾーンに投げる事で精一杯、意識してボールを投げる余裕はありません。ファールを打たせてカウントをとる事も出来ません。追い込んでボール球を特に変化球を低く投げられませんか。ピンチの場面でボールから入る気持ちの余裕がありません。投手はコントロールと精神力！！つくづく痛感しています。今までの練習がバッテリーに甘かったと反省です。今までは選手に任せてきた事もこれからはベンチから指示しなければいけないと思います。私の持論に反しますが、今のままでは、他の

選手に迷惑がかかるので、配球も任すわけにはいきません。本当に残念ですが、同じ失敗を繰り返すバッテリーでは仕方ありません。守備位置もベンチからいちいち指示が必要です。

野球というスポーツは打つだけではありません。ヒットを打つしか興味の無い選手の集団では、チームが勝つ事はありません。守備、走塁、戦略、状況判断、配球、守備位置の変更、野球で勝つためにしなければいけない沢山の事を考えられる選手になって欲しいと思います。

それが野球です。そして段原クラブの先輩達がずっとやってきた事です。

第48話/2013.05.13

12日(日)福山の鞆の浦でプロ野球OBクラブによる全国こどもの日野球教室がありました。

350人程の小学生を相手に約4時間とても疲れしました。段原クラブの1年生10人も特別に参加させていただきました。プロ野球のOBの方々から指導していただき何かひとつでも、プラスになってくれれば良いと思います。同じ事を言われてもいつもと違う人から言われると新鮮で頭に入りやすいので意味があったと思います。毎回小学生を見て思う事ですが、はっきり言って何も教えてもらっていません。キャッチャーは正しいキャッチボールが出来ない、当然セカンドベースに良いボールが投げられる訳がない、ワンバンドは全く止められない。これは止める練習すらしていないと思われる。サインの出し方も、もちろん構えも出来ないのでピッチャーのボールは構えた所には来ない。

野球の形が出来ていないと思います。正しいキャッチボールを指導しないとケガをします。守備位置がないので上にいってレギュラーになれません。

捕る事より、打つ事より1番大事な事は投げる事、大切なのはフォームです。正しい投げ方をすれば正しいボールが行きます。フォーム、形が大事です。捕る事、打つ事は形も大事ですがそれだけでは結果は出ません。タイミング、捕る位置、打つ位置が大事になってきます。フォームが悪くてもタイミングがあえば打ったり捕られたりします。投げる事は間違ったフォームでは正しいボールは投げられません。

小学生の皆さん、正しいスローイング、自分を守るために1日も早く身に付けましょう。正しい投げ方を身に付ける練習方法がわかっている指導者に会える事を祈ります。

バッティングはいつものようにゴロを打てと指導されているかわいそうな子供達ばかりでした。強く下半身を使ってバットを振り遠くへ飛ばす、子供達の可能性を消さない指導、勝つためのテクニックはプロ野球選手になってから覚えれば良いのです。

強く速く基本の力を付けましょう。

第47話/2013.05.07

3年続いていた県大会出場がなくなりました。

1-2での負け点数を見ると惜敗のように思いますが内容は完敗です。今年に入りバッティング練習ばかりに時間を使い、今までのどのチームより数多くバットを振ってきました。そして練習ではすばらしい打球を打てる力をつけました。しかし試合では出す事が出来ませんでした。今年に入りずっと同じ失敗の繰り返しです。2日間、私は原因を考えました。結局は判りません。他チームの試合を2試合見ました。10-9と4-2、負けたチームも中心バッターは打っていました。そして

後半反撃し意地を見せていました。段原クラブでは6, 7回ランナーを出すことも出来ず、まして7回は3, 4, 5番打者があつという間にあっさり打ち取られてゲームセット。私の思っていた中心選手は中心選手ではありませんでした。指導者として正しく選手の力を判断出来ていませんでした。完全に監督に力不足です。練習でのパフォーマンスにだまされ本当の技術、精神力を見ることが出来ず間違った背番号、ポジション、打順、選手起用になっていたのだと思います。

もう一度、原点に戻ってチーム内の競争の中で試合で力を出す事の出来る選手は誰なのか、本当にチームのためにプレー出来る選手は誰なのか、しっかり見きわめられるように私自身が努力する必要があります。対戦相手が決まってから2週間、左投手対策の為にたくさん投げてくれた東、橋本に感謝します。結果が出せず申し訳ありませんでした。そしてありがとうございました。

たくさんのOB関係者の方々にも応援頂きました。ありがとうございました。同じ失敗を繰り返さないために指導者としてしっかり反省し、練習方法、選手起用を工夫し勉強しなおしたいと思います。

本当に申し訳ありませんでした。

第46話/2013.05.01

先日ある中学校の野球部の選手がフルスイング塾に体験にやってきました。

段原クラブのどの選手より良い体格をしています、まったく打てません。話を聞いてみると野球部では全て反対方向(右打者はライト、左打者はレフト)に打たなければならない、それだけでなくフライはヒットでもダメなのだそうである。意味がわからない。わざとアウトになる練習をしているという事である。右打者の右打ちプロ野球選手でもとても難しい技術です。井端、内川、宮本一流選手の技術です。それを中学生に要求するとは、ましてゴロ、点が入るわけがありません。

指導者の皆さん、いいかげんゴロを打つ指導は止めませんか？なぜヒットを打つ練習、少しでも遠くに飛ばすための練習をしないのですか？相手がミスをして点が入ったり、勝ったりして楽しいですか？選手のためになるのですか？外野に打球を飛ばせない選手に次のステージがありますか？なぜ選手の可能性を伸ばそうとしないのですか？バントやエンドランも同じです。サインを出した瞬間、その選手はホームランを打つ可能性を奪われます。確かに試合の後半、点差がなければアリだとは思いますが。相手がミスしなければ勝てない野球では、選手に力は付きません。

まず個人の能力を伸ばしてあげるべきです。試合に勝つためのテクニックよりシンプルな力、速いボールを投げる、強く速くバットを振る、これがその先の野球人生では生きてきます。

正しい基本と強い力と速いスピード、これを子供達に伝えるべきです。レギュラーだろうと控えの選手だろうと同じです。みんなに可能性があります。

選手全員責任を持って同じように時間をかけて指導するべきです。出来なければ指導をやめるべきだと思います。勝てた方が指導者の鼻は高くなります。気持ち良いのはわかります。でも、もっともっと選手達にとって必要な事があります。

指導者の皆さん、まず選手達のために考えましょう。

第45話/2013.04.22

タバコを止めて体重が増えてきました。

先週の合宿では1日グラウンドに立っているだけで下半身が疲れてしまいました。体重を落としグラウンドでもっと動けるようにするため自転車を注文しました。午前中の仕事の行き帰り20km程度自転車で走ってみようと思っています。ユニフォーム姿のカッコ悪い監督では、チームも強そうに見えません。目標10kg減です。

段原クラブのTシャツが出来ました。その年の選手達に意識してほしい事を背中にプリントしています。今年は『チーム一丸、俺達是可以』です。今年のチームは練習をよくします。選手達は良い子達です。新チームになり半年、確実に力をつけています。課題はその実力を試合で出す事が出来るかという事です。自分達の練習と力を信じて思い切ってプレーして欲しいと思い、この言葉にしました。

他のチームとはちがい保護者のTシャツは自由に色が選べます。私はみんなが同じというのが嫌いです。野球というスポーツも各自の個性が集まり強くなると思っていますし、チーム内の選手同士がライバル心をむき出しにして競争し、個々の力を伸ばし、それが試合でひとつになり相手チームと戦う、そんなチームが良いチームだと思っています。

子供達のTシャツは紺色で揃えています。理由は、半袖のアンダーシャツの代わりになるからです。保護者の負担を少しでも減らせればと思っています。

それぞれまったく違う個性が一丸となりひとつの目標に向かって進んでいけたら良い思い出が出来ると今年は期待しています。

第44話/2013.04.15

13日(土)14日(日)2日間、今年の11月に引き続き生名島で合宿をしました。

晴天に恵まれて予定通りの練習が出来とても満足しています。いつものようにほとんどバッティングに時間を使いました。11月の合宿の時にはとてもグラウンドが広く感じたバッティングでしたが、今回は全員の飛距離が出るようになり広く感じませんでした。半年間、バットを強く振る事をずっとやってきた練習が打球の強さに少しずつ出てきたように思いました。これが試合に出てくれれば良いのですが期待しています。

2日目の午後は紅白戦をして合宿を締めくくったのですが、控えの選手がバッティングで何人も結果を出してくれました。レギュラーがのんびり出来ない状況になってきました。チーム内の競争が個人のレベルアップの為に一番必要です。とても良いチーム環境になってきました。ポジションは与えられるものではなく奪い取るものです。段原クラブは全員同じ量の練習をし全員にチャンスを与えます。ぜひ掴んで下さい。

2日間の合宿で準備、バッティング練習の球拾い、グラウンド整備、片付け、夜食など保護者の方々にはお手伝いいただきありがとうございました。特にお父さん達は体中が筋肉痛になっている事と思います。選手達も手伝う事が出来なかった保護者の方々も感謝の心を表してほしいと思います。選手と指導者だけでは出来ない良い練習が出来ました。

本当にありがとうございました。

第43話/2013.04.08

4月になりました。新入部員の体験も落ち着き今年は11名の子供達を迎えることになりました。

人数が少ない方がしっかり練習出来るし、試合に出るチャンスがたくさんあるので、選手にとって好ましい事だと思います。

今年もたくさん体験に来て頂きました。入部してくれた選手は11名、段原クラブを選んでくれた事に責任を持ち全ての技術を3年間で伝えます。野球の難しさ、奥深さ、そして楽しさ必ず野球大好きになります。縁がなく他のチームで野球をする事になった子供達も是非、3年後野球大好き少年になり高校でも野球を続けていく事を望みます。

段原クラブの11人は絶対に君達には負けませんよ。なぜかと言うと段原クラブで野球をするからです。たぶん他チームの1年生と試合をしたら今はどこにも勝てないと思います。これは毎年の事です。しかし、2年間でどこのチームと試合をしてもや勝負出るチーム・選手になります。今年の1年生もそうなります。ただ、彼らが今までの段原クラブの選手のように努力することが絶対条件です。新1年生のみんな、せっかくの出会いです。大事にしましょう。私達スタッフ・チームは君達のために全力を尽くします。卒業まで信じて努力し続けて下さい。

そして長く野球を続けていく選手になって下さい。全国大会も甲子園もどうでもいいです。目指すはプロ野球選手、夢は大きく段原クラブは大きな夢を持った子供達が全力で楽しく野球をするチームです。

第42話/2013.04.01

中学生が野球をする事が出来る場所は学校の野球部、硬式及び軟式のクラブチームと3つあります。段原クラブは軟式のクラブチームです。財団法人軟式野球連盟に加盟しています。いくつかの中学校の子供達が集まっているので学校行事と試合、練習が重なる事があります。どちらに出るかは各家庭に任せています。部員数には余裕があるので休む選手がいても試合に参加出来ないという事はありません。私はその時にグラウンドに出て来た選手で全力を尽くせば良いと思っています。しかしながら過去に試合の当日、学校行事を理由に休んだ選手はいません。当然だと思います。

なぜなら、学校は休んでも誰にも迷惑を掛けません。本人だけの問題です。試合を休めばチーム、チームメイト、チーム関係者たくさんの人に迷惑を掛けます。

野球はチームスポーツです。野球をさせている保護者もチームの中で人として成長していく事を望んでいるはずで、個人の都合よりチームを優先させるべきです。なのになぜ、他のチームでは学校行事を優先させる家庭があるのでしょうか。最初に書いたように、学校に野球部があります。なぜ、クラブチームを選んだのでしょうか。どちらにもメリットとデメリットがあります。良い所だけを利用するのはチームやチームメイトに失礼です。

チームは選手はもちろん指導者、保護者が思いをひとつにして同じ方向に向かって行かなければ良くなりません。まして勝つ事は出来ないと思っています。新2、3年生は良い方向に向かっていきつつあります。新1年生の選手、保護者の皆さんも段原クラブの考え方を理解してもらって、高い目標に向かって努力しつづけて下さい。自分の意思で段原クラブを選んだのですから、そしてせっかく良い選択をしたのですから。最後までひとりも欠ける事なく、良い選手、良いチームになる事を楽しみにしています。

それにしても中学校もチームやチームメイトのために学校行事を休むのですから、心よく頑張ってきて欲しいです。教育ってそういう事だと思います。

第41話/2013.03.25

24日(日)から試合が始まり、いよいよシーズンイン

昨秋から取り組んできたバットを強く振る、これは中心の2人を除いて出来た。特に1年生の3人は気持ちでも負ける事なく力を出していたと思う。何度も言っているが野球はメンタルスポーツです。いくら練習が出来ていても、その力を試合で出すためには頭と心が必要です。

段原クラブで中心を打つという事は、力があるという事です。その力を私が認めているという事です。もったいない、本当にもったいないと思います。

試合になれば自信とプライド、そして頭の準備です。打席に入れば「いつでもおいで」です。チャンスは相手のピンチこんな楽な事はありません。

自信がなければ、倒れるまで練習するしかありません。そしてプライドがなければ段原クラブのユニフォームを脱ぐ事です。力があるから重要なポジションを任せています。もっともっと苦しんで、大きくなって欲しいと思っています。

1年生の成長は早いですよ！負けるな2年生(新3年生)

第40話/2013.03.18

プロ野球はオープン戦とWBCも終わり、公式戦まであと少しです。段原クラブも練習試合は17日(日)で終わり、理事長杯、リーグ戦、全軟予選と本番が始まります。

毎年5月までに試合が出来るようにしたいと思い練習や練習試合で選手を試したり厳しくしたり、誉めたり、怒ったり、色々な場面を経験させて、技術的にも精神的にも強くしていきます。

昨年秋から見ると1、2年生全員、力をつけてきました。練習ではスピード、パワー、テクニクどれをとっても充分勝負出来ないレベルに来ていると思います。1年生は試合でも持っている力がある程度出す事が出来る子供達になりました。残念なのは2年生です。前にも書きましたが、せっかく練習で身に付けた技術を試合で出せません。

私がベンチにいると本当にダメです。弱い……。理由は色々あると思います。先日ベンチ入り20名を子供達に一人一人書いてもらいました。1年生は学年関係なく実力を見て書いてきました。2年生は一桁のレギュラー番号ほとんど2年生を書いていました。こういう所です。甘い考え方、私は常々「1～9番は学年関係なく力のある者が付ける」と子供達に言っています。ポジションは競争に勝ってつかむものです。

2年生は12名、1年生は18名最初から競争という意識に差があるように思います。3年生になれば背番号をもらえる、試合に出られる、そんな保障はどこにもありません。チーム内の競争に勝った者だけが相手チームと戦う資格を得るのです。仲良しお坊ちゃんチームでは戦えません。

段原クラブのユニフォームを着てベンチに入り、試合に出るからには責任とプライドを背負って下さい。特に一桁の番号を付ける選手はより重くなります。覚悟がなければ付けられない事です。私も責任とプライドを持って30番を付けています。

力は付いています。負ける気はありません。

後はあなた達の心ひとつです。

第39話/2013.03.11

昨日、3年生の卒業試合とお別れ会がありました。

高校入試も終わり久しぶりに野球の試合を楽しめたと思います。段原クラブで指導している内容は、高校野球でなにひとつ困る事はないので自信を持って堂々と進んでほしいと思います。

今の気持ちを大切に！！いい顔してました。

今野球はWBCです。超一流の選手達がなかなか力を発揮出来ず苦しんでいました。特に今回は2回連続優勝しているし、メジャーリーガーが出ない為より大きなプレッシャーを感じているはずです。そして野球の恐ろしさ、トーナメントの一発勝負では、力のあるチームが必ず勝つとは限らないところです。投手の出来で勝敗は変わります。台湾に苦しみながら勝った事により、やっと自分達の力を出せるようになりました。私がいつも子供達に言っている「野球はメンタルスポーツ(頭でやる)である」まさにその通りになりました。プレッシャーに勝つ、そして自分の持っている技術を試合で100%出す、そのためには何が必要なのか、私が今ずっと考えている事です。苦しい練習だったり、試合に勝つ事だったり、1本のヒットだったり自信を持てるきっかけは選手それぞれだと思います。前にも書きましたが、今年のチームはよく練習します。そして確実に力をつけています。でもそれが試合に中々出ません。よくよく考えたところ、プレッシャーの最大の原因は私ではないか、私がベンチにいる事が選手のプレッシャーになっているのでは、打たなければ代えられる、ミスをしたら怒られる、今年の選手はおとなしい良い子達、私が同じ空間にいないければ力を出せるのではないか、今そのように考えている。

チームのために、選手のために私に出来る事「押しでもだめなら引いてみな」結果が出なければ何か変えなければいけない、私がいつも選手に言っている事です。

自分自身も変えてみようと思っている。

第38話/2013.03.04

3月2日(土)、3日(日)山口ミラクルズクラブの大会に行きました。

廿日市シニアクラブの大会とも重なっていたので3日(日)はAチームに選ばれなかった1年生13名で参加しました。試合になるのか心配していましたが、全員が集中し2試合勝ちました。私は勝つ事にこだわった試合をあまりしませんが、この日は全員にチームが勝つためにプレーをするように指示をしました。1年生だから負けても当たり前だとか、勝てなくてもしょうがないとか、やる前からあきらめたような野球ではなく、がむしゃらに食らいつく野球を求めました。そして選手達は集中し力を出しました。全員を誉めてあげたいと思います。

1試合目に対戦した地元の中学校の野球部との試合の後、多分その学校の関係者と思われるお年寄りが、段原クラブの保護者に対して私の指導、言動が間違いであり、教育委員会へ連絡した方が良いでしょう指摘があったらしいです。

その点について私の考えを書きます。先に書いたように、この日の試合の目的は力不足の1年生が気持ちを一つにして勝つために全員が全力で取り組む事でした。私が試合中に厳しく指導して選手は、自分のヒットが欲しいためだけにプレーをしました。当然それが間違っている事を話し交代さえしました。言葉も厳しくしました。なぜなのか、まず野球がチームスポーツだという事を伝える必要があります。次に選手の保護者もいたので状況がわかってもらえます。そして選手達は野球が上達したいから段原クラブに入部しました。

私は監督として正しい野球の技術と考え方を伝える責任があります。その為に必要な事であり、

当然の事です。そして厳しく指導した選手は次にすぐチャンスを与えます。2試合目は先発メンバーとして使いました。これが私の指導の考え方です。

前にも書いたことがあります。技術のミスは構いません。選手達は未熟なのですから。しかし考え方は間違っただけではありません。意識すれば出来る事をしない。逆に言わせてもらえば、教育委員会は問題にしなければいけないのは、毎日、無料で使えるグラウンドがあり、人数もしっかりして野球部という看板を掲げているのに野球の技術も正しい理論も指導しない指導出来ない先生、指導者として勉強もしない先生、仕事ですよ！そして1年生だけのチームに負けてします事だと思えます。中学校のクラブ活動がしっかりしていればクラブチームは無くてもいいのです。

私達は野球の指導は仕事ではありません。しかし責任を持って心を込めて生活の全てをかけてやっています。子供達を上達させられないチームは無いほうが選手のためです。私のやり方が正しいかどうか分かりません。毎日悩みが尽きません。選手達に厳する以上の努力と勉強を私はしているつもりです。

意見があればいつでも直接どうぞ、しかしまず、人の事より自分の足元をしっかりした方が良くと思えます

第37話/2013.02.27

疲れしました。日曜日は東広島市に1日いました。

気温が低く、試合内容も寒くて身も心も凍りました。寒さとまだ2月という事で、沢山のミスが出るのは当たり前です。特に投手のコントロール、守備の送球手が温まらないので難しいと思えます。ただ、頭の準備をすれば防げる可能性があります。ポケットにカイロを入れるとか、内野の守備位置を少し前にするとか、中継の位置を近づくとか、攻撃中にも体を動かすなど色々な方法があります。試合中、そのような工夫が見えません。バッティングでも体が冷えていればバットをいつもより短く持ちよりコンパクトなスイングで低い打球を打つ事を意識するなどやれる事があります。

段原クラブの目指している操り人形ではなく自分達で考えてする野球とは、グラウンド状態、風向き、太陽の位置、気温など試合に入る前の準備も含まれています。監督コーチからいちいち注意されなくても各自が考えて動き出せるチーム、声掛け合えるチーム、頭の中のレベルが高いチーム、そして選手になりどんな指導者に出会っても自分の頭で考えて練習し成長していけるようになって欲しいと思っています。私が選手達に常に言っている結果を出すという事は、そこにたどり着くまでにどんな事を考え、どんな工夫をし、どれだけ努力をしてきましたか？結局それまでの過程がどれだけ見えているかと言う事です。

確実に1歩ずつ力をつけてきている選手がいます。1年前より半年前より1ヶ月前より1週間前より昨日より今日は変わろうとしたか、そして変わる事が出来たか、その為に何を考えて、何をしてきたのか、私はそれを見えています。それが結果を出して見せてみるという事です。脳が動かなければ体は動かないのです。考えて分からなければ指導者に聞けば良いのです。

子供達だけに苦労させる訳にはいきません。私も何かしようと考えました。明日から禁煙に挑戦しようと思えます。タバコに手を出したら注意して下さい。

しかし私は自信がありません・・・・。自分には甘いので。早く暖かくなって欲しいです。

第36話/2013.02.18

昨年のシーズン終了から今年の冬の間とにかくバットを振ってきました。

練習は打つ事しかやっていないという感じです。選手達の打球の速さ・強さは明らかに昨年の秋に比べて変わりました。フリーバッティングでも1ヶ所打撃でも、今までの3年生の打球と比べて全体的には今年の方が力強さを感じます。しかし、先週、今週の日曜日に対外試合をしました。2年生はまったく（特に中心として考えている選手が）結果が出ません。

対戦相手の投手が良くて打てないのではなく、打ち損じた打球ばかりです。確実に練習によって力がついています。しかし試合では出せない。能力の高い選手ほど出せない。

原因はどこにあるのか？今までの指導経験の中で練習と試合でここまで別人のようになる選手が多い年は初めてで困惑しています。1年生はだいたい持っている力が出ています。試合後、力を持っているのにまったく出せていない選手数人に自分達がとても恵まれている事、それに甘えている事、君達のプレーでは人に心を動かさない事、身体能力に恵まれていない選手が本当に頑張っている事など保護者にも聞いて欲しいと思いとて厳しい話をしました。

私は彼らに長く野球人生を送ってもらいたいと思います。その為には今がとても大事な時なのです。彼らは高校野球はもちろんその先のステージでも勝負出来る素材だと思っています。

私も身体能力には恵まれていました。しかし自分に対する甘さで中途半端な選手で終わりました。せっかくの環境、出会いを大切にしたいのです。「出来るのに！！」君達は自分の思っている以上に力がついています。段原クラブの選手なのです。責任とプライドを強く持って胸を張って堂々とプレーして欲しいです。そんな思いが爆発して厳しい言葉になりました。

今日、月曜日冷静になってみると試合で結果が出ない責任を全部選手にぶつけた事を恥ずかしく思いました。指導者としての責任の方がはるかに大きいはずなのに、試合に力が出せないのは色々な理由があると思います。1人1人ちがうのかもしれませんが。

私も謙虚に反省し、選手達と共に泥にまみれて本物の力を身に付けたいと思います。そして選手達を信じていきたいと思います。

第35話/2013.02.13

クラブチームの運営は、選手達の会費とスタッフ及び保護者の労力によって成り立っています。当然お金は必要です。しかしそれだけでは出来ない事があります。

荷物車の運転、練習中のネット・テントの設営、修理、審判、子供達の応援などたくさんの協力が必要です。段原クラブでは、保護者の当番がありません。出られる人！もっと言えば協力したい人にやってもらっています。当番を作る事により、無理をしたり、手伝えないために選手が入部出来なかったりそういう事が無いようにしたいのでそうしています。

土・日・祝日、仕事の方もいるでしょう。弟、妹がいて中々出られない方もいるでしょう。自分の休み、趣味が大事な方もいるでしょう。我が子の野球に関心のない方もいるでしょう。それは人それぞれなのでかまいません。しかし、貴方の子供を誰が面倒を見ています？練習の時も試合の時も誰か他人が必ず世話をしています。何が言いたいかというと、チームにそして保護者に感謝の気持ちがありますか？あれば「中々お手伝い出来なくてすみません。いつもお世話になりありがとうございます」の一言が自然に出ます。毎回、休みのたびにチームのために働いてくれている保護者に言いましょよ。前夜飲み過ぎていても朝から頑張っている人がたくさんいます。

私は心から感謝しています。子供達とスタッフと保護者がひとつになって成長し戦うのです。極端な事を言います。チームはお金と労力がいります。労力が出せなければ金を出せ、でなければ気持ちぐらい表せという事です。もう一度言います。貴方の子供を他人の誰かが無償で面倒を見ています。気になりませんか？感謝の言葉、当然いりますよ。

子供達は本当に良く頑張っています。今年も来年も必ず良いチームになります。その練習を見て応援してあげて下さい。試合なんてどうでもいいです。子供達の成長、苦しみ、頑張り、色々な所が見られるのは練習です。くどいようですが、グランドに出て来いと言っているのではありません。一言あれば済む事だという事です。心の問題です。

第34話/2013.02.04

今の時期、小学校6年生が体験にやって来る。

毎年のことですが、私にはこの体験が良くわからない。前にも書いたがチームの何がわかるの？私達が中学生の頃にはクラブチームなどはなく、住んでいる中学校の野球部に入部するしかありませんでした。そこが良いか悪いか、熱心な先生なのか、野球の指導が出来るのかなんて事は何もわからず、疑問を持つ事も不安を感じる事もなく、ただ大好きな野球が出来るだけで大喜びで中学に進学し入部しました。3年間テレビで見るプロ野球選手と先輩を手本にして自分で考えて練習したものです。極端に言えばどのチームに入ろうと誰が指導しようと本気の選手は上手くなります。そうでない選手はどんな環境でも上達しません。まあそうは言っても少しでも良いチーム、良い指導者、良い環境で野球をしたい、やらせたい気持ちはわかります。でも入ってみなければ本当の所はわかりません。指導者と選手の出会いは運です。どんなチームもどんな指導者も全ての選手に合う訳ではありません。結局本人次第なのです。

段原クラブはとても良いチームです。最も良い所は指導者の心です。私は全ての指導者の心を信頼しています。優しすぎるために勝負弱い所があるかもしれません。私はそれで良いと思っています。たくさんの子供達が体験に来てくれるのはとてもありがたい事です。これからも興味がある選手は何度でも参加して下さい。

しかし前にも書きましたが、入部するかしないかわからない選手より今いる選手が私は大事です。参加する限りは真剣にお願いします。

それから、その後の連絡を必ずするのが常識だと思います。入部しなくてもかまいません。他のチームに入部するのもかまいません。入部する時にはもちろん連絡しますが、入部しない場合体験に来たまま何の連絡もない選手が毎年います。わざわざ今いる選手の練習時間をさいて練習をさせてあげたわけです。体験に来て頂いた訳ではありません。まして、小学校のチームでは教えてもらった事もないような技術、考え方を指導してもらえます。保護者の常識を疑います。今年もいます。まあそんな事も出来ない保護者・選手には入部してもらいたくないですが、小学校のチームで何をしてきたのかと情けない気持ちになります。U東小学校のチームあなた達の事です。毎年です。強くも上手くもなる訳ありません。

保護者の姿勢、考え方、思いが子供のプレーに出ます。野球が何より一番で、段原クラブを信頼してくれる選手・保護者が入部してくる事を楽しみにしています。段原クラブが良いチームなのは歴史と卒団生が証明しています。

私はチームに自信を持っています。

第33話/2013.01.28

体罰がどんどん出てきました。

高校のクラブ活動の指導者でときどきしている方は沢山いるのではないのでしょうか？

今回の問題が大きくなり、私は色々な本を読んでみた。メンタルとは試合で持っている技術を発揮するためにそして練習の中でその技術を身に付けるために必要な物です。

私の年代はスポーツの練習は怒られるのが当たり前、親にも当然で誉められた記憶がありません。本を読むと全ての本が誉める事の重要性和怒る事のデメリットが書かれています。その考え方でやっていたら私はもっともっと上手くなれたのでしょうか？

毎日、練習を嫌々やっていけば上達はしません。それはよくわかります。明確な目標(短期・長期)をたて、計画性のあるトレーニング、そのトレーニングの意味、必要性も選手がしっかり理解してやる。やみくもに押しつけられた練習より上達していくのは当たり前です。

体罰が悪いのは当然です。自分の経験からも良くわかります。本を読んでいると全ての選手が向上心を持って心を込めて練習に取り組んでくれている事が前提で書いてあります。

しかしやる気もなく他の選手の練習を妨げるような選手に対して指導者はどう対応していくのか、きれい事、机の上の考え方だけで出来ない事も沢山あります。指導者としては大きな課題だと思えます。

おかげで今の段原クラブの1、2年生は、本当に心を込めて練習をしてくれています。私は今、とても期待でもって楽しみにしています。

何が本当に正しいのか、技術もメンタルも時代と共に変化・進化しています。

高校野球の指導者の皆さんも、もちろん私も時代遅れの指導者にならないように日々、子供達より以上の努力、勉強が必要です。

第32話/2013.01.17

体罰が問題になっています。

私達は人間を相手に指導をしています。当然言葉を話す事が出来て聞くことが出来ます。書いた文字を読むことが出来ます。私は常に人間なのだから、言葉・文字で伝わるはずだと子供達に何度も何度も言い続けています。

それにもかかわらず、チームの決まり事、意識すればだれでも出来る事をやろうとしない選手がいます。気の抜けたプレーでチームに迷惑をかける選手がいます。たった一人の選手のせいでその他全員の選手が集中し、懸命に努力してきたものを台無しにしてしまいます。やろうとして出来ないのではなく、やろうとしない選手がいます。

最初に書いたように何度も何度も言葉で説明してもです。その場合、私は今まで1年間に2、3度体罰をしました。平手で頬を叩きました。お尻を蹴った事もあります。良い事だと思ったことは一度もありません。その夜は中々眠れません。しかし私にはそういう選手が許せません。

段原クラブは本当にみんな良い子供達でまじめに練習をします。その子たちの足を引っ張られるのが我慢出来ないのです。野球というスポーツは一人勝つ事は出来ませんが、一人で負けることが出来ます。たった一人の心無いプレーで頑張ってきた子供達が嫌な思いをしななければいけません。それを防ぐために、当然何度も何度も人間の言葉で伝えようとしみます。それでも伝わらない時に手

を出しました。もう一度言います。やろうとして出来ない選手ではなく、あくまでも最初からやろうとしない場合です。

今回高校にクラブ活動で問題になっている体罰、あれは教育ではなく調教です。広島の高校野球でも時々聞きます。人を何回も何回も叩く事が出来る人間は異常です。教育者以前に犯罪者です。学校の敷地の外でやれば傷害で逮捕されます。

スポーツは修行ではありません。楽しくないと意味がないのです。もちろんルールはあります。チームの中にもあります。精神論を語る指導者ほど叩いたり、負けたら走らせます。そんな事で野球は上手くなりません。あくまで技術の勝負です。指導者は技術力を伸ばすのが仕事です。練習は技術力の向上に努める場です。試合で出来ないのは指導者の力不足です。ですから選手達にペナルティーを与えるのは間違いです。

私は今度、体罰ではなく練習の場から排除し、チームと他の選手に迷惑がかからないようにしようと思っています。私が望んでいるのはチーム全員で心を込めて楽しく野球し技術を向上させる事、試合に勝てればなお良いと思います。せっかくの休日1日楽しくやりたいです。

高校野球の選手達、楽しくやろうよ、上手くなるよ。

第31話/2013.01.07

1月2日、段原クラブ恒例のOB戦が行われました。

なんとOB、現役、保護者、スタッフ総勢194名が参加しました。まず、準備から片付けまでやっていただいた現役の選手、保護者の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございました。年末に書いたように、高校、大学の選手達が少しでも本来の野球の楽しさを思い出すきっかけになってくれれば良いと思います。

社会へ出て野球から離れた選手も、とても楽しそうにプレーしてくれていて見ていて心地良く私も楽しめました。午前中、仕事を終えて駆けつけてくれた者や、東京など遠くから来てくれた者、奥さんや子供連れの方、全員に心からお礼を言います。

本当に楽しい1日を君たちのおかげで過ごせました。ありがとうございました。来年もぜひ来てプレーして下さい。全員が楽しんでもらえるように試合方式なども考えていきます。良いアイデアがあれば知らせて下さい。現役の選手達も特に大学、社会人の選手達の力強さ、スピード、見習う所がたくさんあったと思います。誰でも可能性を持っています。OBも含めて全員で夢に向かって努力していきたいと思っています。

今年の練習も始まりました。2年生の皆さん勝ちたければ、肉食動物に変わりなさい。1月2月の2ヶ月、別人になって向かって来い。君達の野球人生の大きな1年になると思います。

みんなが変わりましょう。

第30話/2012.12.26

少年野球もオフシーズンになり6年生が、そろそろ体験に来たり入部したりする季節となりました。

段原クラブは体験会のようなものはしません。なぜかというと入部するかしないかわからない選手のために現部員の練習時間をとられたくないことが一番の理由です。それからたくさんの方で

やる体験練習では、本来の練習とちがい(入部してもらうためにいつも通りの練習はしないのではないか?)意味がない。いつも通りの練習の中に入って(少ない人数で)はじめて体験練習といえると思う。そしてなにより多くの選手に入部して欲しいと思っていません。たくさん入部すれば、試合に出られない選手が増えるだけである。練習の数も少なくなる、部費が増える以外にあまり良い事はありません。

聞くところによると、良い選手がいると個人的に勧誘するチームもあるらしい、私には信じられない、そんな事をしてなんの意味があるのだろう、勝ちたいから？

指導者として声をかけた選手、そうでない選手、同じように対応出来るのだろうか。それでは高校野球と同じである。小学生の時からスーパースターで結果を出して来た選手！私にはどうでもいい事である。

段原クラブと私達の指導力を信じて、入部してくれればそれだけで充分です。野球の実力などどうでもいいのです。それこそが指導者として力の見せどころです。

以上のような事で段原クラブは個人的に選手の勧誘などはしない。ぜひ1度練習の体験に来て下さい。連絡をいただければいつでも結構です。そして、心の底から野球大好きな少年、真面目に一生懸命に練習する少年、まゆ毛を剃ったり、学校生活がいい加減だったりしない少年、私は、そんな子供達と一緒に野球がしたいと思っています。

ある高校の監督が真面目で勉強が出来る選手はここ一番の場面で力が出せないと言っていた事がありますが、真面目でなにが悪い。私は指導者とはそういう選手の技術をしっかり伸ばして結果を出させるのが仕事だと思っています。

いよいよ1月2日は恒例のOB戦です。みんなの元気な姿を見るのが楽しみです。原点に戻って高校生以上の現役の選手に野球本来の楽しさを思い出して欲しいと思います。

第29話/2012.12.17

毎週書いているが、新チームになって打てない試合が続いている。段原クラブは、バント、エンドラン、盗塁、スクイズなどサインがありません。

とにかく打つ、フルスイングをする。特にストレートには遅れない。強く速くスイング出来る選手を育てる事を目的に練習、試合をしています。

今までその方針、考え方である程度結果を出して来ましたし、高校進学後の選手達も活躍しています。

しかし今年の2年生は打てない。土曜日2年生も2年生も1試合ずつ試合をした。私はベンチをコーチに任せ、色々な角度から試合を見ました。

私が思った1番の問題は、ストライクゾーンが間違っている事、ボール球を振りすぎである。特にインコースは来たボールは何でも振る当然ファールになる、そして追い込まれて又ボールを振って凡打、三振する。私は考えました。「押してもダメなら引いてみる」です。

強く振る、速く振る、ストレートに遅れない。これを子供達は右打者はレフト、左打者はライトに引っ張ると理解しているのではないか、その為に体重はかかるとにかかりステップ、体が早く開き、インコースのボール球を打ちにいつてしまう、外のボールを見逃す、こういう流れになっているように思う。

そこで、日曜日の練習から、力を抜いて、グリップ、ひじ、ひざ、体中の関節を柔らかく使って打つという事をやってみました。少しいい加減に打つぐらいの気持ちで、いろいろなコース、高さ

にくるボールに対して柔軟に対応していく、バッティングを練習していこうと思います。

バッティングは、これが絶対正しいという打ち方は無いと思います。前中日監督の落合さん教えても中日は打てるようにならなかったのと同じで、全ての選手の感覚が違うので色々試して、その中で選手達が自分で見つけてくれれば良いと思う。とにかく今は打てないのだから何かを変えなければいけない。柔らかく強く振れば、当然それが一番良いのですが。

指導者は諦める訳にはいきません。この冬は子供達ともがきます。いい春を迎えるために。

第28話/2012.12.10

土、日曜日、本当に寒かった。

グラウンド状態もあまり良くなかったが、みんなの協力で練習する事が出来ました。

新チームになって打てない試合が続き、いろいろな原因を考えさまざまな練習を試みてきました。土曜日の練習で全員のスイングをじっくり見ました。

そしてハッキリした事がひとつ！！

完全にスイングのスピード、力強さが不足しています。

今まで技術的な事、精神的な事いろいろと理由原因を探り練習をしてきましたが、一番の基本、根本、バットを強く速く振る能力が足りないのです。何をやっても結果につながらないはずで

この冬は体作りからです。たくさん食べて体重を増やしながらか。しっかり練習してパワーアップとスピードアップを目指します。

食事も大事なトレーニングだと全員が自覚して体重 5Kg アップして欲しいと思います。(3月までに)

そして数多くバットを振る事も大事だが、1回1回心を込めて全力で振る事を心がけ内容も濃くする必要があります。1, 2年生の練習を見ているとがむしゃらさや、迫力は感じないが真面目に一生懸命に取り組んでいます。

これがもう一つ心のランクを上げて後先を考えず、その時を全力でバカになって練習に向かって来るようになれば、彼らは殻を破り良い選手、良いチームになっていけると思う。

これからの3ヵ月、選手達の野球人生のとても大事な3ヵ月です。自分に厳しく、春にはみんなで心も体も大きく強くなりたいです。

第27話/2012.12.03

土、日曜日大会でした。

抽選に恵まれて4試合した。相変わらず打てなかったが、ベンチに入れた全員を試合に出す事が出来全員自分の課題がわかったと思う。

ピッチャーはコントロールが必要だし、野手は守備、走塁、打撃全て力不足な事が身にしみたはずである。この冬は相当な練習をしなければ勝負出来るチームにはならないだろう。選手が本当に勝ちたいのかは心の持ち方で練習が変わると思う。

私は3位決定戦に価値を感じないので全て控えの選手を使った。当然レギュラーがベンチにいる事になる。試合中ベンチにいる選手が何をするのか、何を言うのかいつもずっと見ている。

土曜日に泣くまで怒られたキャプテンが、本当に心を込めてベンチの仕事をしていた。嬉しかった

た。そして、他の選手の無さにがっかりした。

私はキャプテンの為に全力を尽くす。

寒い雨の中、やっと試合に出られたメンバーは力ないが心を込めて野球をしてくれた。それを見て感じるもののないレギュラー達、勝てる訳がない。

試合に出る喜びを無くした者は上達しない、当たり前ではないのである。

心のある選手と心を込めた楽しい野球がしたい。私は日曜日、雨の中つくづく思った。3位決定戦に出ていた選手達、そしてキャプテンに感謝！！

第26話/2012.11.26

子供達の指導をするようになって25年 最大の壁にぶつかっています。

今年の3年生は、それなりの取り組む姿勢の選手が多かったのもそれなりの成績であたり前でした。新チームになり1、2年生は、ほとんどの選手が真面目でよく練習しています。しかしそれが試合に結果として出ません。

特にバッティングです。練習を見ているとまずまずバットを振れる選手がいますが、試合なると別人のようなスイングをします。特に中心としてチームを引っ張ってくれると期待していた選手ほど内容が良くありません。精神的な弱さと簡単に片付けていいものか？それとも技術的に未熟だからなのか？プレッシャーをかけているつもりもありません。練習の内容が間違っているのか？しかしこれまでの選手は打っていました。色々試してみましたが変わりません。本当に困りました。

有難い事にシーズンオフになります。もう一度基本からやり直す時間があります。12月、1月、2月、3ヶ月間、もがくしかないと思います。

ひとつ気になる事は、2年生の自己評価で長所は優しい事だとほとんどの選手が言った事です。ユニフォームを着てもおとなしくて優しい子は勝負に勝てません。グラウンドでは肉食動物の眼に変わって欲しいと思います。

自チームの監督やコーチの顔色をうかがいながらではなく、相手チームと戦う選手、堂々と自信満々な態度・表情で打席、マウンドに立つ選手と一緒に野球がしたいです。

いつも子供達に言っています。「試合に勝つ事はそれほど大事な事ではない。勝つ為に技術を向上させるために努力する事、そしてそれを試合という発表の場で全てを出す事、それが大事な事である」と段原クラブとはそういうチームです。だからサインはいらないのです。

選手のみならず段原クラブのプライド、自信、誇り、責任、体中にみなぎらせてギラギラした野球をして下さい。

第25話/2012.11.19

今週はとても怒っています。

日曜日に大会があり開会式がマツダスタジアムでありました。しかし予定されていた試合はさせてもらえませんでした。

私は前々から使用する事は反対でした。なぜかという、野球場なのにスパイクを履かせてもらえない、靴で野球をさせられます。

意味がわかりません。ただただグラウンド整備をする人達がラクをしたいだけです。所有者は誰の

でしょうか？広島カープではありません。広島カープは管理を委託されているだけで市民の財産を市民の好意で優先的に使わせてあげているだけです。

なにか勘違いしていませんか？

本来なら子供達のために雨が上がればなんとか試合をさせてやろうと、精一杯グラウンド整備をするのが当たり前だと思います。

それがプロ野球の球団として、まして地方球団が地元に着して、愛され応援されていくために必要な事だと思います。野球をしている子供達のために、グラウンド整備などの仕事が出来ないなら野球に関わらない方がいいと思います。

日曜日は他にも沢山のグラウンドを使用しましたが、全て朝早くから保護者、選手がグラウンド整備をして、とても良いグラウンド状態で試合が出来ました。

なぜ一流のマツダスタジアムだけが出来ないのですか？底辺の少年野球があり、頂点のプロ野球があります。もし広島カープそして選手がグラウンドをアマチュアに使う事を嫌がっているとしたら、これからも優勝する事はないと思います。

甲子園はシーズン中に高校生に何週間も使わせますが、阪神タイガースはそして選手は何も文句は言いませんよ。今の姿勢のままなら私はマツダスタジアムで高校野球も少年野球もやるべきではないと思います。

球団の皆さん、ラクをしないで仕事しましょう。市民の球団でしょ。マツダスタジアムは市民の財産です。そして少年達は国の財産、プロ野球の財産です。

私は怒っています。

話は変わりますが、年賀状の協力ありがとうございました。個人のノルマを達成しました。皆さんのお陰です。感謝します。しかし班のノルマがまだまだあります。これからも受け付けています。

第24話/2012.11.14

段原クラブ初の合宿を11日（土）、12日（日）2日間行った。

目的はバッティング、とにかく数多く打つ事。

日曜日の午前中は雨のため室内でバトミントンの羽根とプラスチックのボールを打つ事になったが、土曜日は約8時間、日曜日は3時間グラウンドでバッティング練習が出来ました。

とにかく練習するための環境が素晴らしく、久しぶりにプロ野球のキャンプ並みの内容でとても満足しています。子供達も最後まで集中していて、お金と時間と保護者の協力を使った甲斐のあった合宿でした。

1日目はスピードや力強さを感じなかったスイング、打球が、2日目の午後の練習では明らかに打球にスピードと強さが出てきました。つくづくバッティングは本気で数多く打つと力がつくものだと思いました。

普段の練習では、なかなかそれだけの数を打つことは難しいのですが、今回の合宿のように集中してバットを振ると確実に上達していきます。

毎回、同じグラウンドで同じメンバーで同じ練習だと新鮮な気持ちを持たず、つい気を抜いてしまう事があると思います。

指導者としては、練習内容を工夫して子供達が常にワクワクして練習出来るようにする必要を感じました。初めての事で保護者の方々には金銭的な負担と労力の協力をして頂きました。ありがと

うございました。

合宿に来て練習を見て頂いた方にはわかって頂けたかと思えます。確実に子供達にとって有意義な2日間でした。私としては春にも合宿をやりたいと思っています。又、負担をかけるとは思いますが、協力お願いします。

しかし、本日私の体はボロボロ、クタクタです。久しぶりに心地良い疲れです。本当に良い練習が出来ました。施設の皆さんにもお世話になりました。

心から感謝します。ありがとうございました。

年賀状の協力ありがとうございました。しかしノルマ達成まで残り1500枚、まだまだお願いします。

第23話/2012.11.5

新チームになって点がとれない。

打てない、全く打てない、たぶん段原クラブ史上最も打てないと思う。

打球が外野まで飛ばない、バッティングの数は今まで以上に打っているのに飛ばない。普通の打撃練習では、段々バットが振れてきたように思うのだが、試合形式の練習になると前に飛ばない。

一番の問題は、ストレートを狙ってストレートに振り遅れる事である。

何故なのだろう。

変化球で泳いで三振してもかまわないので、とにかくストレートに遅れないようにと言い続けているが、ほとんど振り遅れて打ちとられる。投手のスピードに関係なく遅れている。

何が悪いのだろう？今まで中心選手まで全員がこんな状況になった事がないのでわからない。

単純に振る力、スピードがないのか？バットの軌道が悪いのか？タイミングをとる能力がないのか？ポイントがわかってないのか？ストレートを狙っているつもりでも出来ないのか？野球に向いていないのか？こんな事まで考えてしまう。

私なら打席の位置を変えてみる、バットを短く持つ、上半身を止めてバットを先に出す感じで打ってみる、振り出す時の力感をなくしコンパクトに振ってみるなど色々工夫して練習する。当然、ティーバッティングで速打ちをしてスイングスピードを上げる。

今書いた事は全て何度も話をしている。しかしやっているように見えない。いつも同じ位置に立ち、同じようにタイミングをとり、同じようにバットを長く持ち同じように振り遅れる。そして同じ練習をする。理解出来ない。

わからなければ聞きに来なさいと言っているが、今年は誰も来ない、そして出来ない。野球が上達したければ数多く練習しなければいけない。それも身体能力がずば抜けていなければ、誰より数多くやらなければならない。しかし何も考えず意識もせずただバットを振ったりボールを投げたり、捕ったりしても時間がいくらあっても足りない。

まず考える、工夫する、色々な事を試す、質問する、意識する、私がいつも言っている事ですが、野球は先進国のスポーツです。頭の中身を使って練習、試合をした選手が勝ちます。

選手達、もっともっと野球の技術について考える時間を持って下さい。

第22話/2012.10.29

何年も我慢して来ましたが、あまりにひどいので書きます。審判の話です。

当然アマチュアなのでミスをします。間違えます。そんな事は最初から分かって試合をしています。それにしても広島西部地区は高いボールをストライクにとり過ぎです。私はルールブックを見直してみました。ベルトと肩のの上部の中間、決して脇の下ではありません。大体、打ちにいった姿勢のヒジの下のあたりだと決められています。

審判の講習会では高めをストライクにとるようにと指導されるとも聞きます。なぜなのでしょう。ストライクゾーンを広げれば、当然試合時間は短くなります。

ほとんどの試合は時間制限がある中でやっているのだから意味があると思えません。

私達は投手に低く投げる事を指導しています。しかし試合であきらかに投げそこない高めに抜けたボールをストライクに判定してしまえば投手は勘違いしてしまい上達を妨げます。

バッターも明らかにボール球を打ちにしなければいけなくなりバッティングを悪くします。私には百害あって一利なしにしか思えません。

子供達のレベルを上げるためには、まずストライクゾーンをしっかりと正しく判定してあげる事だと思います。自分の判定をビデオにとり、確認するべきだと思います。子供達は本当に真剣に練習・試合に取り組んでいます。それに関わる大人もボランティアという言い訳に逃げずレベルアップするため努力するべき（指導者を含め）だと思います。

父親たちが審判する事もあると思いますが、まず自チームの練習の中で判定の練習をして、子供達のため努力するべきです。そして間違いはあります。間違ったら素直に認め、謝り、判定を変えれば済む事です。間違えは正す、当たり前です。

アマチュアだから、ボランティアだからしょうがない、それは子供達と同じように努力してからの話です。まず自分の判定を映像で確認して欲しいです。心の底からお願いします。みんな子供達のためにやっているのですから。

きっこうこういう事を書いたり言ったりすると快く思わないと思います。でも誰かが言わなければいけません。まず大人達全員が誰のためにやるのかしっかりと考えるべきです。

大人の都合はどうでもいいです。子供達の都合が全てです。

第21話/2012.10.22

緊張して自分の持っている力が試合で出せない。

相手チームと対戦する前にプレッシャーに負けてしまう。

1、2年生は本当によく練習していると思う。特に今は試合に出る前に自チームの中の競争に勝たなくてはならない時です。はっきり言ってレギュラーは1人しか決まっています。

結果が欲しい気持ちは良くわかります。でも、今のような精神状態では身に付けた力を出す事が出来ず、毎日の努力がムダになるとは言いませんが、本当にもったいないと思います。

今、私が試合で見ている事は結果ではなく、もっと根本的な事です。

投手はストライクが取れるか、牽制、クイック、ベースカバーが出来るのか、そして一番はバッターに向かっていく気持ちがあるか。

バッターはまず強く速いスイングが1球目から出来るか、変化球が振れるか、ストレートに遅れないか。守備は思い切って前に出てこれるか、強いスローイングが出来るか。

ヒットを打つとか、相手をおさえるといふことは、まだ望んでいない。見ているのは可能性であり、がむしゃらに前に出ていく気持ちです。そういう選手で戦いたいと思っている。おとなしい良

い子は試合で戦えないのである。ユニフォームを着たら肉食動物のようになって欲しいと思う。

来年の春までは、みんなにチャンスを与えます。練習して力を見せて下さい。

話は変わりますが、今年も年賀状の季節になりました。大変なノルマを与えられています。電話でけっこうです。現役、OBの皆さん協力をお願いします。

第20話/2012.10.15

新チームになって約20日、初めての新人戦が日曜日になりました。

結果は大野シニアに2-0で勝ち、広島スターズに0-1で負け、点が取れなかったのは私の思っていた通りでした。

失点が予想より少なかった。これは、投手が良かったのではなく相手のバッティングが悪すぎたためである。練習してきたバント処理、捕手のスローイング、ランダンプレーが出来ない。状況を考えた、投球、配球、守備、言い続けているがまだまだ頭が働かない。

いつも子供達に言っている「技術的なミスは未熟なので構わないが、考え方のミスはダメである。わからなければ聞きなさい」が出来ない。出来るまで言い続けるしかない。

点が取れないだろうと思っていたが、中心打者がここまで内容が悪いとは思わなかった。旧チームから試合に出ていた選手である。

原因はどこにあるのか？本人も指導者もしっかり考える必要がある。

私は新チームになりキャプテンを決める時に、この選手達がチームの中心として自分が引っ張っていくという気持ちが見えなかった時に精神的弱さを感じた。ここ一番であまり頼りにならないかもしれないと思いました。

野球はよくチームスポーツといわれます。しかし私は1人のスーパースターで小・中学校の野球は勝てると思っています。「自分の力でこのチームを勝たせてやる」、「俺が打って勝つ」、「俺が絶対打たせない」これぐらいの気持ちを持っている選手が私は好きです。

最後、試合はメンタル勝負、いくら練習しても、力をつけても、試合で出せる心、精神力です。自分自身で強くなるしかありません。楽しみであり、不安であります。

話は変わりますが、フルスイング塾がRCC中国放送の取材を受けました。「元就」という日曜日の11時45分からの番組です。アンガールズの山根さんが練習しました。

11月25日（日）の放送です。お楽しみに！！

第19話/2012.10.10

10月7日 日曜日、3年生の卒団式がありました。

今のところ一度も入部して選手全員が卒団を迎えられた年がありません。入部する時に最後までやりますと親子で約束するのに退部する選手がいます。

親の責任です。退部するのには親の了解がいります。約束したのに親が破ります。

皆さん、親としてしっかりしましょう。

卒団式は毎年つらい日です。今年は想うような成績があげられず、選手達に申し訳なく思っています。卒団生の言葉はどれもありがたいものばかりでした。

聞きながらずっと今の気持ちで野球に取り組んで来ればもっと良い結果が得られたはずです。今の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

これからの半年間が一番うまくなります！高校に入るまでに少しでも貯金ができるように練習に取り組んでください。

高校野球秋の中国大会にOBが2人出場します。他の先輩達も頑張っています。今しっかり力を付ければ高校野球のスタートで差がつけられます。

もう一度言います！

今の気持ちを忘れずに感謝の心を持って野球してください。必ず良い結果が待っています。

第18話/2012.10.01

9/30(日)総会が終わり本格的に新チームがスタートした。

今年のチームが6月をピークにチーム力が落ちていった原因をしっかりと考え、練習内容、指導方法をもう一度見つめ直し、同じ失敗をしないチームづくり、及び個々の能力アップをしていきたいと思う。

特に1、2年生は守備のスピード、正確性に欠けるのでこの秋は守備の練習に時間を多く割くことになりそうです。私はあまり好きではありませんが、あまりにもレベルが低いので子供達のこれからの野球人生を考えた時、守備練習が必要だと思います。

3年生はこれから高校選び、受験である。出来るだけ身の丈にあった(試合に出られる)高校に行きたいと思う。その為には選べるだけの点数が必要になる。

どうなることやら。今年は試合内容と同じようにピンチがたくさんありそうです。出来るだけ力になりたいと思っていますが、進学後きっちりと3年間、野球及び高校生活を全うして欲しいと思います。それが段原クラブ及び後輩たちのためになるのだから。

話は変わりますが、広島県には公立高校の普通科でしっかり野球が出来る高校がありません。島根県の浜田高校、大社高校、山口県の岩国高校、岡山県の城東高校、他県にはあるのになぜ？

指導者の問題なのか？グラウンド環境の問題なのか？選択肢がたくさんある方が子供達のためになると思うのですが、とても残念です。

第17話/2012.09.24

9月22日(土)に3年生最後の試合が終わった。

やはり当たり前の事が出来ない1年間だった。初回から送りバントを2塁手の1塁ベースカバーが遅れオールセーフにし、3塁・本塁ではさんだランナーを送球ミスで帰す。その後、キャッチーのパスボールで2失点。やっと3点とって逆転しても、5回に1死から1番打者を歩かす、2番打者のショートゴロの送球を1塁手が落球、またもエンドラン失敗で3塁・本塁にはさんだランナーをアウトに出来ない。2死2、3塁から前の打席にストレートを打たれた4打者にまた2ボール1ストライクからストレートを打たれ逆転負け、全て何度も何度も練習してきた事が最後まで出来なかった。

今年はずっと、なぜわからないのか？なぜ覚えられないのか？そればかり考えてきた。考える力や覚える気持ちがないのかと思っていた。負けた日一晩考えてみた。もちろん今年の選手の能力に

問題があった事は間違いない。

しかし、それだけではなく私の指導にも大きな問題があったように思う。最近、コーチがしっかり指導してくれる事と、私の体力、気力の衰えなのか、グラウンドに立ち子供達に1対1でじっくり指導する事をおろそかにしていたように思う。

イスに座って偉そうにふんぞりかえって指導しては何も伝わらないのだ。子供達も本気にならない。もう一度、初心に帰って、子供達と一緒に汗をかき、口だけではなく体を使っていこうと思う。まずは自分が変わらなければチームは変わらない。

ちなみに昨日半日の練習で私の体はいろんな所がパンパンです。久ぶりに心地の良い疲れを感じています。

第16話/2012.09.19

9月17日(祝)海田運動公園で練習及び江波中との新チームの練習試合をした。

天候があやしかったが、なんとか1試合目は出来た。しかし2試合目の途中から強く雨が降り出し、2試合目は中止になった。その時点で3年生はフルスイング塾に移動してバッティングして練習を上げるように指示した。

1時間程けっこう強く雨が降りグラウンドは水びたし、それでも私は雨さえ上がればなんとか出来るような気がしていたので1、2年生は待つ事にした。雨が上がり、保護者の方の努力もあり、その後練習することが出来た。保護者に感謝！！

今週の土、日曜日は運動会の中学校が多く、休んだ選手が多かった。紅白戦形式の練習をしたが、休んでいた選手はまったく結果が出なかった。たった1日、2日でも練習は嘘をつかない。本当によくわかる1日だった。

1年生の中で入団した時は、ボールが当たるとバットがもどる程、力のなかった選手がいる。しかし、その選手はチームで1番バットを振っている。半年で外野まで打球が飛ぶようになっている。バッティングは振った数、打った数だとつくづく思う。

練習が終わりに近づいた頃、3年生3人が戻ってきた。何?と聞くと、もっと練習したいので戻って来たそうだ。1人でも2人でも本気の選手がいれば、指導者はそれに答えなければいけない。

こんな事で私は今日1日一生懸命やって良かったと気分が良くなった。

今週3年生最後の試合、彼らの力が全部出せる事を望みます。

第15話/2012.09.10

私は監督として選手にとっても甘い。

なぜかと言うと、人は失敗をすと思っているからです。その失敗の中から学び、成長してくれると信じているので何度もチャンスを与えてきました。

口では使わないと言っても必ず試合に使ってきました。子供達はその事をわかっているのになめていると言われた事もあります。

それでも私は、必ず思いが伝わると信じてきました。今年も同じように何度も信じてきました。しかし今年のチームには伝わらなかったかもしれせん。

なぜなのか?春からずっと考えてきて私なりに結論を出しました。

結局私は子供達から信用、信頼されてなかったのだと。そのような人間が何かを伝えようとどんなに必死になっても、受ける側にその気がなければ何も伝わりません。

その結果、今年の段原クラブは春からチーム力が伸びる事が出来なかったのだと思います。聞く気がないのだから覚ええない、やらない、そして同じ失敗を繰り返し負ける。そんな1年だったように思います。だから私から見ると考えられないミスが毎試合出たわけです。

昨年までの段原クラブは最後の試合が一番強いチームでした。今年は5月がピークであとはチーム力が落ちてきました。練習しているのにあり得ない事です。

その全ての原因に私が子供達(3年生)に、必要な人間ではなかったからだと思います。

指導者として同じ失敗を繰り返さないように、コーチ達ともしっかり話をして、新チームに望みたいと思います。

3年生は残り1大会(22日、23日)3年間の集大成です。力の全てを出して欲しいと思います。最後、ジャマだけはしないようにしようと思っています。

1年間ひとりで全てを背負って頑張ってきた休のために勝ちたいです。

第14話/2012.09.05

9/2(日)試合形式(紅白戦)の練習をした。

段原クラブは攻撃のサインも、投手の配球のサインもベンチからは出さない。自分達で考えてやるようにしている。分からない時は、聞きに来るように言っている。

状況判断の基準・考え方は、何度もミーティング・練習・試合の中で話している。しかし、今年では考えられないプレーがとても多い。

1点差2死2塁の場合、四球を出しても構わないから2ストライクを取りにいかない事、まして2ストライク後はボール球で勝負する事、何度も何度も繰り返し言ってきました。

それでも、2ストライク0ボールの場面で、ストライクゾーンにかまえる捕手がいた。

なぜなのか、私には全く分からない。

日本語(言葉)が通じないのか?覚えておくことが出来ないのか?最初から話しを聞いていないのか本当に理解出来ない。

なぜかと聞くと黙っている。外野手の守備位置の移動も、間違っているから思い切って動くように何度も言っている。

自チームの選手相手なので、打球方向の癖は分かりやすいはずである。それでも、動かない。脳が停止している。何度も何度も、本当に何度も言っているのにである。全く分からない。

私は、子供達の技術的なミスは、何とも思わない。ヘタなのだから当たり前である。しかし頭のミスはしてはいけないと思っている。それは教えているからである。

なぜ、覚えられないのか?それとも覚える気がないのか?本当に野球が好きなのだろうか?上手くなりたいのだろうか?勝ちたいのだろうか?

今年は、本当に伝わらない。

練習は変わるため、出来ない事を出来るようにするためにやる。そして、試合はその身に付けた事を発表する場所です。

野球というスポーツは、脳を停止させてバットを振ったり、ボールを捕ったり、投げては良い結果が出ない。先進国のスポーツなのである。

小学生の頃に全て指示されて、あやつり人形のように野球をやってきた子供達は、自分で考え

る・覚える・工夫する力がないように思う。野球は、頭と下半身でやるスポーツである。

ある人から聞いた話で、「話しを聞く側にその気がなければ、何を話しても無駄である」がその通りだと思う今年である。

第13話/2012.08.28

段原クラブは広島市軟式野球連盟に登録している。

連盟主催の大会は高校野球と同じように春と夏に2回ある。夏の大会は4月の終わり頃始まり8月終わり頃の全国大会で終わる。

春の大会は本来、秋から予選が有るべきなのに今年は7月7日から始まった。高校野球でいえば夏の甲子園の前に新チームの大会があるという事である。

おかしいと思いませんか？

なんでそんなに早くやるのか質問しました。グラウンドの都合だそうです。

連盟は誰のためにあるのでしょうか？選手のためではないのでしょうか？

いつも大人の都合が最優先。雨の中試合をさしたり、他の大会では中止になると抽選で代表を決めたり、いつも大人の都合ばかり。投手の1日7イニングまでのルールなんて常識のある指導者なら必要ありません。

1日2試合までのルールも一人の選手が2試合までにすれば簡単な事です。あまり試合に出られない選手にもチャンスが出ます。

なぜ本当に子供達の為に考えられないのでしょうか？

みんなで誰の為になのか良く考える必要があると思います。新チームの大会は夏の全国大会が終わってからの当たり前だと思います。

第12話/2012.08.20

段原クラブは入団の時に約束してもらった事がある。

まず、辞めない事、毎日ストレッチをする事、そして野球ノートを毎日書く事。

このノートは1日1回野球の事を考える時間を作る事が一番の目的です。もちろん、グラウンドで練習した中で出来た事、出来なかった事そして、それはなぜなのか、意識しなければならない事、覚えなければいけない事、技術的な事、精神的な事など、なんでも良いから書く事により、覚えやすくなります。そして振り返って読み返す事でまた、身に付けやすくなるなど、色々な良い効果があると思っています。

私も高校時代、プロ野球選手時代ノートを書いていた。今でも時々読み返す事で指導の参考にしています。

先週末3日間大会がありました。今年のチームは集中出来る試合とまったくダメな試合がはっきりしています。日曜日はまったくダメな日でした。

試合後のミーティングで「今日ノート提出」と言われたら出せる人を聞いたところ、3年生はほぼ全滅でした。昨年の秋、まったく勝てなかったチームが、一冬越してなんとか全軟の県大会にも出場できて、どんなチームとやってもある程度の試合が出来るようになりました。本当に上手くなったと思います。

しかし今年のチームはここまでです。誰でも出来るあたり前の事、やろうと思えば出来る事、チームの約束事をやらない3年生は、結局この程度までしかありません。段原クラブの組織の力で普通以上の力はつきません。ある程度は勝てるようになります。しかし今年はここまでです。

先週書いたように、親の責任です。一緒に約束したはずですが、なぜ、ノートぐらいたった1日、5分から10分やらす事すら出来ないのか、当然それ以上の事をやっているはずありません。

保護者の皆さん、しっかりして下さい。団体スポーツは一人で勝つ事は出来ません。しかし一人のいいかげんな人間で負ける事があります。段原クラブのユニフォームを着てグラウンドに立つのなら、親子共々プライドと責任をもって欲しいと思います。

第11話/2012.08.14

野球ってなんで丸刈りなんだろう？

私は中学校の野球部に入部して強制的に丸刈りにされてからずっと疑問に思っていた。しかし、指導する立場になって、なんとなくわかってきたような気がする。

段原クラブでは丸刈りを強制していない。スポーツするのにジャマにならないスッキリとした髪型にするように指導している。基本は私が判断している。

数日前、段原クラブ始めて以来「髪の毛を伸ばしたい」という理由で3年生が一人退部した。とても悲しくなった。

彼にとって野球は髪型以下のものだったのだ。そして両親もそれが彼のためだと判断したということである。確かに価値観は人それぞれであるので、それについては意見するつもりはない。

では、なぜ野球は丸刈りなのか？

私の20数年の指導者としての経験から髪の毛や眉毛、私服などに時間や気持ちを使っている選手の特徴は、

1. 練習中、試合中に集中力が続かない
2. 練習時間外の一人でやる練習をしない、私語が多い
3. 練習の準備、後片づけの手を抜く
4. 指導者が見ていないとサボる
5. 親が子供に遠慮して、親の仕事をしていない。

以上のようなことで野球が上達しないのである。

いろいろな事に気持ちがフラフラしていると子供は中々気持ちの切り替えが出来ず、野球に集中出来ないで丸刈りにした方が良いという考えのように思われる。

私は、精一杯、一生懸命、野球に取り組んでくれれば本当は髪型なんてどうでもいいのです。先に述べた通り、ある程度の基準がないと親が子供の管理が出来ないし、子供達も自己管理が出来ず歯止めが効かなくなってしまう。本来、必要がないのにチームで管理せざるおえないのです。

そんなルールが必要ないような選手達と一緒に野球がやりたいです。どんなに楽しい野球が出来よう。

ちなみに、先週のありえない敗戦の責任として私は丸刈りにしました。

第10話/2012.08.06

この数試合、考えられない守備のミスが続いている。指導者として経験した事のないプレーばかりである。

内野フライ、外野フライを落球する。イージーな送球をミスする。外野手がヒットを後逸する。投手が簡単に四死球を出す。走ってくるとわかっている場面で盗塁される。

はっきり言って子供会の球技大会に出ているチームレベルである。20年以上子供達の野球に関わっているが、こんなチームは初めてである。

なぜなのか？

毎日考えてもわからない。技術的な問題？平凡なフライの取り方、技術がいるのか。バッティングも同じである。平凡なストレートとコントロール。変化球はほとんどボールこういう投手からチャンスでストレートを空振りして三振する。

技術的な問題？中学生ですよ、何年も野球をやってきて、100キロ程度のストレートをわかっていて空振り。

なぜ？

本当に今年は初めての事ばかり、本人が本気にならなければ指導者がどんなに必死になっても、何も身に付かないという事が良くわかった1年だったように思う。

それでも夢と目標を持ちグラウンドに来る子供達もいるので、その選手のためにあきらめず伝え続けるしかない。

心が体を動かすという事を痛感している。おとなしい良い子はグラウンドでは役に立たない。練習しない選手も同様である。

今週はグチばかりである。指導は本当にむずかしい。

第9話/2012.07.31

高校野球広島県大会が終わりました。

私がいつも言っている通り、一番正しい投げ方をしている投手、そして一番打球が外野に飛んでいったチームが優勝しました。

バントやエンドランやスクイズ、盗塁、出来るに越した事はありません。しかし全てはヒット以下でしかないので。ヒットを打てるチームが一番強いのです。長打が打てればもっと強いのです。

今年もテレビ中継でフライを打ってアウトになると、ゴロを打った方が良いような事を言っている方がいました。

なんですか？野球は相手のミスを待つスポーツなのですか？悲しくなりました。相手が失敗しなければ勝てない野球、楽しいですか。私には考えられません。バットは下半身を使って強く振るものです。

全国で最近甲子園から遠ざかっている名門校と呼ばれている学校がたくさんあります。年々進歩している技術、考え方、練習方法に取り残されて結果です。

はっきり言うと古いのだと思います。

小、中学生の試合でもゴロを打つように指示している指導者を見かけます。

なぜ、わざとアウトになるのですか？何のためにバッティング練習をするのですか？強く遠くに打つためではないのですか。

指導者は子供達の夢をお手伝いするのです。

ぜひ、子供達の可能性を摘まないで下さい。

第8話/201207.23

高校野球の広島県大会が盛り上がっています。

結局、投手力が安定しているチームが勝ち上がっています。私は 90%以上投手の力で勝負がつくと思っています。

強いチームとは、まして甲子園に行けるチームとは、投手を育てる事が出来るチームだと思います。

30 年程前、池田高校が素晴らしいバッティングで高校野球を変えたように思われていますが、その時も畠山、水野という 2 年続けてドラフト 1 位で指名された投手がいたから勝つことが出来ました。バッティングだけでトーナメントを勝ち上がる事は出来ないのです。

私立の野球校と言われているチームが早々と県立高校に敗れていくのは、点をとられてしまうからです。

なぜ？

当然そういう高校は、中学生の時に力を持っていた投手を何人も引っ張って入学させているはずで、同じメンバーが中学生の時に試合をしていれば、間違いなく私立野球校のメンバーが圧勝する事でしょう。

それが 3 年間(本当は約 2 年間)の高校生活で負けてしまうのか。練習量も練習の環境にも差があるはずなのに野球とは本当に難しく、怖いものだと思います。

私は投手はフォームだと思っている。結局コントロールなのです。

正しいキャッチボールがピッチングの基本です。困った時にアウトコース低めにストレートを投げる事が出来る、これが投手の一番大事な能力だと思います。

正しいフォームを身に付け、体の力を強くしていくことにより、ケガをしないでスピードアップする事が出来ます。

結局、上手くなるためには、心と体を壊さないで練習する。こわさなければ必ず上手くなるのだから。特に心を壊さないで高校球児のみんな野球を楽しんで下さい。

それから段原クラブ出身の高校 3 年生のみんな、3 年間本当にごくろうさまでした。特にベンチに入れなくても 3 年間頑張った選手達に頭が下がります。

ぜひ練習の手伝いに来て、後輩に心と技術を伝えて下さい。楽しみにしています。

第7話/2012.07.20

段原クラブの試合は監督からのサインが無い。

なぜかと言うと必要がないから。子供達は自分で考えバントが必要だと思えばバントをする。走れると思えば盗塁をする。わかなければ、指示を聞きにくる。

プロ野球選手にあこがれて夢を持って野球を始めた子供達のお手伝いをする。

それが指導者の役目である。

バント・エンドランが上手い、フォアボールを良く選ぶ、変化球を多投してバッターを打ちとる、プロ野球選手になれますか？

私は中学生がやらなければならない野球は、力強く、思い切ってバットを振る、積極的な走塁、

アウトコース低目に速いボールを投げる事だと思っている。

それから操り人形ではなく自分自身で状況判断して行動する。間違ってもかまわない、大きなミスは出来るだけ早くにやらかした方が良い。そのために試合に負けてもかまわないと思っている。中学野球は通過点なのだからイニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順を常に頭に入れて自分の判断でプレー出来る選手になって欲しいと思う。

そういう指導をしているつもりである。実際はとても難しいのでなかなか思い通りにならない。

操り人形はひもが切れると動かない。指導者は子供達の成長の邪魔をしないようにしなければいけない。親もしかりである。

上手くなりたいから自分で考えて、自分で練習して、自分で試合する。

そういう子供達を見ている時間が私は一番好きだ。

第6話/2012.07.11

7月7日（土）新人戦の1回戦で段原クラブはチーム史上初めて1回戦で負けた。

1対0

私はこの結果をまったく予想していなかった。

7月の初めに新人戦というのは、私に言わせれば考えられない日程ではあるが、他のチームも同じであるので言い訳にはならない。特に4人ほどは旧チームから試合経験をしている選手がいるので、この4人で点をとる事は当然出来ると思っていた。もちろんそれだけの力を持っている選手である。

しかし現実には、3,4,5番バッターが何の役には立たなかった。なぜなのか？

3年生を相手に試合の経験をして来た選手が同級生を相手に、力を出す事が出来ない、プレッシャー？小学校の頃からいやというほど試合ばかりしてきて今更プレッシャー、いくら練習しても、技術を身に付けても、どんな力があっても、それを試合のココ一番に出さなければ何も無いのと同じである。

私は中高生の時、甲子園以外でプレッシャーを感じた事がないので、（打てないと思った投手にあった事がない）わからない。

指導者として技術を伝える事はある程度自信もあるが、心の問題はとても難しい。自分に経験のない事は勉強するしかない。

私の大きな課題である。

第5話/2012.07.02

ここのところ、週末の天気が悪く練習をグラウンドでするか、フルスイング塾にするか、決断がむずかしい。7月1日の日曜日は南原の中電グラウンドで1日練習の予定。

新人戦が7日（土）にあるので1、2年生の今持っている力を見るためにも試合形式の練習をどうしてもやっておきたかった。しかしグラウンドに着いて見ると、思いのほかグラウンド状態が悪い。

そこへまた結構強い雨が降りあきらめかけましたが、必ず上がると信じて体育館でミーティングをして雨が上がるのを待った。昼前には雨は上がってくれたがグラウンドが心配だった。

しかし、父親達の頑張りのおかげで2面ともすばらしいグラウンド状態にしてもらい、ある程度思っ

ていた練習をすることが出来た。

選手達には話をしたが色々な人達の協力、応援があり段原クラブは活動する事が出来ている。

この事を常に意識しながら感謝の気持ちを忘れることなく練習、試合に取り組まなければいけない。選手達に出来る事は、精一杯心を込めて野球をする事。それが感謝の心を表す事だと思う。

監督として子供達に全力をかたむけることで私は感謝の気持ちを伝えたいと思う。

本当にありがとうございます。

第4話/2012.06.25

6月23日(土)瀬野川球場で試合があった。

私は6月になって試合ばかりで1日じっくり練習が出来ていなかったもので、24日(日)に1日練習が出来るように下級生と、普段投げるチャンスのない投手をつれて試合に行った。試合の経験の無い選手がどの程度力を出せるか見て見たかった。

1年生は私の思いより堂々と出来て満足している。しかし2年生は結果にこだわり、思い切りと迫力がなく少し残念に思った。

それよりも私をもっと残念に思った事がある。

相手チームのショートの選手が、ランナー2塁でケンセイのため2塁ベースに入った時、明らかに故意にランナーがベースタッチ出来ないように、体を入れあげくにお尻で押すようにしてベースを踏めないようにしタッチをしてアウトにした事である。段原のランナーは1年生で、遠慮するようにベースタッチ出来ずアウトになった。

何が残念かというと、子供は自分の考えでそんなタッチプレーはしない。指導者からそうするように言われ、そんなプレーをするようになったのだと思う。もし指導していないのなら、私ならその場でその選手を呼び2度とそんな恥ずかしいプレーをしないように注意する。

子供達に伝えなければいけないのは、試合に勝つためのテクニックではなく、本物の基本と速く力強いボール、スイング、走塁という個人の力をつけてあげることである。

何が本当に子供達のためになるのか指導者はしっかり考えるべきである。

もちろん私自身も常に考えていかなければいけないと思っている。

第3話/2012.06.18

クラブチームってなんだろう？

私が中学生の時は、学校のクラブ活動でしか野球をやれる環境がありませんでした。当たり前のように何も考える事も無く、中学校の野球部に入部しました。他になかったから良いも悪いもなく、野球をするためには、それしかなかったからです。

今は、硬式も軟式もクラブチームがたくさんあり、強いチーム、そうでもないチーム、選手が多いチーム、少ないチームそして中学校の野球部、自由に選ぶ事が出来る。まして、小学校の時に何度でも何チームでも練習の体験が出来る。

段原クラブも同様に何十人も体験にやって来る。チームを選ぶ基準は私にはわからないが、10数人が毎年入部してくる。

私はクラブチームに入部する選手は、親子ともども本気で、甲子園はもちろん、プロ野球を目指しているものだと思っていた。

みんな1年生の頃は夢を持ち、それを目指して努力する。2年、3年となるにつれて気持ちが野球から離れていく子供が出てくる。

私はクラブチームに入った親子は一生懸命やるのが当たり前だと思っている。

なぜかというと、指導者は何の関係もない他人であり、報酬ももらっていない、大事な休日を他人のために使うのである。いい加減な選手のおかげで、その休日がつまらない一日になるのである。

学校の先生は仕事である。報酬が発生するのでいい加減な子供も指導する義務がある。

私の思いは本気で一生懸命やる親子と楽しく充実した一日を過ごしたい、それだけです。

野球が上手い、下手は関係ないのです。

私はグラウンドでは手を抜きません。当たり前です。選手も当たり前、親も当たり前だと思います。段原クラブに本気ではない親子はいりません。他にもたくさんチームがありますよ。

指導者と考え方がちがう選手、親が同じチームでやるにはお互いに不幸だと思います。

第2話/2012.06.11

またまた、全軟広島県大会準決勝で負けてしまった。3年連続である。

3年連続で県大会に出場しているのは県内で段原クラブだけであるが、今年も監督の思い切りのなさ、精神的な弱さが敗戦の原因をつくってしまった。

3対1でリードされた5回表、無死1、2塁、バッター6番、今までの私なら当然ヒッティングでバントなどやらせる訳がない場面。なぜなら7、8番バッターよりも6番バッターの方が打つ確率が高いからだ。

しかし、私は前日（1回戦）から6番バッターの覇気の無さにイラついていた。大事な試合中、自分の心をコントロール出来なかった事が選手交代、作戦の迷いにつながってしまった。

今年も子供達の足を引っ張ってしまい、本当に申し訳ない。

今年例年に比べ、県大会の投手のレベルが低く、十分なチャンスがあったのに残念でならない。

昨年10月に新チームのスタートを切ってから一冬を越し、確実にチームの力は上がっている。

ケガ人が治り、3年生のチンピラの心が野球に集中し、監督がジャマをしなれば7月、8月の試合が楽しみだと思う。

まず、私がしっかりしなければ！！

第1話/2012.06.07

1年生の試合を何試合かしました。

段原クラブの1年生は結成以来毎年、ほとんど勝ったことがありません。

なぜか？それは投手の変化球を禁止したり、3イニング以上投げさせないため、1試合で必ず3人の投手が投げます。当然、力のない投手も投げます。（投手希望者全員）そして試合では負けます。

他チームの投手が変化球を投げたり、5イニング以上投げたりしているのを見ると、私は心配でなりません。練習試合の勝敗には全く興味がありません。

3年生になった大事な試合で、そして高校野球で最高の力を発揮するために、練習そして練習試合があります。

他チームの投手が故障しない事を祈ります。